

今日を愛する。

LION

ライオン

サステナビリティ Webサイト2025

〈PDF版〉



ReDesign

より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する

当PDF版に掲載している情報の対象期間は、2024年1月～最新情報となります。

対象期間外に実施した活動も一部紹介しています。

*目次の各項目をクリックすると本PDFの該当ページへ移動します。

目次	1
----	---

ライオンのサステナビリティ

マネジメントメッセージ	4
-------------	---

考え方と推進体制	7
----------	---

重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス	13
-----------------------	----

環境(Environment)

サステナブルな地球環境への取組み推進	15
--------------------	----

環境方針／マネジメント	19
-------------	----

環境に関する外部イニシアチブへの参画	22
--------------------	----

TCFD提言に基づく情報開示	24
----------------	----

TNFD提言に基づく情報開示	27
----------------	----

脱炭素社会の実現	30
----------	----

事業所活動におけるCO2排出量削減	32
-------------------	----

ライフサイクルにおけるCO2排出量削減	36
---------------------	----

資源循環型社会の実現	39
------------	----

資源循環	41
------	----

水使用量削減	50
--------	----

自然との共生(生物多様性)	54
---------------	----

生物多様性保全活動	55
-----------	----

環境コミュニケーションの推進	57
----------------	----

イベント、地域・各種団体との交流	58
------------------	----

活動を通じた環境コミュニケーション	61
-------------------	----

学術支援を通じた環境コミュニケーション	62
---------------------	----

化学物質管理	63
--------	----

化学品事業の環境配慮技術	68
--------------	----

ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	69
ライオンエコ基準とは	74
「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧	76

社会(Social)

健康な生活習慣づくり	84
オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み	87
オーラルヘルスケア習慣に関する情報	90
清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み	103
清潔・衛生習慣に関する情報	106
人的資本・労働安全	113
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	115
ワークライフエンリッチメントの推進	117
人材開発	122
従業員の健康増進	125
労働安全管理体制の充実	130
労使関係	136
人権の尊重	140
人権デューデリジエンスの推進	142
バリューチェーン上における人権侵害防止の取り組み	147
責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	150
原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	152
持続可能な原材料調達に向けて	157
顧客の満足と信頼の追求	161
品質保証、安心・安全への取り組み	164
お客様の声にお応えする取り組み	172
お客様への情報提供の強化	176

ガバナンス(Governance)

コーポレート・ガバナンス	179
---------------------	-----

海外グループでの取り組み	181
Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd	182
Lion Corporation (Thailand) Ltd.	188
Southern Lion Sdn. Bhd.	198
PT. Lion Wings	209
Lion Corporation (Korea)	213
獅王日用化工(青島)有限公司	223
獅王(香港)有限公司	228
獅王家品股份有限公司	231
Lion Kallol Limited	235
編集方針・各種ガイドライン対照表	236
ISO26000 対照表	237
GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード対照表	241
国連グローバル・コンパクト COP対照表	246
環境報告ガイドライン(2018年版)対照表	248
データ関連	
ESGデータ・第三者検証	253
イニシアチブ・外部評価	272
ステークホルダー・エンゲージメント	279
社会貢献活動	283
サステナビリティ発行物ダウンロード	295
関連リンク	299

マネジメントメッセージ

▼ 社長メッセージ ▼ サステナビリティ担当役員メッセージ

より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)



代表取締役兼社長執行役員
最高経営責任者
竹森 征之

ライオンは1891年の創業以来、人々の健康、快適、清潔、衛生に資する習慣提案とともに、そこで使われる様々な生活必需品の提供を通じて事業を発展させ、長きにわたり「事業を通じて社会のお役に立つ」ことを変わらぬ使命としてきました。北東アジア地域では、医療費の増加等社会の高齢化がもたらす様々な問題が顕在化する一方で、東南・南アジア地域では経済発展レベルに応じた健康・衛生習慣の整備が求められています。また、地球規模での環境問題への対処は避けて通ることのできない課題です。こうした事業環境の急激な変化や、顕在化する多様な社会課題の解決に的確に対処し、継続的に事業価値を創出し、社会貢献していく必要があります。

私たちは「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」というパーパス(存在意義)を起点に、経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現に向けた**中長期経営戦略フレーム「Vision2030」**を策定しました。

このVision2030の推進と併せて**サステナビリティ重要課題**への取り組みも相乗的に進めることで、社会価値と経済価値を創出し、持続的な企業価値の向上を目指しています。中でも、人々の幸せな毎日につながる「健康な生活習慣づくり」と「サステナブルな地球環境への取り組み推進」を最重要課題として経営資源を重点的に投下してまいります。習慣には大きなチカラがあり、人々の生活の大部分を占める日常の気の進まないことを前向きな体験、即ちPositive Habitsに変えていくことで、幸せの総和を増やしていくことができます。特に、脱炭素社会、資源循環型社会の実現に向けた活動目標としては2019年に「**LION Eco Challenge 2050**」を定め、すべてのステークホルダーとの共創によってその実現を目指しています。家庭での環境負荷を低減する様々なエコ習慣の普及は当社だからこそできる効果的な貢献と考えています。

今後も**SDGs(持続可能な開発目標)**の達成や、サステナブルな社会への貢献に向けて、これまで行ってきた「より良い生活習慣づくり」で得た幅広い知見と当社の強みである「生活者視点」のマーケティング力・研究開発力を駆使し、成長戦略の推進を加速させることで、健康で、快適、清潔・衛生的な毎日とサステナブルな社会の実現に貢献していきます。

代表取締役兼社長執行役員
最高経営責任者

竹森 征之

サステナビリティを経営戦略に組み込み、「より良い習慣づくり」による社会課題解決への貢献と事業成長を目指します



執行役員 サステナビリティ推進部長 西永 英司

経営戦略に組み込んだサステナビリティ推進

社会と地球環境は大きな変化の渦中にあり、気候変動や資源の枯渇、生活格差の拡大等、解決すべき課題は山積しています。その中で、当社グループは社会課題の解決と事業の持続的な成長に向けて、サステナビリティ重要課題への取組みを経営戦略に組み込んで推進しています。

サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)は、当社グループが優位性を持つ事業領域での価値創造と、企業の社会的責任を果たしていく道筋として、13項目を特定しています。そのうち、「健康な生活習慣づくり」と「サステナブルな地球環境への取組み推進」は、当社が経営資源を投下して競争優位を確保する課題であり、最重要課題として位置づけています。

当社グループは、パーパス「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」を起点にサステナビリティ推進に取り組んでいます。カギは人々の毎日の習慣にあり、例えば、国連によると消費ベースの会計でCO₂排出量の65%が家庭部門に関連しており、大幅な排出削減を達成するうえで家庭部門が重要な役割を果たすことが示唆されています*1*2。人々の習慣には社会課題解決に向けた力があり、日常生活における健康な生活習慣やCO₂排出量の少ない習慣を創出することで、大きな変化をもたらすことができると私たちは強く信じています。

「より良い習慣づくり」で事業成長と社会課題の解決を目指す

最重要課題である「健康な生活習慣づくり」では、日常の健康に直結する歯みがき等の「オーラルヘルスケア習慣」と、手洗い等の「清潔・衛生習慣」の定着に注力しており、健康な生活習慣づくりに貢献する製品・サービス、および情報を当社グループが事業展開する日本とアジア地域でのべ10億人に提供することを指標としています。今後は、海外グループ会社との協働をさらに拡大させていくことで、指標達成に向けた取組みを加速させていきます。特に、最重点事業であるオーラルヘルスケアでは、デジタル技術を活用した製品・サービスによる新規市場の創造と事業領域の拡大も目指していきます。

「サステナブルな地球環境への取組み推進」では、「水を大切に使う習慣」と「プラスチックを無駄にしない習慣」の定着を推進し、地球にやさしいライフスタイルを提案して脱炭素社会と資源循環型社会の実現に貢献します。当社グループの製品は、使用される段階で水を使う場合が多いですが、人々が使う水道水の浄化や移送、排水処理にはエネルギーが必要であり、例えばすすぎ回数を減らした節水洗濯は、水の使用量を削減するとともに、CO₂排出量の削減につながります。また、有用な素材であるプラスチックは、つめかえ容器のリサイクル技術の開発や、自治体・他企業との協働によるリサイクルシステムの構築を推進して、プラスチック資源循環の実現を目指したパートナーシップを拡充していきます。

これらの2つの最重要課題の解決を事業成長につなげるために、「サステナビリティ推進協議会」では、環境・社会・ガバナンスに関するサステナビリティ推進の事業戦略への組み込みと、具体的な活動計画の意思決定および2030年目標に向けた進捗状況のモニタリングを行っています。今後も、パーパスを実践する中で当社グループならではの独自性を発揮し、「より良い習慣づくり」による社会への貢献と事業成長を実現するサステナビリティ経営の舵取りを行っていきます。

出典：

*1 United Nations Environment Programme (2020). *The Emissions Gap Report 2020*. Nairobi.

*2 Ivanova, D., Stadler, K., Steen-Olsen, K., Wood, R., Vita, G., Tukker, A. and Hertwich, E. G. *Journal of Industrial Ecology*, 20(3), 526-536 (2016)

執行役員
サステナビリティ推進部長

西永 英司

考え方と推進体制

- ✓ 基本的な考え方
- ✓ サステナビリティマネジメント(推進体制)
- ✓ サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の2030年目標と進捗
- ✓ 重要課題特定のプロセス/歴史/イニシアチブ・外部評価
- ✓ サステナビリティとは
- ✓ 持続可能な開発目標(SDGs)への貢献

基本的な考え方

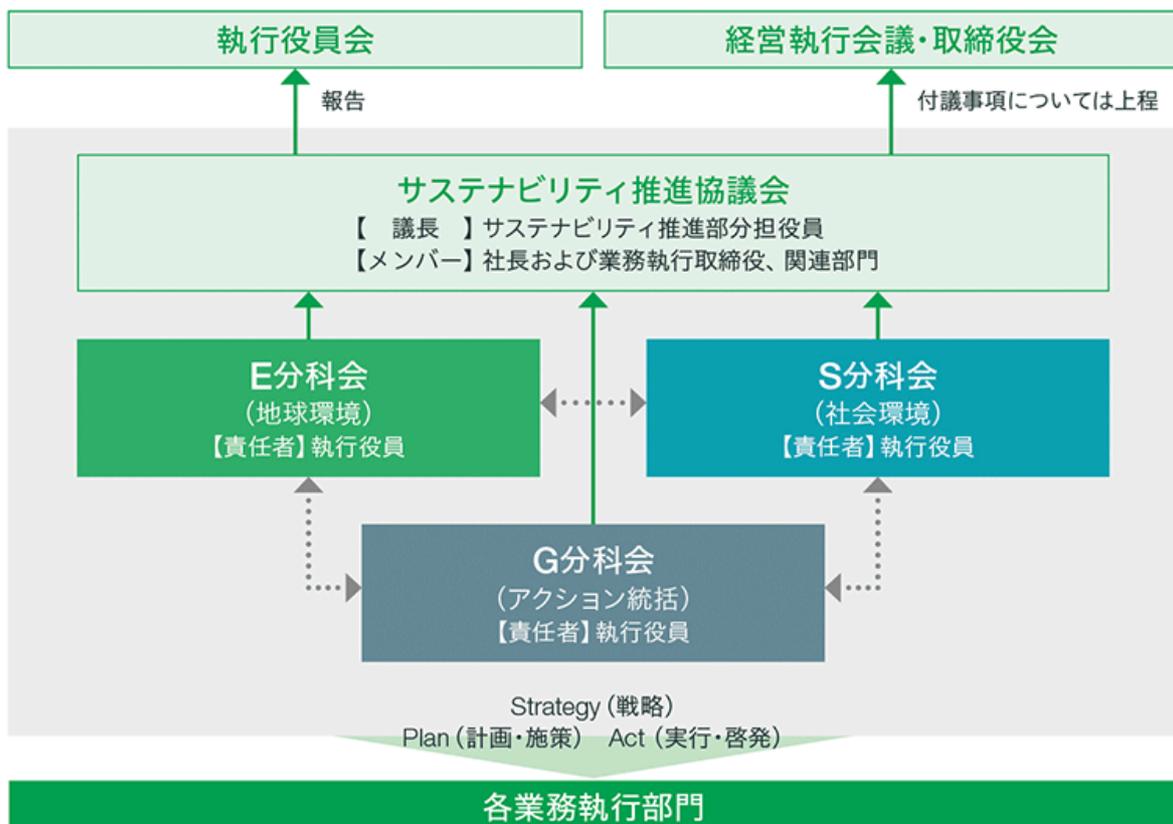
ライオンは「事業を通じて社会のお役に立つ」という創業の精神を受け継ぎ、経済的発展のみならず、環境や社会に与える影響を考慮しながら、地球環境や社会の課題に対し事業を通じて長期的・継続的に取り組んできました。

現在は、2030年の経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現に向けて、リスク低減に向けた経営の重要な課題に取り組むとともに、パーパス「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」を基軸としたパーパスドリブン経営を実践しています。パーパスを起点に「サステナビリティ重要課題への取組み」と「3つの成長戦略」を相乗的に推進し、サステナブルな社会への貢献と事業の成長を目指します。

サステナビリティマネジメント(推進体制)

サステナブルな経営を推進する仕組みとして、従来は社長を含む業務執行取締役全員と関連部門を構成メンバーとした「サステナビリティ推進会議」を開催していましたが、2021年より、社長を含む業務執行取締役全員と関連部門で構成する「サステナビリティ推進協議会」を設置しました(年2回開催)。

協議会の傘下に執行役員を責任者とするE・S・G、3つの分科会を設け、サステナビリティ重要課題に対する取組みの推進、ならびにモニタリングを行っています。協議会で決定した内容は執行役員会で共有され、必要に応じて経営執行会議・取締役会に付議・上程し、各業務執行部門の事業活動に反映しています。



サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の2030年目標と進捗

当社グループは、2030年に向けた経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現や、持続可能な開発目標(SDGs)が目指す世界への貢献等を見据えた上で、「ライオングループ サステナビリティ重要課題と2030年目標」を設定しています。当社グループが常に社会とお客様から必要とされ、事業成長を続けるためには、より長期的視点で課題をとらえ取り組むことが重要です。2030年目標では、より高い到達レベルでの目標を目指し、目標達成の定量的な評価ができる指標を設定しています(新型コロナウイルスの感染拡大や社会環境の変化から、2021年に目標や指標を、2024年に一部の算出方法を見直しました)。今後も当社グループは、サステナビリティを経営戦略に取り込む統合思考で、サステナブルな社会への貢献とさらなる事業成長を目指します。

サステナビリティ重要課題の2030年目標と進捗

重要課題	目標(2030年)	指標の進捗(2024年実績)
E(環境) 最重要課題 ① > サステナブルな地球環境への取り組み推進 	事業所活動におけるCO ₂ 排出量の削減を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 33%削減(2017年比) (カーボンクレジット購入分を控除した数値。控除しない場合は24%削減)
	ライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量の削減を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 2%減少(2017年比)
	自社の排出量を上回るCO ₂ 削減により、社会におけるカーボンネガティブを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> アクションプランを策定し効果検証予定
	3R(Reduce<削減>、Reuse<再利用>、Recycle<再資源化>)とRenewable<持続可能な資源の活用>を積極的に推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 97%(国内) 包装・容器のサステナブル材料使用率2.9%
	ライフサイクルにおける水使用量の削減を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 22%削減(2017年比)
S(社会) 最重要課題 ② > 健康な生活習慣づくり 	すべての人が必要な時に、いつでも、オーラルヘルスケアを行える機会を提供し、誰もが健康でいられるよう、オーラルヘルスケアの習慣化を目指します。	オーラルヘルスケア 4.0億人* < 予防歯科習慣の啓発 > 国内: <ul style="list-style-type: none"> 予防歯科習慣化に向けた活動領域の拡大(『OraCo』) 海外: <ul style="list-style-type: none"> 幼児向け・児童向けの歯みがき啓発活動実施 < 予防歯科習慣の実践 > 国内: <ul style="list-style-type: none"> 歯みがき頻度拡大の促進 昼歯みがき実施率37%(2030年目標50%) ハミガキ、ハブラシ以外の製品の使用拡大の促進 歯間清掃用具使用率38%(2030年目標50%) *実態調査より算出
	日常生活のあらゆるシーンの中で、菌・ウイルスの体内侵入を防ぎ、誰もが健康でいられるよう、清潔・衛生行動の習慣化を目指します。	清潔・衛生 3.1億人* < 教育機関を起点とした清潔・衛生習慣の浸透・定着 > ライオングループ: <ul style="list-style-type: none"> 保育所・幼稚園・小学校での手洗い習慣の普及啓発活動実施 「キレイキレイ マイボトルコンテスト」実施 バングラデシュにおけるJICAを通じた小学校での衛生啓発実施 < 清潔・衛生習慣化に向けた活動領域の拡大 >

重要課題	目標 (2030年)	指標の進捗 (2024年実績)
		国内： <ul style="list-style-type: none"> 手洗い授業キットを配布する「フレイフレーファミリーPJT」実施 子育てアプリiibaとの手洗い啓発イベント実施 岡山県における企業版ふるさと納税を活用したハンドソープの小学校設置 海外： <ul style="list-style-type: none"> 韓国における出産時奨励事業としての出産を控えた妊婦への衛生用品の提供 タイにおける官民連携プロジェクトによる手洗い啓発 ＊2024年実績より、アジアの事業状況をふまえて身体・食の安全等に活動領域を広げた新たな方法で算出
S(社会) ③ > ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ＊ 	多様な価値観や考えを持った人材が、個性や能力を存分に発揮して活躍することを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 管理職に占める女性労働者の割合⇒24.9% 従業員割合⇒61% (国内)
S(社会) ④ > ワークライフエンリッチメントの推進 ＊ 	従業員一人ひとりが、ワークとライフの相乗作用により、人生のWILLを実現できる環境を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 57% (国内)
S(社会) ⑤ > 人材開発 ＊ 	従業員一人ひとりが、多彩な能力を最大限に発揮し挑戦できる環境を整備することで、変革を実現するダイナミズムを創出する人材の育成を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 58%
S(社会) ⑥ > 従業員の健康増進 ＊ 	従業員の心と身体のヘルスケアを支えることで、人材力の強化につなげ、持続可能な企業成長を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 歯科健診受診率⇒92% (国内) ※海外は、算出方法を検討中 アブセンティーズム⇒ 1.1% (国内単体、2021年比微増) ※海外は、算出方法を検討中

重要課題	目標 (2030年)	指標の進捗 (2024年実績)
S(社会) ⑦ > 労働安全管理体制の 充実 	労働安全衛生に関する法令遵守及び安全意識の向上が徹底され、従業員及び事業所内で働く外部パートナーが、安全、安心に働けることを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> • 研修受講⇒計画に対して100%実施 • 重大事故・災害件数⇒ゼロ ただし、海外連結子会社倉庫 契約社員1件
S(社会) ⑧ > 人権の尊重 	「ライオン人権方針」に沿って、事業活動によって影響を受けるすべてのステークホルダーの人権を尊重します。	<ul style="list-style-type: none"> • 人権デューデリジェンス対応実施率 ライオングループ:100% サプライヤー : 92%
S(社会) ⑨ > 責任あるサプライチェーン マネジメントの構築 	「持続可能な原材料調達方針」や「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に沿って、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> • 認証品調達率 国内: 認証紙・パルプ:75%(アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体:99%(主要原料ベース) ライオングループ: 認証紙・パルプ:46%(アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体:46%(主要原料ベース) • 森林破壊ゼロ支持サプライヤー率 国内:55% ライオングループ:49%
S(社会) ⑩ > 顧客の満足と信頼の追求 	製品・サービスの価値向上や顧客対応品質の向上を通じて、生活者視点に立った事業活動の推進を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> • ISO10002自己適合宣言(国内、7月) • 年間相談概要をデジタル情報にて全社に提供開始 • お客様からいただいた主な相談と賞賛の音声の全社共有開始 • 海外各社のお客様の声共有ツール構築
G(ガバナンス) ⑪ > リスクマネジメントの 推進 	リスクの特定ならびに迅速かつ適切に対処する網羅的・総括的なリスクマネジメント体制を構築し、企業の持続的な成長を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1回開示

重要課題	目標 (2030年)	指標の進捗 (2024年実績)
G(ガバナンス) ⑫ > コンプライアンスの強化 	コンプライアンス意識定着に向けた実効性のある活動を強化し、社会から信頼される企業を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> • 研修受講⇒計画に対して100%実施 • 重大なコンプライアンス違反件数⇒ゼロ
G(ガバナンス) ⑬ > ガバナンスの強化 	健全、公正、かつ透明で実効性の高いガバナンス体制を構築し、持続的な企業価値向上を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> • 1回開示 • 2023年と同等以上、評価向上に向けて活動継続

* 人的資本に関する4項目は、2025年実績より目標・指標を見直して推進します

* 過去のデータに誤りがあり、修正しました。

PDF版



サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2024年実績・施策 PDF (1.01MB)

SDGsに貢献するライオンのサステナビリティ重要課題

サステナビリティ重要課題		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
E	サステナブルな地球環境への取組み推進			●			●											
	健康な生活習慣づくり			●	●													●
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進*					●												
	ワークライフエンリッチメントの推進*			●														
	人材開発*					●												
S	従業員の健康増進*			●														●
	労働安全管理体制の充実			●														
	人権の尊重					●												●
	責任あるサプライチェーンマネジメントの構築					●	●											●
	顧客の満足と信頼の追求			●														
	リスクマネジメントの推進																	
G	コンプライアンスの強化																	●
	ガバナンスの強化																	●

* 人的資本に関する4項目は、2025年実績より目標・指標を見直して推進します

重要課題特定のプロセス/歴史/イニシアチブ・外部評価



サステナビリティとは

環境・社会・経済の3つの観点からこの世の中を持続可能にしていくという考え方です。「持続可能な(サステナブルな)企業」とは、経済的発展のみではなく、社会や環境に与える影響を考慮しながら、長期的戦略のもと、継続的な事業活動に取り組む企業を指します。

持続可能な開発目標(SDGs)への貢献

SDGsは2030年までに持続可能な世界を実現するために国連によって定められた国際社会共通の目標です。ライオングループは、商品・サービスを通じて、主にSDGsの目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」の達成に貢献していくとともに、中長期経営戦略フレーム「Vision2030」の実現に向けた取り組みを通じて、SDGsが目指す持続可能な社会の実現に貢献していきます。

3 すべての人に健康と福祉を
・オールケア習慣の普及活動
・清潔衛生習慣の普及活動 等

>ライオンのSDGsへの取り組み紹介



重要課題(マテリアリティ)特定のプロセス

重要課題の特定

当社は2020年に、経営ビジョンの実現やSDGsへの貢献等、2030年時点の社会像からバックキャストして2030年までに取り組むべき「サステナビリティ重要課題」を、以下のステップを通じて再確認しました。ライオングループ サステナビリティ重要課題は、広く、事業や地球環境、社会のサステナビリティを考慮して「人と地球の健やかな未来」の実現に資する、当社事業と社会の双方に重要な課題です。特定にあたっては、バリューチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、リスクと機会の両面でもらえています。

その中で特に「健康な生活習慣づくり」と「サステナブルな地球環境への取組み推進」は、経営資源を投下して競争優位を確保する課題であり、最重要課題として取り組むものと位置づけています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大や社会環境も激しく変化していることから、2021年には目標や指標を再度見直しています。

サステナビリティ重要課題の考え方



サステナビリティ重要課題の特定ステップ



バリューチェーンにおけるサステナビリティ重要課題のリスクと機会

バリューチェーン全体及びステークホルダーを網羅的に勘案し、リスクと機会に重要課題を層別しました。

バリューチェーン段階		原材料調達 	当社での活動 	消費者による使用 	消費者による廃棄 	
主なステークホルダー		取引先		お客様		
		従業員		株主・投資家 地域社会		
サステナビリティ重要課題	機会	● 健康な生活習慣づくり				
		● ダイバーシティ & インクルージョンの推進 ● ワークライフエンリッチメントの推進 ● 人材開発 ● 従業員の健康増進		● お客様の満足と信頼の追求		
	● サステナブルな地球環境への取り組み推進					
	リスク	● 労働安全管理体制の充実		● 人権の尊重		
		● 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築		● リスクマネジメントの推進		
		● コンプライアンスの強化				
		● ガバナンスの強化				

サステナブルな地球環境への取組み推進

- ✓ 基本的な考え方
- ✓ ライオンの環境への想い
- ✓ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2025」
- ✓ 2030年目標と進捗
- ✓ 環境負荷低減に向けた活動

基本的な考え方

ライオングループは、生活者の皆様に、健康、快適、清潔・衛生を通じた顧客体験価値を提供するとともに、次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーを目指しています。当社グループは、人々の健康や暮らしの基盤となる地球環境を守ることは、重大な責任であると考え、環境方針を定めました。また、長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」とともに、2030年のサステナビリティ最重要課題「サステナブルな地球環境への取組み推進」にて、「脱炭素社会」「資源循環型社会」の実現に取り組んでいます。

ライオンの環境への想い

企業スローガン「今日を愛する。」の考えに沿って、「一人ひとりの今日という一日」に事業活動だけでなく、製品を通じて、環境負荷低減を目指すというライオンの姿勢を「環境への想い」に込めています。

ライオンの環境への想い

心地よく暮らすことが、いつのまにか、エコにつながっている。
暮らしのひとつひとつをエコにすることが、地球のエコにつながっている。
それが、ライオンの考えるエコの在り方。
だから私たちは、暮らしにとけこむエコ製品をつくりつづけています。

たとえば、CO₂を抑える再生可能な植物由来のモノづくり。
たとえば、水環境を守り、水の使用量を抑えるモノづくり。

小さなエコが一日一日積みかさなって、あなたの明日がエコになっていく。
毎日つづけられるエコを。
ライオンは、あなたに、地球に、約束します。

> 「暮らし、まいにち、エコ。」パンフレット  (PDF: 5.28MB)

長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」

当社グループは、パリ協定やSDGs等の世界目標の達成に事業を通じて貢献していくべく、2019年に長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」を策定しました。2022年には日本を含む世界各国が目標引き上げに動く中、当社グループも2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するため目標を更新しました。生活者とともにつくる「エコの習慣化」の推進、すなわち『地球にやさしいライフスタイル』を提供し、暮らしをムリなくサステナブルにしていくことで、「脱炭素社会」「資源循環型社会」の実現に貢献します。

LION Eco Challenge 2050

「人と地球の健やかな未来に向けて」

脱炭素社会の実現に向けて

CO₂
チャレンジ

2050年までに事業所活動における
CO₂排出量ゼロを目指します。

指標(2030年目標): **55%削減**
(2017年比、絶対量)

2050年までにライフサイクルにおける
CO₂排出量半減を目指します。

指標(2030年目標): **30%削減**
(2017年比、絶対量)

2050年までに
カーボンネガティブを目指します。

指標(2030年目標): **自社の排出量を上回る
CO₂削減貢献(国内)**

資源循環型社会の実現に向けて

プラスチック
チャレンジ

2050年までに循環し続ける
プラスチックの利用を目指します。

指標(2030年目標):
3R(Reduce(削減)、Reuse(再利用)、Recycle
(再資源化))、およびRenewable(持続可能な
資源の活用)の推進

石化由来の
プラスチック使用率 **70%以下**

ウォーター
チャレンジ

2050年までに
持続可能な水使用を目指します。
ライフサイクルにおける水使用量

指標(2030年目標): **30%削減**
(2017年比、売上高原単位)

～地球にやさしいライフスタイルの実現～

事業活動のカーボンゼロ (Scope1,2)

省エネ

・インターナルカーボンプライシング
による環境設備投資の拡大

再エネ

・全工場・オフィス再エネ100%
(国内2024年、海外2030年)

物流

・協働スマート物流
・ロジスティクスEDI

製品ライフサイクルの
カーボンニュートラル
(Scope3)

調達

・サプライヤー
エンゲージメント
・認証品の拡大
・カーボンリサイクル

エシカル製品

・環境配慮設計
・節水・節電の
習慣づくり

DX

・LCA/Scope3高度化
・ユーザビリティ

生活者とともに
「エコの習慣化」

資源循環

・3R+Renewableの推進
・リサイクル社会実装への貢献
・詰め替え習慣づくり
・捨てない習慣づくり

循環し続ける
プラスチック利用
(Scope3)

社会の環境負荷低減・
カーボンネガティブ
(Scope4)

エコで豊かな暮らしの提案

・サステナブルファッション(衣類長持ち)
・スマートハウス(快適なお家時間)
・脱炭素交通(エコカー普及)

社会共創

・生活者行動変容/習慣化の啓発
(産・官・民連携エコシステム)
・森林吸収/植林

2030年目標と進捗

目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2024年)
事業所活動におけるCO ₂ 排出量の削減を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所CO₂排出量 ⇒2017年比で55%削減(絶対量) 	<ul style="list-style-type: none"> 33%削減(2017年比) (カーボンクレジット購入分を控除した数値。控除しない場合は24%削減)
ライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量の削減を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ライフサイクルCO₂排出量 ⇒2017年比で30%削減(絶対量) 	<ul style="list-style-type: none"> 2%減少(2017年比)
自社の排出量を上回るCO ₂ 削減により、社会におけるカーボンネガティブを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 自社の排出量を上回るCO₂削減貢献(国内) 	<ul style="list-style-type: none"> アクションプランを策定し効果検証予定
3R(Reduce<削減>、Reuse<再利用>、Recycle<再資源化>)とRenewable<持続可能な資源の活用>を積極的に推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 石化由来のプラスチック使用率 ⇒70%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 97%(国内) 包装・容器のサステナブル材料使用率 2.9%
ライフサイクルにおける水使用量の削減を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ライフサイクル水使用量 ⇒2017年比で30%削減(売上高原単位) 	<ul style="list-style-type: none"> 22%削減(2017年比)

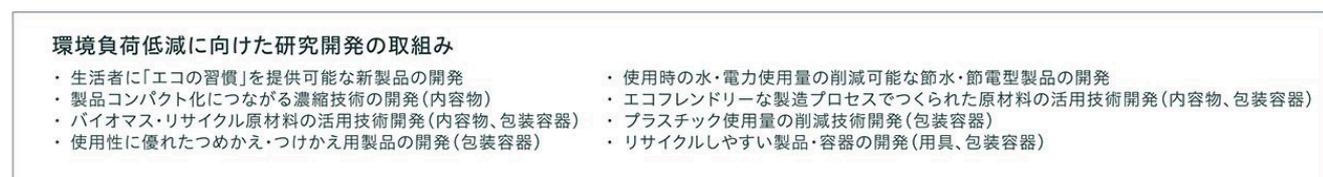
* 過去のデータに誤りがあり、修正しました。

＜サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2024年実績・施策 PDF (1.01MB)＞

環境負荷低減に向けた活動

当社グループは、生産者責任の一環として、製品の「原材料調達」から「消費者による使用」「廃棄/リサイクル」までのライフサイクルの各ステージで、脱炭素、プラスチックと水循環に関する問題解決にチャレンジしています。

特に、「消費者の使用」のステージでは、家庭での洗濯などには、電力や水が使用されるため、当社製品の使用によるCO₂排出量と水使用量の割合が最も高くなっています。これからも、環境フレンドリー製品・サービスの提供と「エコの習慣化」の促進により、ご家庭の使用場面での環境負荷削減を推進します。



当社グループ事業による、製品のライフサイクルにおける環境負荷の割合(CO₂の排出割合、水の使用割合)と環境負荷低減に向けた活動(2024年)



取り組み



環境方針／マネジメント



環境に関する外部イニシアチブへの参画



脱炭素社会の実現

- ▶ 事業所活動におけるCO₂排出量削減
- ▶ ライフサイクルにおけるCO₂排出量削減



資源循環型社会の実現

- ▶ 資源循環
- ▶ 水使用量削減



ライオンのエコ製品（環境配慮型製品）

- ▶ 「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧



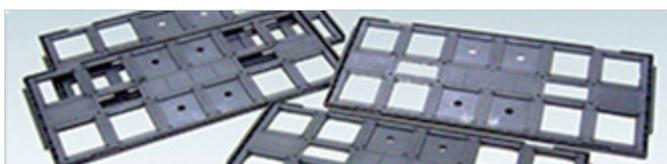
自然との共生（生物多様性）



環境コミュニケーションの推進



化学物質管理



化学品事業の環境配慮技術



環境方針／マネジメント

- ▼ 環境方針
- ▼ 環境マネジメントシステム
- ▼ 環境管理体制
- ▼ 法規制の遵守

環境方針

当社グループは、「経済発展と環境保全が両立する持続可能な社会を創造していくため、自主的、積極的に行動する」という「ライオン企業行動憲章」の精神に基づいた「環境方針」を定めています。

環境マネジメントシステム

当社グループの環境マネジメントシステムは、事業活動、製品やサービスが環境におよぼす影響を把握、評価、是正するとともに、環境保全活動を継続的に改善することを目的としています。また、環境マネジメント及び活動報告については、グローバルな環境対応を目指して体制の充実を図っており、当社グループの環境データをホームページにて公開しています。

＞ 環境データ

ISO14001認証取得状況

当社の生産系事業所は、2001年7月に一括でISO14001*の認証を取得しました。それ以降、認証を継続取得しています。国内及び海外の生産系グループ会社も含めて、ISO14001に準じた運用を実践し、管理システムと環境保全活動を継続的に進めています。



ISO14001登録証

* ISO14001 環境マネジメントシステムに関する国際規格

＞ ISO14001認証取得一覧

環境管理体制

地球環境への負荷を低減しながら、事業を成長させるため、サステナビリティ推進担当役員が議長を務める「サステナビリティ推進協議会」傘下に設置したE分科会の責任者（執行役員）を執行の責任者として、関係部門で構成されるメンバーで、環境問題への対応等の方針の審議を行い、推進状況のモニタリングを実施しています。

経営層によるトップ環境監査

当社及び国内グループ会社の生産系事業所に対し、1999年から役員による環境監査を行っています。2009年からは工場の特性に応じた監査計画を策定し、3年に1回定期的に監査を実施しています。2024年は、サステナビリティ推進部担当役員が、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)小野工場及びライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所でトップ環境監査を実施しました。

トップ環境監査の様子



小野工場(2024年)



ファインケミカル事業所(2024年)

内部環境監査

内部環境監査員の教育を受けた内部環境監査員が、定期的にISO14001の要求事項の適合性を確認する「内部環境監査」を実施し、指摘された箇所を当該部所が責任を持って改善しています。また事業所長や工場長による「マネジメントレビュー」を実施し、組織のマネジメントシステムの適切性、妥当性及び有効性が継続的に改善されていることを確認しています。

法規制の遵守

当社は、環境に関わる法令・条例等の規制の遵守はもちろん、独自の管理基準を定め、管理を徹底しています。

廃棄物の適正処理

廃棄物は、事業所の廃棄物排出責任者が当社の「廃棄物管理規程」に定めた委託先選定基準に適合する廃棄物処理業者に委託し、処理しています。さらに、廃棄物処理委託先の現地確認を定期的にも実施し、委託先としての継続適格性を判断しています。

PCB廃棄物の適正な保管と処理

ポリ塩化ビフェニル(PCB)は、燃えにくく電気絶縁性に優れていたため、電気機器の絶縁油として広く使われていましたが、現在は製造・輸入ともに禁止されています。当社は、PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に基づき、保有していたPCB含有機器について、処理を委託するまでの間は厳重に保管し順次処理を進め、2022年に処理を完了しました。

排水の管理

日常的な排水の管理は、排水設備の安定化と工程管理の維持強化及び緊急時の対応訓練等、法令・条例で定められた水質基準だけでなく、市町村との個別協定の締結や自主基準の設定を各事業所で行い、排水管理を徹底しています。

フロン類の適正管理

フロン排出抑制法への対応は、法律に基づき対象設備の把握、簡易点検や定期点検、記録の作成、漏洩量の算定などを実施しています。2024年度は、届出を要するフロン類の漏洩に該当する事業所はありませんでした。今後も漏洩防止に努めるとともに、設備更新時にノンフロンや低GWP(地球温暖化係数)設備の導入を進めます。

環境に関わる法規制の改正に伴う対応

省エネ法^{*1}及び温対法^{*2}、化管法^{*3}、化審法^{*4}、廃掃法^{*5}、フロン排出抑制法^{*6}、土壤汚染対策法等の環境関連の法規制の改正への対応については、行政や工業会等から提供される情報を収集し、関連する部門に周知・徹底して対応を推進しています。なお、2024年においても罰金、科料等を処せられるような違反はありませんでした。

*1 省エネ法「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律」の略称

*2 温対法「地球温暖化対策の推進に関する法律」の略称

*3 化管法「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称

*4 化審法「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称

*5 廃掃法「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称

*6 フロン排出抑制法「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」の略称

環境に関する外部イニシアチブへの参画

- ✓ 気候変動に対する取り組み
- ✓ 生物多様性に対する取り組み
- ✓ エコ・ファーストの約束
- ✓ 環境に関する外部イニシアチブへの参画

気候変動に対する取り組み

近年、気候変動は喫緊の社会課題であり、企業経営においても将来の重大なリスクであると同時に、企業活動の新たな機会の可能性でもあります。当社グループは中長期経営戦略フレーム「Vision2030」において、サステナビリティ重要課題への取り組み強化を経営戦略に掲げており、特に「健康な生活習慣づくり」と「サステナブルな地球環境への取り組み推進」を最重要課題と位置付け、CO₂削減等リスク低減策の実施とともに、生活者と共につくる「エコの習慣化」など、気候変動のもたらすリスクと機会に対する様々な取り組みを進めています。



温室効果ガス削減目標がSBTイニシアチブの1.5°C目標認定を取得

当社は2020年に「2°Cを十分に下回る目標(Well-below2°C)」としてSBT(Science Based Targets)イニシアチブ*¹より認定を取得しましたが、2023年3月に「1.5°Cに抑える目標」のSBT認定を取得いたしました。



Science Based Targets

■今回認定されたGHG(温室効果ガス)削減目標(2030年目標)

- スコープ1*² + 2*³のGHG排出量(絶対量)*⁴を55%削減(基準年2018年)
- スコープ3*⁵のGHG排出量(絶対量)を30%削減(基準年2018年)
- 再生可能電力の年間調達を100%に増加(2018年0%)

*1 SBTイニシアチブは、CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI(世界資源研究所)、WWF(世界自然保護基金)によって2015年に設立された国際的な共同イニシアチブで、「産業革命前からの気温上昇を1.5°Cに抑える」というパリ協定の目標に向けて、企業が設定する温室効果ガス削減目標が、科学的根拠に基づいたものになっているかどうかの検証・認定を行っています。

*2 スコープ1: 自社での燃料使用による直接排出量

*3 スコープ2: 自社が購入した電力、熱の使用による間接排出量

*4 当社のGHG排出量に占めるCO₂排出量は、99.8%(2022年)です。

*5 スコープ3: 自社のバリューチェーンで排出される間接排出量(スコープ1、スコープ2を除く)のうち、購入商品・サービス(カテゴリ1)および販売した製品の廃棄(カテゴリ12)

[> ニュースリリース: ライオンの温室効果ガス削減目標がSBTイニシアチブの認定を取得](#)

生物多様性に対する取り組み

当社グループは原材料調達等において生物多様性に依存しながら事業を営んでいる一方、バリューチェーンの各段階で生物多様性に影響を与えており、生物多様性と密接に関わっています。生物多様性方針に基づき、TNFD提言のフレームワークに則り、当社グループの自然への依存、影響、自然関連のリスク、機会を分析し、これらを管理するため、2030年までに取り組むべきサステナビリティ重要課題と目標を設定し、責任あるサプライチェーンマネジメントの構築、人権の尊重、サステナブルな地球環境への取り組みを進めています。これらの分析結果や取り組み内容は、「ライオングループのTNFDへの対応」として、開示しています。



エコ・ファーストの約束

「エコ・ファースト制度」とは、企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物削減・リサイクル推進等、自らの環境保全に関する取り組みを約束「[エコ・ファーストの約束 PDF](#)」(PDF:339KB)し、環境の分野において「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業(業界における環境先進企業)であることを、環境大臣が認定する制度です。

当社は、2008年に製造業として初めてエコ・ファースト企業に認定され、その後も長期環境目標の設定に合わせて「エコ・ファーストの約束」を更新してきました。現在の「エコ・ファーストの約束」は、2024年に生物多様性方針策定を踏まえ更新しました。

エコ・ファースト推進協議会

「[エコ・ファースト推進協議会](#)」とは環境行政およびエコ・ファースト企業間の連携を強化し、制度の認知度向上を図るとともに地球環境問題に対する取り組みをさらに充実させることを目的に、2009年12月に設立された組織です。

当社も設立当初から幹事企業の一社として積極的に参加して、2012年度～2013年度は議長会社を務めました。また、2023年度まで幹事会社として協議会運営に関り、現在は一般会員として協議会に参加しています。

環境に関する外部イニシアチブへの参画



TCFD提言に基づく情報開示

- ▼ ライオングループのTCFDへの対応
- ▼ シナリオ分析の概要
- ▼ シナリオ分析結果まとめ

ライオングループのTCFDへの対応

近年、気候変動は喫緊の社会課題であり、企業経営においても将来の重大なリスクであると同時に、企業活動の新たな機会創出の可能性もあると認識しています。

当社グループでは、金融安定理事会 (FSB) により設置されたTCFD提言への賛同を2019年5月に表明しました。また、同年10月～2020年1月にかけて環境省「TCFDに沿った気候リスク・機会のシナリオ分析支援事業」に参画し、気候関連のリスクと機会が当社事業におよぼす財務的影響の評価に取り組みました。2022年には、事業・地域・製品群・サプライチェーンの面で分析範囲を拡大し、本格的なシナリオ分析を実施しました。その結果についてTCFDのフレームワークに基づき気候関連情報を開示しています。



TCFD各項目の取組み状況と今後の対応方針

TCFD推奨の気候変動関連開示項目		ライオングループの取組み状況
ガバナンス	気候関連のリスク及び機会に係る組織のガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動リスク・機会は、サステナビリティ推進協議会傘下のE分科会より、同協議会（年2回開催）に報告され、必要に応じ、経営執行会議・執行役員会・取締役会にも報告される体制となっています。 また、気候変動による人々を取り巻く世界観の変化を事業機会とすべく、同協議会直下にワーキンググループを設置して機動的な検討を行っています。
戦略	気候関連のリスク及び機会が組織の事業・戦略・財務計画に及ぼす実際の影響及び潜在的な影響	<ul style="list-style-type: none"> TCFDの提言に基づき、2030年・2050年において気候変動影響を受ける可能性が高い一般消費財事業及び海外事業の一部の国について、1.5°C・4°Cの2つのシナリオを用いて、シナリオ分析を実施しました。 短・中・長期の気候変動リスク・機会を現在～2050年まで特定・評価し、事業・戦略・財務計画検討時に考慮しています。
リスク管理	気候関連のリスクについて組織が特定・評価・管理する手法	<ul style="list-style-type: none"> 事業に大きな影響を及ぼす気候変動関連のリスクと対応策に関しては、全社共通で管理する「共通リスク」に位置付けており、その取りまとめを行う経営企画部とE分科会が連携して、識別・評価・管理を実施しています。 <p> > リスクと対応策はこちら </p>
指標と目標	気候関連のリスク及び機会を評価・管理する際に使用する指標と目標	<ul style="list-style-type: none"> 当社及び国内外連結子会社のCO₂排出量 (Scope1、2、3) について、Webサイトで開示しています。また、長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」における、2050年に向けた取り組み「脱炭素社会と資源循環型社会の実現」の方向性と、2030年時点のCO₂排出量、石化由来のプラスチック使用率、水資源使用量を指標とした目標を開示しています。温室効果ガス削減目標は、SBTイニシアチブの1.5°C認定を取得しています。 <p> > ニュースリリース:ライオンの温室効果ガス削減目標がSBTイニシアチブの認定を取得 </p>

シナリオ分析の概要

- 2030年、2050年における一般用消費財事業（オーラルヘルスケア、ビューティケア、ファブリックケア、リビングケア、薬品の各分野）、海外事業（中国・タイ）について、産業革命比で2100年までに世界の平均気温が1.5℃・4℃上昇することを想定したシナリオを用いて、シナリオ分析を実施しました。なお、使用したシナリオのうち代表的なものは以下のとおりです。

* 移行リスク・機会の分析に使用した主要シナリオ：IEAによるNZE、STEPS

* 物理的リスク・機会の分析に使用した主要シナリオ：IPCCによるRCP1.9、8.5

- 分析の過程では各シナリオに対して、気候変動に関連するリスク・機会を洗い出し、事業への影響を定性的に検証後、定量的なインパクト額を試算し、大・中・小の3段階で評価しました。その結果、事業への影響が大きいリスクとして「炭素税の導入」「原料価格の上昇」、機会として「サステナブル商品の市場拡大」を特定しています。また、IPCC AR6等最新の文献を調査し、人々の生活を取り巻く世界観が気候変動に伴いどのように変化するかを想定することで、新たな事業機会検討の材料にしています。

【ライオングループの主要な気候変動リスク・機会】

リスク・機会項目		影響※1			
		概要	4℃	1.5℃	
移行	炭素税の導入 (Scope1,2,3)		<ul style="list-style-type: none"> 各国政府での排出権取引の本格的な導入や炭素税の適用により、工場の操業コストが増加 Scope3も含め炭素税がかかることで、原材料調達コストが上昇する 	小	大※2
	原料価格上昇	化石燃料由来	<ul style="list-style-type: none"> 排出権取引の本格的な導入や炭素税の適用により価格上昇 	大	中
		パーム油由来	<ul style="list-style-type: none"> パーム油規制強化や認証油使用増加によるコスト上昇 	小	中
		植物由来（とうもろこし、ミント等）	<ul style="list-style-type: none"> 収穫量の減少による価格高騰 	小	小
	材料・包材価格上昇	プラスチック由来	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック使用に関する規制により価格上昇 	小	中
		アルミ由来	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の軽量化規制等により、鉄からアルミニウム等への代替が進み価格高騰 	小	中
		森林資源由来	<ul style="list-style-type: none"> 森林火災や森林保全・森林伐採規制による価格上昇 	小	小
サステナブル商品市場拡大		<ul style="list-style-type: none"> 顧客のエシカル消費に対する意識向上にともない、節水・節電商品を含むサステナブルな商品の需要が拡大 	小	大	
物理的	平均気温の上昇		<ul style="list-style-type: none"> エネルギーコストや労働者への負担が増加することにより操業コスト・人件費が上昇 	小	小
			<ul style="list-style-type: none"> 気温上昇により洗濯関連製品、感染症増加により衛生関連製品・サービスの売上が増加 	中	小
	降水・気象パターンの変化		<ul style="list-style-type: none"> 洪水や水ストレスの増加により、自社及びサプライヤーの操業に影響が生じ対応コストが増大。また、安定供給が果たせない場合、信用力低下の可能性 	中	小
	異常気象の激甚化		<ul style="list-style-type: none"> 異常気象の激甚化により、自社物流の遅延やサプライチェーンの分断が発生し収益が減少。また、安定供給が果たせない場合信用力低下の可能性 	小	小

※1 リスク：赤字、機会：青字

※2 環境目標「LION Eco Challenge 2050」を達成できずCO₂削減が進まない場合

TNFD提言に基づく情報開示

- ▼ ライオングループのTNFDへの対応(概要版) ▼ TNFD推奨の開示項目に関する取組み状況
- ▼ 自然への依存と影響 ▼ シナリオ分析結果まとめ

ライオングループのTNFDへの対応(概要版)

ライオングループは生物多様性方針に基づき、TNFD提言のフレームワークに則り、当社グループの自然への依存、影響、自然関連のリスク、機会を分析しました。その結果をまとめた自然関連財務情報を開示します(本ページは概要版。全体版は[こちら](#)  (1.55MB))。優先的な分析対象は、次の通りです。

- 事業:オーラルヘルスケア事業、ファブリックケア事業(以下、あわせて「重要事業」という)のバリューチェーン全体
- 優先地域:ミント油、パーム油の調達先(米国、インドネシア、マレーシア)
- 期間:2030年まで及びそれ以降

TNFD推奨の開示項目に関する取組み状況

TNFD推奨の 自然関連開示項目		ライオングループの取組み状況
ガバナンス	自然関連の依存、影響、リスク、機会に対する組織のガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> • 自然関連リスク・機会は、サステナビリティ推進協議会傘下のE分科会より、同協議会(年2回開催)に報告され、必要に応じ、経営執行会議・執行役員会・取締役会にも報告される体制となっています。 <p>▶ 詳しくはこちら</p>
戦略	自然関連の依存、影響、リスク、機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際及び潜在的な影響	<ul style="list-style-type: none"> • TNFD提言に基づき、生物多様性への依存・影響が高い分野において、LEAPアプローチを用いて優先地域を特定し、リスクと機会の分析を行いました。また、戦略のレジリエンスを評価するために、重要事業についてシナリオ分析を実施しました。
リスク管理	組織が、自然関連の依存、影響、リスク、機会を特定し、評価し、優先順位をつけて監視するためのプロセス	<ul style="list-style-type: none"> • 事業に大きな影響を及ぼす自然関連のリスクと対応策に関しては、全社共通で管理する「共通リスク」に位置付けて、その取りまとめを行うE分科会と経営企画部が連携して、識別・評価・管理を実施しています。
指標と目標	自然関連の依存、影響、リスク、機会を評価し、管理するために使用される測定指標とターゲット	<ul style="list-style-type: none"> • サステナビリティ重要課題と2030年目標を設定し、責任あるサプライチェーンマネジメントの構築、人権の尊重、サステナブルな地球環境への取組み推進に関する目標を掲げています。

自然への依存と影響

重要事業である各事業のバリューチェーン上流、直接操業、下流における自然への依存と影響の度合いを、定性的・相対的に評価した結果を以下のヒートマップに示しています。(濃い緑:依存度高い⇄薄い緑:依存度低い、濃い青=影響度高い⇄薄い青=影響度低い) 両事業ともに、上流で依存度、影響度が高くなっています。その理由は次の通りです。

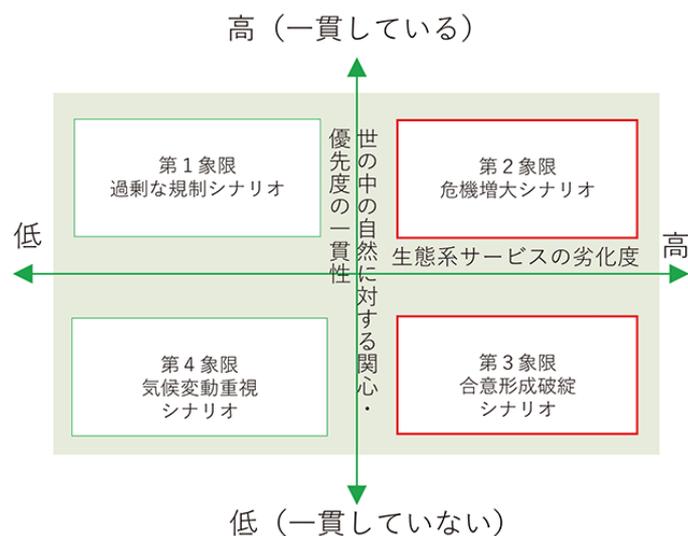
- オーラルヘルスケア事業:ミントの栽培には、大量の水の供給・水の供給を支える気候調整、育成に必要な健全な土壌の提供等で依存しています。水使用による周辺生態系への影響もあります。
- ファブリックケア事業:パーム油の原料となるアブラヤシの育成及び安定的な収穫のため、安定した気候や健全な土壌に依存しています。また、プランテーションによる土地利用変化(森林や泥炭地の破壊)が、野生動植物に大きな影響を与え、温室効果ガスの排出や大気汚染(ヘイズ)にもつながっています。

依存		供給サービス			調整サービス									
		バイオマス資源の供給	遺伝資源の供給	水の供給	花粉媒介	洪水・暴風雨の緩和	空気の浄化	気候調整	感染症の抑制	固形廃棄物の浄化	土壌と堆積物の保持	土壌の質の調整	水循環の調整	水質浄化
オーラルヘルスケア	上流(原料)													
	直接操業(製造)													
	下流(使用)													
ファブリックケア	上流(原料)													
	直接操業(製造)													
	下流(使用)													
影響		利用による変化		気候変動	資源利用	汚染と汚染除去			外来生物					
		淡水の利用領域	土地の利用領域	温室効果ガスの排出	水利用	騒音・光害	温室効果ガス以外の大気汚染物質の排出	水質汚濁・土壌汚染	固形廃棄物の排出	外来種の導入				
オーラルヘルスケア	上流(原料)													
	直接操業(製造)													
	下流(使用)													
ファブリックケア	上流(原料)													
	直接操業(製造)													
	下流(使用)													

シナリオ分析結果まとめ

重要事業について、2030年を想定し、TNFDが推奨している「生態系サービスの劣化度」と「世の中の自然に対する関心・優先度の一貫性」の2軸を掛け合わせてできる4つの象限のうち、第2象限及び第3象限*に絞ってシナリオ分析を実施しました。(WWFによれば、直近半世紀で70%以上の生物多様性が減少したことなどから、今後も生態系サービスの劣化が深刻化するシナリオが当社グループにとって優先度が高いと考えています)

分析は、調達や技術開発の担当者も含めたワークショップ形式で行い、事業環境の変化、そこから生じるリスクと機会、それらに対して取るべきアクションについて把握しました。シナリオ分析の結果概要は以下の通りです。(第3象限シナリオが現状に近いものと認識し、上段に記載しています)



第2象限: 生物多様性の激しい劣化に対し、社会全体(国内外の政府・生活者)で、生物多様性保全の必要性が共通認識になっている。

第3象限: 生物多様性が激しく劣化するも、生物多様性保全に対する考え方やルールは、国・地域、個人によって大きく異なる。

オーラルヘルスケア事業

	リスク	機会	レジリエンス強化のための既存の対策	更なるレジリエンス強化に向けた課題
第3象限シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> 異なる規制や考え方に対応していくためのコスト増加、対応スピード低下 	<ul style="list-style-type: none"> 第2象限シナリオほどコスト増とならない分、リソースを製品開発等に投入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ミント油のサプライヤーと良好な関係を構築 認証ミント油の調達や天然ミント油にこだわった差別化 	<ul style="list-style-type: none"> 各国・地域の法規制や市場に詳しい人材の現地採用 特にインド（アメリカより生物多様性リスクと水リスクが高い）におけるトレーサビリティ強化、認証ミント油の購買を通じた持続可能な農法の支援
第2象限シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> 認証ミント油の価格上昇、第三者認証コスト増加 自然関連目標の設定や法規制対応のためのオペレーションコスト増加 生物多様性保全のための新技術への投資コスト増加 	<ul style="list-style-type: none"> サステナブルミントを生活者に訴求し、価値に見合った価格上昇が可能 		

ファブリックケア事業

	リスク	機会	レジリエンス強化のための既存の対策	更なるレジリエンス強化に向けた課題
第3象限シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性の劣化とそれによる生産地拡大の制限、及び世界人口の増加による食品産業との競争激化によってパーム油の調達が困難 大手による独自基準での調達、パーム農園の困り込みによって、低リスクで高品質なパーム油の調達が困難 認証パーム油へ高いコストを払い続けるが、価格調整ができず収益が悪化 EU市場からトレーサビリティへの要求が高まる。当社グループの対応が要求に満たない場合、ステークホルダーからの評価が低下 技術開発がスピードダウン 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂から生産された原料をパーム代替品として活用できれば、気候変動にも生物多様性にもメリットのある製品として訴求可能 水や油に頼らない、従来とは一線を画する技術・事業革新 	<ul style="list-style-type: none"> RSPO認証油への切り替え パーム油調達先の位置情報（ミルレベル）の把握 パーム代替原料を開発する企業への出資 	<ul style="list-style-type: none"> 高価格でも選ばれるコンセプトづくり、生活者とのコミュニケーション強化 生物多様性関連情報の収集と機動的な経営判断
第2象限シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ対応コストに対応するための商品価格調整分を、調達及び内部コスト上昇分が上回り続け、収益が悪化 森林回復など、要求レベルの高まり。当社グループの対応が要求に満たない場合、ステークホルダーからの評価が低下 パーム代替原料の開発競争激化。投資に係る迅速な経営判断が必要 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ対応について、価値に見合った価格上昇が可能 		

脱炭素社会の実現

考え方

産業革命以降、CO₂等の温室効果ガス排出量が増加し、地球温暖化が進行しています。地球温暖化に伴う気候変動により、集中豪雨や洪水などの自然災害の増加、食糧や水資源の減少、猛暑や感染症の発生等、人々の生活や生態系におよぼす悪影響が増大していくことが懸念されています。ライオングループでは、アブラヤシや紙・パルプ等の天然資源を用いた事業を行っているため、地球温暖化は大きなリスクと認識しています。

気候変動の進行の緩和や低炭素社会への移行に向け、2016年にパリ協定が発効し、世界共通の長期目標として地球の平均気温の上昇を2°Cより十分下方に抑えること(2°C目標)と、さらに1.5°Cまでに抑えるよう努力することが掲げられています。当社はこのパリ協定を支持し、2019年6月に事業所活動におけるCO₂排出削減長期目標「2030年度までに2017年度比30%削減」、「2050年に排出量実質ゼロ」を設定しました。そして、2020年にSBT(Science Based Targets)認定(Well Below 2°C目標)を取得しました。

また、2019年5月に気候関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures:TCFD)」の提言への賛同も表明しています。

当社グループでは、2021年5月、日本政府による2030年温室効果ガス排出削減目標の26%削減から46%削減(対2013年)への引き上げ等の社会動向を鑑み、産業革命前からの気温上昇を1.5°C以内に抑える世界共通目標の実現に向け、LION Eco Challenge2050の事業所活動における2030年CO₂削減目標を30%削減(2017年比)から55%削減(2017年比)へと引き上げました。

また、本目標の達成を加速すべく、当社グループの購入電力すべてを2030年までに再生可能エネルギー由来の電力へと切り替えることを決定しました。さらに、脱炭素に向けた設備投資を加速するため、CO₂の排出量を自社の基準で仮想的に費用換算し、環境投資判断の参考とするインターナルカーボンプライシング(ICP)制度を導入しました。当社グループでは、環境方針およびLION Eco Challenge2050に基づき、事業活動における温室効果ガスの削減に積極的に努めるとともに、環境配慮型商品・サービスの提供及び生活者と共につくる「エコの習慣化」を推進することにより、社会の温室効果ガス削減を通じて、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

＞ ICP(インターナルカーボンプライシング)の活用【統合レポート2023 p48】 

＞ 生活者と共につくる「エコの習慣化」【統合レポート2022 p27 成長ポイント③】 

全体像

当社グループは、原材料調達から消費者による廃棄までのすべての段階で、温室効果ガスの削減を進めています。今後も脱炭素社会の実現に向けて取り組みを推進していきます。

脱炭素社会の実現に向けた活動

	原材料調達 	当社での活動 	消費者による使用 	消費者による廃棄 
脱炭素社会の実現に向けた活動 	<ul style="list-style-type: none"> 植物由来原料及び容器材料の使用による石油資源の代替促進 <p>➡ 関連情報</p>	<p>工場</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産プロセスの見直し、設備更新時における省エネ機器導入、商品のコンパクト化等によるエネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの活用 <p>➡ 関連情報</p> <p>オフィス・事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務・営業部門、研究・技術開発部門等、全社による省エネ活動（電気自動車（EV）の導入等） 購入電力の再生エネ化 <p>➡ 関連情報</p> <p>出荷後の流通</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品輸送時のモーダルシフト化率向上 積載率向上等による物流効率の向上 <p>➡ 関連情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商品を通じた環境意識の啓発（エコ基準を達成した商品に環境ラベルを付与） 節電型商品による商品使用時の電力使用量の削減（洗濯時のすすぎ回数の削減） <p>➡ 関連情報</p> <p>➡ 関連情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> 植物原料の使用による石油資源の代替推進 3Rの推進（つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生PET・薄肉化等の容器の開発） <p>➡ 関連情報</p>

取り組み



事業所活動におけるCO₂排出量削減



ライフサイクルにおけるCO₂排出量削減

事業所活動におけるCO₂排出量削減

- ▼ 省エネルギー活動の推進
- ▼ 再生可能エネルギーの活用
- ▼ カーボンオフセット

省エネルギー活動の推進

2021年、ライオングループは、事業所活動におけるCO₂排出量を2030年までに30%削減(2017年比)から55%削減(2017年比)へと目標を引き上げました。

まずは国内外の工場、オフィス等の様々な事業所で徹底的な省エネルギー活動によって、エネルギー効率の向上を図り、CO₂削減に取り組んでいます。

特にエネルギー使用量の大きい生産部門においては、生産量原単位で毎年1%以上削減することを目標とし、生産効率化、高効率機器の導入、蒸気やエア等のユーティリティのロス削減、熱回収等の省エネ活動を通じて、CO₂削減を推進しています。オフィスにおいても、各地のオフィスで「節電プロジェクト」を結成し、省エネ活動に取り組んでいます。

工場や厚生棟等の建屋を新設する場合にも、エネルギー効率を向上させる設備仕様とすることで、エネルギー使用量の削減に努めています。当社グループが2023年1月から入居している新本社ビル(東京都台東区蔵前)は、建築物の総合的環境性能とともにウェルネス性能の認証を行う「CASBEE-スマートウェルネスオフィス」認証の「Sランク」を2021年に取得しています。将来的には全工場のエネルギー消費状況を可視化、把握することにより、省エネ余地を見出し、さらなる省エネにつなげます。

今後も、さらなるCO₂排出量削減に向けて、施策を推進していきます。



ライオンケミカル(株)
オレオケミカル事業所(坂出)の新厚生棟



LCCOC新厚生棟の省
エネルギー性能表示



新本社の「CASBEE-スマートウェルネスオフィス」
認証の最高位「Sランク」

おおさか気候変動対策賞特別賞の受賞

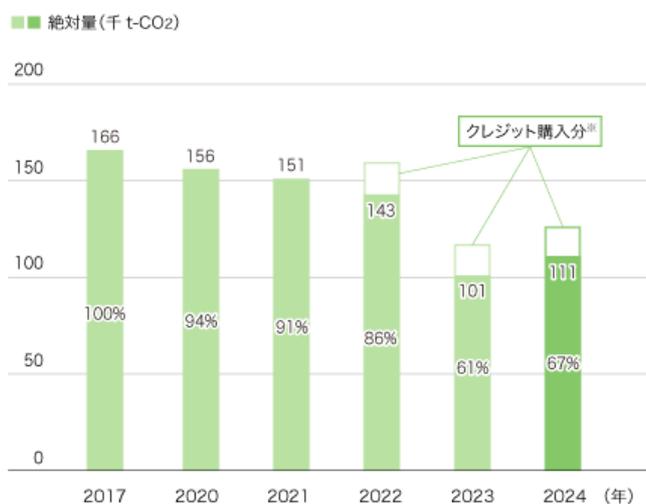
大阪工場と大阪オフィスの温室効果ガス排出量の基準年度比削減率が50%以上であったことから、脱炭素化ランクゴールドとして表彰を受けました。日々の省エネ活動に加え、再エネメニューの活用をしたことで大幅に排出量を削減しました。

インターナルカーボンプライシング(ICP)制度の導入

当社グループは、CO₂排出量削減を促進するため、2022年からICP制度を国内で導入*しています。当初、ICPの炭素価格は、6,100円/t-CO₂としていましたが、2025年5月に外部炭素価格を考慮して、設備投資に適用する価格を13,300円/t-CO₂へ引き上げました。これにより、省エネルギーやCO₂排出量が少ない設備導入を加速していきます。

* ライオンニュースリリース:「インターナルカーボンプライシング制度」を導入

事業所活動におけるCO₂排出量の推移(国内+海外)



※カーボンクレジット購入分を控除した数値。
控除しない場合は2022年:159千トン、96%、2023年:117千トン、71%、2024年:126千トン、76%

> ESGデータはこちら

再生可能エネルギーの活用

当社グループでは、CO₂削減目標達成のために徹底的な省エネ活動を進めた上で、CO₂削減量の不足分については、自家消費用太陽光発電設備の導入や購入電力の再生可能エネルギー化が必要と考えています。

自家消費用太陽光発電設備の導入

自家消費用太陽光発電設備については、平井事業所に加え2021年には新たにライオンケミカル(株)に新規導入しました。また、海外では2021年からタイライオンにて増設された新乾燥塔の建屋に太陽光発電設備を新設して以降、太陽光発電設備を増設しています。2024年にはライオンコリアおよびサザンライオン(マレーシア)においても新たに太陽光発電設備を設置しました。今後も、再エネ電力の調達量増加に向け、太陽光発電電量の増加に取り組んでいきます。



平井事業所の太陽光発電設備



ライオンケミカル(株)の太陽光発電設備



タイライオン新乾燥塔建屋の外観



サザンライオン倉庫の外観

購入電力の再生可能エネルギー化

当社は、電力会社との電力契約を再生可能エネルギー100%の電力メニュー（再エネメニュー）に切り替えることにより、国内の全工場は2023年1月から、新本社は同年4月から使用する電力を再生可能エネルギー化しています（一部、Jクレジットを活用）。

また、国内各地のオフィスについては、再エネメニュー又はグリーン電力証書を順次活用し、2023年5月に全オフィスで使用する電力の再生可能エネルギー化を達成しています。

国外の事業所においても、順次再エネ電力への切り替えを推進し、2030年には事業所の購入電力の再エネ化比率100%を目指します。

カーボンオフセット

タイライオンは、カーボンオフセットクレジットであるT-VER*（バイオマス発電由来）を購入し、2024年のタイライオンの購入電力量に相当する分のCO₂をオフセットしました。

* T-VER はタイの公的機関が運営するクレジット制度です。

ライフサイクルにおけるCO₂排出量削減

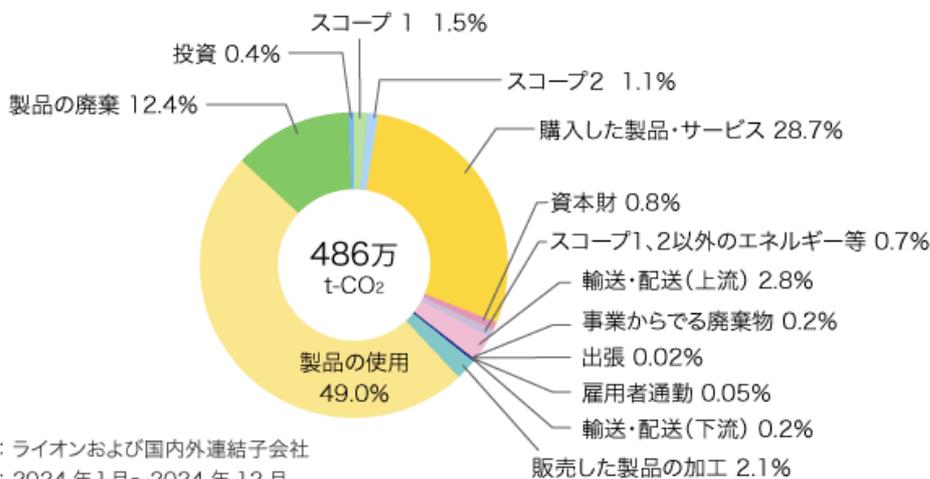
- ▼ サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量
- ▼ 物流部門における取組み

サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量

当社グループは「脱炭素社会の実現」に向けて、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を把握することの重要性を認識し、2013年より「GHGプロトコル・スコープ3基準」に基づき、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を算出しています。2024年度のスコープ1、2、3の合計は、486万トンとなりました。

今後、温室効果ガス排出量が多い「商品の使用」段階の排出量削減に寄与する商品の普及およびさらなる開発を推進し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいきます。

サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量



注)
 対象範囲：ライオンおよび国内外連結子会社
 対象期間：2024年1月～2024年12月
 スコープ1：事業所からの直接排出
 スコープ2：購入したエネルギーの生産（発電等）にともなう間接排出
 スコープ3：スコープ1、2以外のサプライチェーンからの排出

国内事業所のスコープ1、2別の温室効果ガス排出量（千トン）

年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
スコープ1	19	21	21	20	19
スコープ2	48	52	52	15	15
合計	67	74	73	35	34
カーボンクレジット購入量	0	0	0	0	0

スコープ1：事業所からの直接排出

スコープ2：購入したエネルギーの生産（発電等）にともなう間接排出

海外事業所のスコープ1、2別の温室効果ガス排出量(千トン)

年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
スコープ1	47	56	49	43	54
スコープ2	42	22	36	38	38
合計	89	78	85	82	92
カーボンクレジット購入量	0	0	16	16	16

スコープ1:事業所からの直接排出

スコープ2:購入したエネルギーの生産(発電等)にともなう間接排出

物流部門における取り組み

当社は、以下の取り組みを通して、CO₂排出量・エネルギー消費原単位の削減に取り組んでいます。

- 輸送用トラックの大型化
- 積載率向上等の物流効率化
- 工場直送の拡大を通じた輸配送距離の短縮
- トラック輸送から鉄道や船舶輸送に変更するモーダルシフト

当社の2024年のモーダルシフト化率は、社内輸送において9.2%(2023年:9.3%)と若干低下しましたが、輸送用トラックの大型化等の物流効率化の取り組みにより、物流におけるCO₂排出量は18,978トンで前年比13.8%減少しました。またエネルギー消費量原単位では前年比15.6%減少、5年平均で4.2%減少し、目標である「年平均1%以上削減」を達成しました。今後も、年平均1%以上削減を目標に、継続して取り組みを推進します。

エコレールマークの認定

「 **エコレールマーク制度**」は、製品輸送時に貨物鉄道を一定以上の割合で利用している企業または製品が認定を受けられる、国土交通省により設けられた仕組みです。お客様にとって見えにくい流通過程において、企業や製品が地球に優しい交通手段を使用したことを識別しやすくするために「エコレールマーク」が付けられます。当社は2023年にエコレールマークの認定を更新し、公益社団法人鉄道貨物協会が発行するエコレールマークパンフレットや国土交通省のホームページで紹介されています。

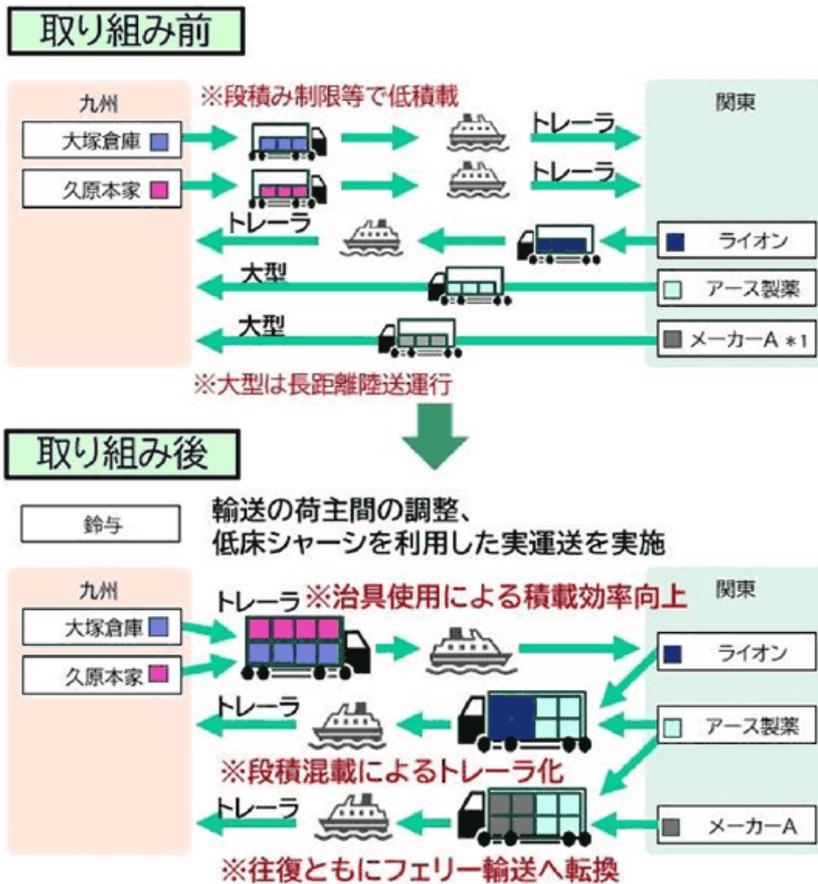


また、以下の4商品が認定されています(2024年6月時点)。

1. ビトイーンライオン
2. クリニカアドバンテージ ハブラシ
3. クリニカPROハミガキ
4. NONIOハブラシ

輸送モジュールの標準化を通じた複数荷主混載輸送の拡大

物流2024年問題やサステナビリティなど社会的課題への対応として、輸送モジュールの標準化を通じ、船舶トレーラーを活用した複数荷主混載輸送のモデルケースを構築。従前の各社単独輸送による非効率に対し、各社がスケジュールや荷量を調整し、船舶トレーラー大型輸送による業界を超えた複数荷主による共同混載ラウンド輸送を実現しました。本取組による全体効果としてCO₂削減:年間31.2トン(19.0%削減)、ドライバー拘束時間削減:年間250時間(15.4%削減)、車両台数削減:年間39台(28.9%削減)に繋がりました。この先駆的な取組みが評価され、令和6年グリーン物流パートナーシップ会議にて国土交通大臣賞を3年連続で共同受賞しました。

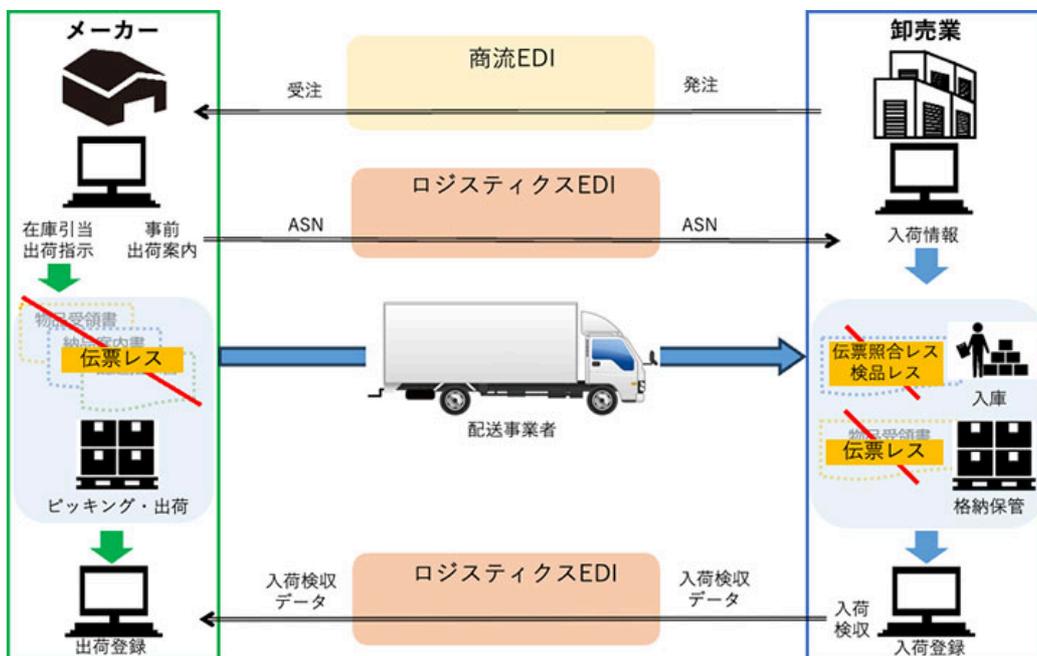


業界物流情報基盤 (ロジスティクスEDI*) を活用した日用品業界の物流改革

物流2024年問題の対処に向けて、個社対応では限界があるため、日用品業界全体の物流効率化が必要です。事前出荷情報 (ASN) を活用した入在庫作業の効率化、ペーパーレス、検品レスの実装に向け、当社は日用品物流標準化ワーキンググループ内において構想提案、実証実験参画を通じた実装モデルブラッシュアップ等により業界全体を牽引する役割を果たしています。また、大手卸店と連携強化することで、ASN送信及び出荷伝票レスの先行導入を行い、出庫事務作業工数30%削減、入庫現場作業工数50%削減効果を確認し業界全体のサプライチェーン最適化に向け、労働環境改善、SDGs観点における業界先駆モデルの事例となりました。そのことから経済産業省と製・配・販連携協議会が主催の「サプライチェーンイノベーション大賞2024」で大賞を受賞しました。



* Electronic Data Interchangeの略。「電子データ交換」の意味。



資源循環型社会の実現

考え方

ライオングループは、プラスチック問題や水資源不足問題に取り組むことで、資源循環型社会の実現に向けた様々な活動を推進しています。

プラスチック問題は、過剰な使用や不適切な廃棄プロセスにより、ライフサイクルで生じるCO2排出による地球温暖化や、海洋プラスチックごみによる生物多様性への影響等、別の環境問題とも関連しています。当社グループは、プラスチックを材料とする製品を製造・販売する企業として、プラスチック問題に対して果たすべき責任は大きいと考えています。プラスチック問題への対応方針を「[ライオングループ プラスチック環境宣言](#)」として公表しています。本方針に基づいて国内外で資源循環型社会を実現するための目標を設定し、課題解決に継続的に取り組んでいます。

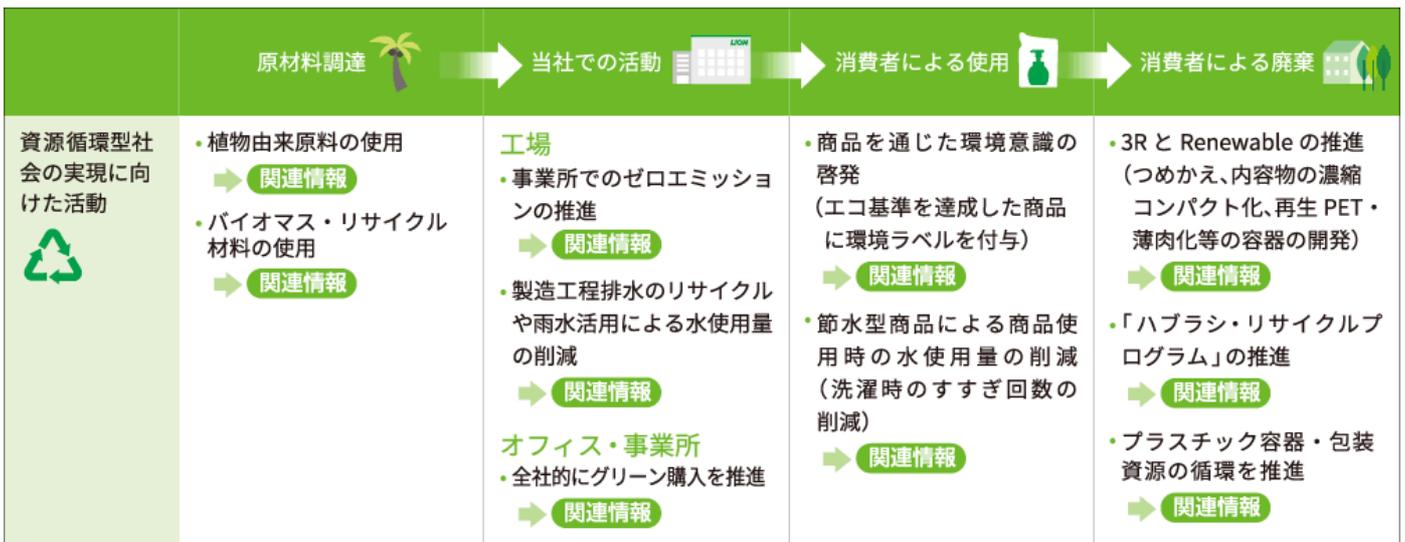
また、水は生きることに欠かせない最も重要な資源です。日本においても、地球温暖化の影響による渇水リスクや上下水インフラの老朽化による水供給リスクが懸念されています*。当社グループは、水資源不足について、ライフサイクルを通じた水使用量削減に取り組んでいます。事業活動による水使用量の削減はもとより、消費者による水使用量を削減できる製品を新しい生活習慣とともに提供することで、企業としての責任を果たしていきたいと考えています。当社は、泡切れがよく洗浄成分が残りにくいためすすぎ1回でも使える洗濯用液体高濃度洗剤『トップNANOX(現・NANOX one(ナノックス ワン)、トップスーパーNANOX 自動投入洗濯機専用)』を2010年より継続して販売しています。また、2020年より当社の洗濯用液体洗剤は、全てすすぎ1回でご使用いただけるようになりました。さらに2023年2月にはすすぎ0回の洗濯用液体洗剤「アクロン smart care」を発売しました。今後も、水使用量の削減に取り組んでいきます。

* 出典：内閣官房水循環政策本部事務局「令和6年度版 水循環白書」

全体像

当社グループは、原材料調達から消費者による廃棄までのすべての段階で、プラスチックや水の循環利用・有効活用を進めています。今後も資源循環型社会の実現に向けて取り組みを推進していきます。

資源循環型社会の実現に向けての活動



取り組み

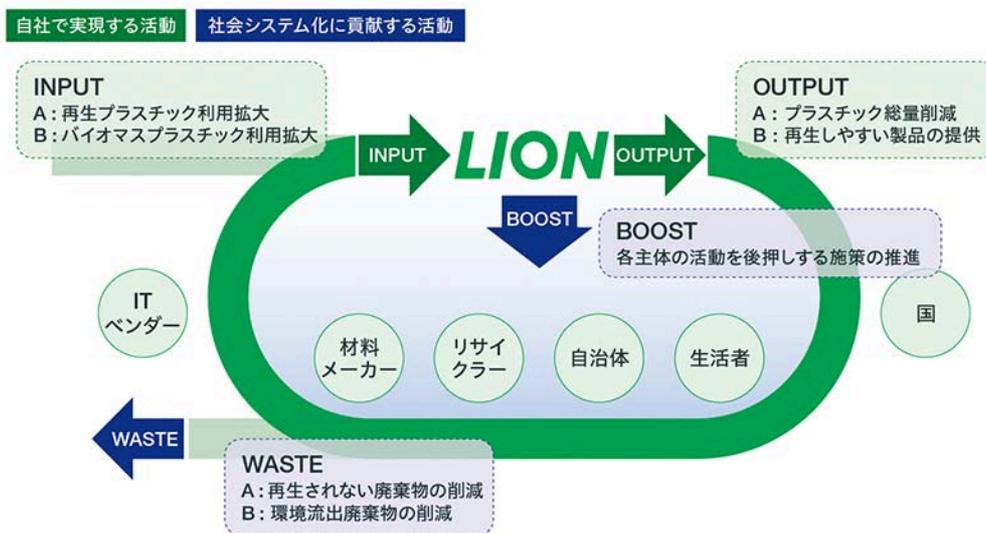


資源循環

- ✓ 資源循環型社会の実現に向けて
- ✓ 当社グループ事業で使用する材料に係ること (INPUT)
- ✓ 当社グループ事業で産みだす製品・排出物に係ること (OUTPUT)
- ✓ 廃棄物・環境流出物削減に係ること (WASTE)
- ✓ 他のステークホルダーの活動支援に係ること (BOOST)
- ✓ 廃棄物の削減

資源循環型社会の実現へ向けて

当社グループは、資源循環型社会の実現に向けて、当社が果たすべき役割を自社事業で直接貢献する活動 (INPUT/OUTPUT)、社会の一員としてステークホルダーとともに資源循環型社会を目指す活動 (WASTE/BOOST) の4項目に整理し、項目ごとに施策を策定し、推進しています。



当社グループ事業で使用する材料に係ること (INPUT)

再生プラスチックの活用

当社グループの製品・容器には再生プラスチックを積極的に採用しています。液体製品の本体容器やハブラシのブリスター包装には、飲料用PETボトルなどからの再生材料を活用しています。



再生プラスチックの主な活用事例

材質	分野	製品名	使用部分
ポリエチレンテレフタレート PET (PCR)	台所用洗剤	CHARMY Magica 本体*	ボトル
	液体衣料用洗剤	トップ クリアリキッドつめかえ 香りつづくトップ Sweet Harmony つめかえ	つめかえパック
	ハブラシ	クリニカPRO ハブラシ ラバー ヘッド	ブリスタードーム
ポリエチレン PE (PCR)	柔軟仕上げ剤	ソフラン アロマリッチ本体 ソフラン プレミアム消臭本体	ボトル

* 一部採用

海外グループ会社での再生材使用状況

海外グループ会社においても、製品・容器包装への再生プラスチックの使用を拡大し、石化由来材料の使用削減に努めています。一例として、Lion Corporation (Korea)では、『Ai-Kekute(アイケクテ)*』の本体ボトルに再生プラスチックを採用しています。

* 『Ai-Kekute(アイケクテ)』は、ライオン코리아が販売するハンドソープのブランド名です(ライオンが販売する『キレイキレイ』)。韓国語で「あら!キレイ」という意味です。



再生プラスチックの主な活用事例

国	材質	分野	製品名	使用部分
韓国	ポリエチレン PE (PCR)	ハンドソープ	Ai-Kekute (アイケクテ)*	ボトル
タイ	ポリエチレンテレフタレート PET (PCR)	ハブラシ	SYSTEMA* SALZ* KODOMO*	ブリスタードーム

* 一部採用

植物由来材料(バイオマス)の活用

当社グループは、製品・容器へ植物由来(バイオマス)材料の活用を進めています。再生可能な資源の利用は化石原料依存を減少させ、持続可能な社会の実現に寄与します。また、使用後は廃棄物をエネルギー源として再利用することで、廃棄物削減や地域経済の活性化を促進し、カーボンニュートラルに貢献します。



バイオマスプラスチックの主な活用事例

材質	分野	製品名	使用部分
ポリエチレンテレフタレート PET	液体衣料用洗剤	NANOX one 本体、本体大	ボトル
	ボディソープ	hadakara ボディソープ(液体) 本体	
	デンタルリンス	NONIO マウスウォッシュ NONIO プラスホワイトニング デンタルリンス クリニカクイックウォッシュ システム EXデンタルリンス OCH-TUNEマウスウォッシュ 等	
	ハミガキ	クリニカアドバンテージ ハミガキ 他	チューブ
ポリエチレン PE	液体衣料用洗剤	NANOX one シリーズ	つめかえパウチ
	衣料用漂白剤	ブライト STRONG つめかえ特大	
	ハンドソープ	キレイキレイ薬用ハンドコンディショニングソープつめかえ*	
		キレイキレイ薬用泡ハンドソープ携帯用	
	手指消毒剤	キレイキレイ薬用手指の消毒(ジェルプラス、ジェル)	外装袋
	制汗デオドラント剤	Ban 汗ブロック ロールオン、スティック	

* 一部採用

一般社団法人日本有機資源協会の認定要件を満たした商品については、バイオマスマークを掲示しています。詳しくは、[一般社団法人有機資源協会のホームページ](#)をご覧ください。

[ライオンのバイオマス認定商品一覧\(一般社団法人有機資源協会\)](#)

当社グループ事業で産みだす製品・排出物に係ること(OUTPUT)

プラスチック使用量を低減する

Reuse 再利用する

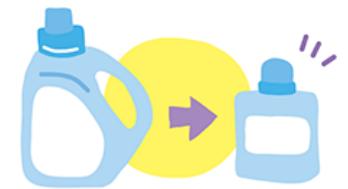
当社グループ製品の本体容器は、内容物を詰め替えることで繰り返し使うことができます。また、つめかえ用フィルム容器は、本体容器よりも容器の材料が少なくすみます。液体衣料用洗剤などの洗濯製品分野では、つめかえ品と本体品の比は4:1以上*に達しています。また、使用後の容積も小さくなるため、家庭から出るごみの削減にも貢献しています。さらに、新たに洗口液類などの分野でも、つめかえ製品の提供を進めています。こうした活動を通じて、プラスチック使用量削減に貢献しています。

* 日本石鹼洗剤工業会調べ

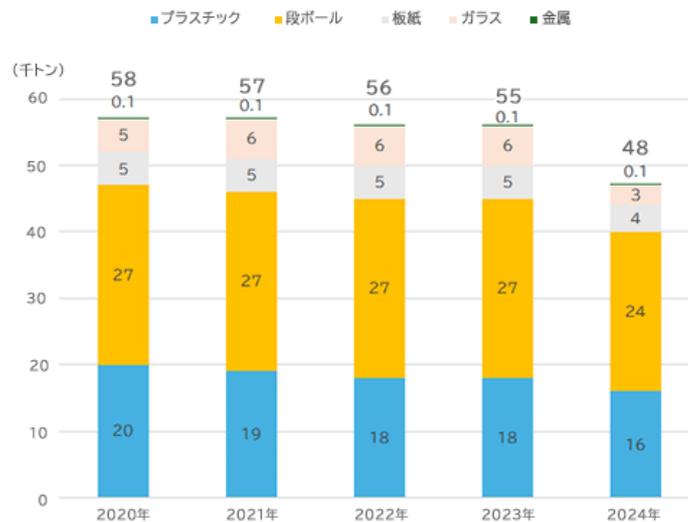


Reduce 使用量を削減

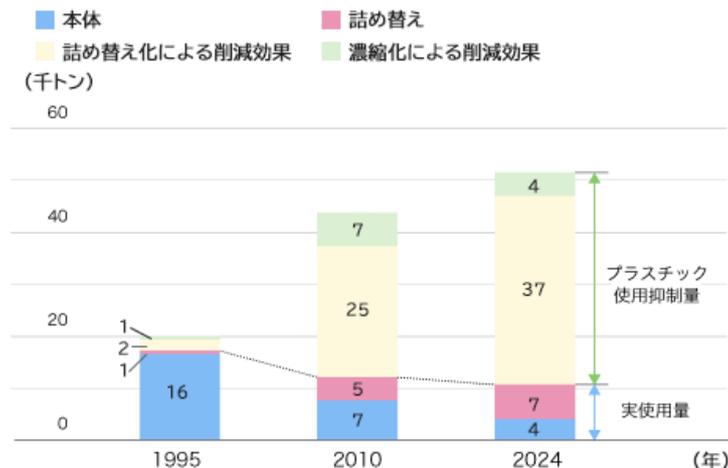
当社グループの製品・容器の削減については、製品ライフサイクルの視点から評価項目を設定した「ライオンエコ基準」の「材料調達」「物流」「廃棄」の各段階に該当する評価項目を定めています。衣料用洗剤、柔軟仕上げ剤、台所用洗剤など「濃縮化による容器のコンパクト化」、設計技術の高度化による「軽量化設計」を推進しています。



ライオンの容器・包装材料使用量の推移(国内、家庭品のみ)



ライオンにおける容器包装用プラスチック使用量及び削減効果の推移

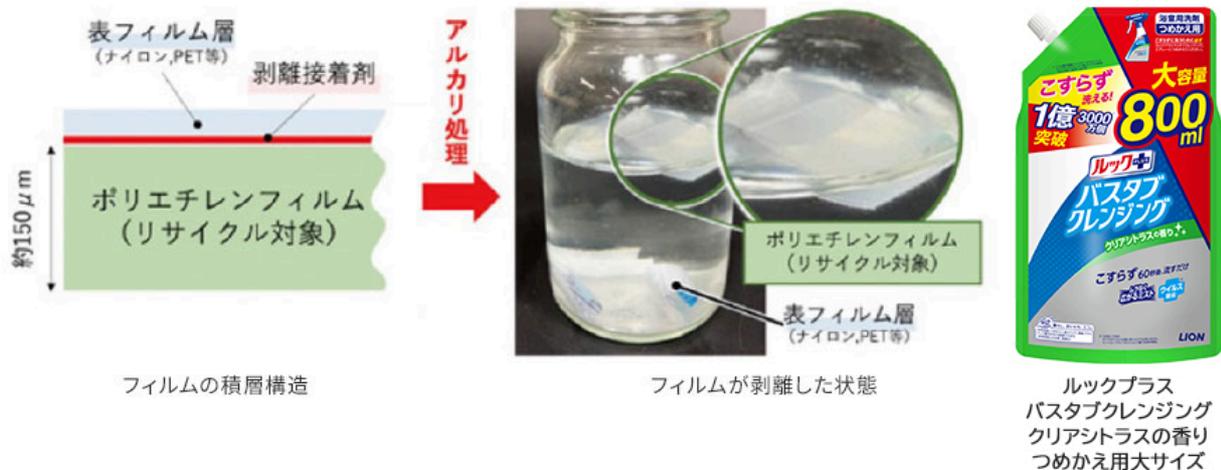


再生しやすい製品の提供

当社グループの製品・容器のリサイクル性を高めることは、リサイクルのコストを低減し、質の良いリサイクル材料を生み出すことにつながっています。当社ではリサイクルしやすい製品・包装容器の技術開発を進めています。

リサイクル性を向上させたつめかえ品の製品化

洗剤などのつめかえ製品の主な包装形態であるつめかえ品の多くは、複数の素材のプラスチックフィルムが貼り合わされてできていることから、リサイクルすることが難しく、その多くが焼却処分されています。そこで当社は、東洋インキ株式会社と共同で、洗剤などのつめかえパックのリサイクル性を向上する「剥離リサイクル技術」の確立に取り組み、新技術を採用した製品『ルックプラス バスタブクレンジング クリアシトラスの香り つめかえ用大サイズ』として2024年11月に数量限定で発売しました。複合素材を分離し、高純度な単一素材として回収可能となることで、リサイクルの促進が期待できます。



廃棄物・環境流出物削減に係ること(WASTE)

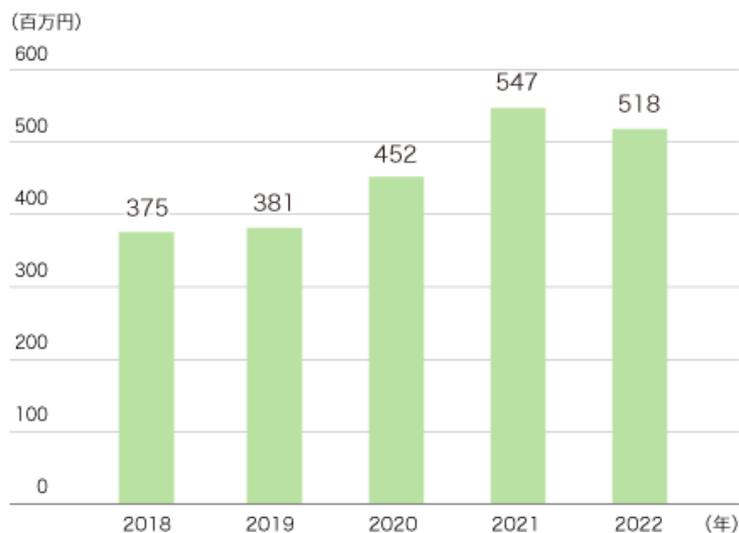
当社グループの提供する商品は、使用後に適切な方法でリサイクルされるよう、取り組みを行っています。併せて、高度なリサイクル社会システムの構築に向けさまざまな活動を行っています。

リサイクルする

当社グループは、容器包装リサイクル制度に基づき、特定事業者として再商品化委託費用を拠出しています。同制度に基づく状況については、公益社団法人日本容器包装リサイクル協会のホームページを参照ください。

[公益社団法人日本容器包装リサイクル協会](#)

包装容器リサイクル協会への拠出金額(精算後)



*ライオン株式会社、ライオンペット株式会社、ライオン歯科材株式会社の合計。
委託費用は契約年度の翌翌年に精算し確定するため、2年遅れでの公表となる。

高度なリサイクルに向けて活動する

当社は、既存の社会インフラでのリサイクルにとどまらず、より高品質なリサイクルを目指して、日用品メーカー、リサイクラー、小売業、自治体と協働のもと、使用済みの製品及び容器・包装材料のリサイクル実証活動を行っています。

推進している主なリサイクル活動

リサイクル対象物	活動名	実施地域等	主要な協働先
ハブラシ	<input checked="" type="checkbox"/> ハブラシ・リサイクルプログラム	全国1600ヶ所以上	テラサイクルジャパン合同会社
	<input checked="" type="checkbox"/> 自治体共同ハブラシリサイクル	墨田区、板橋区、台東区、江戸川区、明石市	株式会社タカロク
	教育現場連動ハブラシリサイクル	埼玉県内私立幼稚園(一部)	全埼玉私立幼稚園連合会 株式会社コミュニティネット 株式会社タカロク
つめかえ品	協働リサイクリエーション	イトーヨーカドー曳舟店 ウエルシア薬局(東京都、埼玉県の一部地域)	花王株式会社 株式会社イトーヨーカ堂 ウエルシア薬局株式会社 ハマキョウレックス株式会社
	<input checked="" type="checkbox"/> 神戸プラスチックNEXT みんなでつなげよう。つめかえパックリサイクル	神戸市内75ヶ所・27施設	神戸市 日用品メーカー 流通企業 リサイクル関連企業 計12社
ボトル	<input checked="" type="checkbox"/> みんなでボトルリサイクルプロジェクト	東京都	ユニリーバ・ジャパン株式会社 花王株式会社 ヴェオリア・ジャパン合同会社 株式会社digglue

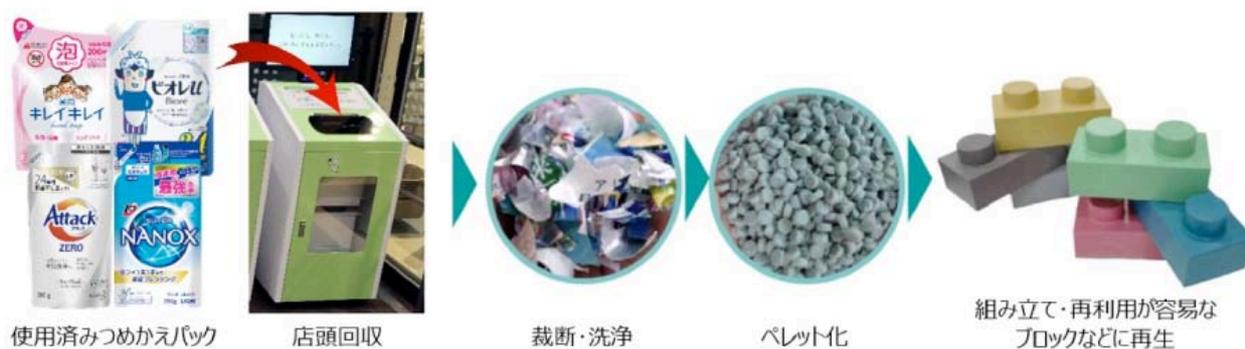
パートナーシップでプラスチック容器・包装資源の循環を推進

花王株式会社とライオンは資源循環型社会の実現を目指し、プラスチック製のつめかえ用フィルム容器（以下、フィルム容器）のリサイクルに企業の枠を超えて取り組んでいます。

リサイクルを加速させるためには、回収の基盤となる仕組みの構築とリサイクル技術の開発が不可欠です。同時に、商品使用後のプラスチック容器の分別など、消費者を含めたステークホルダーとともに社会の意識を変えていくことも必要です。

本活動においては、回収の仕組み・リサイクル材料・容器の品質設計・再生したリサイクル材料の活用方法・消費者への協力に向けた啓発活動を協働して進めています。具体的には、イトーヨーカドー曳舟店（東京都墨田区）・ウエルシア薬局（東京都区部・埼玉県の一部地域）に回収ボックスを設置し、使用済みつめかえパックを回収しています。なお、回収に参加いただく場合は回収ルールに則って協力をお願いいたします。

☑使用済みつめかえパック 洗い方動画



「リサイクルレーション活動」における使用済みつめかえパックが再生されるまでの仕組み

このリサイクルレーション活動は、関係各社とともに以下の表彰を頂いています。

- ＜ニュースリリース：花王とライオン、消費者志向経営優良事例表彰において新設の『選考委員長表彰』を受賞 [PDF](#)
- ＜ニュースリリース：ライオン、花王、イトーヨーカ堂、ウエルシア薬局、ハマキョウレックス第6回日本オープンイノベーション大賞の「環境大臣賞」を受賞 [PDF](#)

つめかえパックの水平リサイクル実証

2020年に当社は花王株式会社とプラスチック包装容器資源循環型社会の実現に向けた連携を発表し、協働で使用済みつめかえパックの回収を一部進めてきました。

2023年5月、回収した使用済みのつめかえパックを再生した材料を、一部に使用したつめかえパックを初めて衣料用液体高濃度洗剤「トップ スーパー NANOXニオイ専用 つめかえ用超特大」のつめかえパックとして製品化しました。(現在は販売していません)

このパッケージでは、工場廃棄物由来の再生材料を9%、生活者の皆さまからの回収品由来の再生材料1%を使用しています。

なお、本つめかえパックは関係各社とともに以下の表彰を頂いています。

🏆 2023日本パッケージングコンテスト 日本包装技術協会会長賞

🏆 第48回(2024年度)日本包装技術協会 木下賞・研究開発部門

🏆 2024ワールドパッケージングオーガニゼーション ワールドスター賞



「ハブラシ・リサイクルプログラム」とは

当社は、ハブラシ製造事業者として以下の使用済みハブラシの回収プログラムを運営しています。

- テラサイクルジャパン合同会社と進めている「ハブラシ・リサイクルプログラム」
- 自治体共同ハブラシリサイクル
- 回収と環境教育・オーラルヘルスケア教育を一体として進めるハブラシリサイクル

こうした活動を通じて、回収量の拡大を目指すとともに、使用済みハブラシが有用資源として利用可能であることの社会的な理解を獲得していきます。

➤ [ハブラシ・リサイクルプログラム](#)

他のステークホルダーの活動支援に係ること(BOOST)

当社グループは、自社だけでは達成できない資源循環型社会の実現に向け、さまざまな枠組みに参画し活動を進めています。

資源循環型社会の実現に向け参画している主な団体・活動・イニシアチブ

団体・組織名	略称等	主な活動目的
☑ クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス	CLOMA	海洋プラスチックごみの問題解決
☑ サーキュラーパートナーズ	CPS	サーキュラーエコノミーに向けた産官学の連携促進
☑ プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	プラ推進協	プラスチック容器包装のリサイクル推進と市民・自治体との連携
☑ 一般社団法人エコシステム社会機構	ESA	自治体と企業の連携による社会的価値の創出

「プラっとサーチ」で環境配慮設計事例を公開

当社は、プラスチック容器包装リサイクル協議会が運営する環境配慮パッケージ事例検索システム「プラっとサーチ」に、開発事例を掲載・公表しています。

[☑ 環境配慮パッケージ事例検索システム「プラっとサーチ」](#)

[☑ 「プラっとサーチ」2024年度の当社掲載事例](#)

廃棄物の削減

事業所でのゼロエミッション(国内)

当社国内の4工場はすべて、2002年にゼロエミッション*1を達成し、2017年には研究、オフィス含む国内全事業所*2でのゼロエミッションを達成しました。

*1 当社ゼロエミッションの定義：廃棄物総発生量の再資源化率を99%以上とする。ただし、再資源化の残さは含まない。

*2 千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場、平井事業所、札幌オフィス、仙台オフィス、本社、名古屋オフィス、大阪オフィス、福岡オフィス、ライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所、ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)四日市事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)小野事業所

> ESGデータ 環境

廃棄物量の推移(海外)

再資源化に向けた取り組みを海外のライオングループ企業でも進めています。

> ESGデータ 環境

産業廃棄物処理施設の維持管理の状況に関する情報

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(第十五条の二の三第二項)に基づく維持管理情報を公表しています。

[千葉工場の維持管理状況はこちら](#)

水使用量削減

- ▼ 事業活動による水使用量削減
- ▼ 消費者による製品使用時の水使用量削減

ライオングループは、持続可能な地球環境の実現を目指し、2019年に策定した長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」のもと、水使用量の削減に取り組んでいます。2019年より、サプライチェーン全体の水使用量の算出を開始し、原材料調達から、生産、輸送、消費者による使用、消費者による廃棄までの製品のライフサイクルにおける水使用量を把握しています。2024年のライフサイクルにおける水の総使用量は約21億m³でした。



* 対象範囲: ライオン及び国内外連結子会社
対象期間: 2024年1月～2024年12月

水使用量において、最も割合が高いのは消費者による使用段階で、ライフサイクルにおける割合は74.9%でした。これは、当社グループが、洗濯等、水で洗う製品を多く販売しているためです。当社グループは、節水型の様々な環境フレンドリー製品・サービスの提供と「エコの習慣化」促進により、消費者の方々とともに製品のライフサイクルにおける水使用量の削減にチャレンジしていきます。

事業活動での水使用量と排水量の推移(国内・海外)

当社グループは、事業活動での水使用量(取水量)と排水量を継続的に把握し、環境負荷低減と循環使用による水使用量の削減に努めています。工程洗浄水の削減施策に継続的に取り組み、千葉工場の製造工程排水リサイクル設備は2016年から稼働しています。

<水ストレス地域の特定と評価>

当社グループは、すべての事業拠点における水ストレス評価を、世界資源研究所(World Resources Institute)が開発・発表したAquaductを使用して確認しています。Aquaductで設定されている指標のうち、Baseline Water Stressが極めて高い(Extremely High)事業拠点を水ストレス地域と位置付けています。当社グループにおける水ストレス地域は4拠点で、総取水量に対する取水率は2%でした。

- > 事業活動での水使用量(取水量)の推移
- > 水源別水使用量(取水量)の推移
- > 事業活動での排水量の推移
- > 放流先別排水量

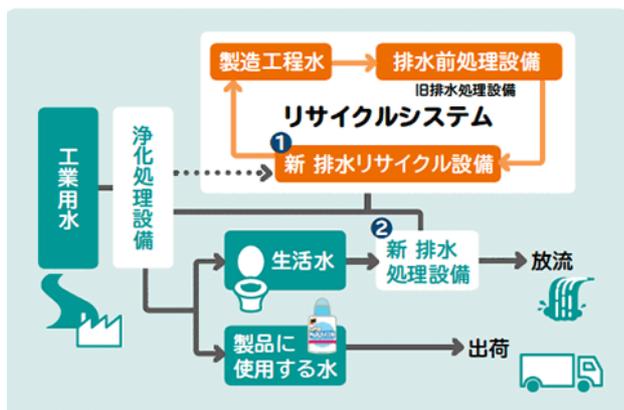
千葉工場の排水リサイクル設備

当社グループは、水と深く関わる製品を製造し、販売しています。工場においては製造工程の設備洗浄や加熱・冷却設備等に多くの水を使用しています。使用後の排水をリサイクルして使用できれば節水効果が大きいことから、当社工場の中で水使用量が最も多い千葉工場において「排水リサイクルシステム」を2016年に導入し、継続して利用しています。

最大の特徴は、「新排水リサイクル設備」(①)の導入です。これにより、今まで自然に戻っていた製造工程で発生する排水を放流せず、リサイクルするようになりました。

また、「新排水処理設備」(②)を導入し、生活排水や浄化処理設備の排水を、今まで以上に浄化することが可能となり、海の富栄養化の原因である窒素をさらに取り除くことができました。2024年は2010年に比べて年間約20万トン節水できています。この量は、2024年国内全事業所の水使用量の約24%に相当します。

千葉工場の排水リサイクルシステム



排水のリサイクルは国内の日用品工場では例がなく、2017年に、日本水環境学会「技術奨励賞」*1と日本化学工業協会「第11回レスポンスブル・ケア優秀賞」*2を受賞しました。

*1 水環境保全に関する国内最大の学会である(公社)日本水環境学会において、千葉工場の排水リサイクルシステムの開発が評価され、技術奨励賞を2017年6月に受賞しました。この賞は社会貢献の側面から、水環境に関する調査研究または水環境技術が独創的であり将来を期待される個人または団体に授与されます。

☑ (公社)日本水環境学会 技術奨励賞

*2 水環境保全と地域貢献に向けた取り組みに対して、千葉工場が2017年5月に第11回日本化学工業協会RC(レスポンスブル・ケア)優秀賞を受賞しました。

千葉工場は操業開始以来、水環境保全活動を継続実施しています。

> ライオンのレスポンスブル・ケア活動

消費者による製品使用時の水使用量削減

当社グループは、製品のライフサイクルを通じての水使用量削減に取り組んでいます。ライフサイクルのなかでも最も割合が高い、消費者が製品を使用する際の水使用量の削減のため、節水型の様々な環境フレンドリー製品の提供を進めています。例えば、2020年より当社の洗濯用液体洗剤はすべてすすぎ1回でご使用いただけます。また、2025年4月にはすすぎ0回で洗濯できる衣料用洗剤「アクロンやさしさプレミアム」を発売しました。

当社グループは長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」において、2030年目標として「ライフサイクルにおける水使用量の30%削減(対2017年、売上高原単位)」を定めています。2024年におけるライフサイクルの水使用量は、売上高原単位で2017年比22%削減となりました。

今後も製品使用時の水使用量削減に寄与する製品の普及・開発を進めるとともに「エコの習慣化」を促進し、家庭での環境負荷の低減に取り組んでいきます。

☑ アクロンやさしさプレミアム ブランドサイト

> 製品のライフサイクルにおける水使用量の割合

節水に役立つ製品

『NANOX one』

衣類用の洗剤です。泡切れがよく洗浄成分が残りにくいので、すすぎ1回でご使用いただけます。



『アクロン やさしさ プレミアム』

柔軟成分入りおしゃれ着洗剤です。独自技術の特殊ポリマーが洗浄成分の働きをサポート。少ない洗浄成分でも汚れやニオイをスッカリ落とし、すすぎ0回でご使用いただけます。

(皮膚科医監修の下、肌テスト済み)



『CHARMY Magica 速乾+ (プラス) カラーと除菌』

ナノ洗浄の台所用洗剤です。ベタつく油汚れも水のように「サラサラ落として」手早く片づけ、節水になります。



『おふろのルック』

浴室用の洗剤です。「すすぎクイック成分」を配合し、汚れをスッカリ落とし、泡ぎれも速いので、すすぎの水も時間も節約できます。



『ルックプラス おふろの防カビくん煙剤』

「銀イオン」の煙で浴室全体の黒カビ原因菌(カビ孢子)を除菌してカビ発生を防ぐ、おふろの防カビくん煙剤です。浴室のカビ発生を防ぐことで、カビ掃除後に洗い流す水を節約できます。



『ソフトインワン シャンプー』

1本で洗髪&コンディショナー効果も得られる「コンディショナーinシャンプー」。シャンプーとコンディショナーが一緒になっているので、シャンプー後のコンディショナーとそのすすぎがいりません。



『ルックプラスまめピカ トイレのふき取りクリーナー』

水なしでトイレ周りのお掃除ができます。



[> ライオンのエコ・パンフレット !\[\]\(7438636afba07c3231facf77bb302e10_img.jpg\) \(5.28MB\)](#)

[> ライオンのエコ製品\(環境配慮型製品\)](#)

海外における節水製品

Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd・獅王日用化工(青島)有限公司・獅王(香港)有限公司・獅王家品股份有限公司にて『NANOX one』や『CHARMY Magica』を販売し、節水に貢献しています。



Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd
『TOP NANOX one』



獅王日用化工(青島)有限公司
『NANOX one PRO』



獅王(香港)有限公司
『NANOX one PRO』



獅王(香港)有限公司
『奇即爽特濃洗潔精』



獅王家品股份有限公司
『NANOX one』



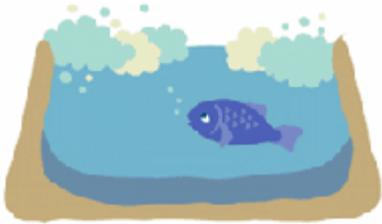
獅王家品股份有限公司
『獅王 CHARMY Magica 速乾洗潔精』

自然との共生（生物多様性）

考え方

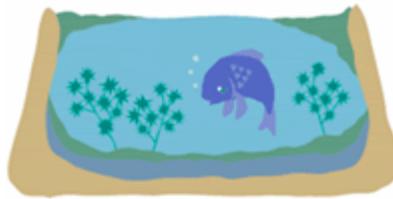
洗剤の使用と関係のある河川の発泡や富栄養化等の水環境問題に、古くから率先して対応してきたライオンは、原材料調達から消費者による廃棄までのすべての段階で生物多様性に配慮してきました。しかし、将来にわたり生物多様性の恵みを享受するためには、地域社会等と連携して生物多様性の保全に取り組み、その恵みを使い果たすことのないよう、持続可能な利用を進める必要があります。また、生物多様性に配慮した製品を通して生活者のライフスタイルの変化を促し、自然共生社会の実現に向けて貢献することが重要です。

そこで当社は、バリューチェーンに沿って、事業活動で利用している天然資源や事業の生物多様性への影響を把握し、リスクの低減と機会の拡大につながる生物多様性保全活動を行うことで、事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献します。また、環境教育の一環として、従業員一人ひとりが生物多様性保全活動に参画することで、生物多様性保全に対する意識を全事業所に浸透させることにも注力しています。



1960年代 河川の発泡問題

当時の合成洗剤は分解されにくかったため、河川等が泡で被われる状況となりました。当社は洗剤原料を分解されやすいものに転換しました。



1970年代 富栄養化問題

富栄養化による赤潮等が発生し、問題となりました。原因の1つであるリンは、当時の洗剤に配合されており、当社は洗剤の無リン化を他社に先駆けて推進しました。



1980年代以降 地球環境問題

地球規模での環境問題がクローズアップされ、資源や環境負荷に対する配慮が求められるようになりました。当社は洗剤の洗浄力を高性能化して使用量を低減したり、節水につながる製品開発をしたり、植物原料の活用を積極的に進めています。

生物多様性方針

当社グループは、「環境方針」の下に「生物多様性方針」を定めています。昆明・モンリオール生物多様性枠組の合意等、国際的な生物多様性保全に向けた動向を踏まえ、バリューチェーン全体での生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を把握・開示すること、生物多様性の損失を止め、回復させるために取り組むこと等を定めています。

取り組み



生物多様性保全活動



生物多様性保全活動

- ▼ 事業所での活動
- ▼ 界面活性剤の環境影響調査

ライオンは、事業を行うすべての事業所で生物多様性保全活動を行っています。特に工場においては、敷地が広く、取り扱う原材料が多く、周辺の自然環境や地域社会に影響を及ぼす可能性があると考えられるため、工場の操業にともなう影響を低減するとともに、工場が立地する周辺流域の生物多様性を保全し、その恵みを地域社会全体で持続的に享受できるように、地域のNPO法人、団体の皆様と一緒に生物多様性保全活動を積極的に行っています。



生物多様性保全への取り組み

事業所での活動

事業所では、生物多様性方針に基づき、各事業所で生物多様性保全活動に取り組んでいます。

各事業所での取り組み

事業所	活動	連携団体
千葉工場(千葉県市原市)	里山ビオトープ整備活動「レオトープ」	一般社団法人グループ2000(環境に学ぶ)
小田原工場(神奈川県小田原市)	酒匂川水系のメダカ里親制度参加、ホタルの育成	小田原市
大阪工場(大阪府堺市)	アカウミガメ保護活動参加	NPO法人日本ウミガメ協議会 みなべウミガメ研究班
明石工場(兵庫県明石市)	エノキビオトープ整備活動 (在来種国蝶オオムラサキ等の育成)	丹波の森公苑
ライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所(茨城県神栖市)	鹿島灘沿岸の松林の再生活動参加 (白砂青松プロジェクト)	神栖市農林課 美化運動推進連絡協議会
ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)四日市工場(三重県四日市市)	吉崎海岸の保全活動参加 (外来生物駆除、海岸清掃)	NPO法人 四日市ウミガメ保存会
ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)小野事業所(兵庫県小野市)	ため池の水生植物保全活動	地域の水草専門家
ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所(香川県坂出市)	トンボ池(ビオトープ)整備活動 (絶滅危惧Ⅱ類マイコアカネの繁殖)	王越とんぼランド:坂出市 公益社団法人トンボと自然を考える会: 四万十市

事業所	活動	連携団体
札幌オフィス(北海道札幌市)	豊平川サケ個体群の野生味向上の活動支援 (札幌ワイルドサーモンプロジェクト)	札幌市豊平川さけ科学館
仙台オフィス(宮城県仙台市)	井土メダカ里親制度参加	宮城教育大学 八木山動物公園
本社(東京都台東区)	生物多様性保全ワークショップ開催	台東区立環境ふれあい館
平井研究所(東京都江戸川区)	江戸川下流や東京湾の環境整備活動参加	認定NPO法人 えどがわエコセンター
名古屋オフィス(愛知県名古屋市)	名古屋城外堀のヒメボタル保護活動支援	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
大阪オフィス(大阪府大阪市)	のだふじ育成活動支援	大阪福島ライオンズクラブ のだふじの会
福岡オフィス(福岡県福岡市)	博多湾自然環境保護活動支援 (ラブアース活動、和白干潟を守る会)	和白干潟を守る会

＞ 全国の事業所での生物多様性活動

界面活性剤の環境影響調査

当社の商品のほとんどは、使用後に河川等に排出されるため、開発段階で環境中での安全性を評価・確認しています。さらに、[日本石鹼洗剤工業会](#)が1998年から実施している東京および大阪近郊の河川水域中の4種類の界面活性剤の濃度調査～生態系リスク評価(年4回実施)に参加し、環境に影響がないかどうかを調べています。これまでの調査では、水生生物に影響がないと考えられる濃度よりも低いので、洗剤による環境影響が少ないことがわかっています。

安全性の評価・確認は当社だけの課題ではありません。国内外における最新の技術情報を収集・活用するとともに、当社からも情報を発信し、安全性評価技術の向上に貢献しています。



河川水の試料採取地点

若手研究者への支援

水資源保護活動の一環として、当社では日本水環境学会において2009年から「ライオン賞」を創設し、研究活動を表彰することにより、若手研究者への支援を行っています。

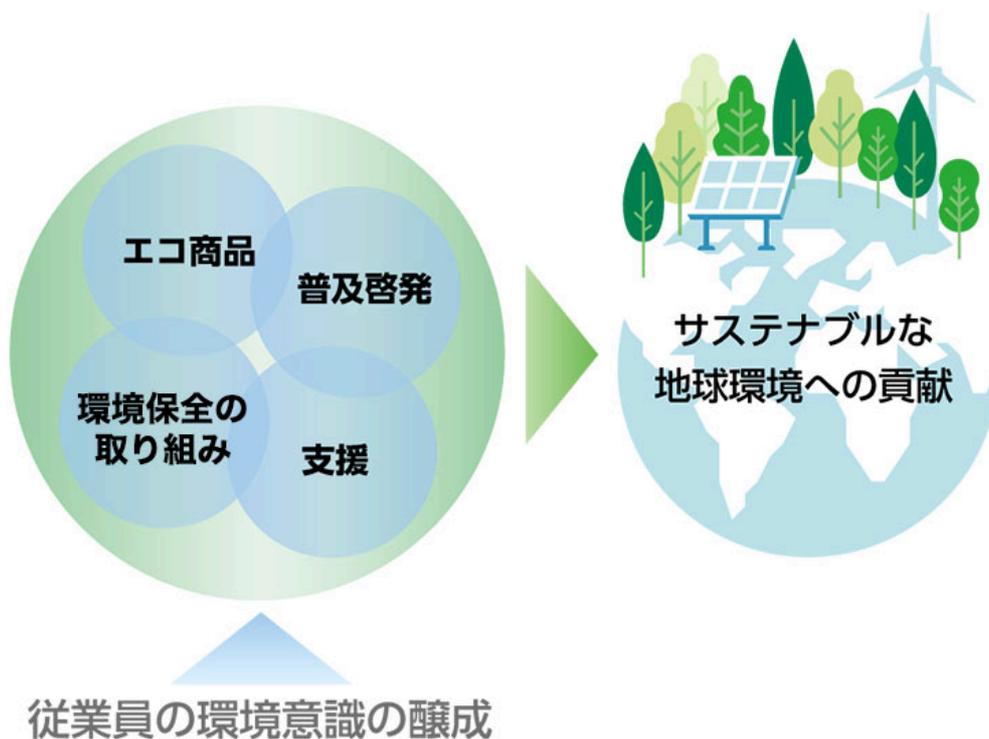
＞ 水環境保全に関する国内最大の学会への活動支援

環境コミュニケーションの推進

考え方

ライオンは、健康、快適、清潔・衛生を通じた顧客体験価値を提供するとともに、人々の健康や暮らしの基盤となる地球環境を守ることは、「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」を目指す当社として、重大な社会的責任であると考えています。様々な場面を通じて当社の環境対応への考え方や取り組み、製品を通じた環境への配慮を生活者にお伝えし、「エコの習慣化」の定着を推進します。また、新入社員をはじめとする従業員へ教育を実施し、従業員の環境意識の醸成にも努めています。

全体像



取り組み

当社にとって、生活者への環境コミュニケーションは重要な役割とらえています。2023年は環境イベントに出展して当社の取り組みをご紹介し、ステークホルダーの皆様との接点を持ちました。



イベント、地域・各種団体との交流



活動を通じた環境コミュニケーション



学術支援を通じた環境コミュニケーション



イベント、地域・各種団体との交流

イベント

当社グループの事業所が所在する地域の環境展等を通じて日々の暮らしの中でエコにつながる情報やライオン商品をお使いいただくことで「快適・清潔に暮らすことがエコにつながる」ことをご紹介します。2024年は「かみすフェスタ・消費生活展」（於：茨城県神栖市）と「エコメッセinちば」（於：幕張メッセ国際会議場）に出展しました。



かみすフェスタ2024・消費生活展



エコメッセ in ちば

また、ハブラシリサイクルについても使用済みハブラシの回収を行っている地域で開催されたイベントに出展し、活動内容をご紹介します。

地域・各種団体との交流

当社は化学産業界が化学物質の開発から廃棄までのすべてのライフサイクルにわたり、環境・安全面の継続的な改善を図る「日本化学工業協会レスポンシブル・ケア(RC)委員会」の活動に参加しています。



 日本化学工業協会

千葉・大阪工場でのレスポンスブル・ケア*活動

当社は日本化学工業協会^{RC}レスポンスブル・ケア委員会の会員企業として、地域対話を積極的に行っています。各工場はそれぞれの地域の特性に合った対話の場を設け、地域関係者とのコミュニケーションを図っています。



第14回レスポンスブル・ケア 堺・泉北地区地域対話集会の様子(2024年2月)

2024年2月に新型コロナウイルスの規制緩和を受け、「第14回レスポンスブル・ケア 堺・泉北地区地域対話」を、町内会、自治連合協議会、行政等の関係者にご参加いただき、4年ぶりに対面開催の形式で実施しました。当日は環境管理責任者より当社及び大阪工場の環境への取り組みを報告しました。また、アンケート等で皆様に頂戴したご意見については、今後の取り組みの継続改善に反映していきます。

また、2025年1月には「第15回レスポンスブル・ケア 千葉地区地域対話」を、町内会、自治連合協議会、行政等関係者に参加頂き6年ぶりとなる対面の形式で実施しました。当社の千葉工場は、企画段階から会議に参加し協力しました。集会の発表資料や加盟各社の活動内容を閲覧できる2次元バーコード等を記載した冊子を配布し、同封のアンケートで皆様のご意見を集めました。いただいたご意見は今後の活動に活かします。

さらに、水環境保全と地域貢献に向けた取り組みに対して、千葉工場が2017年5月に第11回日本化学工業協会RC(レスポンスブル・ケア)優秀賞を受賞しました。日本化学工業協会RC(レスポンスブル・ケア)は、化学物質を取り扱う事業者が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費、廃棄、リサイクルの全過程において「環境・安全・健康」を確保するとともに、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主的な管理活動です。千葉工場は操業開始以来、水リスクに備えた水環境保全活動を継続実施しています。工水の浄化による使用水の製造、工程排水リサイクル、法令基準より厳しい排水管理等を推進し、水使用量と排水量の削減、及び水質保全の成果に繋がっています。また、地域の子どもたちや見学者等に対し、水の大切さの啓発も行っている点が高く評価されました。



第11回日本化学工業協会 RC優秀賞 盾

各種団体への協力

当社は以下の団体に協力しています。



☑ 日本ウミガメ協議会



☑ 日本水環境学会



☑ オイスカ

当社は以下の団体に加盟しています。



推進協議会

☑ エコ・ファースト推進協議会

当社は以下の団体の活動に賛同し、加盟しています。



☑ 環境省 30 by 30 アライアンス



☑ 経団連生物多様性宣言イニシアチブ

活動を通じた環境コミュニケーション

ライオン山梨の森

水源である森林の整備体験を通して、社員の環境意識を醸成することを目的に2006年10月から山梨県の「企業の森推進事業」の第1号として、山梨市と協定を結んで市有林で活動しています。研修で森林整備活動を行うとともに、地域の方々との交流も行っています。



ハブラシリサイクル

2015年より使用済みハブラシを回収してリサイクルする活動を推進しています。



ライオン 美ら action

地元沖縄の豊かな生態系を育み、未来に向けて自然との共生を目指す「沖縄の未来を育む子供たちのエコ活動」を応援するプロジェクトです。



学術支援を通じた環境コミュニケーション

水環境研究を支援する「ライオン賞」(年会学生ポスター発表賞)

ライオンは、水環境に関わる若手研究員の研究意欲の啓発と支援をするため、「日本水環境学会」において優秀な研究活動を表彰する「年会学生ポスター発表賞(ライオン賞*)」を授与しています。

「第59回 日本水環境学会年会」において、「ライオン賞」最優秀賞1名、優秀賞20名が受賞されました。

* 対象者:学部生、工業高等専門学校生、短大生

選考方法:学会正会員、団体会員による投票を基に、運営選考委員会が理事会にて決定する。

ライオン賞についてはこちら(日本水環境学会)

	受賞者	所属	研究題目
最優秀賞	熊田 梨音	東京大学	限外ろ過膜モジュールを用いた水試料からの原虫およびウイルス同時濃縮方法の検討

	受賞者	所属	研究題目
優秀賞	池田 滯	北海道大学	光と下水中有機物を利用したエネルギー自立型バイオ光電気化学セルによる水素生成
	宇貴 真布	北海道大学	異なる <i>Sporomusa</i> 属細菌の生物電気化学的 二酸化炭素還元酢酸合成
	占部 杏珠	静岡県大学	牛ふん由来バイオ液肥の利用拡大に向けた高付加価値化技術の検討
	北島 魁十	大阪大学	高濃度 NH_4^+ 耐性嫌気性消化微生物群集の集積における嫌気性膜分離法の有効性
	郷 義基	北海道大学	有機リン系農薬シアノホスの塩素処理に伴うコリンエステラーゼ活性阻害性の変動と毒性寄与物質の同定
	佐藤 麻衣	山梨大学	山梨県内の下水中における薬剤耐性大腸菌の存在実態調査
	下道 勇波	東京農工大学	N_2O 還元細菌 <i>Azospira</i> sp. strain I13のポリリン酸蓄積に関する生理学的特性評価
	清水 敦翔	東京農工大学	非脱窒性 N_2O 還元細菌 <i>Afipia carboxidovorans</i> strain SH125の生理学的特性
	高山 知大	秋田県大学	原油添加微生物燃料電池で機能する鉄(II)還元細菌の発電性能
	竹内 広海	東京大学	雨天時簡易放流の塩素注入が大腸菌、大腸菌ファージ及び腸管系ウイルスに与える不活化効果
	友井 幹太	京都大学	塩素処理における含臭素ハロ酢酸の高濃度生成条件とその制御
	中川 直樹	北海道大学	感染価評価手法と viability PCRを併用したヒトパレコウイルスの塩素処理性の評価
	長瀬 和真	東北大学	温度が無酸素環境下での N_2O 除去プロセスに与える影響の評価
	野口 素	兵庫県大学	アニリン分解微生物群集における機能的相互作用の網羅解析
	福井 光貴	愛媛大学	沿岸海域をフィールドとした生分解性・汎用プラスチックに対するポリ塩化ビフェニル異性体の吸着特性と吸着量の時系列変化
	三国 向日葵	静岡県大学	駿河湾と大阪湾における海水および海洋プラスチックごみを対象とした多環芳香族炭化水素類とプラスチック添加剤の汚染実態調査
	村松 歩佳	山梨大学	下水中の病原ウイルス・細菌および薬剤耐性遺伝子へのPegcision®法の適用
	森本 実咲	東洋大学	アナモックスプロセスにおける N_2O 発生源の推定
	矢野 涼介	岐阜大学	塩素消毒前後のNOMプロファイルの変化の把握を指向したEEMとLC-QTOF/MSデータの相互解析
	山下 颯斗	北海道大学	GC/olfactometryを用いた一級アミン類の塩素処理生成物の浄水カルキ臭への寄与率推定

化学物質管理

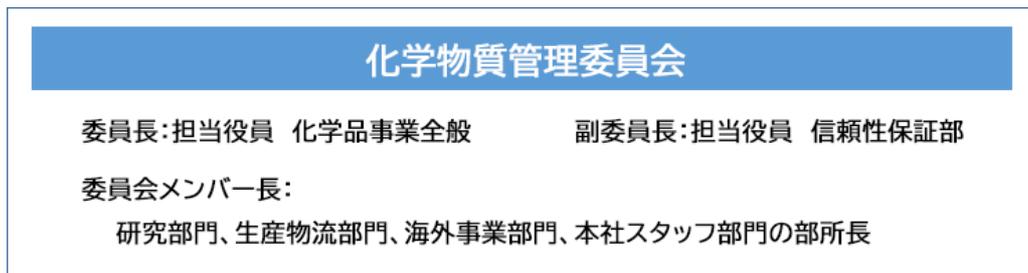
- ▼ 考え方
- ▼ 化学物質管理方針
- ▼ 全体像
- ▼ 化学物質管理の各段階における取組み
- ▼ 懸念化学物質の削減・廃止への取組み

考え方

化学物質は、生活を便利で快適にする上で欠かせないものですが、適切な管理を怠ったり事故が起きた場合、人々の健康や生態系に大きな影響を与えるおそれがあります。ライオングループでは、関連法規の遵守はもちろん、独自の基準に基づき、製品の開発から使用・廃棄までの各段階で、化学物質の安全管理を推進しています。

化学物質管理方針

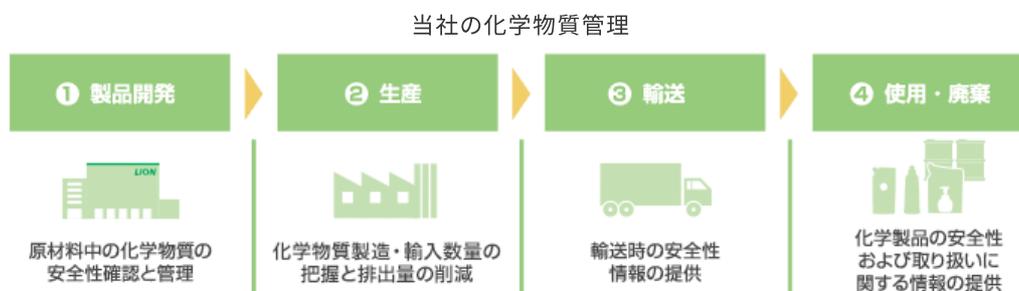
当社グループは、「ライオン企業行動憲章」の精神に基づき「化学物質管理方針」を定めています。国際的化学品管理の趨勢を踏まえた方針として、Global Framework on Chemicals*¹ (GFC) 及び Strategic Approach to International Chemicals Management*² (SAICM) の考え方に沿い、化学物質のライフサイクル全体にわたる健全な管理と、環境と人間の健康への著しい悪影響を最小限に抑え、コミュニケーションの推進に努めることを定めています。また、化学品事業全般担当役員を委員長、信頼性保証部担当役員を副委員長とし、研究部門、生産物流部門、海外事業部門、本社スタッフ部門等から構成される化学物質管理委員会を2023年に設置し、当社グループの化学物質管理方針に沿った活動を推進しています。



*1 化学物質に関するグローバル枠組み (SAICM後継として2023年採択)

*2 国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ (2006年～2020年)

全体像



化学物質管理の各段階における取り組み

①製品開発

製品に使用する化学物質の選定

製品に使用する化学物質の種類と量は、製品開発の段階で選定を行い、性能の追求だけではなく安全性と環境への影響にも配慮しています。

> [原料および材料の安全性](#)

②化学物質の登録申請・届出

日本：化審法*1への対応

当社は化審法に基づき、すべての一般化学物質、優先評価化学物質について用途分類と共に製造・輸入量を届出しています(ただし、製造・輸入量が年間1トン以上等の規定あり)。化学品部門では、必要に応じて、少量新規化学物質や低生産量新規化学物質についても用途分類と共に製造・輸入量を申出しています。今後も製造・輸入量、用途情報等を把握し、適正な届出を継続します。

*1 化審法「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称

EU：REACH*2への対応

化学品部門においてEUの化学物質管理制度であるREACHに必要な物質を登録しています。

*2 REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) : EUにおける化学物質の登録・評価・認可および制限に関する規制

韓国：化評法*3への対応

化学品部門、韓国ライオンにおいて予備的登録手続きである「事前申告」および本登録を実施しています。

*3 化評法：化学物質の登録および評価に関する法律

③生産

今後ますます化学物質の管理改善・強化が要求される中、化管法*1、揮発性有機化合物(VOC)規制や水質汚濁防止法に対して適正な届出と排出量の管理を継続して強化することを目標としています。

PRTR制度対象物質総排出量の管理

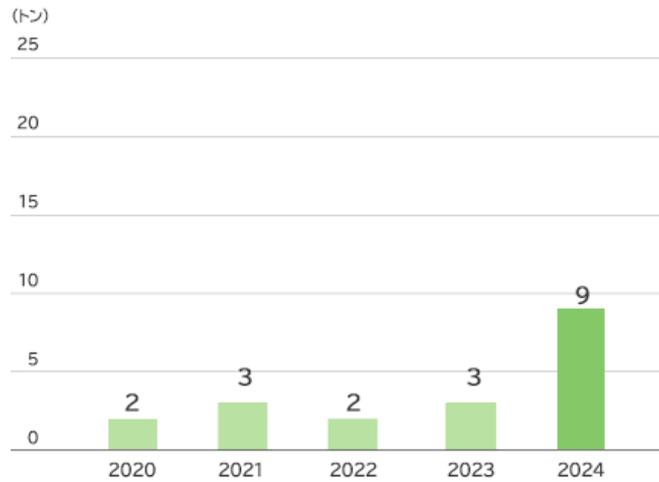
PRTR(Pollutant Release and Transfer Register:化学物質排出移動量届出制度)とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

当社のPRTR制度対象物質総排出量は2020年以降、2~9tで推移しています。

> [「2024年度PRTR対象物質の排出量\(国内グループ\)」](#)  (PDF:360KB)

> [PRTR制度対象物質総排出量の推移\(国内\)](#)

PRTR制度対象物質総排出量の推移(国内)



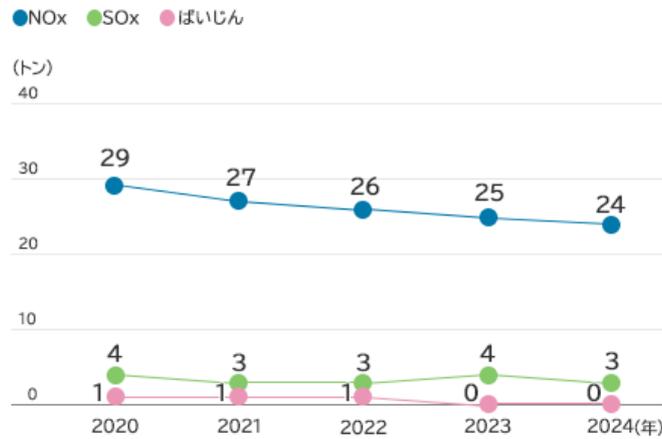
*1 化管法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称

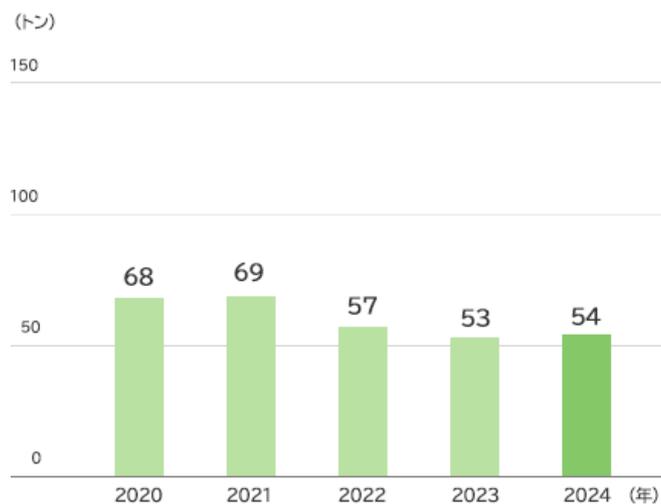
大気に配慮した生産活動

当社は窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、ばいじん、揮発性有機化合物(VOC)等、大気汚染につながる化学物質の排出削減に取り組んでいます。大気汚染防止法により、物質の種類ごと、排出施設の種類・規模ごとに排出基準が決められ、さらに地方自治体の条例による規制があります。当社は法令や条例を遵守するだけでなく、より厳しい市町村との個別協定の締結や自主基準の設定を各事業所で行い、汚染の予防に努めています。さらに生産工程の効率化、脱窒・脱硫等の環境対応設備の稼働等を実施し、排出量の削減に取り組んでいます。

窒素酸化物(NOx)・硫黄酸化物(SOx)・ばいじん排出量の推移



VOC総排出量の推移



水質に配慮した生産活動

COD*²は、水質汚濁に係る環境基準の中で一律排水基準として許容限度(160mg/L(日間平均 120mg/L))が設定され、水質汚濁防止法や下水道法に規制がありますが、当社はこれらを遵守しています。さらに、各地方自治体と当社事業所間で一律排水基準を上回る基準での協定を締結している場合もあり、より厳しい水準で排水の質の管理を目標としています。排水処理設備の安定化と定期的な保全や処理方法の改善により、CODの低減にも努めています。

> 事業活動でのCODの推移

*² COD (Chemical Oxygen Demand: 化学的酸素要求量): 水の汚れを表す指標のひとつで、水中の有機物を酸化して分解するために消費される酸素量。

SDS*³の活用

当社が販売している化学製品に関しては、SDSを作成して、お取引先に配布しています。また、当社が使用している全原料について、原料供給メーカーからSDSを入手・整備するとともに、データベース化して活用を図っています。

*³ SDS

Safety Data Sheetの略。化学物質による事故を未然に防ぐ目的で、化学製品の環境に対する影響や安全性、取り扱い方法等を記載したもの。

④ 輸送

輸送時の安全性情報の提供

原料や中間製品等を輸送する場合は、万一の事故に備えて、運送者や輸送品に対し「イエローカード*」や「容器イエローカード*」を配布・添付して、緊急処置方法等の情報を提供しています。

* イエローカード、容器イエローカード

輸送中に化学物質の漏洩等が発生した場合に備え、その物質の性質や緊急処置方法等を記載した、黄色の緊急連絡カード。前者は運送者が常時携帯するもの、後者は化学物質を入れた容器につけるもの。多くの化学工業会社で決めた自主基準をもとに作成している。

⑤ 使用・廃棄

環境への影響調査

洗剤等に含まれる界面活性剤は使用された後、環境中に排出されます。当社は、日本石鹼洗剤工業会が実施している東京および大阪近郊の河川水域中の4種類の界面活性剤の濃度調査～生態系リスク評価(年4回実施)に参加し、生態系への影響が小さいことを確認しています。

> 界面活性剤の環境影響調査

⑥ 上市後

製品含有化学物質管理

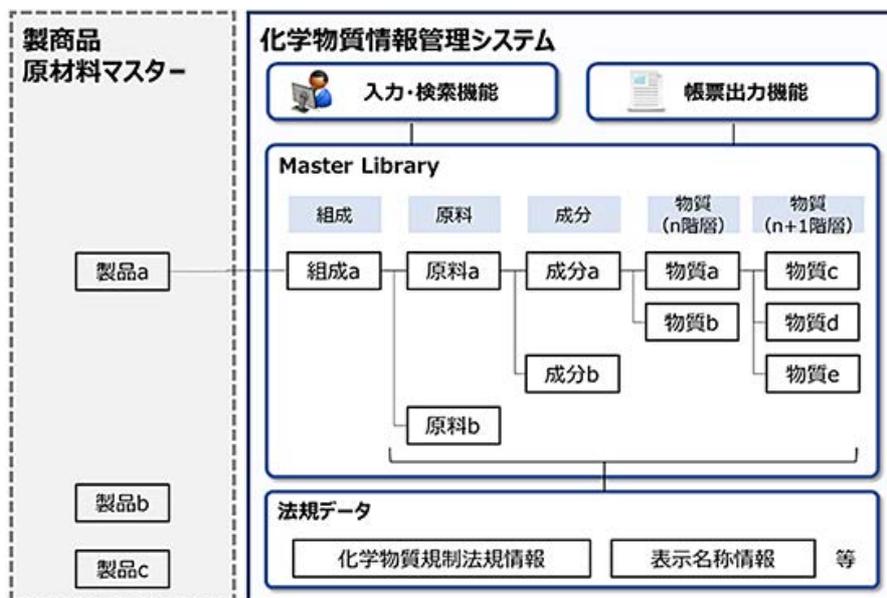
当社は化学物質の適正使用を強化するために、「化学物質情報管理システム」を国内関係会社も含めた研究開発部門と購買部門に2018年1月より順次導入し、原料及び製品含有化学物質の管理に取り組んでいます。

本システムは、「原料、製品組成に関するデータ」「法令情報データ」のデータベースと「製品組成開発支援機能」で構成されています。導入により、全事業分野での自社製品開発において、使用する化学物質に関する法令遵守体制を強化するとともに、蓄積される組成データから上市後の製品に含まれる化学物質を即時検索することが可能となりました。これにより情報管理レベル向上とトレーサビリティの確保、コンプライアンス対応力の強化を実現していきます。

併せて、化学品部門においては、アーティクルマネジメント協議会(JAMP)の会員として製品中の含有化学物質についてJAMP共通書式の「chemSHERPA*¹」による顧客への情報提供をしています。また、REACH SVHC*²に関する情報提供にも取り組んでおります。

*1 cnemSHKPA. サノファイナエーンにおける製品含有化学物質の情報伝達のスキーム

*2 SVHC:SVHCとは、高懸念物質(substances of very high concern)のことで、REACH規則の附属書XIVに記載される認可対象物質の候補になる物質です。「認可対象」とはREACH規則の「登録、評価、認可、制限」の「認可」の部分に当たります。



「化学物質情報管理システム」のイメージ

懸念化学物質の削減・廃止への取り組み

ノニルフェノールエトキシレート(NPE)への対応

NPEは2021年にEU REACH*1によりEU域内での使用が制限されました。さらに、日本では2025年4月より化審法*2の第二種特定化学物質に指定されました。当社では既にNPEの使用を廃止し、より環境負荷の低い物質への代替を完了しています。

ペルフルオロオクタン酸(PFOA)への対応

2019年にPFOAはPOPs条約*3により廃絶等の対象とすることが決められました。さらに、日本では2021年に化審法における第一種特定化学物質に指定され、製造・輸入等が原則禁止されました。これを受けて、化学物質情報管理システムによる調査や、原料メーカーへの調査を実施したところ、化学品部門の原料中に不純物としてPFOAが含まれているものがありましたが、化審法施行前にPFOAを含まない原料への代替を完了しています。

*1 REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) : EUにおける化学物質の登録・評価・認可および制限に関する規制

*2 化審法: 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称

*3 POPs条約: 残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約

化学品事業の環境配慮技術

持続可能な資源の利用に貢献する製品

「再生可能な資源の有効活用」の視点から、天然パーム油・ヤシ油といった植物油を原料とした油脂関連製品

省エネルギーに貢献する製品

自動車の金属部品の代替材料として軽量化・燃費向上に貢献する導電性プラスチック

自然環境の保全に貢献する製品

排気ガスを排出しない電気自動車の普及に向けて電池用途に利用される導電性カーボンブラック

植物原料を使用したエステル型第四級アンモニウム構造を持つ生分解性に優れた衣料用柔軟剤等の基剤

環境にやさしい製品

 ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)

ライオンのエコ製品（環境配慮型製品）

- ▼ ライオンのエコ製品（環境配慮型製品）とは
- ▼ 暮らしの中のエコ製品
- ▼ ライオンのこだわり

ライオンのエコ製品（環境配慮型製品）とは

ライオンのエコ製品とは、当社独自の「ライオン エコ基準」をクリアした環境配慮型製品です。ライオンは、生活者の皆様が心地よく暮らすことがいつの間にかエコにつながる製品を提供するとともに、生活者の皆さまと双方向のコミュニケーションを行い、「エコの習慣化」を推進してまいります。



ライオンエコ基準とは



暮らしの中のエコ製品



当社では、さまざまな生活シーンにおいてエコ習慣につながる製品を取り揃えております。

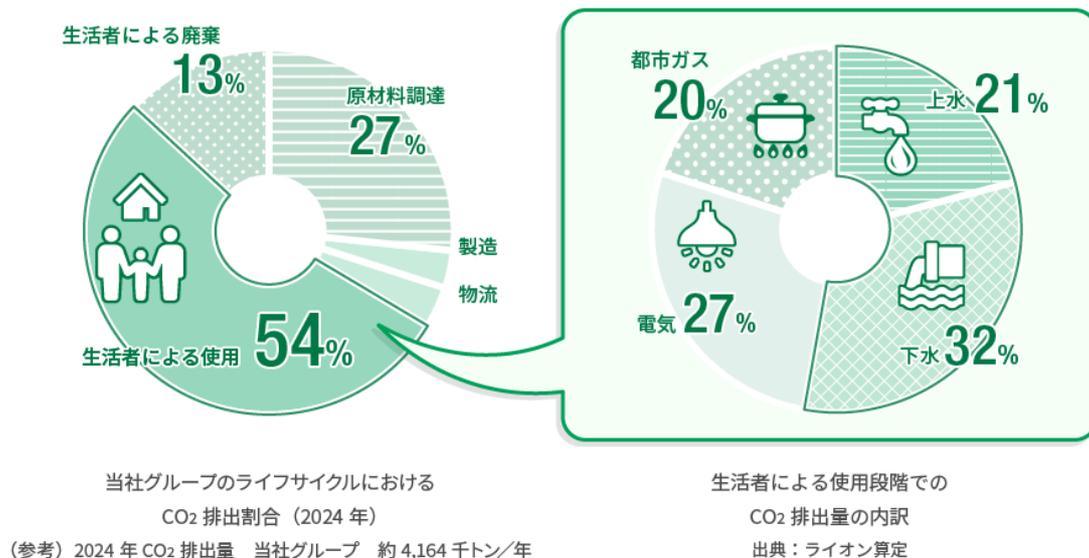
> 「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示商品一覧

> ライオンのエコ・パンフレット  (PDF:5.28MB)

ライオンのこだわり

節水型製品

水の使用とCO₂排出の関係



当社グループ事業による、製品のライフサイクルにおけるCO₂排出割合において、「生活者による使用」の場面でのCO₂排出量の割合が最も高くなっています。(左グラフ)

そのCO₂排出量の内訳では、「上下水の利用」が半分以上を占めるため(右グラフ)、節水をすることはCO₂排出をおさえ、地球温暖化防止につながるエコな行動であるといえます。

節水に繋がるすすぎ1回洗濯は、自分にも環境にも良いこと

すすぎ
1回 

洗濯機のすすぎ回数の設定を変える

 ゆとり時間の 増加	 光熱費の 減少	 水使用量の 削減	 CO ₂ 排出量の 削減
--	--	--	--

すすぎ1回洗濯による節水効果

毎日の積み重ね

あなた
1人でやると
(1年間あたり)

すすぎ2回洗濯
38,130L

すすぎ1回洗濯
26,970L

削減量
11,160L※1

たとえるならば...

お風呂で浴槽にためる量の**約2か月分**※2になります!



※1 2人以上世帯の平均洗濯回数(約310回/年)及び主要4社縦型洗濯機における衣類3Kg・標準コースで洗濯した場合の平均水量(すすぎ2回約123L/回、すすぎ1回約87L/回)より算出。(ライオン調べ)

※2 浴槽での使用水量を200ℓとし毎日溜めた場合として算出。

取り組む人の増加

日本
全世帯がやると
(1年間あたり)

すすぎ2回洗濯
18.0億m³

すすぎ1回洗濯
12.7億m³

削減量
5.3億m³※3

たとえるならば...

黒部ダム**約2.6個分**※4になります!



※3 全世帯の総洗濯回数(約1468万回/年)及び主要4社縦型洗濯機における衣類3Kg・標準コースで洗濯した場合の平均水量(すすぎ2回約123L/回、すすぎ1回約87L/回)より算出。(ライオン調べ)

※4 黒部ダムの総貯水容量(約2億m³)から算出。

NANOX oneなら節水+衣類長持ち!



すすぎ1回でお洗濯

節水・節電のお洗濯で、
地球にも家計にもやさしいエコ習慣を。



洗浄力

新たに「高性能界面活性剤」と「高性能な酵素」を配合し、頑固な汚れにも高い洗浄力を実現!

消臭力

部屋干し臭を防ぐ!
嫌なニオイの発生を抑える“新消臭成分※”を採用
※ニオイ専用・PROに搭載

色変化防止力

衣類同士の摩擦を防止し、色あせを抑制!さらに、洗濯槽内での再汚染(汚れ戻り)を防止

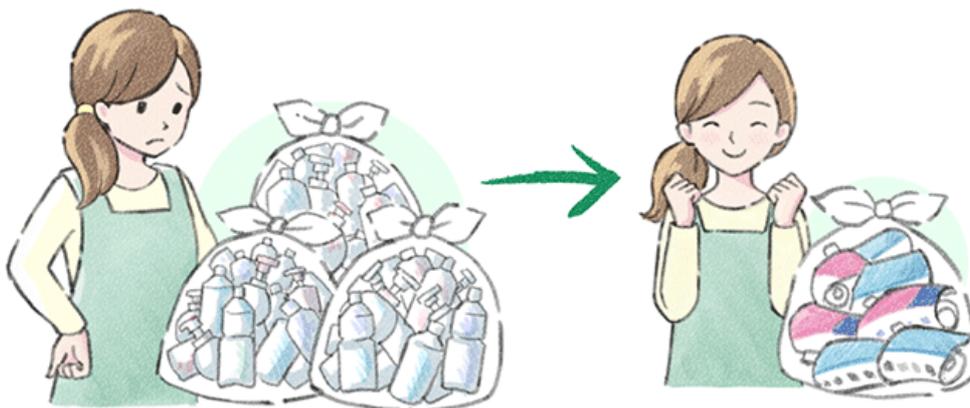


つめかえ製品

つめかえ製品のメリット

つめかえ製品を使うことで、家庭内のプラスチックごみを減らすことができます。

プラスチックごみの量を減らすことは、廃棄の際に生じるCO₂の排出量削減など、環境貢献につながります。



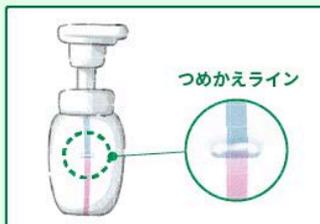
キレイキレイ薬用泡ハンドソープの工夫

キレイキレイ薬用泡ハンドソープの本体ボトルは、つめかえやすいように下記のような工夫をしています。



1 つめかえるときに、こぼれにくい

つめかえパウチよりも、ボトルの口の方が大きく、つめかえやすい



2 つめかえた量がわかりやすい

●ボトルの一部が透明⇒どこまで入れたか、分かりやすい

●つめかえライン付き⇒入れすぎることなく、つめかえられる



3 清潔につめかえられるポンプ

ボトルのポンプは、逆さに置いても安定し液ダレしづらい

つめかえ製品の 카테고리 拡大

ライオンは、これまでつめかえ製品のなかった※1オーラルケア製品にも、つめかえ製品を拡大しています。つめかえ製品は本体ボトルと比較して重さも軽くプラスチック使用量を大幅に削減できます。



※1 当社内

※2 本体600mlボトルとの比較。重量比。

ライオンではリサイクルしやすいつめかえ製品の開発やリサイクルの研究開発にも積極的に取り組んでいます。

➤ ニュースリリース:プラスチックリサイクル促進に向けて ライオン、リサイクル性を向上させたつめかえパックを初の製品化

☑ Lidea:プラスチックごみの削減やリサイクルなど、問題解決のためにできることは?

ライオンエコ基準とは

- ▼ ライオンエコ基準とは
- ▼ ライオンの環境ラベル「暮らし、まいにち、エコ。マーク」

ライオンエコ基準とは

製品の原材料調達から廃棄までの各段階における環境負荷を定量的に評価する、ライフサイクルアセスメント(LCA)の視点に基づく「ライオンエコ基準」を設定しています。各項目の評価基準をひとつ以上クリアしたものを「エコ製品」と規定しています。2024年は、ライオンの家庭品^{*1}の売上のうち、79%が「ライオンエコ基準」をクリアしたエコ製品でした。

エコ製品売上比率の推移(国内)

2017年 ^{*2}	2021年	2022年	2023年	2024年
76%	82%	81%	82%	79%

*1 オーラルケア、ビューティケア、ファブリックケア、リビングケア分野

*2 2017年:「Eco Challenge 2050」の目標基準年

ライオンエコ基準の評価項目と評価基準

ライフサイクル ステージ	評価項目	評価基準
①原料調達	植物原料の使用 持続可能な原料の使用	<ul style="list-style-type: none">内容物(有機成分)中の植物原料比率が50%以上植物由来原料のなかで生物多様性に配慮した原料を50%以上使用
②材料調達	リサイクル材料の使用 植物由来材料の使用	<ul style="list-style-type: none">再生材料の使用率が10%以上板紙の場合は、古紙または間伐材、認証林パルプの使用率が94%以上植物由来樹脂の使用率が20%以上
③製造	省エネ 水使用量の削減 化学物質使用量の削減 廃棄物量の削減	<ul style="list-style-type: none">製造段階の温室効果ガスを基準製品*より20%以上削減製造段階の水使用量を基準製品*より20%以上削減製造段階の原料以外の化学物質使用量を基準製品*より20%以上削減製造段階の廃棄物量を基準製品*より20%以上削減
④物流	濃縮化、コンパクト化	<ul style="list-style-type: none">基準製品*より20%以上内容物を濃縮化あるいは容器をコンパクト化
⑤使用	使用時の省エネ 使用後の温室効果ガス排出量削減 水使用量の削減(節水)	<ul style="list-style-type: none">製品使用に伴うエネルギーを基準製品*より20%以上削減使用後に排出される温室効果ガスを基準製品*より20%以上削減使用時の水使用量を基準製品*より20%以上削減
⑥廃棄	包材削減 詰め替え	<ul style="list-style-type: none">本体容器包材量を基準製品*より15%以上削減詰め替え容器包材量を本体包材量の50%以上削減

* 基準製品:「Eco Challenge 2050」の目標基準年である、2017年発売の製品とする

ライオンの環境ラベル「暮らし、まいにち、エコ。マーク」



「暮らし、まいにち、エコ。」マークは、企業スローガン「今日を愛する。」の考え方に則った環境メッセージ「ライオンの環境への想い」を端的に表した環境スローガン「暮らし、まいにち、エコ。」と環境マークを合わせて表現した、当社の環境活動のシンボルです。お客様が環境に配慮した製品を選べるよう、当社独自の「ライオン エコ基準」をクリアした製品に、環境ラベルとしてエコな理由とともに表示しています。

> 「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧



<つめかえ製品への表示例>

その他「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品の例



『NANOX one PRO』本体



『CHARMY Magica』本体

「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧

「暮らし、まいにち、エコ。」マークとは



暮らし、まいにち、エコ。」マークは、企業スローガン「今日を愛する。」の考え方に則った環境メッセージ「ライオンの環境への想い」を端的に表した環境スローガン「暮らし、まいにち、エコ。」と環境マークを合わせて表現した、当社の環境活動のシンボルです。お客様が環境に配慮した商品を選ぶよう、当社独自の「[ライオンエコ基準](#)」をクリアした商品に、環境ラベルとしてエコな理由とともに表示しています。

- ▼ 歯とお口のケア
- ▼ カラダのケア
- ▼ 衣類のケア
- ▼ 住まいのケア
- ▼ キッチンと調理

マーク表示製品一覧

歯とお口のケア

NONIOマウスウォッシュ

- NONIOマウスウォッシュ つめかえ用950ml

NONIOプラスホワイトニング デンタルリンス

- NONIOプラスホワイトニング デンタルリンス つめかえ用 950ml

カラダのケア

MEGAMIS シャンプー

- MEGAMIS シャンプー つめかえ用360ml

MEGAMIS ヘアセラム

- MEGAMIS ヘアセラム つめかえ用155ml

MEGAMIS トリートメント

- MEGAMIS トリートメント つめかえ用360ml

ソフトインワンシャンプー サラサラタイプ

- ソフトインワンシャンプーサラサラタイプ つめかえ用380ml
- ソフトインワンシャンプーサラサラタイプ つめかえ用特大1,180ml

ソフトインワンシャンプー スッキリデオドラントタイプ

- ソフトインワンシャンプースッキリデオドラントタイプ つめかえ用370ml
- ソフトインワンシャンプースッキリデオドラントタイプ つめかえ用1,150ml

キレイキレイ薬用泡ハンドソープ

- キレイキレイ薬用泡ハンドソープ つめかえ用200ml（シトラスフルーティの香り）
- キレイキレイ薬用泡ハンドソープ つめかえ用大型サイズ450ml
- キレイキレイ薬用泡ハンドソープ つめかえ用特大サイズ800ml

キレイキレイ薬用液体ハンドソープ

- キレイキレイ薬用液体ハンドソープ つめかえ用200ml / つめかえ用大型サイズ450ml
- キレイキレイ薬用液体ハンドソープ つめかえ用特大サイズ800ml

キレイキレイ薬用ハンドコンディショニングソープ

- キレイキレイ薬用ハンドコンディショニングソープ つめかえ用400ml
- キレイキレイ薬用ハンドコンディショニングソープ つめかえ用大型サイズ700ml

キレイキレイ薬用キッチン泡ハンドソープ

- キレイキレイ薬用キッチン泡ハンドソープ つめかえ用180ml

キレイキレイ薬用手指の消毒ジェルプラス

- キレイキレイ薬用手指の消毒ジェルプラス つめかえ用200mL

hadakara(ハダカラ) 泡で出てくるボディソープ

- hadakara(ハダカラ)
泡で出てくるボディソープ つめかえ用440ml
- hadakara(ハダカラ)
泡で出てくるボディソープ つめかえ用大型サイズ750ml

hadakara(ハダカラ) 泡で出てくるサラサラfeelボディソープ

- hadakara(ハダカラ)
泡で出てくるサラサラfeelボディソープ つめかえ用420ml

hadakara(ハダカラ) 泡で出てくるオイルインボディソープ

- hadakara(ハダカラ)
泡で出てくるオイルインボディソープ つめかえ用420ml

hadakara(ハダカラ) 泡で出てくる薬用デオドラントボディソープ

- hadakara(ハダカラ)
泡で出てくる薬用デオドラントボディソープ つめかえ用440ml

hadakara(ハダカラ) 泡で出てくる薬用ピュアマイルドボディソープ

- hadakara(ハダカラ)
泡で出てくる薬用ピュアマイルドボディソープ つめかえ用440ml

hadakara(ハダカラ) ボディソープ

- hadakara(ハダカラ) ボディソープ つめかえ用360ml
- hadakara(ハダカラ) ボディソープ つめかえ用大型サイズ800ml

hadakara(ハダカラ) サラサラfeelボディソープ

- hadakara(ハダカラ) サラサラfeelボディソープ つめかえ用340ml
- hadakara(ハダカラ) サラサラfeelボディソープ つめかえ用大型サイズ750ml

hadakara(ハダカラ) オイルインボディソープ

- hadakara(ハダカラ) オイルインボディソープ つめかえ用340ml
- hadakara(ハダカラ) オイルインボディソープ つめかえ用大型サイズ750ml

衣類のケア

■ 部屋干しトップ 除菌EX

- 部屋干しトップ 除菌EX つめかえ用810g

■ NANOX one 洗淨プラス

- NANOX one 洗淨プラス 本体大600g
- NANOX one 洗淨プラス つめかえ用特大 765g
- NANOX one 洗淨プラス つめかえ用超特大 1080g
- NANOX one 洗淨プラス つめかえ用ウルトラジャンボ 1,530g

■ NANOX one 部屋干し

- NANOX one 部屋干し 本体大640g
- NANOX one 部屋干し つめかえ用超特大1,160g

■ NANOX one ニオイ専用

- NANOX one ニオイ専用 本体大600g
- NANOX one ニオイ専用 つめかえ用特大765g
- NANOX one ニオイ専用 つめかえ用超特大1,080g
- NANOX one ニオイ専用 つめかえ用ウルトラジャンボ1,530g

■ NANOX one PRO

- NANOX one PRO 本体大600g / ワンパック10g×6袋
- NANOX one PRO つめかえ用特大740g
- NANOX one PRO つめかえ用超特大1,010g
- NANOX one PRO つめかえ用ウルトラジャンボ1,400g

■ NANOX 自動投入洗濯機専用

- NANOX 自動投入洗濯機専用

| トップ クリアリキッド抗菌

- トップクリアリキッド抗菌 本体900g
- トップクリアリキッド抗菌 つめかえ用500g
- トップクリアリキッド抗菌 つめかえ用超特大900g

| トップ クリアリキッド

- トップクリアリキッド 本体900g
- トップクリアリキッド つめかえ用500g
- トップクリアリキッド つめかえ用超特大900g

| 香りつづくトップ 抗菌plus Shiny Rose

- 香りつづくトップ 抗菌plus Shiny Rose 本体850g
- 香りつづくトップ 抗菌plus Shiny Rose つめかえ用500g

| 香りつづくトップ Sweet Harmony

- 香りつづくトップ Sweet Harmony 本体850g
- 香りつづくトップ Sweet Harmony つめかえ用500g

| アクロン

- アクロン つめかえ用380ml
- アクロン つめかえ用大850ml

| アクロンやさしさプレミアム

- アクロンやさしさプレミアム つめかえ用650ml

| NANOX エリそで用

- NANOX エリそで用 つめかえ用230g
- NANOX エリそで用 つめかえ用大650g

| NANOX ドロ用

- NANOX ドロ用 つめかえ用200g

| ライトSTRONG 漂白&抗菌ジェル

- ブライトSTRONG 漂白&抗菌ジェル つめかえ用650ml
- ブライトSTRONG 漂白&抗菌ジェル つめかえ用900ml

| ソフラン プレミアム消臭

- ソフラン プレミアム消臭 つめかえ用380ml
- ソフラン プレミアム消臭 つめかえ用特大950ml
- ソフラン プレミアム消臭 つめかえ用ウルトラジャンボ1,520ml

| ソフラン プレミアム消臭 ウルトラゼロ

- ソフラン プレミアム消臭 ウルトラゼロ つめかえ用400ml
- ソフラン プレミアム消臭 ウルトラゼロ つめかえ用特大1,200ml

| ソフラン アロマリッチ

- ソフラン アロマリッチ つめかえ用380ml (Juliette / Catherine / Diana / Ellie)
- ソフラン アロマリッチ つめかえ用特大950ml (Juliette / Catherine / Diana / Claire / Ellie)
- ソフラン アロマリッチ つめかえ用ウルトラジャンボ1,520ml (Juliette / Catherine / Diana / Claire / Ellie)

| ふんわりソフラン

- ふんわりソフラン つめかえ用500ml

| お洋服のスタイルガードしわもニオイもすっきりスプレー

- お洋服のスタイルガード しわもニオイもすっきりスプレー つめかえ用250ml

| NANOX衣類・布製品の除菌・消臭スプレー

- NANOX 衣類・布製品の除菌・消臭スプレー つめかえ用320ml

住まいのケア

ルックプラス バスタブクレンジング

- ルックプラス バスタブクレンジング つめかえ用450ml
- ルックプラス バスタブクレンジング つめかえ用800ml

ルックプラス バスタブクレンジング銀イオンプラス

- ルックプラス バスタブクレンジング銀イオンプラス つめかえ用450ml
- ルックプラス バスタブクレンジング銀イオンプラス つめかえ用大サイズ800ml
- ルックプラス バスタブクレンジング銀イオンプラス つめかえ用特大サイズ1,150ml

おふろの ルック

- おふろのルック つめかえ用350ml

ルックプラス 泡ピタトイレ洗浄スプレー

- ルックプラス 泡ピタトイレ洗浄スプレー つめかえ用250ml
- ルックプラス 泡ピタトイレ洗浄スプレー つめかえ用大サイズ640ml

ルックプラス まめピカトイレのふき取りクリーナー

- ルックプラス まめピカトイレのふき取りクリーナー つめかえ用190ml

ルックプラス まめピカ 抗菌プラストイレのふき取りクリーナー

- ルックプラス まめピカ 抗菌プラストイレのふき取りクリーナー つめかえ用190ml

キッチンと調理

CHARMY Magica 速乾+（プラス）カラッと除菌

- CHARMY Magica 速乾+（プラス）カラッと除菌 本体220ml
- CHARMY Magica 速乾+（プラス）カラッと除菌 つめかえ用530ml
- CHARMY Magica 速乾+（プラス）カラッと除菌 つめかえ用大型サイズ 710ml
- CHARMY Magica 速乾+（プラス）カラッと除菌 つめかえ用特大サイズ 1,020ml（シトラスミントの香り）

CHARMY Magica 酵素+（プラス）

- CHARMY Magica 酵素+（プラス） 本体220ml
- CHARMY Magica 酵素+（プラス） つめかえ用530ml
- CHARMY Magica 酵素+（プラス） つめかえ用大型サイズ710ml
- CHARMY Magica 酵素+（プラス） つめかえ用特大サイズ 1,020ml（オレンジの香り）

CHARMY Magica 除菌+（プラス）

- CHARMY Magica 除菌+（プラス） 本体220ml
- CHARMY Magica 除菌+（プラス） つめかえ用530ml
- CHARMY Magica 除菌+（プラス） つめかえ用710ml

CHARMY Magica 一発洗浄スプレー

- CHARMY Magica 一発洗浄スプレー つめかえ用 250ml

CHARMY 泡のチカラ 手肌プレミアム

- CHARMY 泡のチカラ 手肌プレミアム つめかえ用 530ml
- CHARMY 泡のチカラ 手肌プレミアム つめかえ用大型サイズ 710ml

CHARMY クリスタ クリアジェル

- CHARMY クリスタ クリアジェル つめかえ用420g
- CHARMY クリスタ クリアジェル つめかえ用大型サイズ840g

CHARMY クリスタ 消臭ジェル

- CHARMY クリスタ 消臭ジェル つめかえ用420g CHARMY
- クリスタ 消臭ジェル つめかえ用大型サイズ840g

健康的な生活習慣づくり

- 基本的な考え方
- 推進方針
- 2030年目標と進捗
- 取り組み
- 情報

基本的な考え方

石けんとハミガキから始まったライオンは、「愛の精神の実践」を創業からの想いとして受け継ぎ、人々の心と身体のヘルスケアの実現を目指して、商品の提供とともに、生活者への情報発信や普及啓発活動を推進し、より良い習慣づくりを提案してきました。

生活必需品やサービスを提供するライオングループは、社会において重要な役割を果たしており、歯みがきや手洗いといった健康に直結する生活習慣を定着させていくことこそが、価値創造の原点であると考えています。

推進方針

ライオングループのパーパス「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」に基づき、「オーラルヘルスケア習慣」と「清潔・衛生習慣」を通じ、「健康的な生活習慣づくり」を事業展開エリアののべ10億人に提供することで、より多くの人々の毎日に貢献します。

オーラルヘルスケア習慣

当社グループは、人々の健康寿命延伸の重大要素のひとつである口腔健康の増進のために、むし歯や歯周病の予防を目的とした「歯みがき習慣」の定着を推進してきました。2030年に向けては、デジタルテクノロジーを活用した製品・サービスの提供とオーラルヘルスケア機会の格差解消を通じた事業機会の拡大により、一人ひとりのライフスタイルや健康状態に合わせた前向きな予防歯科習慣づくりを目指します。

清潔・衛生習慣

当社グループは、さまざまなシーンで使用できるハンドソープや消毒剤の提供、手指の清潔・衛生による感染予防の普及啓発活動を保育所・幼稚園・小学校等で実施してきました。日本を含むアジア地域において、エリアごとの清潔・衛生課題に対応した製品提供と啓発活動を展開しています。

特に、東南・南アジアにおいては食の安全等に活動領域を広げ、衛生製品・サービスを提供します。普及啓発活動においては、「大切な人を守る清潔・衛生行動」の習慣化を目指します。

推進にあたっては、生活者に寄り添い、それぞれの地域の行政や学校等、他企業・自治体等とも連携しながら、この活動を日本のみならずアジアでも、活動を推進してまいります。



2030年目標と進捗

目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2024年実績)
<p>すべての人が必要な時に、いつでも、オーラルヘルスケアを行える機会を提供し、誰もが健康でいられるよう、オーラルヘルスケアの習慣化を目指します。</p>		<p>オーラルケア 4.0億人*</p> <p>〈予防歯科習慣の啓発〉</p> <p>国内：</p> <ul style="list-style-type: none"> 予防歯科習慣化に向けた活動領域の拡大(『OraCo』) <p>海外：</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児向け・児童向けの歯みがき啓発活動実施 <p>〈予防歯科習慣の実践〉</p> <p>国内：</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯みがき頻度拡大の促進 昼歯みがき実施率37%(2030年目標50%) ハミガキ、ハブラシ以外の製品の使用拡大の促進 歯間清掃用具使用率38%(2030年目標50%) <p>* 実態調査より算出</p>
<p>日常生活のあらゆるシーンの中で、菌・ウイルスの体内侵入を防ぎ、誰もが健康でいられるよう、清潔・衛生行動の習慣化を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活習慣づくりに貢献する製品・サービス、および情報を提供した人数 ⇒のべ10億人 (オーラルヘルスケア 5億人、清潔・衛生 5億人) 	<p>清潔・衛生 3.1億人*</p> <p>〈教育機関等を起点とした清潔・衛生習慣の浸透・定着〉</p> <p>ライオングループ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育所・幼稚園・小学校等での手洗い習慣の普及啓発活動実施 「キレイキレイ マイボトルコンテスト」実施 バングラデシュにおけるJICAを通じた小学校での衛生啓発実施 <p>〈清潔・衛生習慣化に向けた活動領域の拡大〉</p> <p>国内：</p> <ul style="list-style-type: none"> 手洗い授業キットを配布する「フレイフレイファミリーPJT」実施 子育てアプリiibaとの手洗い啓発イベント実施 岡山県における企業版ふるさと納税を活用したハンドソープの小学校設置 <p>海外：</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国における出産時奨励事業としての出産を控えた妊婦への衛生用品の提供 タイにおける官民連携プロジェクトによる手洗い啓発 <p>* 2024年実績より、アジアの事業状況をふまえて身体・食の安全等に活動領域を広げた新たな方法で算出</p>

[> サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2024年実績・施策 !\[\]\(14abeea2bc9e768a1eb56545bc1ea001_img.jpg\) \(1.01MB\)](#)

取り組み



オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み

- ▶ 全国小学生歯みがき大会
- ▶ 子どもたちへの取り組み
- ▶ 大人への取り組み
- ▶ インクルーシブ・オーラルケア



清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み

- ▶ マイボトルコンテスト
- ▶ 教育機関での取り組み
- ▶ 食や災害時に対する取り組み
- ▶ バングラデシュでの取り組み



情報



オーラルヘルスケアに関する情報

- ▶ 予防歯科(セルフケア)
- ▶ 歯みがきのうた・動画・ポスター
- ▶ 予防歯科(プロケア)
- ▶ 研究・学術(「予防歯科」研究)



清潔・衛生習慣に関する情報

- ▶ 正しい清潔・衛生習慣づくり
- ▶ 災害時清潔健康ケア
- ▶ プロの手指衛生管理



オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み

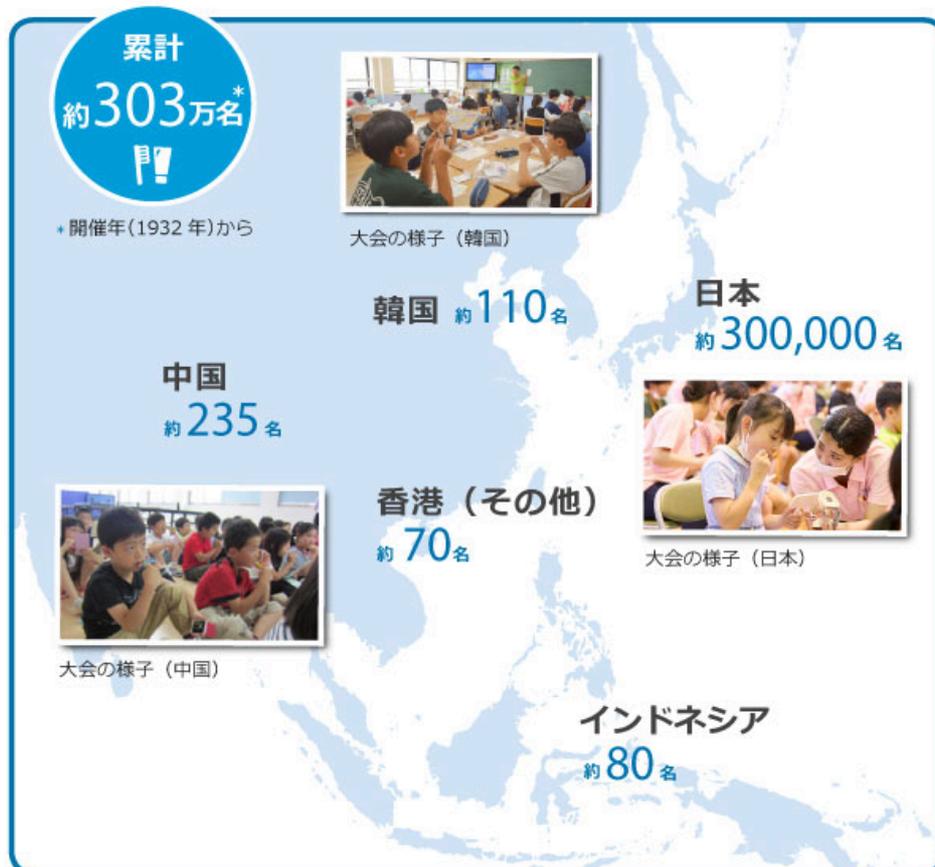
- ✓ 全国小学生歯みがき大会
- ✓ 子どもたちへの取り組み
- ✓ 大人への取り組み
- ✓ インクルーシブ・オーラルケア
- ✓ オーラルヘルスケアに関する情報

全国小学生歯みがき大会

ライオングループでは、生涯にわたって人々の健康保持をサポートするため、子どものころからの歯とお口の健康意識を育むことに重点を置いています。日本では、小学生に対して正しい歯みがき指導やオーラルヘルスケアを指導することを目的に「全国小学生歯みがき大会」を1932年から実施しています。現在では、活動の場をアジア中心に広げ、小学校で毎年開催しています。

2024年の第81回大会は、参加校が実施日を設定し、DVD教材を視聴して参加する方式で実施され、5,377校、約30万人の小学生が参加しました。この大会は、日本だけに留まらず、アジアを中心とする各国でも開催しています。

2024年の参加人数



子どもたちへの取り組み

当社グループでは、全国小学生歯みがき大会以外にも、アジアを中心とする各国で、正しい歯みがき方法を楽しく子どもに伝えるため、幼稚園や保育園、中高等学校等の教育機関でオーラルヘルスケアに関する口腔保健活動を行っています。子どもたちは、歯みがき指導を通じて歯を磨くことの大切さを学んでいます。活動に当たっては、歯科医師や歯科衛生士、教職員に加え、国や行政、社外パートナーとも連携して推進しています。



日本



韓国



中国



タイ



マレーシア



インドネシア

大人への取り組み

当社グループでは、子どもたちだけでなく、行政、歯科専門家、パートナー企業等と連携しながら、妊娠期の母親や高齢者、オフィスで働く従業員や歯科医院の患者さん等、アジアのすべての人たちに「予防歯科習慣」を広げる活動も行っています。さらに、衛生上のリスクが高まる災害時のオーラルヘルスケアについても、各地の防災イベント等に参加し普及活動を行っています。日本では、普段からの備え等についてまとめた冊子を発行し、災害時の清潔・健康ケアに関する情報を提供するとともに、各地の防災イベント等に参加し普及活動を行っています。



中国



インドネシア



タイ



シンガポール



マレーシア

> 災害時の清潔衛生ケア

インクルーシブ・オーラルケア

当社グループでは、人それぞれの生活環境、身体、経済、教育、情報等にかかわらず、誰もが自ら予防歯科行動を習慣化できるよう、社外パートナーとの連携のもと、さまざまな取り組みを展開しています。アジアでは、教会や福祉施設を訪れた方に、オーラルヘルスケアの啓発活動を行いました。



教会や福祉団体での啓発活動の様子(香港)

展開事例:おくちからだプロジェクト

2021年より、子どもたちのオーラルヘルスケアの習慣づくりと自己肯定感の向上を目指した「おくちからだプロジェクト」を推進しています。特に、むし歯が多い傾向にある経済的困窮家庭の子ども*を取りこぼさないよう活動しています。「歯とお口の健康」をテーマにしたプログラムを独自開発し、NPO法人と連携してこども食堂を中心に提供しています。子どもたちが楽しく遊びながら自発的にオーラルヘルスケアを学び、習慣につなげられるよう、クイズやゲーム等のコンテンツを展開しています。中でも「デコ歯ブラシづくり(工作)」は、人気のコンテンツです。2024年からは販売店と連携して店頭イベントとしても実施し、生活者の健康な習慣づくりに向けた接点拡大にも取り組んでいます。また、本活動は体験型サステナビリティ研修として行っており、役員や社員のサステナビリティ教育にもつなげています。

* 出所:国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部、足立区・足立区教育委員会(2016年度)



こども食堂での啓発活動を社員教育として実施



販売店と連携した活動展開

オーラルヘルスケアに関する情報

- ＞ 予防歯科(セルフケア)
- ＞ 歯みがきのうた・動画・ポスター
- ＞ 予防歯科(プロケア)
- ＞ 研究・学術(「予防歯科」研究)
- ＞ 関連リンク

オーラルヘルスケア習慣に関する情報

- ✓ 考え方
- ✓ 予防歯科(セルフケア)
- ✓ 予防歯科(プロケア)
- ✓ インクルーシブ・オーラル
- ✓ 研究・学術(「予防歯科」研究)
- ✓ オーラルヘルスケアに関する情報

考え方

「予防歯科」とは、むし歯等になってからの治療ではなく、なる前の予防を大切に考えることです。歯とお口の健康を積極的に守るため、歯科医院などでの「プロケア(プロフェッショナルケア)」と、歯科医や歯科衛生士の指導に基づいた毎日の「セルフケア」の両方を習慣化させることが重要です。ライオングループでは、一人ひとりのライフスタイルや心身の健康状態に合わせて、前向きな「予防歯科習慣」の実践を後押しする商品・サービスを提供しています。さらに行政、歯科専門家、パートナー企業等と連携しながら、アジアすべての人たちに「予防歯科習慣」を広げる活動も行っております。誰もが生涯を通じて、必要な時に、いつでも予防歯科を行える機会を提供して、人々の健康増進へ貢献することを目指します。



予防歯科(セルフケア)

- ✓ セルフケア(自分で「予防歯科」)
- ✓ 歯みがきのうた・動画・ポスター
- ✓ 昼歯みがき促進
- ✓ デンタルフロス使用促進
- ✓ 定期的なハブラシ交換とリサイクルの推進
- ✓ デジタル技術を活用した新たな予防歯科習慣づくり
- ✓ ライフステージ別オーラルヘルスケア普及啓発活動
- ✓ オーラルヘルスケアリーダー養成
- ✓ 法人向けウェルビーイングサポートサービス

セルフケア(自分で「予防歯科」)

自分ではきちんと歯みがきをしているつもりでも、みがき残しができてしまうものです。お口の健康を管理・維持するためには、「予防歯科」のポイントに合わせたセルフケアを毎日の習慣にすることが大切です。

当社グループでは、お口の中に歯垢を残さないように歯みがきをすることや、自分のお口の状態を把握して「予防歯科」の意識を高める新習慣等の普及に向けて、様々な取り組みを実施しています。

歯みがきのうた・動画・ポスター

小学生を中心とした子どもたちが、楽しくみがき忘れのない正しい歯みがき習慣を身につけられるように、歯みがきの順番を歌詞に入れた、うたの動画(みがきかたや順番を身につけるまでご覧いただく「みがきかた編」、みがきかたが身についたらご覧いただく「アニメーション編」)、歯みがき順番ポスターを制作しました。

歯みがきのうた「イ～ハ～」 作詞・作曲・うた：吉田山田

[> 歌詞のダウンロード !\[\]\(7813269ab0b63a42b5501ac372fa88df_img.jpg\)](#)

動画(みがきかた編)

歯科衛生士が歌に合わせて、みがく順番やポイントをレクチャーします。

※ みがきかたや順番を身につけるまで使用を推奨



動画(アニメーション編)

楽しく見ながら歯みがきすることで習慣化につなげるアニメーションです。

※ みがかたが身についたら使用を推奨

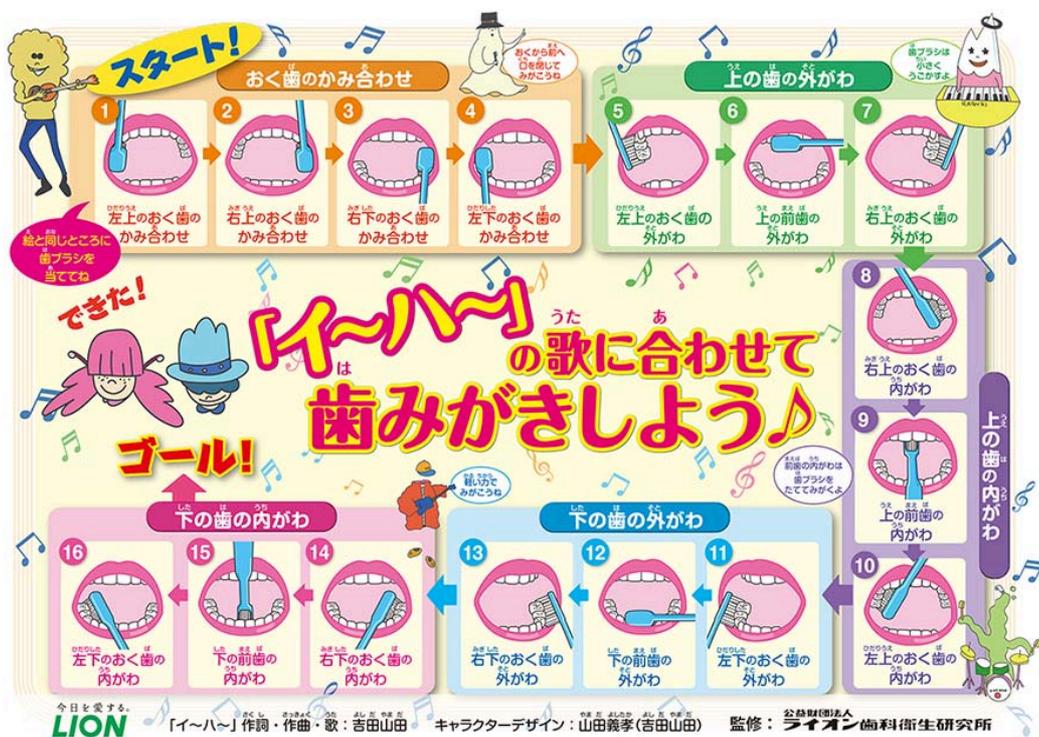


え:山田義孝(吉田山田)

歯みがき順番ポスター

歌詞に合った歯みがきの順番やポイントを確認できます。

キャラクターデザイン:山田義孝(吉田山田)

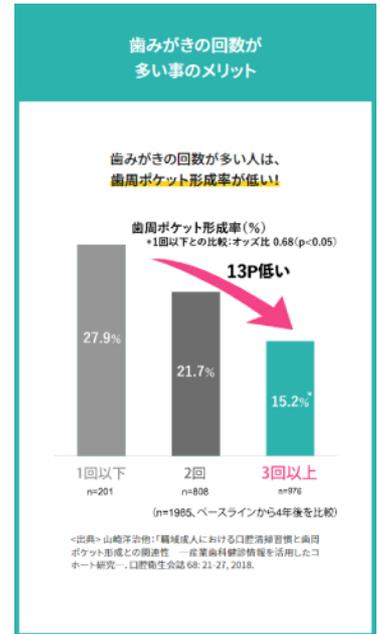


ダウンロード [A1版 PDF](#) [A3版 PDF](#)

昼歯みがき促進

1日3回の歯みがき習慣の定着を目指し、昼歯みがきの普及活動に取り組んでいます。国民の就業率(15歳以上人口に占める就業者の割合)は、約6割に達しています(平成30年度労働力調査 総務省統計局)。生活者の多くが職場で日中を過ごす中、オフィス等の職場で「昼食後に歯をみがいている」人は40%で、「昼も歯みがきをしたいが、できていない」人は22%いました(当社調べ)。

そこで、当社はオフィスでの使用を考慮して設計したコップ付き歯みがきセット『MIGACOT』を発売しました。一人でも多くの方が、昼歯みがきが当たり前となるよう、商品の提供とともに普及活動に取り組んでいきます。



オフィス用歯みがきセット

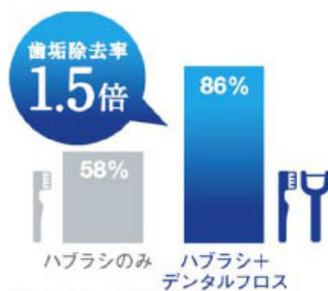


デンタルフロス使用促進

「予防歯科」の必要性や効果を伝えていく取り組みを行っています。セルフケアのポイントの一つに、「歯垢を残さず落とすこと」があります。歯と歯の間の歯垢は、ハブラシのみでは約6割しか落とせません。しかし、ハブラシとデンタルフロスを併用することで、歯垢除去率が1.5倍に向上します(図)。

当社は、ハブラシとデンタルフロスの併用を促進しています。小学生以上のお子様や初心者の方でも使いやすい商品を提供するとともに、デンタルフロスを使用する必要性をお伝えし、正しい使い方等の普及活動*も行っています。

図 歯垢除去率



出典：山本ほか：日歯周誌，1975



* 小学生に対しては、毎年開催している「[全国小学生歯みがき大会](#)」にて、歯並びに合わせた歯のみがき方やデンタルフロスの使い方を、楽しく学べる機会を提供しています。

今後も生活習慣の改善により、健康は自分自身の行動と関連しているという意識を育て、望ましい習慣を継続することの大切さの理解浸透を図っていきます。

クリニカアドバンテージ デンタルフロス

定期的なハブラシ交換とリサイクルの促進

「お口にいい!」と「環境にもいい!」の実現でSDGsにも貢献

当社は創業以来、生活者のオーラルヘルスケア習慣の普及定着活動に取り組んできました。近年では、海洋プラスチック問題等への対応が大きな社会課題となっており、オーラルヘルスケアのリーディングカンパニーとして、リサイクルはメーカーである当社の課題でもあります。当社事業の中で製品プラスチックの使用量が多いハブラシを通じて、生活者の健康な習慣づくりと同時に、環境負荷低減にもつながる仕組みに取り組んでいます。



歯ブラシ交換デーの制定

歯ブラシは使い続けると毛先が開き、刷掃力が低下します。当社調べによると、歯ブラシを毎月1回交換する生活者は約4割しかいません*。交換しない理由として、「まだ使える」「もったいない」や「刷掃力が低下することを知らない」等が挙げられます。

* 個人差はありますが、交換は月1回を目安とすることをおすすめしています。



2018年2月より毎月8日を「歯ブラシ交換デー*」とし、月1回の定期的な歯ブラシの交換を呼びかける活動を行なっています。

生活者に適切な交換時期を知っていただくため、お取引先様と連携し、店頭で毎月8日の「歯ブラシ交換デー」のPOP広告を掲示したり、歯科医院に定期的な歯ブラシの交換を推奨するポスターを掲示する等、月1回の歯ブラシ交換を推奨しています。

今後も、当社は月1回の歯ブラシ交換が習慣となるよう、お取引先様や歯科医院等とともに、活動を継続していきます。



店頭イメージ

* 2017年12月27日、一般社団法人日本記念日協会の認定を受け、新たな記念日として制定されています。

> ニュースリリース：新習慣！一人ひとりに合ったMyハミガキを始めよう毎月1日を「Myハミガキの日」と制定

ハブラシリサイクルの推進

ハブラシ交換の普及により、ハブラシの交換頻度が増えることは、廃棄物の増加につながる懸念されます。

そこで当社は近年の海洋プラスチック問題にも配慮し、今までごみにしかならなかった使用済みハブラシをテラサイクルジャパン合同会社と共同で、回収してリサイクルする「ハブラシ・リサイクルプログラム」をアジアで初めて開始しました。ハブラシリサイクルにご協力いただける生活者一人ひとりも大事なパートナーという考えのもと、「資源循環型社会」を目指して歩みを進めています。

2025年3月末時点で、回収所点数は1,616拠点、回収数は約195万本となっています。



新渡戸文化小学校のハブラシリサイクル活動の様子



デジタル技術を活用した新たな予防歯科習慣づくり

子どもの成長見守りサービス『おくち育』

子どもの成長段階に合わせ、適切な歯みがき習慣づくりや、良い歯ならびの土台づくりを支援するオーラルケアプログラム『おくち育』を2023年4月より専用ECサイトにて提供しています。歯ならびの土台づくりが重要な生え変わり期の子どもの対象とした『おくち育 噛もっと!』では、『噛もっと!グミ』を毎日食べて噛む力を育み、月1回『噛もっと!ガム』で噛む力をチェックし、『おくち育会員サイト』で『歯ならびチェック』ができるAIアプリの3点がセットになっています。また、最短1ヶ月で子どもたちの仕上げみがき卒業をサポートする『まほうハブラシ』では、音声ガイド付きデバイスとアプリ、染め出しジェルを通じてゲーム感覚で楽しみながら歯みがきスキルの定着を促します。



歯ぐきチェックツール『HAGUKI CHECKER(ハグキチェッカー)』

「予防歯科」の意識向上を目指し、2019年より、歯ぐきチェックツール『HAGUKI CHECKER』^{*1}のサービスを開始しました。当サービスは、スマートフォンで歯と歯ぐきを含む口の中を撮影するだけで、AIが歯を1本ずつ識別し、歯1本ごとの歯ぐきの状態(下がり、くすみ、ハリ)を確認できるチェックツールです。サービスを開始後、のべ約71,000人^{*2}の方々に利用して頂いています。

口腔環境の可視化により、生活者が自分の歯ぐきの状態に関心を持つきっかけとなり、繰り返し使うことで歯ぐきの変化に早く気づく等、生活者のオーラルヘルスケア習慣を見直すきっかけを提供しています。

*1 当社が保有するデータや知見をもとに、Automagi(株)が保有するAIの画像解析技術と(株)エムティーアイのサービス開発技術を活用して開発しました。

*2 対象期間:2019年7月22日~2024年5月16日

～チェックの内容～

歯1本ごとの歯ぐきの状態について、次の3項目につき3段階での解析結果が表示されます。

- 歯ぐき下がり
- 歯ぐきのくすみ
- 歯ぐきのハリ

さらに、歯ぐきの状態の結果と合わせて、セルフケアに関する知識や方法、おすすめのオーラルヘルスケア製品を紹介します。

[HAGUKI CHECKER](#)



歯1本ごとの
歯ぐきのチェック結果

ライフステージ別オーラルヘルスケア普及啓発活動

毎日のオーラルヘルスケアは、生涯の健康にもつながる大切な習慣であり、小さいころから身につけることが重要です。当社は、あらゆるライフステージにおいて、セルフケアを実践していくことが重要と考えています。生活者のライフステージに沿った普及定着のために、当社のみならず、行政・学校・病院・歯科医院等の社外団体との連携を通じて、活動を推進しています。また、当社はライオン歯科衛生研究所(LDH)*のオーラルヘルスケア普及活動を支援しています。

* LDH = The Lion Foundation for Dental Health

当社は、1964年に財団法人として設立、2010年に公益財団法人への移行認定を受けた(公財)ライオン歯科衛生研究所(LDH)のオーラルヘルスケア普及活動を、全面的に支援しています。LDHは、日本歯科医師会、大学、行政等と連携しながら3つの公益事業を通じ、生活者の歯とお口の健康を保持増進し、すべての人々の生活の質の向上に結びつけられるようオーラルヘルスケアの最前線で社会に貢献しています。

[LDHの3つの公益事業\(財団の概要\)](#)

乳幼児

0才からの「予防歯科」の推進

当社は、「予防歯科」の習慣をできるだけ小さいころから身につけることを目指しています。

そのために、商品開発においては、0才からの「予防歯科」を実現する『クリニカ Kid's』シリーズを充実させています。1才半健診には『クリニカ Kid's ジェルハミガキ』のサンプリングを行っています。情報発信においては、親子の歯みがきの時間は「親子の絆を深める大切な時間」という考え方を広く浸透させるため、子どもの「予防歯科」を応援するWebサイト「[HA!HA!HA!パーク](#)」を通じて、情報を発信しています。

小学生

国内外累計約303万名以上の子どもたちを対象に「全国小学生歯みがき大会」を開催

1932年から続いている「全国小学生歯みがき大会」は、小学生を対象に毎年「歯と口の健康週間」の時期(6月4日～10日)に合わせて開催しています。

2024年に行われた第81回大会は、参加校が実施日を設定し、約40分間のDVD教材を視聴して参加する方式で実施されました。日本をはじめアジア各地の参加を合わせ、総数5,377校、約30万名の小学生が参加しました。第81回大会では「歯と自分をみがこう。」をテーマに、明海大学の安井利一先生監修のもと、「歯ぐき」を題材として、お口の状態に合わせたみがき方、デンタルフロスの使い方を学び、「予防歯科」の理解と浸透を図るとともに、生活習慣の中心にあるオーラルケアを通じて「継続する力」の大切さを学びました。

[全国小学生歯みがき大会](#)



キッズニアでの職場体験

当社は、2006年に「キッズニア東京」、2009年に「キッズニア甲子園」、2022年に「キッズニア福岡」に、それぞれ「歯科医院」をテーマにしたパビリオンを出展しています。子どもたちの職業体験の場として、歯科医師や歯科衛生士の仕事の体験ができ、どちらも子どもたちに人気があります。

当パビリオンでは歯の大切さや、お口の健康を自分でケアすることを学び「歯科医師」「歯科衛生士」として口腔衛生等の研修を受けた後、診療台の上の患者（歯科大学での実習用フィギュア）に実際に現場で使用しているものと同様ポリリッシャーやバキューム等を使い、むし歯治療とフッ素塗布をして、キッズニア専用通貨の報酬を得ることができます。

仕事を体験した子どもたちからは「治療するのはすごく大変だと思った。」「きちんと磨ける歯みがきの方法について学べた。」「歯垢を落として歯を守れたのが嬉しかった。」等の声も聞かれ、むし歯予防の大切さがしっかりと伝わっているようです。



キッズニア東京の
「歯科医院」パビリオン



患者にむし歯治療をする様子



キッズニア甲子園の
「歯科医院」パビリオン



研修を受ける子どもたち



キッズニア福岡の
「歯科医院」パビリオン



器具の持ち方・使い方を練習する様子

中学生・高校生

オーラルヘルスケア習慣づくり授業コンテンツの提供

当社は、中学生・高校生を対象に、学校の授業で先生が使用する教材として、オーラルヘルスケア習慣づくりに向けた授業コンテンツ「10代からはじめよう! お口の健康習慣 人生100年時代のオーラルケア」を作成いたしました。「むし歯(う歯)の人の割合*」を年齢別にみると、小学生の頃は8歳が46.03%と最も高くなり、その後低下しますが、中学生の頃である13歳から再び増加し、17歳で44.52%になっています。中学校や高校へ進学し、勉強や部活等で忙しいなかでも、歯みがきや歯間清掃などのオーラルヘルスケアの習慣を継続的に身につけて欲しい、という思いから本教材を用意しました。

本教材は、より多くの中学校・高校が、主体的に生徒の皆さんへオーラルヘルスケアの必要性や実践方法をお伝えいただける内容になっています。

* 出典:文部科学省「令和3年度 学校保健統計調査」



ダウンロードURL

<https://reg18.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=obj-matekj-5d6245256e447f8f5718985ef0738b28>

冊子には授業で使える設問、オーラルケアの歴史、新習慣も紹介しています。主な対象は中学生から高校生です。先生向けの資料集、ワークシート、授業案等もありますので、あわせてご活用いただけます。資料は本教材・教職員向け資料集・歯みがきカレンダー・指導案・授業サポート資料(セリフ付き)の5つをご用意しており、無料で提供しています。上記ダウンロードURLをクリックして、手順に沿って資料を入手してください。

* お申し込みは学校関係者限定となります。

オーラルヘルスケアリーダー養成

当社は、生活者へ自分でできる「予防歯科」行動を浸透させたいと考えています。そこで、地域行政の方が主体となり「オーラルヘルスケアリーダー」として、地域住民の皆様にも全身健康につながる歯みがきに関する知識や実技についてお伝えしていただけるよう「オーラルヘルスケアリーダー養成」講習会を行っています。現在は、協定を結んでいる宮城県石巻市、香川県坂出市、東京都台東区にて活動をしています。

> 石巻市

> 坂出市



2024年5月15日実施、
第12回坂出市 オーラルヘルスケアリーダー
講習会実施 乳幼児・保護者編
(対象は幼稚園・保育所等の先生と保健師)

法人向けウェルビーイングサポートサービス

企業の従業員様や自治体職員様に向け、「オーラルケアセミナー」や5分でお口の状態がわかる「唾液検査」等を提供しております。お口から始める健康習慣づくりのお手伝いを行い、オーラルヘルスケアの浸透に努めています。



予防歯科(プロケア)

- ✓ プロケア(歯科専門家による予防歯科)
- ✓ お口の健康状態の見える化(SMT)
- ✓ 歯科医院の「予防歯科」実践サポート(Lサポ)

プロケア(歯科専門家による予防歯科)

歯並び等、お口の状態は一人ひとり異なります。歯の治療だけでなく、むし歯や歯周病等になる前の予防のために、歯科専門家である歯科医師や歯科衛生士に自分に合った歯みがき指導やフッ素塗布等、プロによる専門的なケアをしてもらうことが必要です。また、歯や歯ぐきの健康、お口の状態等、定期的なチェックのために、歯科医院等での健診を年に2~3回受けることが望ましく、当社では定期的なプロフェッショナルケアの受診を習慣化することを推進しています。

お口の健康状態の見える化(SMT)

多項目・短時間唾液検査システム「SMT(Salivary Multi Test)」は、3mLの蒸留水で洗口することで唾液を採取し、歯や歯ぐきの健康、口腔清潔度に関係する6つの項目(むし歯菌、酸性度、緩衝能、白血球、タンパク質、アンモニア)を5分間で測定することができる装置です。そのため、歯科健診等を行う際、歯科医師や歯科衛生士はその場で患者に結果をフィードバックできます。このシステムは、一定の歯科医療施設で採用され、『予防歯科』に取り組む機会を創出し、患者の予防意識の変容とオーラルヘルスケア習慣の定着支援ツールとして主に活用されています。



軽く洗口し唾液を採取



試験紙と専用機器で測定



測定結果を共有

歯科医院の「予防歯科」実践サポート(Lサポ)

ライオン歯科材にて、歯科医院向けの「予防歯科」実践をサポートする「Lサポ」を運営しています。

「Lサポ」とは、歯科医院の皆様が「予防歯科」に注力できるよう、日々の診療に役立つ情報やサービスを提供する医院登録制プログラムです。歯科医療従事者を対象とした専用サイトを設け、セミナーや動画コンテンツ等、歯科医院向けオーラルヘルスケア商品をはじめ「予防歯科」に関する知識やスキル向上を支援するコンテンツを多数提供しております。



「予防歯科」セミナーの様子



動画コンテンツ視聴の様子

インクルーシブ・オーラルケア

歯みがき行動は、人が本来持っている“健やかに生きる力”をひきだし、育む、非常に重要な習慣です。しかし、その人を取り巻く生活環境、身体、経済、教育、情報等の様々な状況により、オーラルヘルスケアの実施には格差が生じ、歯と口のケアが十分にできない人がいます。この格差解消を重要な課題ととらえて取り組んでいます。

当社は2021年から子ども達のオーラルヘルスケアの習慣づくりと自己肯定感向上を目指した「おうちからだプロジェクト」を推進しています。特に、むし歯が多い傾向にある経済的困窮家庭の子ども^{*1}を取りこぼさないよう活動しています。「歯とお口の健康」をテーマにした体験プログラムを独自開発し、NPO法人と連携して「こども食堂」を中心に提供しています。子ども達が楽しく遊びながら自発的にオーラルヘルスケアを学び、習慣に繋がれるよう、クイズやゲーム等のコンテンツを展開しています。中でも「デコ歯ブラシ作り(工作)」は、歯みがき習慣を前向きにする人気のコンテンツです。

2022年には、子どもの貧困率及び子どものむし歯比率^{*2}が最も高い沖縄県において、産官学連携で体験プログラムの実施前後の効果について検証を行いました。その結果、体験を通じて、オーラルヘルスケアの習慣化や自己肯定感の向上が促される兆しを見出すことができました。

2024年からは販売店と連携して「デコ歯ブラシ作り(工作)」を店頭イベントとしても実施し、生活者の健康な習慣づくりに向けた接点拡大にも取り組んでいます。また、本活動には社員が参加、当社のサステナビリティ人材教育にもつなげています。

「歯とお口の健康」に関するプログラム



「歯とお口の健康」に関するプログラム



体験プログラム参加前後の歯垢の付着状態の変化

* 染め出し部は歯垢の付着部分

*1 国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部、足立区・足立区教育委員会(2016年度)

*2 出所:文部科学省「令和2年度 学校保健統計調査」



研究・学術(「予防歯科」研究)

- ▽ 産学連携
- ▽ ライオン学術賞

産学連携

少子高齢化・人口減少・資源の枯渇等、膨大化する社会課題やAI・IoTに象徴されるテクノロジーの劇的な進化等により、社会そして人々のくらしは日々大きく変化しています。当社は、これらの変化に対応し、人々のヘルスケアを支える企業になるため、「モノ」の提供のみに留まらず、お客様に新しい「価値」を提供していくことに重きを置いています。その実現のためには、行政・企業等の外部組織とのパートナーシップを強化し「オープンイノベーション」に取り組むことが鍵となります。

オーラルヘルス領域では、青森県黒石市及び国立大学法人弘前大学と、小学校を対象とした歯並びの実態を調査し、生活習慣との関係性を確認しています。また、株式会社日立製作所日立健康センターとは、1万人規模で職域における歯科健診の有用性を確認し、従業員の健康につながる有用なデータを取得しています。このような新たな情報を獲得し発信するとともに製品・サービス開発へ活用することで、より良い習慣づくりに向けた価値導出につなげています。

- > ニュースリリース:～歯科健診をより多くの人・企業に～日立とライオンが健康診断データを解析 歯科健診による従業員のオーラルケア行動変容が生産性向上に寄与する可能性を確認 [PDF](#)
- > ニュースリリース:～歯科健診をより多くの人に～日立とライオンが健康診断データを解析 職域における歯科健診の導入が口腔及び全身の健康状態に寄与する可能性を確認 [PDF](#)
- > ニュースリリース:ライオン×青森県黒石市×弘前大学の共同研究 歯並びの状態と日常生活習慣や癖が関係する可能性を確認 [PDF](#)

ライオン学術賞

「予防歯科」の学会活動や若手研究者の育成を支援する目的で「ライオン学術賞」を2001年に創設しました。

本賞は、世界最大の歯科学会である「国際歯科研究学会(IADR)」やアジアの歯科学会である「アジア予防歯科学会(AAPD)」と国内の「日本小児歯科学会」「日本口腔衛生学会」「日本老年歯科医学会」「歯科基礎医学会」「日本歯周病学会」5歯科学会に学術賞として設置され、創造的な研究を行った研究者に対して盾と賞金を進呈しています。



ライオン学術賞

オーラルヘルスケアに関する情報

- [歯の健康基礎知識](#)
- [実践しよう! 予防歯科](#)
- [歯とお口の健康\(Lidea\)](#)
- [HA!HA!HA!パーク\(0才からの予防歯科\)](#)
- [ママ、あのね。\(育児と乳歯の情報サイト\)](#)
- [歯みがKids\(ずっと健康な歯へ 小学生歯みがき研究サイト\)](#)
- > 災害時の「お口の健康ケア」広告(2021年3月11日読売新聞全国版朝刊に掲載) [PDF](#) (PDF:997KB)

清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み

- ✓ マイボトルコンテスト
- ✓ 教育機関での取り組み
- ✓ 食や災害時に対する取り組み
- ✓ 清潔・衛生に関する情報

マイボトルコンテスト

ライオングループでは、様々なシーンで活用できるハンドソープや消毒剤の提供はもとより、「自分や家族」を感染症等から守るための日々の行動として、「家庭内での感染予防」を中心とした普及啓発活動を、日本を含むアジアの国や地域で展開しています。

日本発の『キレイキレイ』は、北東・東南・南アジアで販売されています。そして当社グループは、10月15日に制定されている「世界手洗いの日」*に向けて、事業を展開している国や地域で「キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト」を開催し、世界中のご家族がより元気な毎日を過ごせることを目指し、楽しい手洗い習慣づくりを応援しています。

2024年は8つの国と地域から、約5,000件の応募がありました。これからも当社グループ一丸となって、清潔・衛生習慣づくりに取り組んでいきます。

* 水と衛生の問題に取り組む国際機関や大学、企業等によって、国際衛生年の2008年に設定



『キレイキレイ』グローバルお絵描きマイボトルコンテスト



海外グループでの取り組みの様子

📄 『キレイキレイ』グローバルお絵描きマイボトルコンテスト

📄 Kirei Kirei キレイキレイ supports Global Hand Washing Day : My Bottle Sticker Drawing Contest

教育機関での取り組み

当社グループでは、清潔・衛生習慣づくりの取り組みの一環として、手洗い習慣を浸透・定着する活動を保育所・幼稚園・小学校等で行っています。手洗い体操やお話の読み聞かせ等を取り入れて、子どもたちが手洗いを習慣化する意味や手洗いの方法を楽しんで学んでいます。



日本



韓国



台湾



タイ



マレーシア

食や災害時に対する取り組み

当社グループでは、子どもたちのいる教育機関だけでなく、行政、自治体、パートナー企業等と連携しながら、公共施設や自宅外（飲食店やホテル等）での清潔・衛生に加え、衛生上のリスクが高まる妊娠期の女性や災害時の清潔・衛生等、アジアすべての人たちが健康な毎日を過ごすための清潔・衛生の基本的な習慣をしっかりと根づかせる活動も行っています。日本では、普段からの備え等についてまとめた冊子を発行し、災害時の清潔・健康ケアに関する情報を提供するとともに、各地の防災イベント等に参加し普及活動を行っています。



日本



韓国



マレーシア

> 災害時の清潔衛生ケア

展開事例： Bangladesh での取り組み

当社が2022年より参入している Bangladesh では、JICA (独立行政法人国際協力機構) を通じて Bangladesh 食品安全庁査察・規制・調整機能強化プロジェクトに寄付し、手洗いと食の安全に関する清潔・衛生習慣の定着活動を実施しました。小学校教員に対して普及啓発活動のための研修を行い、教員が各小学校での指導を通じて、児童だけでなくその保護者や地域住民への清潔・衛生習慣の定着活動を展開しました。2024年は、ガジプール県とラルモニルハット県を加えた2県のすべての小学校約1,500校の教員と小学生が参加しました。



Bangladesh の小学校における衛生習慣啓発活動の様子

清潔・衛生に関する情報

- > [事業を通じた普及活動](#)
- > [災害時の清潔衛生ケア](#)
- > [プロの手指衛生管理](#)
- > [関連リンク](#)

清潔・衛生習慣に関する情報

- ▼ 考え方
- ▼ 活動方針
- ▼ 正しい清潔・衛生習慣づくり
- ▼ 災害時清潔健康ケア
- ▼ プロの手指衛生管理
- ▼ 関連リンク

考え方

ライオンは、1890年代より石けんや洗剤等を使用して「洗う」ということの普及啓発を行っています。さらに1990年代以降は食中毒の集団感染が大きな社会問題となり、楽しく洗える殺菌ハンドソープという独自のアプローチで、商品とともに「正しい手洗い習慣づくり」にも取り組んでいます。

「みんなでバイ菌・ウイルスを持たない、持ち込ませない。そのために、まずは帰ったら手を洗ってうがいをする。」当社は、みんなで健康な毎日を過ごすために、そんな基本的な習慣をしっかりと根づかせたいと考えています。この活動は従来より日本のみならずアジアでも、取り組んでいます。

活動方針

清潔・衛生習慣の定着化に向けて、いつでもどんな時でも実践出来る正しい習慣づくりを方針としています。子どもたちを中心に日常における正しい清潔・衛生習慣づくりとともに、水が不足し手洗いが難しい時でも出来る手の清潔ケアや、飲食店やホテル等の食のプロに対する清潔・衛生習慣づくりを目指しています。実施にあたっては、『キレイキレイ』ブランドをもとに、生活者に寄り添って、それぞれの地域の行政や学校等、コミュニティの皆様とともにパートナーシップを取りながら、従業員が主体となっても活動を進めています。

正しい清潔・衛生習慣づくり

従業員参画

若手従業員の研修の一環として、手洗い習慣の普及活動を行っています。この活動は、毎年100名前後の従業員がチームに分かれ全国の幼稚園や保育所で、園児に手洗いの大切さを教えています。

また、お取引先様と連携した活動や若手従業員の研修に幼稚園・保育所での手洗い習慣普及活動を組み入れ、従業員の意識向上にもつなげています。名古屋のスギヤマ薬品様をはじめ、各地のお取引先様との取り組みを推進しています。



保育園での手洗い習慣の普及活動の様子(2024年)



小学校での衛生マイスターによる手洗い授業の様子(2025年)

2021年からは従業員による正しい手洗い習慣の普及活動の対象を幼稚園、保育所の他、小学校にも拡大しました。授業では「自分と大切な人の健康を守る正しい手洗いを学ぼう」をテーマになぜ手洗いをしないといけないのか、ウイルスや細菌から身を守る方法はなにか等参加した児童が講師とともに考えることで、正しい手洗いについての理解と習慣の定着を図っています。コロナ禍では感染リスクを抑えるためにリアルとオンラインのハイブリッド型で授業を行っていましたが2022年以降はリアルでの開催にシフトしています。



出張授業(2022年)

2012～2024年の間に累計で約1,700名の従業員が手洗い習慣の普及活動に参加しました。また同期間において、約44,300名の園児・生徒・教職員にこの活動に参加いただきました。

手洗い習慣普及活動 参加園児・生徒・教職員数

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
約200名	約1,300名	約2,360名	約2,510名	約2,690名

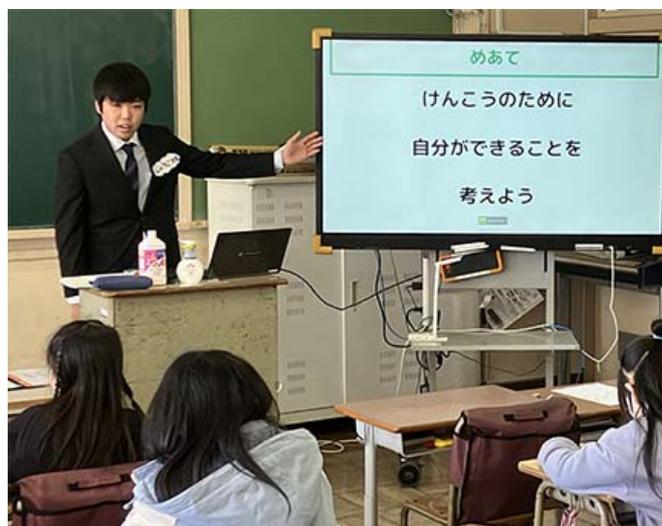
学生handwashingマイスター制度

当社ラグビーチームの選手よりラグビーの出張授業後に、「ラグビーをしたら手を洗おう」と手洗いの授業も実施し、外から帰ってきたら手を洗う習慣付けの授業も実施しております。

新しい取り組みで、産官学の連携で「学生handwashingマイスター」制度を始動させました。



石巻市で第1期学生 handwashingマイスター認定式 (2025年)



学生 handwashing マイスター認定授業の様子

事業を通じた普及活動

『キレイキレイ』ブランドでは、「大切な誰かを想い、清潔・衛生行動をとる」ことで、人との触れ合いにあふれた社会を目指す」という趣旨で「『キレイのリレー』プロジェクト」に取り組んでいます。

毎日の手洗いがもっと楽しい習慣になるように、世界にたったひとつのオリジナルマイボトルの作製や、教育機関を対象にした活動では、正しい手洗い・うがいの習慣化の促進に取り組んでいます。

また、手についたウイルスやバイ菌を取り除くには30秒以上の手洗いが基本ですが、当社オリジナルの「**おててをアラウータンたいそう**」を通じて、小さい子どもでも正しい手洗い習慣を楽しく身につけられる取り組みも行っています。

2022年、10月15日の「世界手洗いの日」の考えに賛同し、家族で楽しみながら手洗いの習慣化につながる「キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト」を実施しました。子どもたちは、自分で描いた絵を使って世界で1つのマイボトルをつくりました。日本を含むアジア地域から、作品の応募をいただきました。



2021年、加古川市庁舎トイレへのオートディスペンサータイプのハンドソープの設置(キレイのリレー)



「キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト」応募作品

☑ 正しい手洗い・うがい・消毒方法

☑ バイ菌バリアのひみつ

☑ バイ菌とたたかうプロジェクト

☑ 親子でつくろう!キレイキレイマイボトルキャンペーン



地域コミュニティ

全国の事業所所在地、東日本大震災の被災地であり創業者のゆかりの地でもある宮城県石巻市、『キレイキレイ』ハンドソープの生産拠点である香川県坂出市等を主な活動地域とし、幼稚園・保育所や小学校、公共施設等で手洗い習慣普及活動を行っています。特に石巻市では、2012年から東日本大震災の復興支援の一環として、市内の幼稚園・保育所で手洗い習慣の普及活動を推進してきました。また、2019年からは市と包括連携協定を締結し市民を対象とした、オーラルヘルスケア活動に取り組んでいます。



坂出市における手洗い習慣の普及活動の様子



石巻市におけるオーラルヘルスケアリーダー講習会の様子

キレイキレイのまち坂出 プロジェクト

キレイキレイのまち坂出プロジェクト



東日本大震災におけるライオンの取り組み



海外での取り組み

『キレイキレイ』ハンドソープは、2005年より海外展開をはじめ、今ではLion Corporation (Singapore) Pte Ltd、Lion Corporation (Thailand) Ltd.、Southern Lion Sdn. Bhd.、Lion Corporation (Korea)、獅王日用化工(青島)有限公司、獅王(香港)有限公司、獅王家品股份有限公司で販売しています。ライオングループ各社では、商品の提供とともに、人々の清潔・衛生意識の向上を目指し、清潔・衛生習慣の定着活動を行っています。また、新規参入したバングラデシュでは、JICA(独立行政法人国際協力機構)を通して、子どもたちへの衛生教育支援として教材を提供することで、清潔・衛生の習慣づくりに貢献していきます。



Lion Corporation (Korea) における『Ai! Kekute』手洗い教室の様子



Lion Corporation (Thailand) Ltd. における手洗い習慣定着活動の様子

海外グループでの取り組み

災害時の清潔健康ケア

災害時は、避難所生活や水不足等、衛生上のリスクが高まるため、体を清潔に保ち、健康に気を付けることがとても重要になります。特に、お口の健康は全身の健康につながっており、災害時にはお口の清潔・健康に留意することが大切です。

当社では、こうした災害時のお口や手の清潔・健康ケアや、普段からの備えについてまとめた冊子を発行し、災害時の清潔・健康に関する情報を提供するとともに、各地の防災イベント等に参加し普及活動を行っています。



「災害時の清潔・健康ケア」
パンフレット



「災害時のための清潔&健康ケアBOOK」

＞ 災害時の清潔・健康ケア情報のパンフレットやポスター集はこちらからダウンロードできます。



墨田区防災フェア
(両国エリア)



江戸川区防災訓練
(平井地区)



北はりま
ビジネスフェア
(小野市)

プロの手指衛生管理

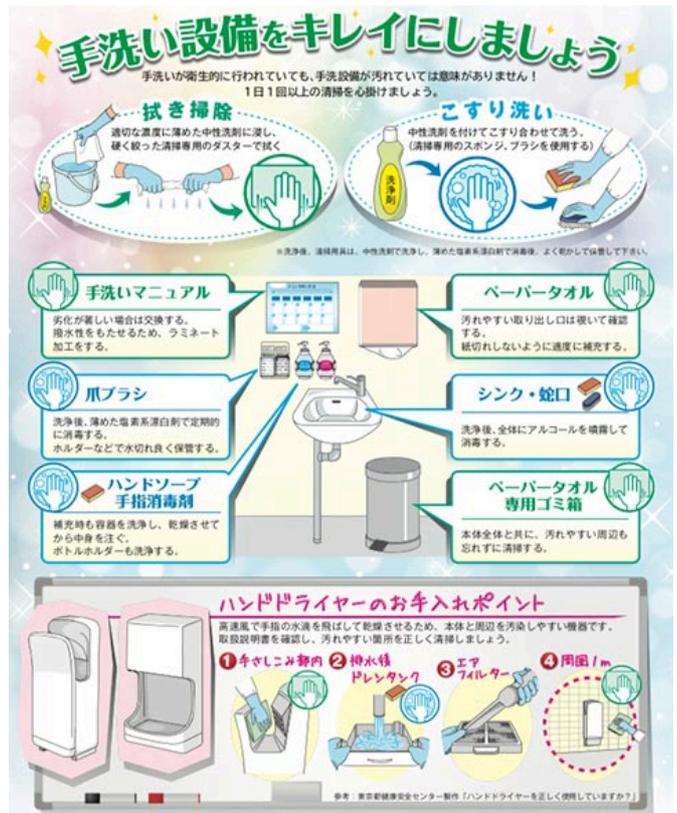
飲食店やホテル、食品工場等業種は異なっても、一人ひとりの生活者が安心して食事を楽しんだり、快適な時間を過ごしたりするために「お客様に最高のおもてなしで、最高の思い出を」と願う想いは、プロである飲食店やホテル等に従事する方々にとっても同じです。

ライオンハイジーンは、総合衛生管理企業として、そんなプロの想いを実現するため、科学的知見からプロユース製品や衛生診断等のサポートを通じて「清潔で安全・衛生的な環境づくり」に取り組んでいます。その中でも、食品を取り扱うプロが行う衛生管理の基本は手洗いの徹底にあります。サポートの一環として、年4回発行の「ハイジーンたより*」では手洗いの方法はもちろんのこと、手洗いのタイミングや手洗い設備の管理ポイント、その他プロが知っておくべき衛生管理情報を提供しています。

※ 衛生管理情報を提供しているハイジーンたより(一例)



手洗いのタイミング
～食品取り扱い者編～



手洗い設備のチェックポイント



衛生的手洗いのポイント



感染症予防～トイレ編～

プロの手指衛生管理を支援(ライオンハイジーン)

関連リンク

清潔・衛生分野の「AI/IoT」に関する取り組み

- ☑ [キレイキレイとチームラボの取り組み](#)
- ☑ [キレイキレイ×ソニー・エクスプローラサイエンスがワークショップを開催](#)
- ☑ [ライオン、博報堂アイ・スタジオとIoTデバイス「キレイキレイ“Push Connection”」を共同開発](#)

清潔・衛生分野の「学術・研究」に関する取り組み

- > [ニュースリリース: 家族が感染症に罹った時、家庭内感染をしなかった家庭はより多くの感染対策を早い段階から実施していた!～「感染症の家庭内感染対策に関する生活者調査」結果概要～ !\[\]\(df2521adda8f2027aef00efc4729eb49_img.jpg\)](#)
 - > [ニュースリリース: 帰宅直後のウイルスの住居内感染リスクを可視化するシミュレーションモデルを開発 !\[\]\(e0c2695e9d1234624f5312885c2201b0_img.jpg\)](#)
 - > [ニュースリリース: 自宅内で知らないうちに手に付着する菌の増殖を 石けん成分配合のハンドソープによる手洗いで抑制! !\[\]\(3f08df31efb6f7ceec478a9196f64a21_img.jpg\)](#)
 - > [ニュースリリース: 2021 年「新型コロナウイルス」に対する衛生行動意識調査と手洗い行動観察結果 「こまめな手洗い」は終息後も 6 割超が実施したいと回答 手洗い自体は不十分で洗い残しあり! !\[\]\(f6703b227be10e5b02e55e1e24afdf6f_img.jpg\)](#)
 - > [ニュースリリース: 生活者の約9割が「帰宅後に手を洗う」と回答も、実際は手洗い前にウイルスを広げていることがシミュレーションで判明! !\[\]\(068ebbbacccdbcf70bc9c59d6da3edf9_img.jpg\)](#)
 - > [ニュースリリース: 口腔状態の悪さと風邪の引きやすさは関連している! 20～69 歳男女 4491 名を対象とした調査研究で明らかに !\[\]\(20ed9870b2c2964beb68a20c78285bf2_img.jpg\)](#)
 - > [ニュースリリース: ～衛生習慣を“しなければいけない”から“したい”ものへ～ 街の玄関口で、外出する人の衛生行動を促す実証実験 新宿駅に「キレイの投票所」を期間限定で開所 !\[\]\(6027cf05243067eaa0fa4a1262dca06e_img.jpg\)](#)
 - > [ニュースリリース: コロナ禍での手洗い実態調査 !\[\]\(87af66e737772272017f82352e5bf76a_img.jpg\)](#)
 - > [ニュースリリース: オフィスでの感染が気になる方に! オフィスで気をつけたい場所・モノ、歯みがき時の対策をご紹介 !\[\]\(2c74c0decc51eead818e793a060fad7d_img.jpg\)](#)
- ☑ [Lidea \(「手洗い・うがい・除菌等」\)](#)

人的資本・労働安全

- 基本的な考え方
- 取り組みの全体像
- 2030年目標と進捗
- 取り組み

基本的な考え方

ライオンは、より良くらし・社会の実現に貢献し、持続的な企業価値向上を目指しています。その実現を担うのは従業員一人ひとりであり、各人の知識、能力、意欲、健康等を尊重し、継続的に高め続けていくことが重要と考えています。更に、個人が持つ多彩な人的資本を組織全体として引き出し、最大限に活かすことが、ライオンの目指す未来の実現に不可欠であるという考え方にに基づき、様々な取り組みを行っています。

取り組みの全体像

当社は個の成長と活躍を促すため、従業員の専門的な知識やスキルを高める人材開発、健康行動の習慣化、自律的な働き方を実現する環境整備等に取り組んでいます。また、一人ひとりを尊重し活かすことの出来る組織づくりに向け、多様な人材活躍(DE&I)の推進、健全な労使関係の構築、安全・安心な職場環境づくりを進めています。(図1)

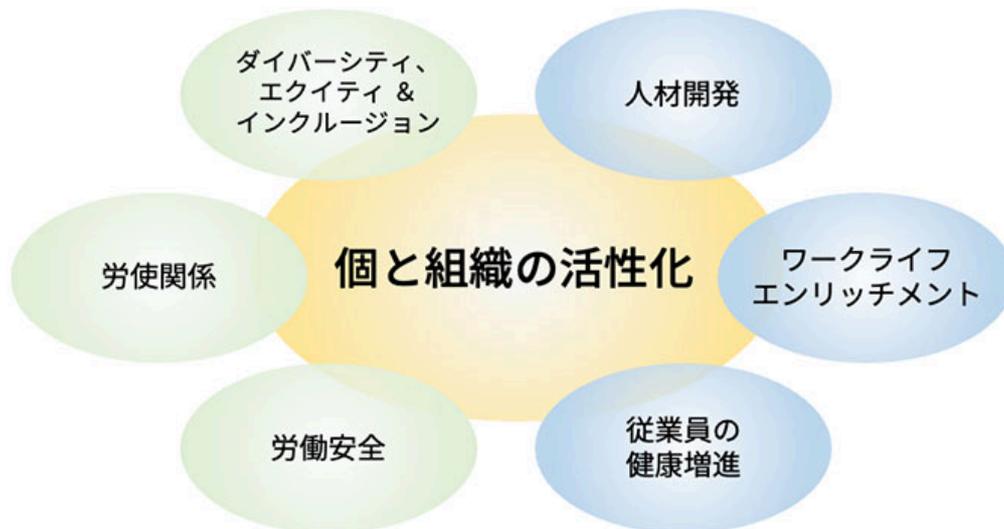


図1 個と組織の活性化のための取り組み

2030年目標と進捗

目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2024年実績)
多様な価値観や考えを持った人材が、個性や能力を存分に発揮して活躍することを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 管理職に占める女性労働者の割合⇒30%以上 「多様な価値観を持った従業員が活躍できている」と思う従業員の割合⇒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職に占める女性労働者の割合⇒24.9% 従業員割合⇒61%(国内)
従業員一人ひとりが、ワークとライフの相乗作用により、人生のWILLを実現できる環境を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事以外の生活(家庭での役割や社外活動等)が仕事に良い影響を与えている」と思う従業員の割合⇒75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 57%(国内)
従業員一人ひとりが、多彩な能力を最大限に発揮し挑戦できる環境を整備することで、変革を実現するダイナミズムを創出する人材の育成を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのスキル習得と能力開発に対応した多彩な教育プログラム(ライオン・キャリアビレッジ)を受講している従業員の割合⇒100% 	<ul style="list-style-type: none"> 58%

目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2024年実績)
従業員の心と身体のヘルスケアを支えることで、人材力の強化につなげ、持続可能な企業成長を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> • 歯科健診の受診率⇒100% • アブセンティーズム⇒2021年比改善 	<ul style="list-style-type: none"> • 歯科健診受診率⇒92% (国内) * 海外は、算出方法を検討中 • アブセンティーズム⇒1.1% (国内単体、2021年比増加) * 海外は、算出方法を検討中
労働安全衛生に関する法令遵守及び安全意識の向上が徹底され、従業員及び事業所内で働く外部パートナーが、安全、安心に働くことを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> • 安全に関する教育・研修の受講⇒事業所・拠点における計画(100%)実施 • 労働安全衛生に関する法令遵守 重大事故・災害件数⇒ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> • 研修受講⇒計画に対して100%実施 • 重大事故・災害件数⇒ゼロ ただし、海外連結子会社倉庫 契約社員1件

* 人的資本に関する4項目は、2025年実績より目標・指標を見直して推進します。

▶ [サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2024年実績・施策 PDF \(1.01MB\)](#)

取り組み



ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進



ワークライフエンリッチメントの推進



人材開発



従業員の健康増進



労働安全管理体制の充実



労使関係

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進

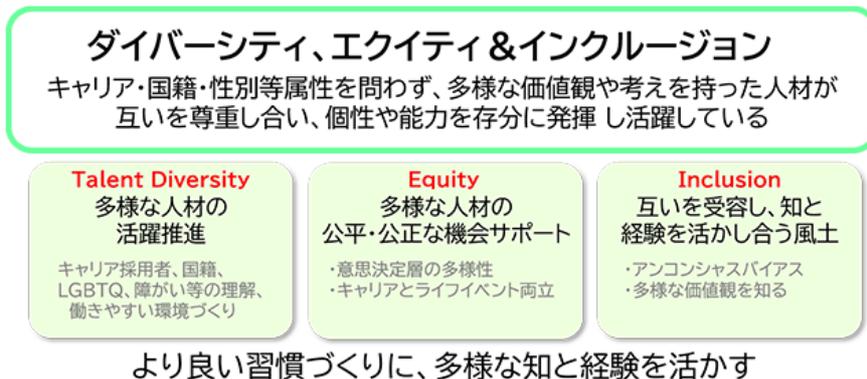
- ▼ 考え方
- ▼ 代表的な活動
- ▼ その他の取り組み
- ▼ 人事関連データ

考え方

ライオングループでは創造的な事業活動を拡大するため、「ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン」に取り組んでいます。くらし・社会課題の解決へ、常にスピード感を持って新しい価値を創出し続けるには、従業員の多様な知と経験を最大限に活かし、より良い習慣づくりに向けた新しい発想やイノベーションを生み出す必要があります。従業員の国籍・性別等属性を問わず、多様な価値観や考えを持った人材が互いを尊重し合い、個性や能力を存分に発揮し活躍できる環境、風土づくりを推進します。

取り組みの全体像

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンでは、タレントダイバーシティとして国籍・性別・経験等から生まれる多様な価値観や考えを持った人材の採用と誰もが働きやすい環境づくり、エクイティとして多様な人材の公平・公正な活躍・成長のための機会づくり、インクルージョンとしてお互いの多様な知と経験を活かして尊重し合う風土づくりの3つを重点的に推進し、Vision2030の実現につなげていきます。



ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの活動の全体像

インクルージョンの浸透に向けては、多様な知と経験を活かす組織風土の醸成及び多様性を受容し業務や価値創造に互いを活かすためのスキルとして、アンコンシャス・バイアス研修を社員から経営層まで各階層別にプログラムを実施しています。また、ジェンダー・エクイティ実現のため、キャリア、生活環境別に分類したそれぞれの層に対し、次世代リーダー育成研修を実施し、ワークライフバランスの取り方の伝授、スキルアップ強化を行っています。

	インクルージョン	ジェンダー・エクイティ	
経営	互いを受容し、知と経験を活かす風土		
	性別の公平・公正な機会サポート		
経営	D&I重要性、アンコンシャスバイアス勉強会		
部門長 部所長	バイアスへの対応施策、風土醸成の推進をサポート	・女性リーダーストーク	幹部候補 女性
管理職	アンコンシャスバイアス管理職研修	・社外メンタープログラム	リーダー 育成対象 女性
社員・ 組織	アンコンシャスバイアス理解 キャリア採用者オンボーディング研修 クロスロード・ダイバーシティゲーム(対話)	・エンパワーメントセミナー キャリア・ライフ・健康の対話・相談の場	社員

インクルージョン浸透及びジェンダー・エクイティ実現に向けた取り組み

代表的な活動

女性活躍推進の取り組み

当社は、さらなる企業価値向上のためには、女性の活躍が不可欠であると認識し、積極的に女性活躍推進施策に取り組んでいます。また男女間の報酬の格差縮小に向けて、教育と研修、家事・育児等のケアワークの責任、職務経験において、性差別、無意識の偏見が影響しないよう、従業員それぞれが学ぶ機会の提供や、公正な成長機会の提供、評価者の研修を行っています。

2020年3月には、役員における女性比率30%をめざすキャンペーン「30% Club Japan^{*1}」の活動趣旨に賛同し、参画しています。参加企業と女性活躍についての意見交換会や、若手女性がキャリアを考えるプログラムに参加しています。また2022年より女性リーダー育成や多様なキャリアアップのサポート、メンタープログラムやエンパワメントセミナーを開始しました。社外専門家によるメンタリングや、社内外ネットワークの構築、自分らしいリーダーシップや活躍の方法を考え実践するプログラムを通じ、参加者の8割以上が自身の意識や行動に前向きな変化を感じています。

様々な取り組みにより、単体での当社の管理職に占める女性労働者の割合^{*2}は16.6%（2024年末）となりました。2030年に向けては、グループ全体で女性の育成・登用を推進し、管理職に占める女性労働者の割合30%以上を目指していきます。

「女性活躍推進法」に基づく当社の行動計画と女性の活躍推進宣言は、厚生労働省委託事業「女性の活躍・両立支援 総合サイト」に掲載されています。



女性リーダー育成「エンパワメントセミナー」の様子

[女性の活躍推進企業データベース\(厚生労働省ホームページ\)](#)

[> 女性活躍推進に関するデータ](#)

*1 2010年にイギリスで設立された「取締役会を含む重要意思決定機関に占める女性割合」を30%まで向上することを目的とした世界的キャンペーン組織の、日本支部

*2 管理的地位を担う人材で、役職的には課長以上に相当する

その他の取り組み

[> その他のダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進に関する取り組みの詳細はこちら PDF \(224KB\)](#)

人事関連データ



ワークライフエンリッチメントの推進

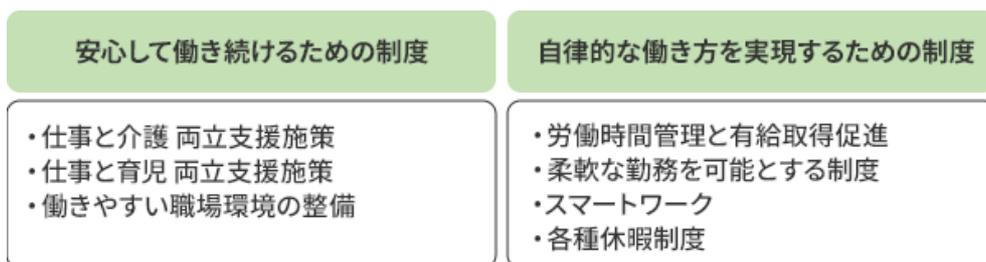
- ✓ 考え方
- ✓ 取り組みの全体像
- ✓ 代表的な活動
- ✓ 安心して働き続けるための制度(仕事と介護／仕事と育児)
- ✓ 自律的な働き方を実現する制度
- ✓ その他の取り組み
- ✓ 人事関連データ

考え方

より良い暮らし・社会の実現に貢献するためには、従業員自身の毎日がより良く、充実していることが大切です。ライオングループでは、仕事と生活が相互に質を高め合い、相乗効果を生むことで、従業員が人生をさらに豊かにしていけるように、一人ひとりの持続可能な働き方を実現するための様々な支援を行っています。

取り組みの全体像

当社では従業員一人ひとりが描く中長期的なライフプランの実現と、従業員一人ひとりが求める日々のライフスタイルの実現に向けた取り組みを行っています。



代表的な活動

1. 安心して働き続けるための制度(仕事と介護／仕事と育児)

従業員一人ひとりが安心して長期的に働き続けるには、介護・育児など人生への影響が大きいイベントに対して、人生設計の選択肢の幅を広げることが必要です。

仕事と介護 両立支援施策

当社では、従業員が安心して働き続けることのできる環境整備のひとつとして、介護に関わる従業員への支援を強化しています。通常の年次有給休暇のほか、介護休業365日、介護短時間勤務(ショートタイムフレックス制度)、介護休暇、医療介護積立休暇(年次有給休暇失効分の積み立て)等、介護に関する制度を整備しています。同時に、40歳以上を対象に介護支援Webサイトを導入し、管理職向け、本人向けの介護セミナー動画を配信するなど、介護に関する情報提供の充実を図っています。

仕事と介護 両立支援制度

介護	介護休業365日	<ul style="list-style-type: none"> 要介護状態の対象家族1人につき、1日単位で365日まで分割取得可能(分割は法令に従い3回まで)
	介護短時間勤務 (ショートタイムフレックス制度)	<ul style="list-style-type: none"> 要介護状態の場合、必要な期間、1日2時間までの短時間勤務取得可能 フレックス制度の併用可能
	介護休暇	<ul style="list-style-type: none"> 要介護状態の家族が、1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日、時間単位で介護を目的として取得可能
	積立休暇 [近親者の介護]	<ul style="list-style-type: none"> 失効した年次有給休暇の積立分(上限60日)を「近親者の介護」目的で取得可能 * 積立休暇はほかに「本人の医療」「ボランティア」目的で取得可能

仕事と育児 両立支援施策

当社では、仕事と育児の両立支援施策の拡充に積極的に取り組んでいます。次世代育成支援対策推進法(次世代法)と女性活躍推進法に基づく行動計画に沿った育児関連制度の拡充と、従業員への意識啓発の結果、2023年の女性従業員の育児休業取得率は105%*となっています(育児介護休業法による・正社員のみ・常勤嘱託除く)。また、男性従業員についても71%*と、幅広い部所で取得者が増加しています。

育児期は、ともするとモチベーションの低下につながることを懸念されます。そのため当社では「復職と育児の支援Webサイト」の開設、育児休業中のスキルアップ支援等、育児期のキャリア開発を支援する取り組みを行っています。また、制度を正確に理解するための、上長同席の個別育児制度説明会や、スムーズに復職し、継続したキャリア形成を支援するための「復職前セミナー」および「復職前後面談」を実施しています。

さらに育児者の活躍推進として、短時間勤務とフレックスタイム勤務を融合した新しい働き方(ショートタイムフレックス制度)も整備しています。(フレックスタイム勤務は、工場の一部の職場を除いたすべての従業員に適用しています。)

* 育児介護休業法による育児休業等の取得割合で算出

仕事と育児 両立支援制度

出産	産前・産後休暇	<ul style="list-style-type: none"> 産前6週間、産後8週間[有給]
	特別休暇 妻の出産	<ul style="list-style-type: none"> 2日間[有給(賞与支給)]
育児	出生時育児休業	<ul style="list-style-type: none"> 出産予定日または出産日の遅い方から8週間以内を取得 最大28日 2回分割可能 初回休業*の2週間まで有給、賞与は控除
	育児休業	<ul style="list-style-type: none"> 子が2歳に達するまで取得 1歳まで2回分割可能 1歳～1歳6ヵ月で1回、1歳6ヵ月～2歳で1回、夫婦で交代可能 初回休業*の2週間まで有給、賞与は控除
	育児短時間勤務 (ショートタイムフレックス制度)	<ul style="list-style-type: none"> 子が小学校1年の年度末まで、1日2時間まで短縮可能 フレックス制度の併用可能
	所定外労働の免除	<ul style="list-style-type: none"> 小学校就学前の子を持つ社員が申請する場合、所定外労働を免除
	子の看護休暇	<ul style="list-style-type: none"> 小学校3年の年度末までの子のケガや病気の看護、感染症に伴う学級閉鎖等になった場合や入園(入学)式、卒園式への参加のため時間単位で取得可能[有給] 就学前の子が1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日

* 出生時育児休業もしくは育児休業のどちらか最初に取得する休業

[よくあるご質問: 福利厚生について](#)

働きやすい職場環境の整備

2023年に移転した新本社では、子育て中の従業員が安心して働けるように、子供連れて仕事ができる「親子ルーム」と「マザーズルーム」を設置しています。



親子ルーム



マザーズルーム

仕事と育児の両立者の声

私は2016年と2019年にそれぞれ出産して育児休業を取得しました。第一子の時から会社の各種サポート制度は充実していましたが、第二子の時はさらに強化されて、ママにとってとても働きやすい環境になっていると感じています。育児休業から復職した際は、一人目の時はもちろん、二人目の時も仕事をしながら二人育児をする生活が想像できなかったのも、職場に戻ることに大きな不安がありました。しかし、そんな中で参加した復職前セミナーでは、先輩ママの体験談を聞いて両立のイメージが持てるようになったり、同じタイミングで復職するママと話すことで共に頑張ってみようと思えたり、会社の制度もどんどん整備され、復職を前向きに捉えられるようになっていました。

また、私は社内婚ですが、第二子の時はパパも育児休業を取得しました。男性も女性も関係なく会社全体が育児に対して協力的なので、気兼ねなく子育てを楽しむことができありがたかったです。

現在はショートタイムフレックス制度、フルフレックス制度、テレワーク制度を活用していますが、それに加えて上長・同僚の理解も大きいので、臨機応変な働き方ができてとても助かっています。改めて、育児をしながら仕事をする環境として本当に恵まれていると思います。



2. 自律的な働き方を実現する制度

従業員一人ひとりが求める日々のライフスタイルを実現するためには、残業・長時間労働の削減、休暇制度を利用しやすい環境や、働く時間や場所の柔軟性を高める必要があります。

労働時間管理と有給休暇取得促進

当社では、2010年から長時間労働の削減と有給休暇の取得促進に取り組んでいます。労働時間管理に関するコンプライアンス研修(e-ラーニング)を通じて理解促進を図っています。また、有給休暇取得率80%の達成に向けた取組みを実施しています。

場所や時間など自ら選択できる働き方のしくみ

当社では、2015年より、働く場所を職場に限定しない在宅勤務を制度化し、柔軟な働き方を推進、従業員の多様性に対応した自律的な働き方や生産性向上を図っています。

2021年1月には、テレワーク制度・フルフレックス制度(コアタイムの撤廃・中抜け制度の新設)を制度化し、働く時間や場所の裁量を拡大、多様性に対応した自律的な働き方へシフトしました。

現在、テレワーク制度の利用率は50%前後で推移しており、個人に合った最良の働き方の定着が見られ、働きがいの向上にも寄与しています。また、勤務時間を自己裁量とすることが難しい生産現場の従業員は、育児、介護のみならず家族等の送迎や通院時、学校行事など短時間の所用に対し利用可能なお助け休暇制度(時間単位で特別休暇が取得出来る制度)を活用することで、生活との両立を図りやすくし、モチベーションの向上につなげています。

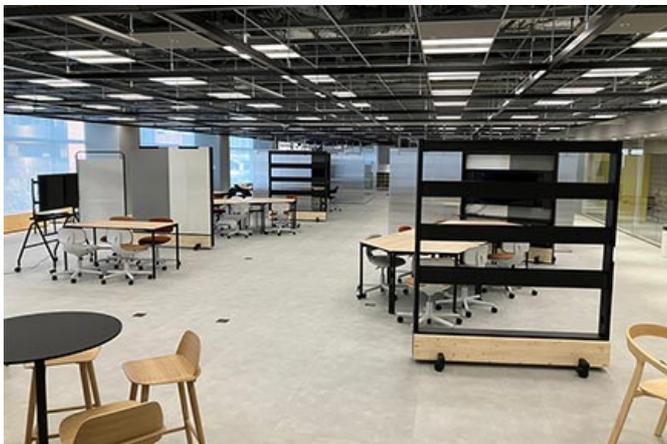
テレワーク、フルフレックス時の半休と中抜けを利用したスケジュール例



スマートワーク

当社では、従来の「オフィスに出勤し、決められた席で働く」というスタイルから、ICTを活用し、社員が出勤か在宅も含め自律的に業務内容や気分に合わせて、時間と場所を自由に選択するという働き方を推進しています。

創造的で付加価値の高い活動(本質)で勝負する従業員のマインドとそれを評価する企業風土を醸成していきます。



新オフィス内の様子

従業員意識行動調査

従業員一人ひとりが働きがいを持って働いている状態を目指し、従業員の意識と行動の変化を確認するため、2013年より国内グループ従業員を対象に「従業員意識行動調査」を年に一度実施しています。調査結果は、従業員の働きがいの向上につながる施策の検討等に活かしています。

[> 結果はこちら](#)

その他の取り組み

[> その他のワークライフエンリッチメントの推進に関する取り組みの詳細はこちら](#)  (180KB)

人事関連データ



人材開発

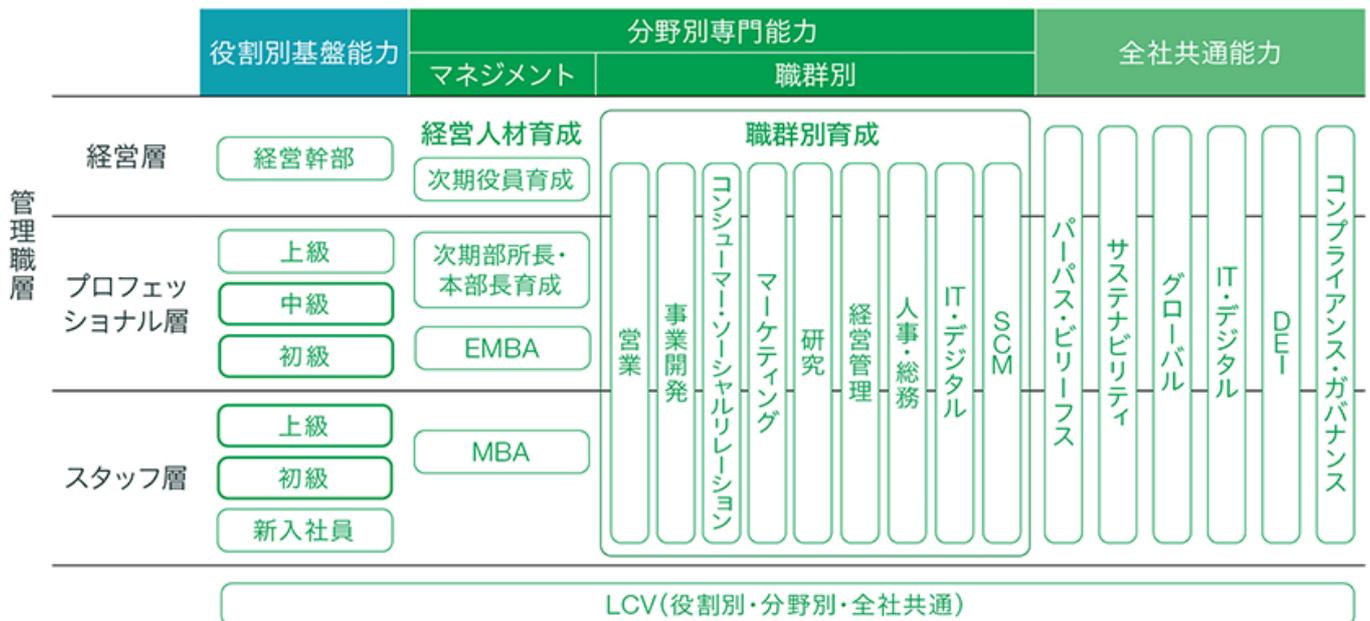
- ▼ 考え方
- ▼ 取り組みの全体像
- ▼ 代表的な活動
- ▼ その他の取り組み
- ▼ 人事関連データ

考え方

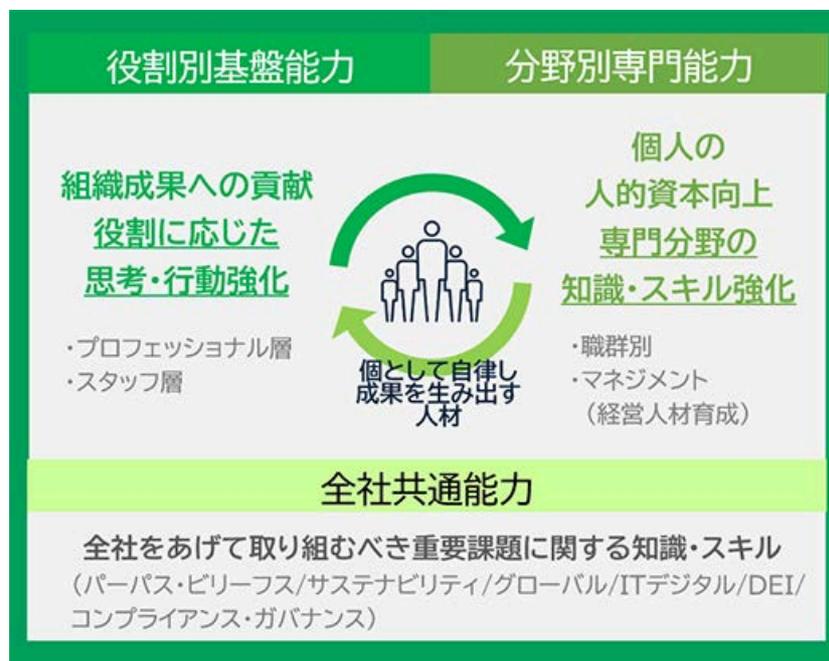
ライオングループは経営ビジョンの実現へ一人ひとりが貢献するために、従業員の知識、能力を高める多彩な学習機会を提供しています。また、個人の能力やキャリアの開発にとどまらず、組織全体として成果を生むためのマネジメント能力の強化や、次世代経営人材の育成に取り組み、個人と組織の両方の能力向上に取り組んでいます。

取り組みの全体像

当社では、組織の中での役割に応じた成果創出力を高める「役割別基盤能力」と、個々人の専門分野ごとの知識・スキルを強化する「分野別専門能力」、ライオン社員全員に求める「全社共通能力」の3つの柱で能力開発を行っていきます。



能力開発に向けた取り組み概要



能力開発に向けた3つの柱の関係

代表的な活動

従業員の課題解決力の向上

組織目標達成のために自らが担う役割を理解し、主体的に考え行動する能力開発に向け、「役割別基盤能力育成プログラム」を全社的に導入しています。管理職から非管理職まで、各層に求められる水準に合わせて成果を生み出す行動として4つのコンピテンシー「課題設定」「解決意向」「疑う力」「論理的思考」を高めるためのプログラムを展開しています。

Vision2030を牽引する次世代の経営人材育成

長期視点でライオングループの未来を描き、組織全体の活力を引き出せる次世代のリーダーを選抜・育成するプログラムです。国内外から集まった人材が、海外のビジネススクールでの短期研修による経営リテラシー及び経営戦略の遂行力の強化や、ライオングループの歴史の理解を深め、役員に対し経営ビジョン実現のための変革提案を行う実践的なカリキュラムにより、経営ビジョンの実現をリードする人材を育成しています。

一人ひとりの専門性の獲得と向上

グローバルな競争環境で価値を生み出せる、高い専門性を持ったプロフェッショナル人材の育成を目的として、職種・職能領域を束ねた「職群」ごとに組織横断的な人材育成、キャリア開発にも取り組んでいます。職群は、専門分野別に9つに分かれ、各領域のプロフェッショナルとしての知識、スキルを高めるプログラムを展開しています。

- ・ 職群とは、求められる専門性が近い機能・職種を組織横断的に束ねた専門性の分類です。
- ・ プロフェッショナル人材の育成に向け、専門領域を明示したキャリアパスや、専門領域別の能力開発を実施する区分として設定しています。



職群イメージ

その他の取り組み

> その他の人材開発に関する取り組みの詳細はこちら [PDF](#) (204KB)

人事関連データ



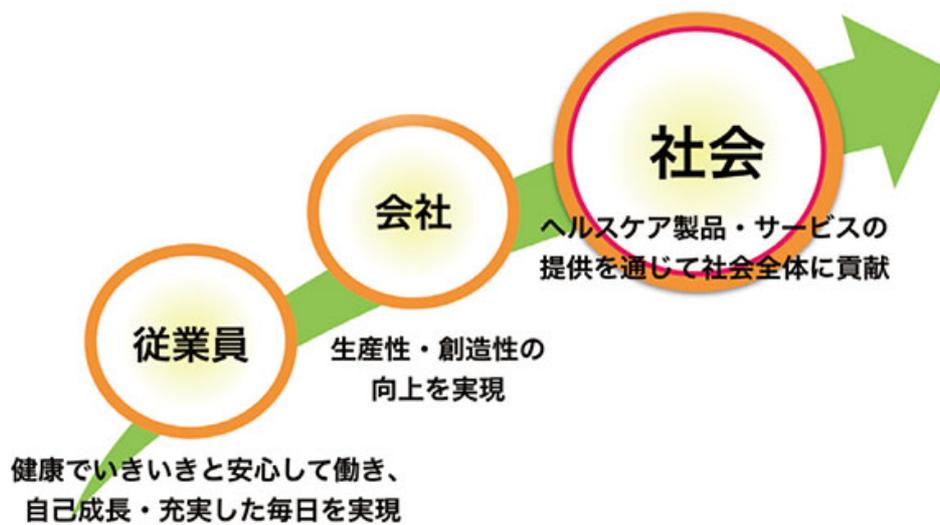
ESGデータ・第三者検証 人事関連データ [>](#)

従業員の健康増進

- ▼ 考え方
- ▼ 取り組みの全体像
- ▼ 推進体制
- ▼ 代表的な活動
- ▼ その他の取り組み
- ▼ 人事関連データ

考え方

健康な生活習慣づくりに取り組む当社において、従業員の心身の健康は欠かすことのできない大切な経営基盤の一つであるという考え方のもと、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」を実現するために、「健康指針」を柱に、会社・従業員・健康保険組合が一体となり、健康行動の習慣化へのサポートを行っています。



従業員の健康増進の考え方

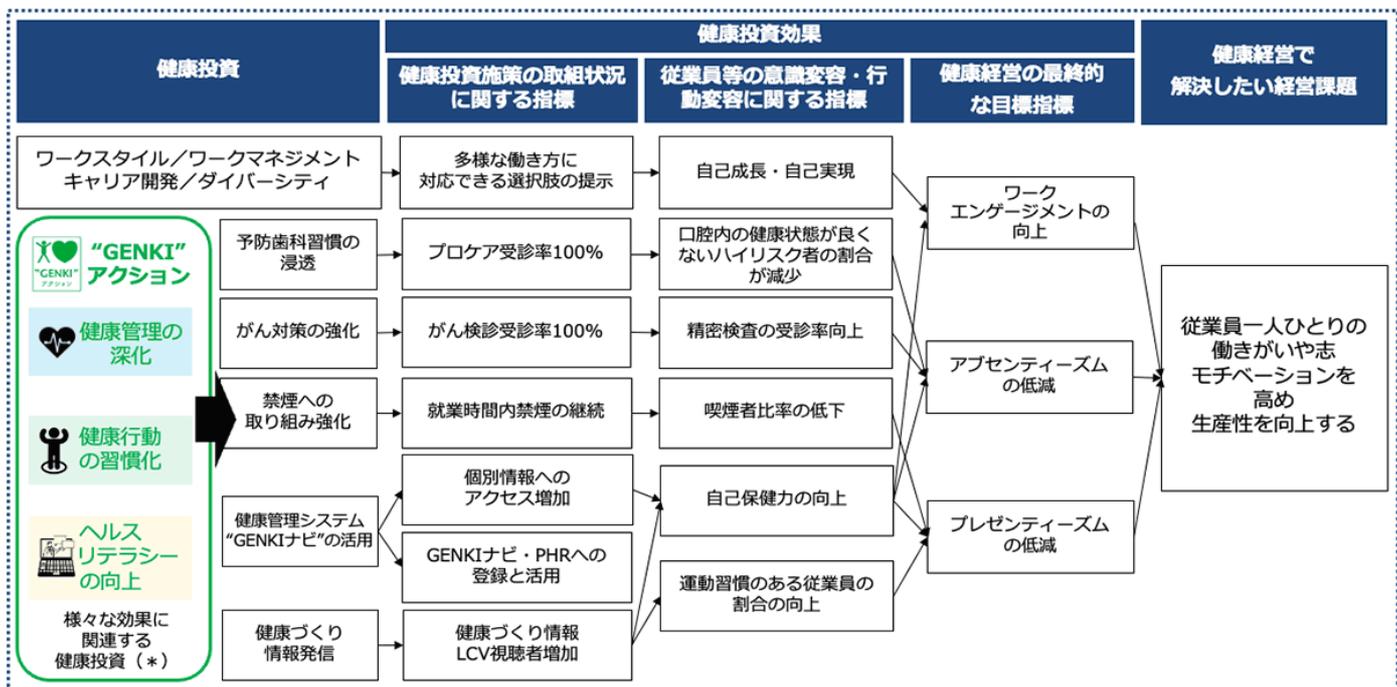
取り組みの全体像

当社は、従業員が多彩な能力を発揮できるよう、健康において自律した力を養うサポートとして健康サポート“GENKI*”アクション活動を行っています。

「健康管理の深化」、「健康行動の習慣化」、「ヘルスリテラシーの向上」を3つの柱とし、予防歯科習慣の浸透、がん対策、健康管理システムの活用による生活習慣の見える化に取り組み、従業員一人ひとりの働きがいや志、モチベーションを高めることで生産性を向上し、健康経営の基盤強化を推進しています。

* Good life Enhancement for (K)今日を(I)愛する。





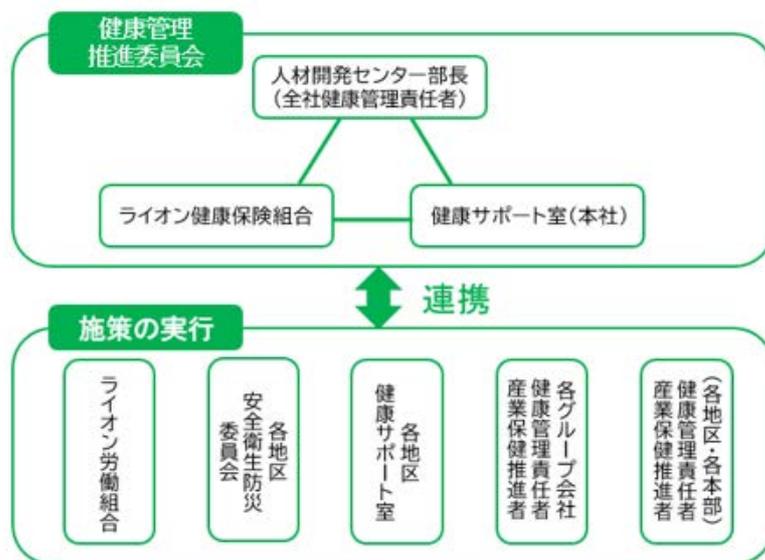
健康経営戦略マップ

* 基本的に「健康投資」と「健康投資施策の取組状況に関する指標」は1対1で対応する。

しかし、中には複数の「健康投資施策の取組状況に関する指標」に対応する「健康投資」も存在するため、そのような「健康投資」を「様々な効果に関連する健康投資」とする。

推進体制

当社は、全社健康管理責任者を中心に健康サポート室とライオン健康保険組合と連携し、健康管理を推進しています。健康サポート室は全11地区に設置され、産業医や看護職が業務を行います。各地区の健康サポート室は本社と連携し、健康保持増進施策を運営・推進します。本社健康サポート室は全社方針や計画の策定、統計の取りまとめを担当します。当社は従業員の健康管理を組織的に行い、活力ある会社を目指しています。



代表的な活動

健康サポート“GENKI”アクション活動として、健康管理システム“GENKIナビ”の活用や進化、予防歯科習慣の浸透、がん対策及び禁煙への取り組み強化を重点施策と位置づけ、生活習慣の見える化や情報発信に注力しています。これら施策に対する投資額は1,200万円でした。(2024年度)



GENKIアクションの全体像

1. 健康管理システム“GENKIナビ”の活用

健康管理システム“GENKIナビ”は、「見える化」、「セルフチェック」、「楽しい健康づくり」をコンセプトに開発され、PCやスマートフォンからアクセス可能です。従業員の「健康行動の習慣化」と「ヘルスリテラシーの向上」を目指し、2022年4月18日からは、健診データを元に「将来の健康リスク」を見える化する機能を追加しました。この機能により、保健指導で生活習慣の振り返りや行動変容の動機づけできるように設計されています。



GENKIナビの主な機能

2. 予防歯科*習慣の浸透

* むし歯等になってから治療するのではなく、なる前の「予防」を大切にする考え方。歯科医院等でのプロケアの実施と毎日のセルフケアの両方を継続して実践すること

| 予防歯科プログラム

当社では、1970年代から継続して予防歯科の活動を実施してきました。

2002年からは健康保険組合とライオン歯科衛生研究所(LDH)と連携し、従業員の口腔保健管理を中心に行う「ALOHA」活動を開始しています。現在はPDCAを回しながら「ALOHA VIII」として長期に渡って継続しています。業員の昼食後の歯みがき実施者率は、2002年には53%でしたが、2024年には80%へと増加し、4mm以上の歯周ポケットがある歯周病の有病者は、33%から27%へ減少しました。

ALOHA VIII (All Lion Oral Health Activity)

口腔保健管理

- ・歯科健診時、チェアサイドでの保健指導
- ・反復嚙下テスト(RSST)実施による口腔機能の把握
- ・口腔状態ハイリスク者への受診勧奨

自己管理能力の向上

- ・歯間清掃用具利用促進(グッズ配布と動画の配信)
- ・社内施策に合わせた情報発信
- ・従業員へのオーラルケア教育(動画の配信)

ALOHA VIIIの概要

| 予防歯科の実践(プロケア受診の促進)

当社では、従業員が予防歯科を実践しやすくするため、プロケア受診の奨励金キャンペーンを定期的に期間限定で展開しています。プロケアの重要性を伝えつつ、参加者にはオリジナルロゴのステッカーやリモート背景画像を配布しています。これらの取組みにより、「受診したくなる」環境づくりを目指しています。その結果、2002年のプロケア受診率は10%でしたが、2024年には56%へと受診率が増加しています。

3. がん対策の強化

当社は、2021年より精度の高いがん検診の費用補助制度を導入し、従業員のがんリテラシー向上セミナーを開催しています。

2024年からは、40歳以降の節目年齢での、健康保険組合による受診費用補助制度も開始しています。これらの取組みにより、当社は令和4年度から3年連続でがん対策推進優良企業として表彰されました。

	40歳	41歳~49歳	50歳	51歳~59歳	60歳	61歳~
①B・C型肝炎検査	●					
②胃がんリスク検査	●					
③胃内視鏡検査			●		●	
④大腸内視鏡検査	●		●		●	
⑤肺CT検査			●		●	
⑥二次検診費用補助 対象: 肺・胃・大腸・子宮・乳・前立腺 (健康保険組合)	→					

がん対策に向けた取組み

4. 禁煙への取組み強化

職場における受動喫煙防止策として、喫煙者へ禁煙支援と環境整備を推進しました。環境整備では、2020年1月より就業時間内の禁煙、同年4月より建屋内の禁煙をルール化しました。また、2022年より健康保険組合は、禁煙外来受診費用の補助制度を開始するなど禁煙への取組みを継続して行っています。

その他の取組み

▶ その他の従業員の健康増進に関する取組みの詳細はこちら  (396KB)

企業向けオーラルケアセミナー

当社では予防歯科を広めるために、自社以外にも企業向けオーラルケアセミナーを実施しています。

 [詳しくはこちら](#)

人事関連データ



労働安全管理体制の充実

- ✓ 基本理念と方針
- ✓ マネジメントシステム
- ✓ 推進体制
- ✓ 災害・事故発生実績
- ✓ 災害・事故防止への取り組み
- ✓ 自然災害防災(緊急事態への対応)
- ✓ 教育・啓発活動
- ✓ グローバルでの取り組み

基本理念と方針

ライオンは、グループで働くすべての人の安全と健康を確保し、快適で働きやすい職場環境を確立するというグループ全体の取り組み姿勢を明確にするため、『安全は何事にも優先する』という共有の基本理念のもと「AL(オールライオン)安全衛生防災方針」を制定し、安全衛生防災活動を推進しています。本理念は海外を含めたライオングループで働くすべての人に共有しています。

2025年AL安全衛生防災方針

◆ 「安全は何事にも優先する」という基本理念の下、ライオンは当社グループで働くすべての人の安全と健康を確保し、快適で働きやすい職場環境の確立を目指します。

1. 経営者と従業員のコミュニケーションを通じて、労働安全衛生・設備安全・防災体制の一層のレベル向上を目指す。
2. 働く人の心身の健康づくりと、快適・安全な職場環境づくりを推進する。
3. 無事故・無災害を実現するために、関係諸法令を遵守すると共に、安全衛生防災マネジメントシステムを継続的かつ効果的に運用する。

《AL安全衛生防災目標》

重大災害：0件 重大事故：0件

2024年12月
安全衛生防災会議
議長 **桑竹史智**

AL 安全衛生防災方針 日本語版

2025 AL Safety, Health and Disaster Prevention Policy

◆ Under our fundamental principle that "safety is its absolute top priority", Lion strives to ensure the safety and health of all employees in the Lion Group and to create a comfortable and pleasant work environment.

1. Promote further improvement in occupational safety and health, facility safety, and disaster prevention systems through communication between management and employees.
2. Promote the creation of physical and mental health for employees and the establishment of a comfortable and safe working environment.
3. To ensure zero accidents and zero incidents in business activities, we comply with relevant laws and regulations and continuously and effectively operate the Safety, Health and Disaster Prevention Management System.

AL Safety, Health and Disaster Management Targets

Serious accidents: 0
Serious incidents: 0

December 2024

Shinichi Kusahiki
Chair of the Safety, Health and Disaster Prevention Meeting

AL 安全衛生防災方針 英語版

マネジメントシステム

ライオングループでは、労働安全衛生管理体制の強化に取り組んでいます。厚生労働省の指針に基づく「労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)*」に「防災」を付加した独自の「安全衛生防災マネジメントシステム」を構築し、国内グループ会社すべてで2009年より開始しました。そして、2012年以降、内部監査などによりシステムの実効性を向上させ、2014年からは「安全衛生防災会議」(1992年に「保安環境会議」として発足)の運営を行っています。

この「安全衛生防災マネジメントシステム」のもと、危険性及び有害性の低減、作業環境の維持を継続的に進め、安全・安心な職場環境と体制づくりに取り組んでいます。

* Occupational Safety and Health Management System の頭文字。安全衛生活動を組織的かつ体系的に運用管理するための仕組み。

推進体制

ライオングループの取締役執行役員を議長とした「安全衛生防災会議」にて、全社における労働安全（労働環境、健康障害防止、精神的健康の保持促進含む）、設備安全および防災の確保等についての施策立案と審議を行い、全社の安全力・衛生力・防災力の強化を図っています。2018年から安全衛生防災管理の事務局として専門部所（安全衛生防災室）を設置することで体制の強化を図り、リスクの徹底的な排除へ向けた取り組みを継続的に推進しています。

また、各事業所（国内グループ会社を含む）では、労働安全衛生法に基づき組織された「安全衛生防災委員会」が主体となり、各事業所内で働くすべての従業員の意見を反映させ、事業所特有の問題を含めた課題解決を図っています。

さらに、海外グループ会社に対しても、「AL（オールライオン）安全理念」の共有をはじめ、日本から安全衛生防災活動の支援を積極的に行っています。

災害・事故発生実績

2024年の国内グループ従業員（派遣社員を含む）の労働災害や設備事故による死亡者数は0人^{*1}でした。

*1 ただし、海外連結子会社倉庫 契約社員1件

国内グループ従業員（派遣社員を含む）の労働災害や設備事故による死亡者数

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ライオン	0名	0名	0名	0名	0名
国内グループ会社	0名	0名	0名	0名	0名

2024年の国内グループ従業員（派遣社員を含む）の重大災害は0人でした。業務上労働災害による被災者数は29人で、その内休業災害の被災者数は6人でした。業務上労働災害の主な事故型は『転倒』が6人で最も多く、内4件は休業災害となり、重症化しやすい事故型でもありました。

国内グループ従業員（派遣社員を含む）の労働災害発生状況^{*2}

項目	指標	対象	実績					
			2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
休業災害 ^{*3}	度数率 ^{*4}	国内グループ全体	—	—	—	—	0.66 ^{*5}	
		内訳	オフィス事業所	—	—	—	—	0.00
			研究事業所	0.00	0.00	0.00	0.67	0.67
			工場	0.31	0.92	0.96	0.66	1.69
		参考：厚生労働省労働災害動向調査 化学工業		0.93	1.07	1.16	1.04	1.23
	強度率 ^{*5}	国内グループ全体	—	—	—	—	0.01 ^{*6}	
		内訳	オフィス事業所	—	—	—	—	0.00
			研究事業所	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
			工場	0.01	0.01	0.06	0.02	0.02
		参考：厚生労働省労働災害動向調査 化学工業		0.03	0.02	0.06	0.03	0.04
不労災害	度数率 ^{*4}	国内グループ全体	—	—	—	—	2.53 ^{*6}	
		内訳	オフィス事業所	—	—	—	—	1.95
			研究事業所	0.77	1.54	0.00	2.02	1.35
			工場	2.78	2.15	2.56	5.49	4.05
全災害	度数率 ^{*4}	国内グループ全体	—	—	—	—	3.20 ^{*6}	
		内訳	オフィス事業所	—	—	—	—	1.95
			研究事業所	0.77	1.54	0.00	2.69	2.02
			工場	3.09	3.07	3.52	6.15	5.73
営業車両事故	人身事故（件）	国内グループ全体	2	0	0	1	2	

*2 通勤災害を除く

*3 死亡、休業災害(1日以上)、不労災害で身体機能を失う場合

*4 度数率=休業災害(被災者数)/延労働時間数×百万時間

*5 強度率=損失日数/延労働時間数×千時間

*6 2024年より集計対象範囲にオフィスを追加し、国内グループ全体に拡大

2024年の国内グループにおける異常現象*7は、0件でした。

設備事故(異常現象*7)発生状況(件)

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ライオン	0	1	0	1	0
国内グループ会社	0	0	1	2	0

*7 火災、爆発、漏洩など

災害・事故防止への取り組み

トップ安全監査

国内グループ生産部門工場に対して、安全衛生防災会議議長を責任者とし安全監査を計画的に実施しています。現地では、安全衛生防災活動の運用状況、安全管理および安全衛生防災水準が維持・向上されているかを客観的立場で監査し、工場の事故・災害リスク低減を図っています。2024年は、3工場*に対して「トップ安全監査」を実施しました。

* 大阪工場、ライオンケミカル株式会社オレオケミカル事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社四日市事業所



安全衛生防災会議議長による大阪工場「トップ安全監査」の様子(2024年)

労働安全

国内グループ内で発生した労働災害を災害速報として「安全衛生防災会議事務局」より全従業員に発信することで、事業所ごとに類似災害発生の危険性がないかを再確認するとともに、従業員一人ひとりへの注意喚起の徹底を図り労働災害発生防止に繋げています。また、近年の傾向では、毎年『転倒』災害が最も多く発生していることから、『転倒』災害の防止対策を中心に活動を更に推進していきます。

設備安全

国内グループ全生産工場では、設備事故が発生した際の調査結果に基づき、類似箇所の改善を実施しています。近年の設備漏洩事故の教訓から、全生産工場において、危険物屋外タンク・防油堤の点検実施と設備保全計画の見直しを行いました。さらに、設備老朽化による漏洩の危険性を早期に発見するため、新たな非破壊検査方法の導入を検討しています。今後も変更管理*プロセスの運用強化により、中・長期的な視点で設備安全技術力の向上や事故リスク低減に一層取り組んでいきます。

* 設備面及び運転条件などの変更にもなうリスクを防止するマネジメント活動

保安防災

国内グループ全生産工場では、生産工場における大規模災害の発生を想定した防災訓練を各地域の公設消防隊と合同で実施し、有事の際に対する地域との連携の強化を積極的に行っています。2024年10月には、「香川県石油コンビナート総合防災訓練*」を主幹会社として、ライオンケミカル株式会社オレオケミカル事業所にて実施しました。



香川県石油コンビナート総合防災訓練の様子(2024年)

* 参加機関、企業：四国地方整備局、香川県危機管理総務局、坂出市消防本部、高松海上保安部、坂出海上保安署、日本赤十字社、番の州地区特別防災協議会（コスモ石油株式会社、四国電力株式会社、三菱ケミカル株式会社、川崎重工業株式会社、YKKAP株式会社、ライオンケミカル株式会社）

自然災害防災(緊急事態への対応)

国内グループでは、緊急事態の内容を層別し、それぞれに対応するマニュアルを整備して万一の場合に備えています。特に『大規模地震』『線状降水帯による大雨』をはじめ激甚化する各種自然災害をコーポレートリスクと捉え、災害の規模・被害状況に応じた対応内容・行動基準を詳細に定めた事業所毎の防災訓練に加え、全社合同による防災訓練を実施し、リスク低減に向けた活動を推進しています。

また、多様化する働き方に対応するため、リアルとリモートを融合させた災害対策体制を確立させ、大規模な自然災害に備えています。今後も自然災害の多発化・激甚化及び働き方・就業スタイルの更なる多様化を見据え、災害対応体制の一層のレベルアップを図るとともに、安否確認訓練や救命講習受講などを通じた、従業員一人ひとりの緊急事態対応の取り組みと、地域貢献につながる防災活動の強化も継続していきます。



防災訓練(蔵前本社)

教育・啓発活動

安全教育

労働災害発生防止のためには、安全管理体制及び労働安全意識の強化が重要です。当社は、「全社社内e-ラーニング」を活用した安全意識教育と事業所ごとの安全教育を計画的に実施しています。2024年は、各部署の安全教育、研修の実施率は、100%であり、全社を対象とした社内安全e-ラーニング受講結果は、97.3%でした。

全社社内安全e-ラーニング受講結果

	2023年	2024年
対象者	4,373名	4,256名
受講率	96.2%	97.3%

安全啓発活動(ライオン安全の日)

ライオングループでは、毎年6月26日を『ライオン「安全の日」』として定め、社長および安全衛生防災会議議長が生産工場に赴き、全社朝礼にて国内グループ全社に向けた社長の安全メッセージ、議長による安全講話のライブ配信を行い、国内グループ全従業員が安全の重要性を再認識する啓発活動を33年間継続して行っています。また、『ライオン「安全の日」』に合わせて、国内グループ全従業員を対象とした「安全標語」「安全意識調査」などの様々な安全意識向上施策を展開しています。



社長からの『ライオン「安全の日」』
メッセージライブ配信(2024年)

2024年度

ライオン『安全の日』安全標語

深呼吸

**焦る気持ちにブレーキを
未然に防ごう 労働災害**

2024年度ライオン「安全の日」安全標語

グローバルでの取り組み

ライオングループでは、海外グループ各社に対して状況に応じた支援を継続的に行い、安全・衛生・防災体制の強化に努めています。2024年は、海外生産工場3か国（ベトナム、インドネシア、マレーシア）、海外オフィス2か国（香港、シンガポール）を訪問し、各国の安全管理状況の確認による安全リスク抽出や不安全箇所の改善などについてディスカッションを行い、現地従業員の安全意識の向上と労働災害の防止に向けた管理の向上を図りました。

また、海外生産工場（タイ）に対して、厚生労働省助成対象事業である『アジア安全衛生SAKURAプロジェクト』の制度を活用し、外部機関からの安全指導を支援しました。



Merap Lion Holding Corporation（ベトナム）でのディスカッションの様子（2024年）

労使関係

- ▼ 良好な労使関係のために
- ▼ 労働組合
- ▼ 労使関係データ

良好な労使関係のために

考え方

ライオンは、相互の理解と信頼に基づく健全な労使関係の推進と、会社ならびに労働組合の社会的使命と責任の自覚のもとで、**ライオン企業行動憲章**を遵守し、相協力して社業の発展と組合員の労働条件の維持向上を図ることを目的として、労働組合と労働協約を締結しています。

その中で、会社は組合員の正当な組合活動の自由を認め、これを理由として不利益な取り扱いをしないことや、会社と組合は、対等な立場で協議するために、労使協議会を設け、定期開催することを定めています。

当社ではユニオン・ショップ制*を採用し、労使協議会での経営状況の報告や職場環境についての意見交換等労使で積極的に活動し、健全な労使関係の維持・向上に努めています。また、海外グループ会社においても、労使協議会等を通じて、よりよい職場環境の実現に向けて従業員と経営のコミュニケーションを積極的に図り、健全な労使関係の構築・維持に努めています。

* 労働者が会社に雇用された際に、特定の労働組合の組合員になることが条件である労働協約。

労働組合

考え方

当社の労働組合は、組合員の幸せを追求することを使命とし、労働環境と生活の質の維持・改善や安心できる未来のために一人ひとりの自律的成長に貢献したいと考えています。また、当組合の活動を通じて、組合員の働きがいを向上させることで、会社の発展と成長にも貢献していきたいと考えています。使命と活動理念の実現に向けて、労働組合中期VISIONを掲げて、2020年8月より取り組んでいます。



推進体制

労働組合、会社ともに目指す目標は同じく、「従業員の幸せ実現」と「社業の発展」です。互いの目標を実現させるべく、協力や議論を行っています。(図1)

労働組合は、中央執行委員で構成される本部、11支部1地区の組合員により構成されています。(図2)

本部では中央執行委員会を年間で約21回、中央労使協議会を年間約7回実施し、また各支部においても支部執行委員会、地区労使協議会を毎月実施する等、雇用賃金労働条件等の労使交渉だけでなく、組合員の幸せを追求するため、労使協調して、よりよい会社をつくるべく活動を行っています。

また、労働組合としての最高決議機関である組合大会では、代議員制ではなく、組合員1人1票制を敷いています。労働組合の総意として審議を行い、組合員の声を会社に届けています。

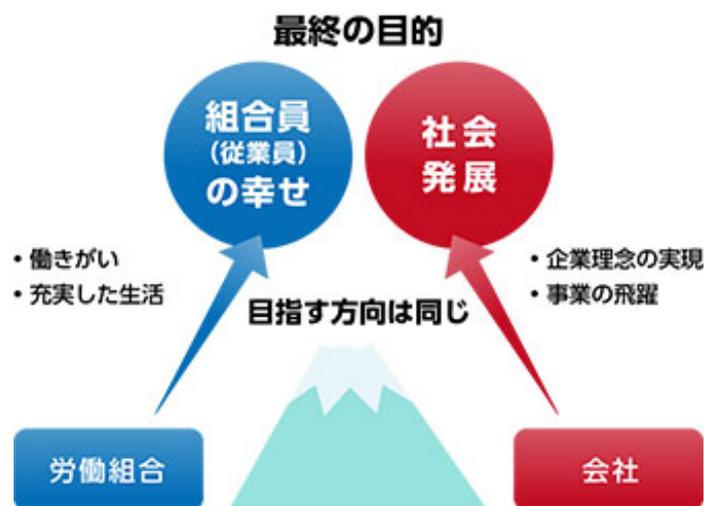


図1 労使協調





図2 労働組合組織体制

取り組み

2020年8月より、労働組合が目指す幸せのカたちであるVISIONを刷新しました。「誰もが自分らしく、互いを高め合い、豊かな未来を共に生きる」姿を目指して、2025年まで活動に取り組んでいます。このVISIONを、多様な存在が共生し合っている逞しい姿の象徴として“豊かな森”をインスパイアしてLION FORESTと名付けました。

LION FOREST達成に向けた柱として、「育む」「繋げる」「巡る」の3つの活動領域を定めています。

「育む」…なりたい自分を発見し、新しい自分を育み、挑戦する。

「繋げる」…視野を拡げ、仲間と共に新たな価値を創造する。

「巡る」…仲間への想いと支え合いを循環させ、安心と信頼を実感する。

具体的には、職種間・社内外の交流機会を増やしていく事や、情報発信や現場発信の制度改革を通じて、魅力ある働き方を実現していく等、個々人が“自分らしく”働けるような取り組みを行っています。これからも、組合員との接点拡大を目指し、本部・各支部にてセミナーやイベント等、幅広い活動を推進していきます。



Lion Corporation (Korea) が「労使文化大賞 国務総理賞」を受賞!

「労使文化大賞」は、労使間で協力的な雰囲気をつくり、定着させている企業に授与される、韓国政府(雇用労働部主管)が推進する表彰制度です。韓国労働関連分野において、最高レベルの表彰となります。

Lion Corporation (Korea) (以下、「ライオン코리아」という。)の良好な労使関係の構築に向けた取り組みが高く評価され、2017年に「労使文化大賞 国務総理賞」を受賞しました。

以下、評価されたライオン코리아の主な取り組みです。

- 労使間で労働環境について話し合う「労使協議会」を年4回実施し、提案内容の約6割が実際導入されていること
- 非正規社員に対しても、正社員同等の福利厚生・各種イベントの参加機会を付与していること
- 「愛の精神の実践」・「人中心の経営」を人事政策の基本として、すでに雇用している非正規社員についても、正社員採用時に勤務態度、能力が優秀な人を優先的に登用していること
- 毎月ボランティアの日を設定し、従業員が積極的に社会へ貢献する取り組みに参画していること

> ライオン코리아の取り組み

労使関係データ

指標	対象	2021年度	2022年度	2023年度
労働組合、労使協議会等、従業員と経営が協議する仕組みがある法人割合(%)	ライオングループ全体	86.4%	86.4%	86.4%
上記加入従業員比率(%)	単体+出向者	77.9%	65.9%	62.6%
	ライオングループ全体	75.1%	72.9%	71.3%

今後もより良い労使関係構築に向けて、取り組みを進めます。

人権の尊重

- ▼ 基本的な考え方
- ▼ ライオン人権方針
- ▼ 推進体制
- ▼ 2030年目標と進捗
- ▼ 取り組み

基本的な考え方

ライオングループは、パーパス「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」に基づき様々な施策を実施しています。その一つとして、「[ライオン企業行動憲章](#)」において、「人権の尊重、全ての法律、国際ルール及びその精神の遵守」を定め、「[行動指針](#)」においては、児童労働や強制労働を認めないこと、機会均等な雇用と就業者に対する公正な処遇を行うことや、購入先における人権についても示しています。

また、世界の全ての人々の基本的人権について規定した「[国際人権章典](#)」(世界人権宣言、経済的・社会的及び文化的権利に関する国際規約、市民的及び政治的権利に関する国際規約)、「[国連グローバル・コンパクトの10原則](#)」、「[労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言](#)」、「[子どもの権利とビジネス原則](#)」をはじめとする人権に関する国際規範を支持し尊重することを表明しています。

人権は、人が生き、幸福と生活の向上を追求する上で欠くことのできないものです。当社グループは、人種、宗教、性別、性的指向、年齢、国籍、障がい等の多様性を認め、あらゆる人権を尊重することが企業の責任であり、事業基盤を強めると認識しています。

ライオン人権方針

2019年に人権侵害に対する当社グループの姿勢やグローバルでの取り組み姿勢等をより明確にするため、「[ビジネスと人権に関する指導原則](#)」に基づき、「[ライオン人権方針](#)」を制定し、その後も人権の取り組みを強化するため人権方針の定期的な見直しを行っています。

2023年にはビジネスと人権を取り巻く社会情勢や当社グループの人権デューディリジェンス*推進状況等を踏まえ、人権方針に必要な要素を精査し、取締役会での承認を経て人権方針を改定しました。

改定内容は、人権の尊重のマネジメントシステム(人権デューディリジェンス)、救済(内部通報制度)等に関してより詳細に明記しており、事業を展開する国や地域の言語に翻訳し、当社及び各関係会社のホームページ等を通して当社グループの事業活動に関わるステークホルダーへ開示しています。

人権方針は、当社グループのすべての役員と従業員に適用されるとともに、当社グループのビジネスパートナー及びサプライヤーに対しても、本方針が支持・尊重されるように求めています。また、国際的に認められた人権と各国や地域の法令の間に矛盾がある場合は、国際的に認められた人権の原則を尊重するための方法を追求することを示しています。

* 企業が人権を侵害するのを避け、侵害による被害者を救済するためにとるべき手段のこと

推進体制

人権の取り組みに関しては、サステナビリティ推進部担当役員が議長を務める「[サステナビリティ推進協議会](#)」傘下に設置したS分科会(社会環境)の責任者(執行役員)を執行の責任者として、関連する部門の責任者で構成される人権に係る検討会を組織し、必要に応じて経営執行会議への報告、執行役員会・取締役会に付議・上程して推進しています。

2030年目標と進捗

目標 (2030年)	指標 (2030年)	指標の進捗 (2024年実績)
「ライオン人権方針」に沿って、事業活動によって影響を受けるすべてのステークホルダーの人権を尊重します。	<ul style="list-style-type: none">重要な人権問題に対する人権デューデリジェンスの対応実施率 ⇒100%	<ul style="list-style-type: none">人権デューデリジェンス対応実施率 ライオングループ:100% サプライヤー:92%

＜ サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2024年実績・施策  (1.01MB)

取り組み



人権デューデリジェンスの推進 



バリューチェーン上における人権侵害防止の取り組み 

人権デューデリジェンスの推進

- ✓ 人権デューデリジェンス
- ✓ 人権に対する影響評価
- ✓ 防止・軽減、是正策の実施
- ✓ モニタリングの実施
- ✓ コミュニケーション
- ✓ 海外グループ会社における取り組み

人権デューデリジェンス

ライオングループは、事業活動を通じて引き起こす、または助長する、あるいは製品やサービスと直接結びつく人権への負の影響を特定、防止・軽減し、どのように対処するかということに責任を持つために、部所横断的組織である人権に係る検討会を主体として、自社従業員、派遣社員、ビジネスパートナー、サプライヤー、コミュニティ、消費者・生活者、人権に関連する外部有識者や団体等自社の事業に関わるステークホルダーとの対話を行いながら、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、以下のプロセスで人権デューデリジェンス*を推進しています。

当社グループの事業活動や社会情勢、人権の状況等の変化に伴い、人権リスクが変わりうることを認識し、人権に対する影響評価を含めた人権デューデリジェンスの各プロセスを継続的に実施することで、取り組みの高度化を図っています。



人権デューデリジェンス全体像

* 企業が人権を侵害するのを避け、侵害による被害者を救済するためにとるべき手段のこと

人権に対する影響評価

当社グループの事業活動で想定される人権リスクの概要

当社グループは、日用品の開発、製造、販売を主な事業としています。日用品の中でも、特に衣類用洗剤等、洗浄に関わる製品を多く扱っています。これらの洗浄成分である界面活性剤は、植物原料であるパーム油・パーム核油の誘導体を素原料として使用しています。パーム油・パーム核油は、マレーシア、インドネシアが主要な生産地であり、国や地域、品目として人権リスクが相対的に高く、人権を含めた持続的な調達に関して問題をはらんでいることを人権に関する国際的な組織やSedexが提供するデータ等から特定しています。

具体的には、パーム農園の労働者等脆弱な立場に置かれ得るステークホルダーに対する過重労働、児童労働、違法伐採（焼き畑）による煤煙被害等の人権リスクが想定されます。日用品の個装及び移送のための段ボール等には包装材料として多くの紙・パルプを使用しており、不十分な森林管理等に起因する環境に関連する人権リスクが想定されます。また、パーム油・パーム核油や紙・パルプ以外にも、製造プロセスにおいては、原材料調達等で多くの原材料メーカーや生産委託先の協力を得ています。人権を含めた持続的な調達に関する取り組みが十分ではないサプライヤーとの取引を要因として、調達における人権リスクが顕在化した場合には、製品供給や当社グループのレピュテーション等への影響に関する事業リスクにつながる可能性があります。

また、日用品の企画・製造・販売においては、企画、調達、研究、生産、販売、管理等、バリューチェーン上に自社従業員や派遣社員、ビジネスパートナー等ステークホルダー間に国内外で多くの接点が存在しているために、人種や性別による差別やハラスメント、過重・長時間労働等の人権リスクを引き起こす、または助長することも起こり得ます。事業構造の変化により生活者・消費者との接点を拡大する際は、個人情報の管理等プライバシーの権利に対してより一層の注意を払う必要があります*。

* 「国際労働組合総連合 (ITUC) Global Rights Index」等を参照

当社グループの事業活動で想定される人権課題の抽出

当社グループが事業展開している国や地域におけるバリューチェーン上で起こりうる顕在的・潜在的な人権リスクをより明確にするために「国際人権章典」「国連グローバル・コンパクトの10原則」「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」「子どもの権利とビジネス原則」をはじめとする人権に関する国際的な規範から、当社グループの事業活動で想定される人権課題*を以下の通り抽出しました。

人権課題の抽出にあたっては、ビジネスと人権を取り巻く社会的な情勢や国連環境計画金融イニシアチブ (UNEP)、日本経済団体連合会が策定した人権に関するガイドライン及び外部有識者からの助言を参考にしています。

* 抽出した人権課題

強制労働 住居及び移転の自由 児童労働 教育を受ける権利 若年労働者の権利 労働組合を組織する権利・参加する権利 同一労働同一賃金 採用における差別 雇用条件・待遇における差別 機会・評価における差別 母性及び児童の保護 ハラスメント 思想・宗教の自由 過重労働・長時間労働 休息・余暇を持つ権利 適正な報酬・生活賃金の支払い 労働の自由・雇用保険 安全かつ健康的な作業条件を享受する権利 生活水準及び健康の向上に関する権利 社会保障を受け取る権利 プライバシーの権利 地域住民の生活に及ぼす影響 水資源へのアクセス 環境マネジメント 消費者の安全と健康

人権に対する影響評価と自社にとっての優先課題（顕著な人権課題）の特定

抽出した当社グループの事業活動で想定される人権課題について、ステークホルダーである自社従業員、派遣社員、請負を含むビジネスパートナー、サプライヤー、先住民を含むコミュニティ、消費者・生活者における顕在的・潜在的な影響評価を実施しました。

「国連指導原則報告フレームワーク」等の人権に関するガイドラインを参考に、人権侵害の規模、人権侵害が及ぼす範囲、発生可能性及び救済可能性を評価項目としています。人権に対する影響評価に際しては、各ステークホルダーの人権課題に紐づく部門の責任者が「人権課題チェックシート」にて行った結果を基にリスクマップを作成し、人権に係る検討会で事業や社会の変化、外部有識者を含めたステークホルダーの意見等から総合的に判断し、自社にとっての優先課題（顕著な人権課題）を特定しています。

防止・軽減、是正策の実施

人権に対する影響評価により特定した自社にとっての優先課題（顕著な人権課題）に対しては、各人権課題への負の影響を防止・軽減、または是正するために以下を実施しています。

自社にとっての優先課題 (顕著な人権課題)	自社にとっての優先課題に対する負の防止・軽減策と進捗状況
<p>サプライヤーにおける強制労働、児童労働、若年労働者の権利、過重労働・長時間労働、安全かつ健康的な作業条件を享受する権利、住居及び移転の自由、教育を受ける権利、労働の自由・雇用保障</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特に人権リスクが懸念されるパーム油・パーム核油、紙・パルプについてはRSPO、FSC認証品等第三者認証を受けた原材料の調達を促進しています。 <p>2024年実績 認証パーム油・パーム核油誘導体：当社グループ46%（主要原料ベース） 認証紙・パルプ：当社グループ46%（アイテム比率）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」セルフチェック及びSedexを活用し、サプライヤーにおけるリスクアセスメント実施を促進しています。 <p>2024年実績 サプライヤーにおけるサプライヤーにおけるリスクアセスメント実施率：当社グループ92%</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に関する覚書に「ライオン人権方針」、「国際人権章典」、「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」を追加し、サプライヤーにおいても人権方針が支持・尊重するように求めています。 <p>2024年実績 国内主要企業90社のうち42社と人権に係る覚書を締結済み</p>
<p>サプライヤー周辺のコミュニティにおける水資源へのアクセス、地域住民の生活に及ぼす影響、環境マネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー周辺の近隣住民を含めたコミュニティにおける水資源へのアクセス等の負の影響を防止・軽減、是正するために、「ライオングループCSRガイドライン」セルフチェックに環境マネジメントに関する質問事項にてコミュニティに対する具体的な取り組み状況を把握しています。 <p>2024年実績 「ライオングループCSRガイドライン」セルフチェックに環境マネジメントに関する質問事項でのモニタリングを実施済み</p>
<p>ビジネスパートナーにおける過重労働・長時間労働、ハラスメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスパートナーにおける過重労働・長時間労働等の負の影響を引き起こす、助長する、直接結びつくことを防止・軽減、是正するために、自社従業員に対してe-ラーニングや研修を通して「ライオン企業行動憲章」「ライオン人権方針」の浸透・定着を図るとともに、「コンプライアンス意識調査アンケート」にて当該課題の自社従業員の理解や業務での行動評価を定量的に把握しています。 <p>2024年実績 人権に関する研修を当社、国内関係会社7社、海外関係会社7社にて実施済み</p>
<p>消費者・生活者におけるプライバシーの権利</p>	<ul style="list-style-type: none"> 消費者・生活者のプライバシーの権利として個人情報の漏洩リスクを防止・軽減するために、「個人情報保護法」に準拠した「個人情報管理規程」及び「情報取扱に関する基本方針」「情報管理規程」「情報セキュリティ規程」等の方針・規程類を整備し、個人情報保護と情報セキュリティの徹底を図っています。また、自社の従業員への教育として、情報セキュリティ、情報管理体制に関するe-ラーニングを毎年実施するとともに、海外関係会社においても法令に基づき個人情報保護等、情報セキュリティ対策の推進を強化しています。 <p>2024年実績 国内自社従業員にe-ラーニングを通じた個人情報管理規程の遵守に関する研修を実施済み 自社が医療情報を取り扱うサービスの情報マネジメントシステムに係る認証を維持</p>

救済へのアクセス(苦情処理メカニズムの設置)

当社グループは、人権を含む企業倫理に反する問題に適切に対応するため、苦情処理メカニズムとして、社内外の通報制度「AL(オールライオン)心のホットライン」を設置しています。

本システムでは、通報者として自社従業員だけではなくビジネスパートナー等社外ステークホルダーも含んでおり、通報者、被通報者のプライバシーは保護され、調査内容の秘密の厳守が保証されます。また、すべての案件は匿名の通報等を除き、すべての通報者へフィードバックを行っています。

本制度の仕組み、相談・通報内容等の詳細は当社ホームページの下記よりご参照いただけます。

> 社内外通報制度「AL心のホットライン」の設置

モニタリングの実施

それぞれの負の影響の防止・軽減策は質的または量的な指標を設定し、人権に係る検討会事務局が年2回モニタリング結果をS分科会に報告しています。

コミュニケーション

外部への情報開示

人権の取り組み状況等については、随時自社ホームページ等で開示しています。

教育、対話

当社は、「ライオン企業行動憲章」「ライオン人権方針」の浸透と定着を図るため毎年国内の全従業員(パート社員を含む)を対象にe-ラーニングを通じた人権についての研修を行っています。

また、毎年国内全従業員(パート社員を含む)を対象に「コンプライアンス意識調査アンケート」を行い、人権を含むコンプライアンスに関する意識や業務における行動について定量的・定性的に把握するとともに、結果を部門毎にフィードバックすることで、従業員の意識向上やより良い環境づくりにつなげています。また、人権デューデリジェンスを推進するにあたり、取締役・監査役・執行役員、人権に係る所管部門の責任者等と外部有識者を含め、ビジネスと人権についての勉強会及び意見交換を行い、経営層の理解を深めています。

人権に関する外部イニシアチブへの参画

「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)」においてはヒューマンライツ・デューデリジェンス分科会のワークショップやサプライチェーン分科会の啓発ツール制作のワーキンググループ等、外部イニシアチブにも参画し、人権を取り巻く社会情勢の理解や啓発を図っています。「日本化粧品工業会」においては、「サステナビリティ指針」の策定や、「バリューチェーンにおける人権・労働リスク対応の手引き」の制作に参画しています。2024年には当社の従業員が所属する「社会課題対策部会」にて、本工業会の会員向けにジェンダー平等に関するアンケートを実施する等、企業における人権を含めた社会の持続可能な発展への取り組み実現に積極的に働きかけています。

海外グループ会社における取り組み

当社グループにおけるリスクアセスメント

サステナビリティ重要課題について事業を展開する国や地域で配慮すべき事項を外部有識者と抽出した「サステナビリティ状況共有シート」を活用し、海外関係会社の人権に対する影響評価で特定された自社にとっての優先課題に関する事項を含めたヒアリングを行い、防止・軽減、是正策や対応状況を把握するとともに、進捗をモニタリングしています。

サプライヤーにおけるリスクアセスメント

海外関係会社と取引のあるサプライヤーについては、人権・労働を含めた当社グループの調達方針に関わる事項について「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」セルフチェック及びSedexを活用し、サプライヤーによる影響評価を実施しています。

バリューチェーン上における人権侵害防止の取り組み

- ✓ 当社のバリューチェーン上における人権侵害防止の取り組みの全体像
- ✓ 原材料調達における取り組み
- ✓ お客様の使用における取り組み

当社のバリューチェーン上における人権侵害防止の取り組みの全体像

当社グループは、「原材料調達」「当社での活動」「お客様による使用」のそれぞれのバリューチェーン上で起こり得る潜在的な人権リスクを低減する取り組みを以下の通り行っています。



原材料調達における取り組み

当社グループは、原材料調達における人権侵害防止の取り組みとして、「調達基本方針」にて法令遵守、環境保全、人権尊重等サステナビリティに関する当社グループの姿勢を明確にし、お取引先と取り組みを進化させています。

また、当社グループの主要な植物原料であるパーム油、パーム核油において、持続可能な調達を推進することが重要であると認識し、取り組みを進めています。

(1) 原材料調達

予防・軽減策	目標(2030年)・進捗(2024年)
第三者認証を受けた原材料の調達 →RSPO、FSC認証品の調達	<ul style="list-style-type: none">目標 RSPO認証品全量調達進捗:主要原料ベースのRSPO認証化率は99%(対象:日本国内で販売している消費者向け商品)
	<ul style="list-style-type: none">目標 FSC認証品全量調達進捗:FSC認証化率は75%(日本国内で販売している商品のアイテム比率)、コピー用紙等オフィス用品に使われている紙についても、FSC・PEFC認証紙や再生紙の活用を推進中
サプライチェーン上で社会・環境問題が発生した際に、解決能力のあるサプライヤーとの取引推進→森林破壊ゼロを支持するサプライヤー	<ul style="list-style-type: none">目標 森林破壊ゼロを支持するサプライヤーからの調達:全サプライヤー進捗:55%(対象:日本国内のライオングループが調達している原材料サプライヤー)

(2) サプライヤー

予防・軽減策	進捗(2024年)
サプライヤーのサステナビリティ活動に関する定期的なリスク評価の実施	当社を含む国内グループ会社及び青島ライオン、ライオン코리아、タイライオン、サザンライオンのサプライヤーに対して、「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に基づくセルフチェック及びSedexを活用し、サプライヤーにおけるサステナビリティに関するリスク評価を実施
高リスクサプライヤーの特定	「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に基づくセルフチェック及びSedexにおいて、高リスクサプライヤーの基準を設定
高リスクサプライヤーに対する監査の実施と改善計画の策定	高リスクサプライヤーなし

* 2025年3月末時点

お客様の使用における取り組み

当社グループは、お客様に製品を安心・安全にご使用いただくための取り組みとして、製品開発の各段階での業務プロセスや品質保証を定めた規程である「製品マネジメントシステム」を整備しています。また、医薬品医療機器等法、景品表示法、健康増進法等の関連法規遵守はもちろんのこと、「表示作成マニュアル」を定め、お客様の視点を考慮し誤解や不快感を起こさない、正確で節度ある広告・宣伝を行っています。

マレーシアやインドネシア等多くのイスラム教徒が住む国や地域においては、イスラム教徒の人々が安心して製品を使用できるようにハラール認証*の取得に取り組んでいます。

* ハラール認証の基準をクリアし、ハラールであると認められた製品等にマークを付与する制度。販売の際は、各国のハラール認証機関から正式に承認を受けた認証団体が発行したハラール認証書が必要

ハラル認証商品例



インドネシアで販売するSystema
ハミガキ



マレーシアで販売する
Shokubutsuボディソープ



インドネシアのハラル認証



マレーシアのハラル認証

責任あるサプライチェーンマネジメントの構築

- 基本的な考え方
- 全体像及び推進体制
- 2030年目標と進捗
- 取り組み

基本的な考え方

ライオングループは、サプライチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化し、責任あるサプライチェーンマネジメントを構築することが重要な課題であると考えています。

事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、「調達基本方針」に基づき、取引先と当社とがサステナビリティの取り組みを深化させることが必要です。本方針では、法令遵守、環境保全、人権尊重等からも取引先を選定する姿勢を明確化しています。

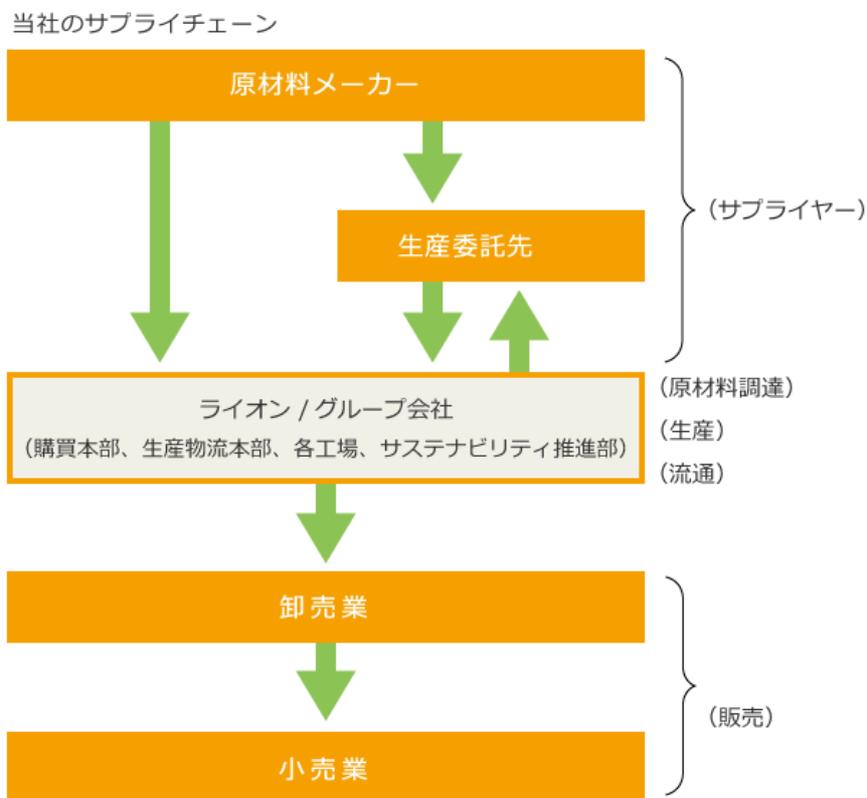
また、当社の主要な植物原料であるパーム油において、持続可能な調達を推進することが重要であると認識し、取り組みを進めています。

贈収賄防止指針の制定

当社グループは、世界各国での贈収賄・腐敗行為に対する法規制強化の流れに鑑み、2019年に「ライオン贈収賄防止指針」を制定し、贈収賄等の腐敗の防止への姿勢を明確にしました。

今後も、事業を展開する国及び地域の法令等を遵守した事業活動を徹底します。

全体像及び推進体制



2030年目標と進捗

目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2024年実績)
「持続可能な原材料調達方針」や「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に沿って、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> • 認証紙・パルプ(FSC、PEFC等)、認証パーム油・パーム核油及びそれらの誘導体(RSPO等)を調達する ⇒全量 • 認証紙・パルプ(FSC、PEFC等)、認証パーム油・パーム核油及びそれらの誘導体(RSPO等)は、森林破壊ゼロを支持するサプライヤーから調達する ⇒全社 	<ul style="list-style-type: none"> • 認証品調達率 国内: 認証紙・パルプ:75%(アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体:99%(主要原料ベース) ライオングループ: 認証紙・パルプ:46%(アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体:46%(主要原料ベース) • 森林破壊ゼロ支持サプライヤー率 国内:55% ライオングループ:49%

[> サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2024年実績・施策 !\[\]\(748dc8d87d0f32ea3bb207b6d62ddceb_img.jpg\) \(1.01MB\)](#)

取り組み



原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの
 推進 



持続可能な原材料調達に向けて 

原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進

- ✓ ガイドラインに基づくセルフチェック
- ✓ サプライヤーエシカル情報共有プラットフォームへの加入
- ✓ 持続可能な調達に向けた従業員研修

「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン*1」に基づくセルフチェック

ライオングループは、責任ある調達活動を推進するため、原材料メーカーや生産委託先(サプライヤー)へ「[ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン](#) 

」に基づくセルフチェックを毎年依頼しています。人権・労働、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コンプライアンスに関するサプライチェーンにおけるリスク回避に向けた仕組みづくりを推進しています。2014年よりセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化し、より効率的にサプライヤーが回答できるようにしました。また、結果のフィードバックを回答いただいたサプライヤーに送り、継続的にCSR調達を推進できる体制を確立し、毎年、100%の回答率を目指しています。

2024年は海外グループ会社であるLion Corporation (Korea) のサプライヤー89社(回答率:84%)、獅王日用化工(青島)有限公司(中国)のサプライヤー40社(回答率:98%)、Southern Lion Sdn. Bhd.のサプライヤー51社(回答率:45%)、Lion Corporation (Thailand) Ltd. のサプライヤー53社(回答率:91%)に対してセルフチェックを実施しました。

また、国内グループ会社であるライオンエンジニアリング株式会社(建設業)のサプライヤー68社に対してもセルフチェック*2を実施しました(回答率:93%)。

今後も当社グループの全生産拠点を有する国で、サプライヤーとともにサステナビリティの取組みを推進します。

*1 5主題(人権・労働、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コンプライアンス)、21項目のガイドライン

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(日本語\)](#) 

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(日本語\)\(LE版\)](#) 

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(英語\)](#) 

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(中国語\)](#) 

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(韓国語\)](#) 

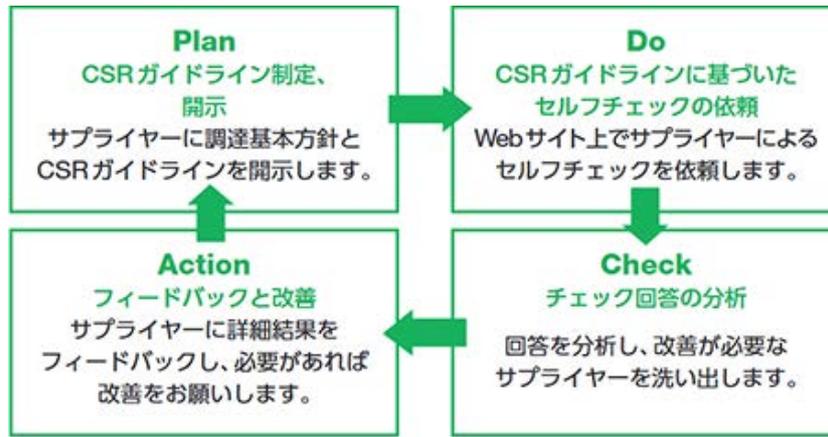
*2 従来のセルフチェック21項目に対して、「反社会的勢力との対決:反社会的勢力・団体との関係を遮断し、不当な要求は一切拒絶する」を追加

CSR調達の実施年表

2005年	「購買に関する基本方針」を制定し、原材料や製品の適正な調達を実施
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施
2013年	「調達基本方針」を改訂し、法令遵守、環境保全、人権尊重等からもサプライヤーを選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するサステナビリティの取り組みを示した「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン 
2014年	セルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化
2018年	海外グループ会社であるLion Corporation (Korea) のサプライヤーに対してセルフチェックを実施し、セルフチェックの対象国を拡大
2019年	<ul style="list-style-type: none"> サステナブルで責任ある調達へ取り組みの姿勢を明確にするため、「ライオン人権方針」「ライオン贈収賄防止指針」を制定 当社の主要な原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプにおいて、持続可能な調達の取り組みを進めるため、「持続可能な原材料調達方針」を制定 購買活動における社会・環境リスクのさらなる低減を目的に、イギリスに本部を置くサプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム(Sedex)に加入
2020年	海外グループ会社である獅王日用化工(青島)有限公司のサプライヤーに対してセルフチェックを実施
2021年	国内グループ会社であるライオンエンジニアリング株式会社の取引先に対してセルフチェックを実施
2022年	海外グループ会社であるSouthern Lion Sdn. Bhd.のサプライヤーに対してセルフチェックを実施
2023年	海外グループ会社であるLion Corporation (Thailand) Ltd.のサプライヤーに対してセルフチェックを実施
2024年	<p>フィードバック時にCSR活動の改善に資する参考資料をサプライヤーに提供</p> <p><参考資料例></p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事の未来の中心にある安全と健康(SAFETY AND HEALTH AT THE HEART OF THE FUTURE OF WORK) グローバル経済のためのルール 国際労働基準の手引き(Rules of the Game: An introduction to the standards-related work of the International Labour Organization) 国連グローバル・コンパクト 4分野10原則の解説(The Ten Principles of the UN Global Compact) GCNJ CSR調達入門書-サプライチェーンへのCSR浸透(GCNJ An Introduction to Sustainable Procurement-Promoting CSR in the Supply Chain)

当社グループでは「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン 」に基づいたセルフチェックにお応えいただいたサプライヤーとの取引を行います。

セルフチェックにおけるPDCAサイクル

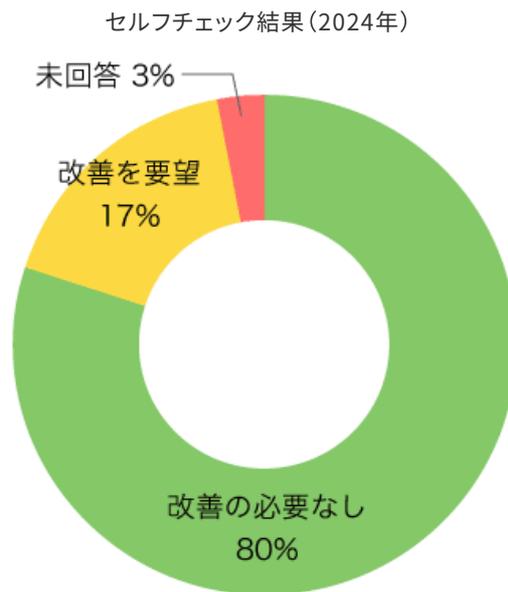


サステナビリティに取り組む重要性をサプライヤーに理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、サステナビリティを取りまく情勢の説明を記載する等工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

過去5年間にセルフチェックを依頼した一次サプライヤー数と回答率(目標値:毎年100%)推移

	一次サプライヤー数	回答率
2020年	574社	100%
2021年	502社	100%
2022年	474社	96%
2023年	436社	96%
2024年	392社	97%

結果概要



モニタリング数：
ライオン国内グループの一次サプライヤー（原材料メーカーや生産委託先）
計 392 社（国内：338 社、海外：54 社）

- 2024年の回答率は97%、平均点は1～3点の3段階で2.77点と、サプライチェーン全体でサステナビリティに取り組んでいることが確認できました。
- セルフチェックに回答した一次サプライヤー数は379社でした。

重要なサプライヤー

当社グループは、購買金額が大きく、原材料の代替が出来ないサプライヤーを重要なサプライヤーとして位置づけており、サステナビリティへの取り組みのモニタリングを継続しています。(定義:購買本部3部門(原料部、材料部、製品部)の各購買金額上位30社、計90社(グループ会社5社を含む))

重要なサプライヤーの状況

	重要なサプライヤー数	重要なサプライヤーの割合 (全一次サプライヤーのうち占める割合)	重要サプライヤーの購買金額比 (全一次サプライヤーのうち占める割合)
2020年	90社	15.7%	89%
2021年	90社	17.9%	89%
2022年	90社	17.9%	89%
2023年	90社	19.3%	89%
2024年	90社	25.6%	92%

高リスクサプライヤー

セルフチェックにおいては、当社グループが定めるサステナビリティの重要項目において、設定基準を満たしているかを確認しており、取り組み点数が低いサプライヤーを高リスクと定めています。2024年、高リスクサプライヤーはゼロでした。

新規サプライヤーの選定

当社は、すべての新規サプライヤーに対して、取引を行う前に「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に基づいたセルフチェックを実施していただいています。当社が定めるサステナビリティの重要項目において、設定基準を満たしているか確認しています。

サプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム(Sedex*)への加入

Sedex(本部:イギリス)は、グローバルサプライチェーンにおけるエシカルで責任あるビジネス慣行の実現を目指し、エシカルなサプライチェーンデータを管理・共有する世界最大のプラットフォームを提供する非営利団体です。当社グループはこれまで、独自の自己評価アンケート方式によるサプライヤーのモニタリングを実施してきましたが、2019年末、購買活動における社会・環境リスクの低減を目的にA・B会員として加入しました。サプライヤーの作業負担軽減の観点から加入を促進し、Sedexが提供するプラットフォーム上での回答を毎年依頼しています。重要サプライヤー90社中、43社に関してはSedexで管理しています(2025年3月末時点)。また、2024年末より、高リスクサプライヤー対応を開始し、マネジメントコントロールスコアおよびSMETA監査の改善対応が当社基準を満たしていないサプライヤー7社に是正措置の対応を要請した結果、全社、SAQ更新やSMETA監査での指摘事項の改善が見られ、当社基準をクリアしています。今後もサプライヤー管理を強化し、リスクマネジメントの強靭化を図っていきます。



* Supplier Ethical Data Exchangeの略称

持続可能な調達に向けた従業員研修

当社は、購買部門のバイヤー担当全員を対象に、持続可能な調達に向けた研修を行っています。一般社団法人日本能率協会(JMA)による調達資格認証制度(CPP)*の資格取得に向け、学習会を実施しています。バイヤー業務におけるマネジメントや実践的な知識のみならず、環境、倫理、安全・衛生、人権等に配慮した調達の重要性や、サプライヤー対応についても学習しています。

また、サプライヤーの選定、取引条件や価格の設定等を、公平性・透明性のある話し合いで合意し、決定しています。下請代金支払遅延等防止法については、購買本部の社員に研修を行い、遵守を徹底しています。

CSR調達への要請の高まりを受け、今後も購買・調達に関するセミナーに社員を積極的に派遣する等、人材育成を進めます。

* CPP (Certified Procurement Professional): 企業において購買・調達業務に従事する方を対象にしており、購買・調達分野における専門知識を身につけていることを証明する資格 CPP資格

[CPP資格 公式サイト](#)

持続可能な原材料調達に向けて

- ▼ 考え方
- ▼ 持続可能なパーム油の調達を目指して
- ▼ 持続可能な紙・パルプの調達を目指して

考え方

ライオングループは、世界共通の2030年目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成への貢献を目指しています。しかし、当社グループの商品の主要原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプには、人権・労働問題や環境問題等の持続可能な原材料調達に関するリスクがあります。そこで「**持続可能な原材料調達方針**」を制定し、当社グループの主要な原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプにおいて、持続可能な調達の取り組みを進めています。

持続可能なパーム油の調達を目指して

当社グループは、枯渇することがなく、カーボンニュートラルな原料である植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油脂であるパーム油の誘導体を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。



パーム油の原料：アブラヤシ

パーム油の原料であるアブラヤシは生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれにとまう野生生物の生息地の縮小等の問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働等、社会的公正を欠くさまざまな人権・労働問題も指摘されています。

このような問題の解決に向けた「**持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO^{*1})**」に、当社は2006年から参画しています。2012年には、当社の国内関係会社でパーム油をマレーシアやインドネシアで調達しているライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム^{*2}審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社グループは2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しました。また、2020年3月にはライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所、同年8月には本社および全ての自社工場(千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場)でRSPOサプライチェーン認証を取得しました。さらに、2022年6月にはライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)でRSPOサプライチェーン認証を取得しました。

当社グループは2030年末までに、使用するパーム油誘導体をすべて認証油に切り換えることを目標に掲げ、2022年12月末、国内は主要原料ベースで99%をRSPO認証品に切り替え、2024年も継続しています。

さらに、消費者向け商品に使用するパーム油誘導体は、持続可能性に配慮した搾油所(ミル)まで追跡可能なものの購入を目指し、トレーサビリティ(追跡可能)の確保を目的に、当社と取引のある一次サプライヤーが調達する主要原料のミルリストを公開しています。

> [ミルリスト](#) 

今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。

*1 Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議) 

RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil) が考える持続可能なパーム油の生産には、関連する法制度に違反していないだけでなく、経済的に持続可能であること、環境的に適切かつ社会的に有益であることが求められます。それらの要件を具体的に示したのが、「RSPOの原則と基準(The RSPO Principles and Criteria, P&C)」です。7つの原則の下に40項目の基準が定められ、これを満たして生産されるパーム油のみをRSPO認証パーム油としています。

*2 RSPOサプライチェーン認証

RSPO認証原料が全てのサプライチェーンで確実な受け渡しシステムが構築されていることを、外部審査員の監査を経て認証される制度です。



ライオンケミカル (株) オレオケミカル事業所、ファインケミカル事業所のRSPOサプライチェーン認証

本社および全ての自社工場のRSPOサプライチェーン認証

ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ (株) のRSPOサプライチェーン認証

持続可能な紙・パルプの調達を目指して

当社グループは、商品の包装や、冊子・パンフレット類、コピー用品等のオフィス用品に紙・パルプを使用しています。これらの資源調達において生物多様性の保全に配慮するため、「持続可能な原材料調達方針」のもと、FSC®認証紙*等の第三者認証紙の調達を進めています。(2024年12月末時点: 主要商品における国内原紙メーカーからの第三者認証紙の調達比率約99% <重量>、主要商品ごとの包装材料の第三者認証紙の調達比率約75% <アイテム比率>) また、商品の包装に使用されている木材チップおよび木材パルプは伐採国の行政区画(州や県等)まで100%追跡済みです。

* FSC®認証紙

責任ある森林管理を世界に普及させ、森林の適切な利用と保全のために活動することを目的とする国際的な非営利団体であるFSC®(Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会)の責任ある森林管理や加工・流通の規格に則り認証された紙のことです。

FSC®認証とは、適切に管理されていると認められた森林から生産された木材や、その他のリスクの低い木材を使用した製品にFSC®ラベルを付け、認証製品として販売できる制度です。

森林の環境や地域社会に配慮して作られた製品であることを示すFSC®マークが付いている製品を選ぶことは、森を大切にすることにつながります。

サプライチェーンに関する外部イニシアチブへの参画

当社は、2006年から国際的なイニシアチブである「持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO) [\[7\]](#)」に参加しています。また、2012年からはグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ) のワークショップである「サプライチェーン分科会」に参加し、「CSR調達入門書」等の各種アウトプットの制作に取り組んでいます。



[\[7\]](#) 持続可能なパーム油のための
円卓会議



> 持続可能なパーム油プラット
フォーム「Japan Sustaina
ble Palm Oil Network (Ja
SPON)」 [PDF](#)



[\[7\]](#) 国連グローバル・コンパクト
(UNGC)

「グローバル購買担当者会議」の開催

当社グループは、グループ全体でのコスト削減や、人的交流による各社購買担当者間のコミュニケーションを強化することを目的に、「グローバル購買担当者会議」を毎年開催しています。

2024年は11月に実地とオンラインのハイブリッドで実施し、日本を含め8ヶ国が参加しました。今回で14回目となる当会議では、ESGの取り組みとしてモノマテリアル素材やリサイクルプラスチック等の持続可能な包装材料の活用、パーム油関連のRSPO認証品の調達、コストダウンへの取り組み等を各社の代表者が報告し、情報共有を図りました。今後も、グループ全体での購買力強化に向けて、各社の購買活動をサポートしていきます。

参加した海外グループ会社

- Lion Corporation (Thailand) Ltd.
- Southern Lion Sdn. Bhd.
- PT. Lion Wings
- Lion Corporation (Korea)
- 獅王日用化工(青島)有限公司
- Lion Kallol Limited
- Merap Lion Holding Corporation

グリーン購入

当社は、[調達基本方針](#)の第2項に記載の内容、「品質・コスト・納期などの視点に加えて、法令遵守や環境保全及び人権尊重なども含めて合理的に取引先を選定することにより、お客様への責任を果たすとともに、持続可能で健やかな社会の実現を目指していきます」に則り、全社的に環境に配慮したグリーン購入を推進しています。

従業員が使用する事務用品については、環境対応品の使用を徹底し、再生紙やFSC認証紙を使用したノート、社用封筒等、グリーン購入に努めています。また、新本社への移転を機に、従来の複数部所での購入からコンシェルジュ窓口での一括購入へシフトし、事務用品のトータル在庫量の削減にも貢献しています。

商品包装に使用しているインキのバイオマスインキへの変更

海洋プラスチックごみ汚染や地球温暖化等の環境問題を最小化していくために、環境負荷を低減した製品が求められています。その取り組みの一環として、商品包装(パウチ、シュリンクフィルム、アテンションシール、ラベル等)に使用しているカラーインキの一部に植物由来原料を使用したバイオマスインキ*の採用を進めています。

* インキ中に含まれる樹脂の一部にバイオマス由来の原料を用い、乾燥後のインキ塗膜中に10%以上の植物由来成分を含有する設計のインキ

顧客の満足と信頼の追求

- 基本的な考え方
- 全体像
- 2030年目標と進捗
- 取り組み

基本的な考え方

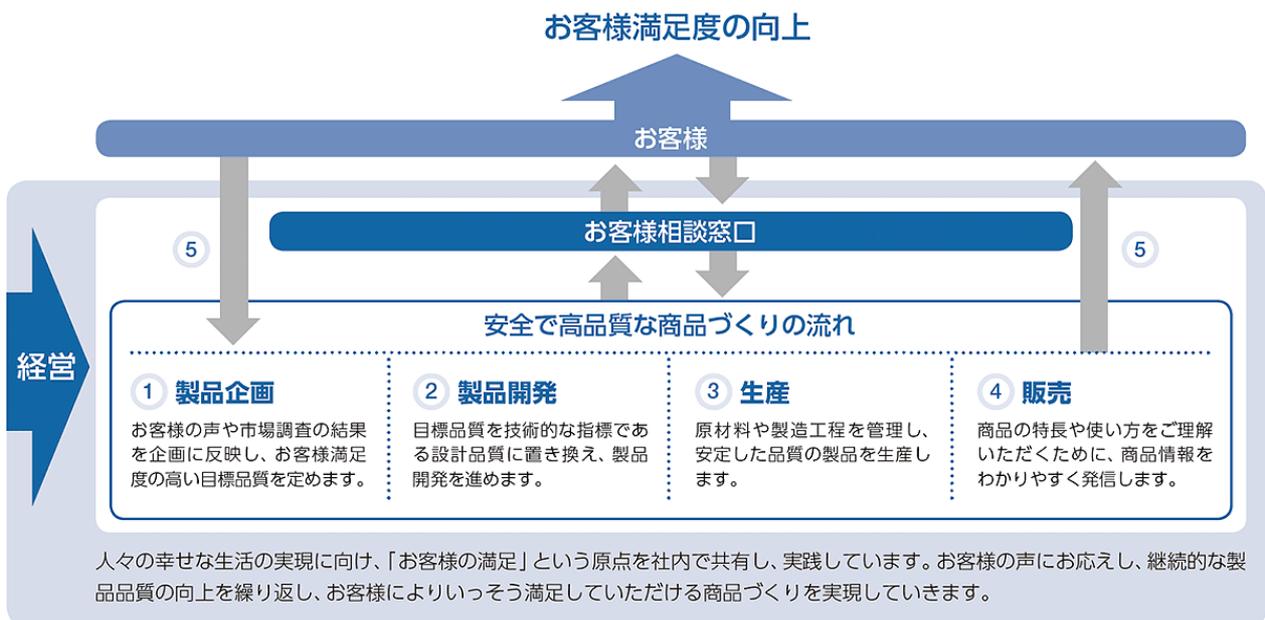
ライオンは、ものづくりのはじめから、お客様が商品を使い終わるまでのすべての段階で品質保証活動を推進し、お客様に満足していただける商品をお届けします。具体的には、①製品企画②製品開発③生産④販売⑤お客様対応という企業活動のすべての段階においてポイントを定め、お客様満足追求をしています。

お客様からいただいた貴重なご意見等をもとに、ニーズをしっかりと把握して製品を企画し、製品開発段階では、機能・性能等の7つの指標で品質を検証するとともに、お客様にとって「読みやすい」「わかりやすい」表示を検討しています。生産段階では各工程で品質管理を徹底し、検査に合格したものを出荷します。出荷の際にはロット管理を徹底し、販売後の管理にも役立てています。さらに卸店・販売店への商品説明や試供品の配布等を通じて、様々な情報を発信しています。

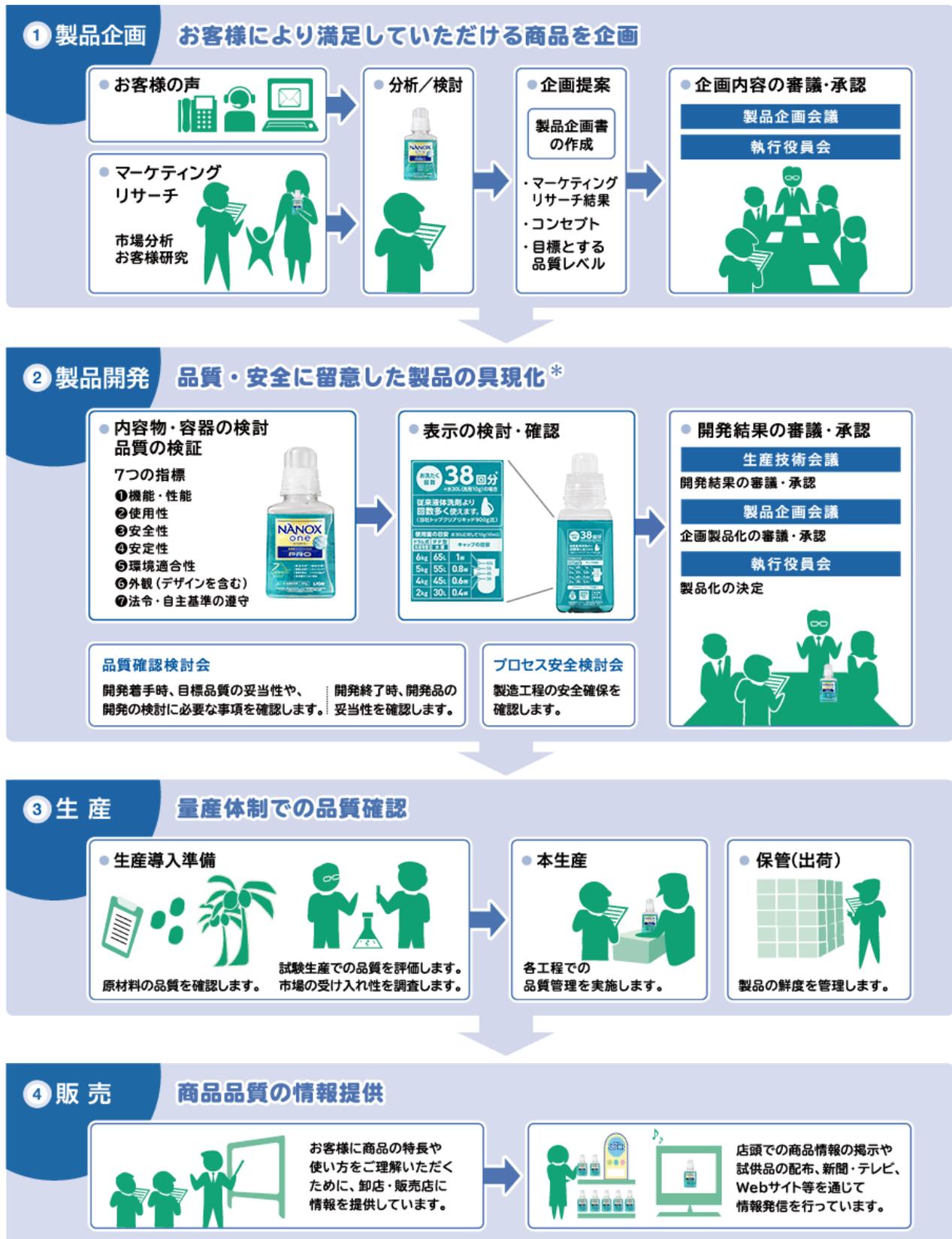
※ このページでは、卸店に出荷する前のものを「製品」、出荷後のものを「商品」と使い分けて、記載しています。

全体像

お客様の声による商品づくり



人々の幸せな生活の実現に向け、「お客様の満足」という原点を社内で共有し、実践しています。お客様の声にお応えし、継続的な製品品質の向上を繰り返し、お客様によりいっそう満足していただける商品づくりを実現していきます。



*「研究開発」については、こちらをご覧ください。

2030年目標と進捗

目標 (2030年)	指標 (2030年)	指標の進捗 (2024年実績)
製品・サービスの価値向上や顧客対応品質の向上を通じて、生活者視点に立った事業活動の推進を強化します。	<ul style="list-style-type: none">顧客に選ばれ続けるために、すべての製品・サービスに生活者の意見が活かされている。	<ul style="list-style-type: none">ISO10002自己適合宣言(国内、7月)年間相談概要をデジタル情報にて全社に提供開始お客様からいただいた主な相談と賞賛の音声の全社共有開始海外各社のお客様の声共有ツール構築

＜ サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2024年実績・施策  (1.01MB) ＞

取り組み



品質保証、安心・安全への取り組み



お客様の声にお応えする取り組み



お客様への情報提供の強化



品質保証、安心・安全への取り組み

- ✓ 考え方
- ✓ 品質方針
- ✓ ライオングループの信頼性保証体制
- ✓ 品質保証への取り組み
- ✓ 安心・安全への取り組み
- ✓ 責任ある表示・広告の取り組み
- ✓ 医薬品安全性に関する外部イニシアチブへの参画
- ✓ 動物実験に対する方針

※ このページでは、卸店に出荷する前のものを「製品」、出荷後のものを「商品」と使い分けて、記載しています。

考え方

より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する優良な製品・サービスを提供し、お客様の満足と信頼を獲得することはライオンの使命であると考えています。

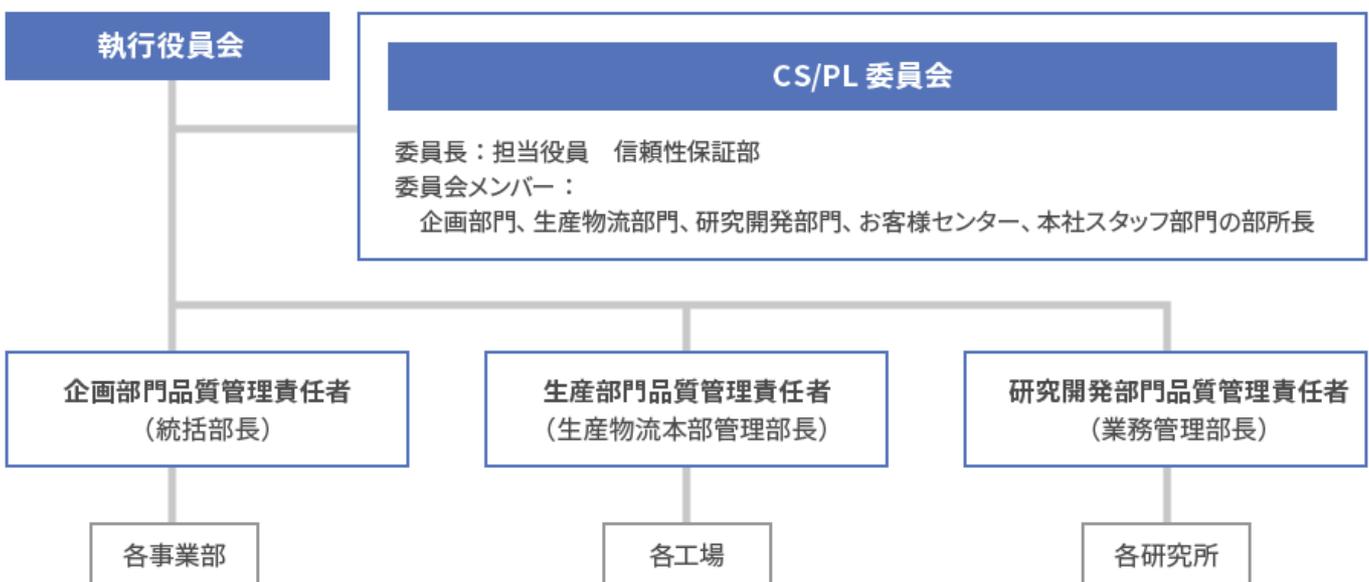
品質方針

当社は「品質方針」に基づき、お客様のご要望に応える安全で高品質な商品づくりを推進しています。

ライオングループの信頼性保証体制

2018年、サプライチェーン全体を対象に「製品マネジメントシステム」を軸としたさらなる品質保証強化を目的に「信頼性保証部」を設置しています。

品質保証活動を全社で推進するために、この「信頼性保証部」を事務局とし、「企画部門」「生産部門」「研究開発部門」「お客様センター」「本社スタッフ部門」から構成される「CS/PL*委員会」を設置しています。本委員会は当社の品質保証活動を統括するもので、法令の遵守、自主的な基準・目標の設定、優良製品の開発に関して、信頼性保証の観点から全社的な推進と課題への対応状況の把握等を行っています。当社は日用雑貨から医薬品まで製造・販売していることから、品質保証体制もその基準に則ったものとなっています。また、万が一当社製品に重大な問題が発生した場合に備え、事故および被害に遭われた方への対応、行政およびお客様への情報開示、製品回収、再発防止策の策定等の一連の対応を迅速に行う体制を構築しています。



信頼性保証体制

* CS Customer Satisfaction(お客様満足)

PL Product Liability(製造物責任)

品質保証への取り組み

「製品マネジメントシステム」の整備・運用

当社は、「品質方針」に基づいて「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する優良製品」を着実にかつ合理的に開発するために、製品開発の各段階での業務プロセスや品質保証を定めた規程である「製品マネジメントシステム」を整備しています。このシステムは、品質マネジメントシステム(QMS:Quality Management System)の国際規格であるISO9001(JISQ9001)に準拠し、製品の開発ステップ(戦略～企画～開発～生産～販売～改良・廃止)に関わる品質保証プロセスの流れや仕組み、果たすべき事項を規定し、運用しています。なお当社は、本社、札幌オフィス、仙台オフィス、名古屋オフィス、大阪オフィス、福岡オフィス、シンガポールオフィス、研究所(平井研究所、小田原研究所)、工場(千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場)に加え、国内関係会社6社(ライオンケミカル株式会社、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社、ライオンハイジーン株式会社、ライオンペット株式会社、ライオンエンジニアリング株式会社、ライオン歯科材株式会社)を含めた、ISO9001マルチサイト統一認証を取得しています。

品質監査

監査責任者および監査メンバーにより、自社および委託先の品質監査を定期的を実施し、その都度改善指導を行っています。調査対象となる自社および委託先の中から、前回調査の実施時期、評価内容等を考慮して実地調査を行います。

海外グループ会社間の品質管理ネットワークの強化

ライオングループは、「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する優良な製品・サービスの提供」をアジアで展開しています。近年は、当社海外グループ会社間の輸出入ビジネスが拡大する一方で、国際的潮流として規制強化の動きも活発になり、これまで以上に各国の品質管理担当者の連携が重要になっています。

そこで2018年から、海外グループ各社の輸出入、品質管理担当者が一同に会する「アジアQA(Quality Assurance:品質保証)会議」を毎年開催しています。2024年はライオン本社にて対面会議形式で開催し、また、千葉工場において生産現場確認を行いました。ライオングループの品質保証体制強化を目的に、現地での業務における現状や課題、今後の連携体制の構築等を中心に意見交換を行っています。

今後もこのような取り組みを重ね、各国のお客様によりよい製品・サービスをお届けできるよう、努めていきます。



「アジアQA会議」の様子(2024年)

安心・安全への取り組み

お客様に安心してお使いいただけるよう、原料および材料、商品使用時の安全性について評価しています。

原料および材料の安全性

原料については、まず既知のデータ・情報をもとに、その原料がどのような物理化学的な特徴をもっているか、有害な性質等がないか（有害性評価）、開発予定の製品の原料として安全に使いこなせるのか（リスク評価）を確認します。当社製品をお使いいただいている幅広い層のお客様のことを考えながら、国際機関の安全性レポート、国内外の規格基準等も参考に配合の可否を判断しています。また健康面の確認だけでなく、商品が家庭で使用された後の環境に対する影響についても、同様に、最新の科学的評価に基づいて検討しています。総合的に注意を要すると判断した物質については、リスト化し管理を徹底しています。

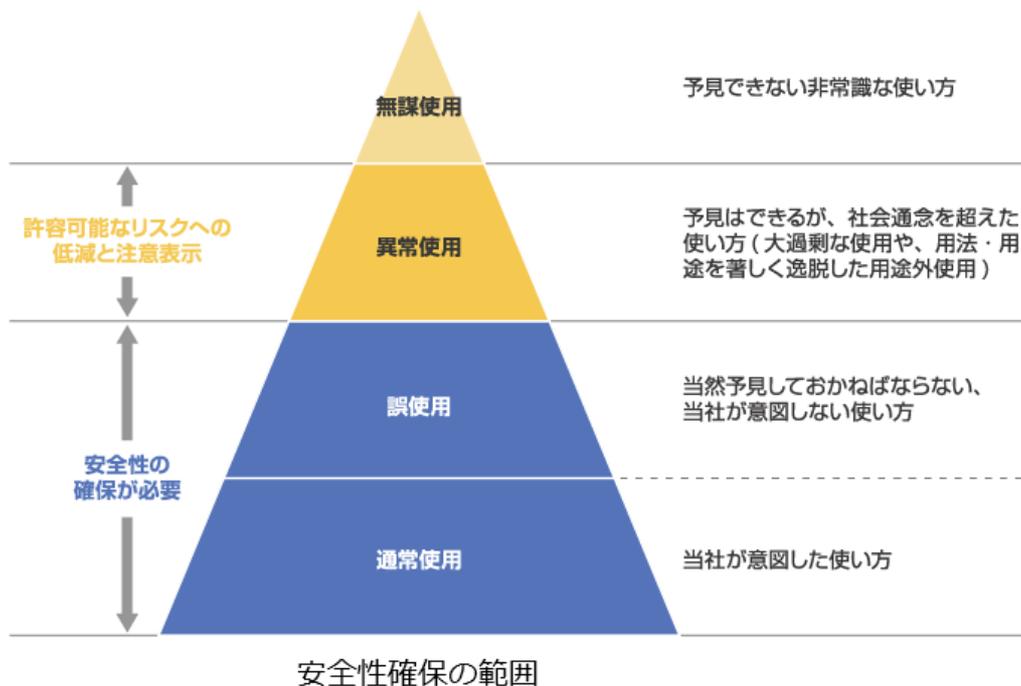
既知のデータだけでは判断が難しい場合には、公定法等の客観的な評価法を用いて安全性試験を行います。試験を行うときには製品としての使い方も考えて、その原料が安全に使える範囲を見極めるようにします。最終的に使用可能と判断できた原料については医薬品・医薬部外品・化粧品、食品、雑貨等の用途に応じた規格を定めて、この規格に適合する原料を生産に用いるようにしています。製品の内容物を格納する容器・包装や成形品等の材料についても、原料と同様に、適切な規格に適合するものを採用しています。製品を上市した後も、使用している原料および材料に関する研究情報を解析し、継続使用に問題がないことを確認しています。また、原料に由来したり、製造プロセスで生じる微量の不純物が、製品に含まれることがあります。健康上の懸念がない場合であっても、当社は合理的に達成可能な限り不純物を低減できるよう、原料購入段階や生産段階での品質管理を進めています。一例として、2012年に国から「非意図的にポリ塩化ビフェニル(PCB)を含有する可能性がある有機顔料」に関する発表が行われた際の対応を挙げます。この時も当社では遅滞なく製品の安全性に何ら問題のないことを確認しました。その後も国の指導方針に従い、「利用可能な最良の技術」(BAT)が適用された原料を購入・使用しております。このように、当社製品に含有され得る不純物の量は、お客様と環境に安全なものとなっています。

> 香りに関する方針

商品使用時の安全性

お客様の様々な商品の使い方や社会的弱者の方々に配慮し、製品設計の段階でリスクを回避するという考えのもと、製品の安全性評価を実施しています。

評価はチェックシートを用い、「通常使用」～「誤使用」までの安全性が製品設計の段階で確保できているかを確認します。「異常使用」の場合であっても、リスクの低減が可能かどうか、リスクは許容できるかどうかを評価し、必要に応じて注意表示を十分に行う等製品の安全性確保へ反映させています。



また、関連する部門から構成される「品質確認検討会」において、商品の使用に関わる被害の防止、安全性を確認すべき項目の抜け防止を目的に、お客様の使用場面を想定した視点からのチェックを実施しています。

万が一の製品トラブルが生じた場合に備え、製品リコール等が迅速にできるよう社内体制を整備しています。

身体トラブル情報の一元管理体制

事業者には、お客様からの身体トラブル情報をいち早く収集して集中的に管理し、適切な対応を迅速にとることが求められています。当社の商品を使用されたお客様からの身体トラブル情報は、お客様センターに集約し一元管理をしています。いただいた内容は複数の専門部所と共有し、経営トップへの報告も含めて、すぐに適切な対応を実施できる体制となっています。

今後も情報の一元管理の重要性を対応者に教育し、情報の収集と管理を継続します。

責任ある表示・広告の取り組み

基本的な考え方

当社は、「ライオン企業行動憲章」「行動指針」に則り、医薬品医療機器等法、景品表示法、健康増進法等の関連法規遵守はもちろんのこと、お客様の視点を考慮し誤解や不快感を起さない、正確で節度ある広告・宣伝を行っています。

販売するすべての製品（食品・医薬品等含む）の表示・広告の品質向上に向けて、基本的な考え方を明確にし、「製品マネジメントシステム」の製品開発の各ステップにおいて、的確かつ適切な表示作成を行うためのガイドラインである「表示作成マニュアル」を定めています。このガイドラインは、当社がお客様を対象に販売する製品（試供品を含む）のパッケージ、形状の他、取扱説明書、パンフレット、セールスハンドブック、広告宣伝等の表現のすべてに適用されます。

当社製品の表示・広告はこのガイドラインに従い、表示・広告確認専任スタッフによる厳しいチェックや適宜外部専門家（弁護士等）による確認を行う等、徹底した管理体制によりお客様にとってわかりやすく認識しやすい表示の推進をしています。

表示・広告確認専任スタッフは、行政主催の講習会や各種外部セミナーへの参加や適宜外部専門家へのヒアリング、行政相談を実施することで、最新の法解釈、行政動向や社会動向の変化を的確にとらえた表示品質の判断、助言ができるよう、専門能力の向上維持に努めています。

OTC医薬品*事業における表示・広告

医薬品に表示すべき内容は医薬品医療機器等法に定められています（法定表示）。一方、医薬品広告の適正化については、法的規制として、医薬品医療機器等法、医薬品等適正広告基準が、また、業界の自主規制として日本一般用医薬品連合会による「OTC医薬品等の適正広告ガイドライン」があります。

人の生命と健康を守る医薬品の広告は、マーケティングとしての情報だけでなく、お客様に医薬品の適正使用を促すための情報であって、誤用を招いたり、安易な使用による乱用・連用を促すようなものであってはならないと考えます。

当社では、医薬品の法定表示については、「医薬品原稿シート」を、広告については、医薬品等適正広告基準に基づいて策定した「広告チェックシート」を制作部門、表示・広告確認部門で共有しています。医薬品医療機器等法に定められた表示や広告規制の共通理解に基づく作成、管理により、効率的かつ的確な適正表示の推進に取り組んでいます。

日本一般用医薬品連合会では広告の適正化を目指して「広告審査会」を設置し、医薬品広告の事後審査を行っています。「広告審査会」は、第三者委員とOTC医薬品メーカーから選出された委員にて構成され、OTC医薬品の広告表現を適正化し、その信頼性を一層高めることを目的に活動を行っています。当社は企業側の委員として参加し、OTC医薬品の広告の適正化に貢献しています。

* OTC医薬品：薬局・薬店・ドラッグストア等で処方せん無しに購入できる医薬品
（出典：日本OTC医薬品協会）

食品事業における表示・広告

食品に表示すべき内容は食品表示法にもとづく食品表示基準によって定められています(法定表示)。また、当社が扱う健康食品の表示広告の適正化については、法的規制として、景品表示法、健康増進法等が、公正競争規約として特定保健用食品の表示に関する公正競争規約及び同施行規則が、業界自主規制として「機能性表示食品適正広告自主基準」等があります。

食品には、三つの基本的な機能があります。その一つが最も重要な栄養機能(一次機能)であり、次が感覚・嗜好機能(二次機能)、そして三つ目が健康の維持や向上に関与する生体調節機能(三次機能)です。当社が販売する食品は、この三次機能の役割を果たす健康食品であり、健康への効果が期待される反面、医薬品との誤認や過大な効果が得られるかのような誤認がないよう適切なマーケティング活動が求められると考えます。

当社は、健康食品の法定表示については、「食品原稿シート」を、広告については、関連法規、業界自主ルールに基づき策定した「食品広告チェックシート」を活用しています。さらに、健康食品の広告チェックでは、お客様への適切な情報提供を目的に、第三者的な視点として、必要に応じて外部専門家(弁護士等)によるチェックを広告確認ステップに設定しています。

* 健康食品

一般的に、健康に良いことをうたった食品全般のことをいいます。健康食品のうち、国が定めた安全性と効果に関する基準等に従って機能性が表示されている食品は「保健機能食品」といい①「機能性表示食品」②「特定保健用食品」及び③「栄養機能食品」の3種類があります。

①「機能性表示食品」

事業者の責任において、科学的根拠に基づいた安全性や機能性等の情報を販売前に消費者庁長官に届け出て、機能性を表示した食品

②「特定保健用食品」

安全性及び健康の維持増進に役立つ効果について国が審査し、消費者庁長官が保健機能の表示を許可している食品

③「栄養機能食品」

人での効果の科学的根拠が認められている栄養成分(ビタミン等)を一定の基準量含まれ、事業者の自己認証により国が定めた栄養機能が表示されている食品

消費者庁からの広告表示に関する勧告について

2015年9月15日から11月27日までの間に日刊新聞紙に掲載した、当社特定保健用食品『トマト酢生活 トマト酢飲料』において一般消費者の誤認を引き起こす広告を掲載したとして、消費者庁より健康増進法にもとづく勧告を受けました。

当社は、この勧告を真摯に受け止め、広告出稿時の管理体制をより一層強化し、今後も再発防止策を着実に推進していきます。

適正使用に向けた取り組み

当社の健康食品、中でも錠剤形状等の加工食品については、手軽に摂取できる反面、過剰摂取等のリスクがあります。当社は、摂取目安量を製品表示の前面に大きく表示する等、生活者が適切に健康食品を使用できるようわかりやすい表示を心がけています。

アレルギー表示

当社では、アレルギー物質として食品表示基準で表示義務となっている特定原材料8品目と特定原材料に準ずるもの20品目*について、原料メーカー・サプライヤーに使用の有無を確認しています。特に機能性関与成分(機能性表示食品)や関与成分(特定保健用食品)については、適宜試験を実施することで適切な表示に努めています。

また、当社食品安全チームを中心に、アレルギー表示に関する法令の見直し等の動きについての情報を社内で共有しています。

* 特定原材料(8品目):卵、乳、小麦、そば、落花生(ピーナッツ)、えび、かに、くるみ

特定原材料に準ずるもの(20品目):りんご、オレンジ、大豆、ごま 等

販売地域の言語での表示

お客様が商品の特長等を正確に理解できるよう、販売地域の法令に従い、使用方法、成分等を現地の言語で表示しています。

『キレイキレイハンドソープ』の表示例



タイ語



韓国語



中国語

従業員の教育・研修

製品の表示・広告に関わる関連法規(医薬品医療機器等法、景品表示法等、健康増進法等)に関するコンプライアンスの徹底を図るため、全従業員へe-ラーニング研修を、そして関連する部門へ学術研修を法規教育の一環として実施しています。

OTC医薬品

当社では、安全性情報の取扱いや適正使用の知識習得のため、GVP省令(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品の製造販売後安全管理の基準に関する省令)に基づき、毎年、医薬品等の企画・販売に従事する従業員へ安全性に関する教育を行っています。この際、定められた広告・宣伝に係る教育手順により、適正なプロモーション活動のための教育を実施しています。本教育の中で、関連法規及び適切な表示・広告に関する教育を実施しています。

医薬品安全性に関する外部イニシアチブへの参画

医薬品の安全性に関する活動

日本では医薬品や医薬部外品等を製造販売するには、医薬品医療機器等法により、製造販売業許可を取得していることが必要となります。法律では、医薬品等の品質保証と製造販売後安全管理に関して、これらを適正に運営する体制を整備し、「総括製造販売責任者」、「品質保証責任者」、「安全管理責任者」を設置し、管理監督を行うことが義務化されています。

当社では、医薬品、医薬部外品及び化粧品の製造販売業者として法令を遵守して適正な製造販売体制を運営しております。安全管理業務は、GVP省令を遵守するよう手順書を制定してこれに従って業務を行い、「安全管理責任者」がこれら安全管理業務を管理しています。また、安全管理責任者は、安全管理部門の運営を行い、更に「総括製造販売責任者」が適正な運用を監督しながら、製造販売後安全管理を実施しています。安全管理部門は、当社が販売している製品の市販後安全対策を実施し、医薬品等の安全性情報の集積とその評価、それに伴い必要に応じて安全対策を取る等社内の業務手順書に従って業務を実施しています。

安全管理実施部門へは、安全管理部門が教育研修を実施し、医薬品等の適正な使用の推進に向けて対応しています。

関連する業界団体への参画

当社は、販売する医薬品のさらなる安全性向上のため、1978年より日本OTC医薬品協会に加盟しており、当社は副会長会社として同協会の活動に参画しています。日本OTC医薬品協会では、OTC医薬品の正しい使い方の広報活動、薬の添付文書の読みやすさやわかりやすい表現方法の研究等、OTC医薬品についてのあらゆる問題を取り上げ、検討しています。当社の「安全管理責任者」等が定期的に委員会に参加し、医薬品医療機器等法やOTC医薬品の安全性に関する最新情報を収集し、安全管理業務や法令遵守に役立てています。

当社では、日本OTC医薬品協会の他、医薬品では東京医薬品工業協会の会員会社として、医薬部外品や化粧品では日本歯磨工業会、日本化粧品工業会に参画して活動し、医薬品等の製造及び品質管理並びに製造販売後安全管理・適正使用の推進に向け、規制等に関する調査や施策の提案、お客様への適正使用の啓発活動を行っています。

動物実験に対する方針

ライオングループは、動物実験における国際的な3Rの原則(Replacement, Reduction, Refinement)を遵守するとともに動物福祉の理念に賛同しております。

多様な製品・サービスをお客様にお使いいただくために、私どもは安全性の徹底追求と機能性向上に積極的に取り組んでいます。化粧品(薬用化粧品含む)の製品開発に際しては、安全上の課題や法規制対応の必要がある場合を除き、動物実験を実施しないこととしています。その他の分野においても、根拠となる科学的データの精度や再現性に影響がない限り、代替法を活用しております。代替法がなく止むを得ず動物実験を行わなければならない場合は、3Rの原則ならびに各国法に従った適正な実施に努めています。

ライオン株式会社では一般社団法人日本化学工業協会Long-range Research Initiativeや日本動物実験代替法学会等への参画を通じて関連研究にも注力して参りました。今後も動物実験代替法の開発に積極的に取り組み、皆さまの健康増進と動物福祉向上の双方に資する事業活動を推進いたします。

3Rの原則：①Replacement(代替法の活用)、②Reduction(動物数の削減)、③Refinement(苦痛の軽減)

お客様の声にお応えする取り組み

- ✓ 考え方
- ✓ 全体像
- ✓ 消費者志向自主宣言
- ✓ 相談概要
- ✓ お客様の声を活かした情報の発信
- ✓ 従業員の積極的活動

考え方

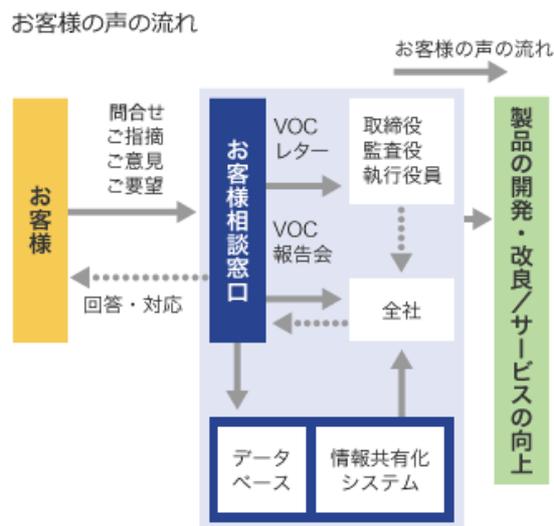
ライオンでは、お客様からいただいたご相談は、製品の改良や新しい製品の開発、サービスの向上に活かすために、厳重な個人情報管理体制の下でデータベースに登録した後、個人情報を除いて情報共有化システムにて全社で共有しています。

中でもお客様満足に影響を与えると思われるものや、商品を直接ご利用いただくお客様の声からの気づきをVOC*1レターとして経営層や製品の開発関連部門に日々共有し、お客様視点の把握や改善策の早期検討・早期対応による品質向上に努めています。また、電話やメール等で寄せられるお客様の声だけでなく、SNS*2等の生活者の声を幅広く把握し、解析をしています。さらに、お客様視点に立って事業活動を推進していくため、専任組織（お客様センター）がお客様の声を分析し、社内の各部門へ積極的に情報発信しています。

*1 [VOC] Voice of Customer(お客様の声)

*2 [SNS] Social Networking Service(X(旧Twitter)、Instagram等)

全体像



「お客さまの声をかたちに」については、[こちら](#)をご覧ください。

消費者志向自主宣言

当社は、お客様満足を最優先とする製品の開発・改良/サービスの提供に取り組むとともに、環境保全活動の推進やコーポレートガバナンス体制のさらなる充実を図り、すべてのステークホルダーからの期待に応えられる信頼性の高い企業を目指しています。現在、行政機関、消費者団体、事業者団体が一体となり、企業の消費者志向経営の取り組みを促進していますが、当社においても、2017年1月、消費者志向経営への積極的な取り組みを自主宣言し、その進捗をホームページで公開するとともに消費者庁に報告しています。2024年7月には、お客様対応基本方針を再制定し、全社のお客様対応を重視する姿勢を表明するとともに、当社のお客様対応の取り組みが、ISO10002に適合することを自主宣言しました。引き続き、全社での迅速・適切なお客様対応活動を推進します。

「消費者志向自主宣言」については、[こちら](#)をご覧ください。

「ISO10002自己適合宣言」については、[こちら](#)をご覧ください。

『消費者志向経営優良事例表彰』を2年続けて受賞

当社は、消費者庁が主催する「消費者志向経営優良事例表彰」において、令和2年度は「内閣府特命担当大臣表彰」を、令和3年度は花王(株)とともに「選考委員長表彰」を受賞しました。この賞は、「消費者志向自主宣言」を公表し、宣言に基づいて優れた取り組みを行っている企業を表彰するものです。

この受賞を励みとし、今後も消費者志向経営を推進し、持続可能な社会への貢献を果たしていきます。



> ニュースリリース:『消費者志向経営優良事例 内閣府特命担当大臣表彰』を受賞 [PDF](#)

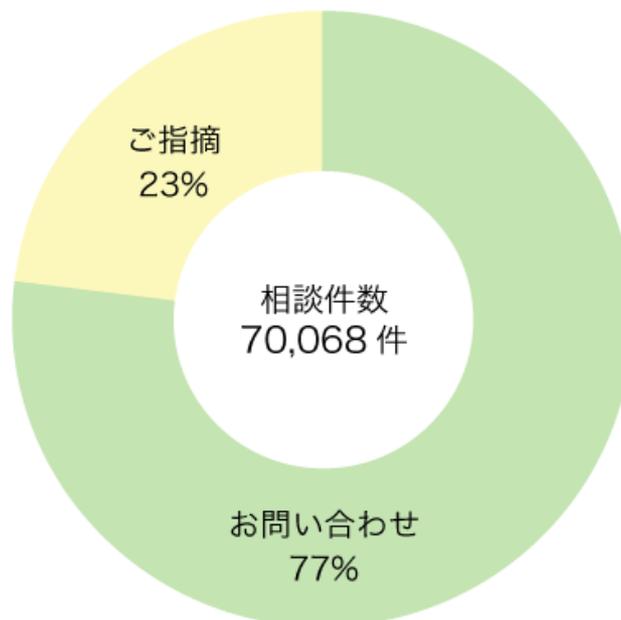
> ニュースリリース:花王とライオン、消費者志向経営優良事例表彰において新設の『選考委員長表彰』を受賞 [PDF](#)

相談概要

お客様センターには、毎年多くのお客様からの声が寄せられます。2024年は、約7万件の相談があり、前年比77%でした。相談内訳は、製品の使用方法、取扱販売店、品質や安全性等に関するお問い合わせが全体の8割弱を占め、製品使用時のご不満や、トラブル等のご指摘が約2割でした。今後もお客様が相談しやすい環境づくりを目指すとともに、相談には誠意をもって迅速に対応します。お電話やメールでのお問い合わせ先は「[お問い合わせ先*](#)」にも記載しています。

*「お問い合わせ」については、[こちら](#)をご覧ください。

相談内容内訳(2024年)



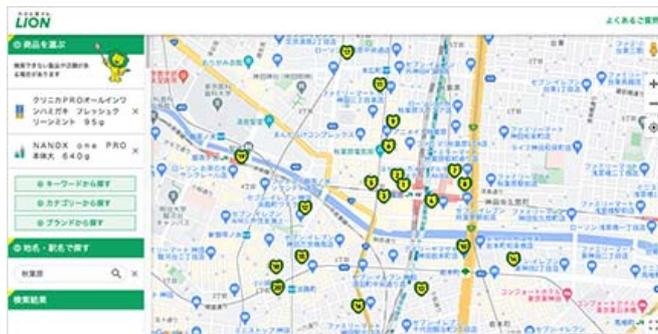
お客様の声を活かした情報の発信

24時間365日、いつでもどこでもお客様のお悩みを解決できるよう、ホームページの「製品Q&A」では、よくいただくご質問への回答やトラブルの解決方法、お客様の声を受けて改善した事例等を掲載し、多くのお客様にご覧いただいています。また、製品取扱店舗検索サービスやチャットボットも導入しています。

今後もお客様のお役に立つ情報を発信していきます。



☞ ホームページの「製品Q&A」



☞ 「製品取扱店舗検索サービス」

お客様の声を反映した製品の開発・改良事例については、[こちら](#)をご覧ください。

従業員の積極的活動

当社は、お客様にとってより革新的で価値の高い製品・サービスを創造するため、必要な人材を採用・育成し、自由闊達に物の言える企業風土を醸成します。

お客様の声を活かす風土の醸成

すべての従業員がお客様視点で考え、行動する風土の醸成に取り組んでいます。新入社員や製品開発者等を対象に、対応の音声記録を聴く「お客様の声を聴く体験会」を行っています。対応接点の重要度を理解するとともに、お客様視点で業務を考える機会にしています。さらに、企画・開発部門や関連部門との定例報告会や事業所（営業、工場）にも相談状況報告会を定期的を実施し、情報の共有化を図っています。

今後もお客様視点に立った製品・サービスを提供できるよう、さらなる従業員の意識改革に努めていきます。



従業員によるお客様の声を聴く体験

顧客視点の理解を行動変革に

お客様の立場になって考え、行動する「顧客視点風土醸成」を目的に、超高齢社会への対応として、当社では、「高齢者疑似体験セット」をお客様センターに常備しています。実際に高齢のお客様からのお申し出の声を聴くことと、疑似体験セットを装着した上で、製品の表示を見たり、容器を持ったりすることで、お客様への理解を深め、「心遣い」や「相互理解」の気持ちを育み、高齢者に優しい人材を育成し、「製品開発」や「お客様対応」「情報発信」等に活かしています。

製品開発担当者だけでなく、電話対応のコミュニケーターや情報発信を担う「暮らしのマイスター」、新入社員等にも対象を広げています。



「暮らしのマイスター」による高齢者疑似体験の様子

お客様にご満足いただける対応を目指した取り組み

電話対応のコミュニケーターが相談をいただいたお客様のお困りの状態を伺い、迅速かつ確にお応えできるスキルと、製品や付随する幅広い知識の習得を目的とし、電話対応研修を実施しています。様々な事例について対応者が議論し、お互いのスキルを高める研修や、製品の背景となる健康や暮らしに関する勉強会、お客様とのコミュニケーション力向上のために聞き取りやすい発声や言葉使いのトレーニングを実施しています。こうした活動の成果は第三者評価で確認し、お客様により満足していただける対応ができるように努めています。

更なる製品・サービスの品質改善およびお客様満足の向上を目指して

当社は、リサーチ会社を通じて、企業ブランドの浸透状況を把握しています。以下の調査において「企業の製品・サービスを利用している推奨意向、自分必要度や共感度等」（当社製品のユーザー：16歳以上の一般生活者男女）の結果を定点でみています。これからもお客様からの評価を客観的に把握することで、質の高い製品・サービスの提供につなげていきます。

	2020年*1	2021年	2022年	2023年	2024年
アンケート全体回答者数(人)	783	773	783	796	760
うち現ユーザー回答者数(人)	664	628	640	649	593
回答率(%)*2	84.8	81.2	81.7	81.5	78.0
推奨意向(%)*3	47.6	40.0	44.7	43.6	42.3

日経リサーチ「ブランド戦略サーベイ」調べ

*1 コロナ禍の影響により、衛生用品提供企業は全体的にスコアが上昇

*2 アンケート全体回答者のうち、現ユーザーであると回答した人数の割合

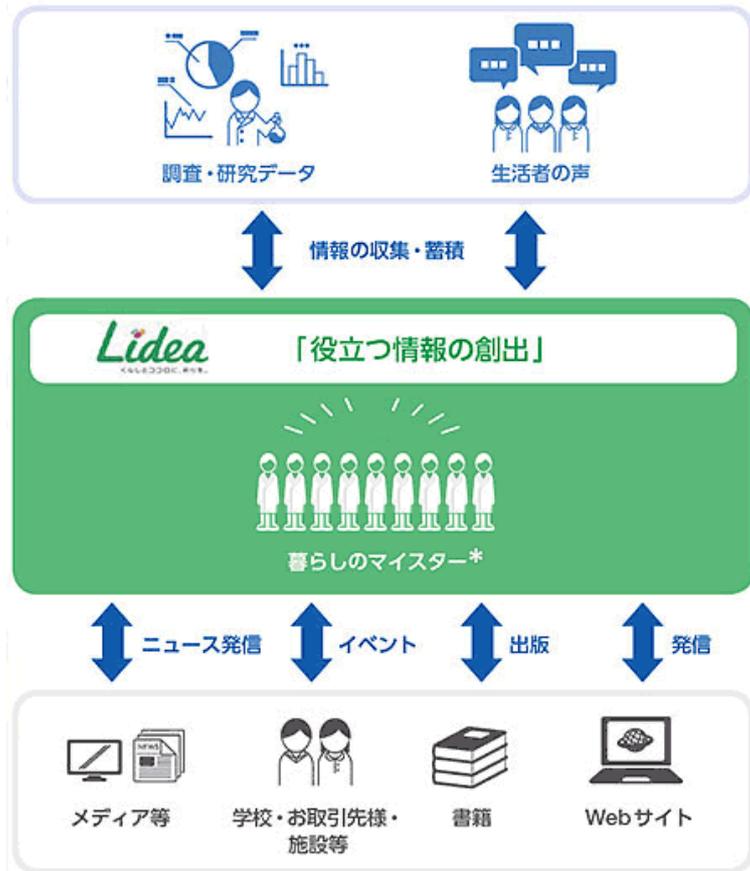
*3 現ユーザーの中で推奨意向があると回答した人の割合

お客様への情報提供の強化

※ このページでは、卸店に出荷する前のものを「製品」、出荷後のものを「商品」と使い分けて、記載しています。

くらしに役立つ生活情報の発信と啓発活動

ライオンでは健康で快適な生活に寄与する生活情報づくりと発信の拡大を目指し、生活者の皆様と積極的にコミュニケーションを図っています。



* 快適で健康な生活を送るための情報を研究・発信するスペシャリスト

「暮らしのマイスター」の活動紹介

当社には「オーラルケア(歯とお口の健康について)」「ヘルスケア(からだの健康、美容について)」「衛生」「お洗濯」「リビングケア(すまいの清潔について)」の分野で、研究キャリアと専門知識を持つ暮らしのマイスターが活動しています。暮らしのマイスターは、毎日を健やかで快適にするために役立つ生活情報を研究しており、さまざまなメディアやイベントを通じて、くらしを彩るアイデアを発信しています。

講習会を通じたお客様とのコミュニケーション



小学校での手洗い衛生授業（2024年）



Kaji×Kajiハッピーシェア
明石市・ライオン共催 家事シェアセミナー（2024年）



くらしの部活動（「学ぶ」「話す」「体験する」リアルイベント）
お口の健康部（2024年）

生活情報メディア「Lidea（リディア）」を活用したお客様とのコミュニケーション

「Lidea」は、ライオンの製品やそこに詰まった技術、生活への考え方を通して、くらしへの好奇心や、毎日を慈しむ気持ちをプラスしていく生活情報メディアです。専門知識を持つ生活情報のスペシャリスト「暮らしのマイスター」が中心となって、皆様のくらしに寄り添った確かな情報を提供しています。当社はLideaを通じてくらしに役立つ生活情報をお伝えするとともに、「Lidea」に蓄積された情報を活用して、様々な形でお客様とのコミュニケーションを深めていきます。



[\[Lidea\]https://lidea.today/](https://lidea.today/)

サステナビリティ コミュニケーション冊子の発行

当社は生活者の皆様に、ライオンのサステナビリティへの取り組みを楽しく、簡単に理解してもらうことを目的にコミュニケーション冊子「数字で見る 暮らしのたいせつ」を制作しています。皆様の暮らしに密接に関係のある様々な社会課題を、数字を使って示すとともに、ライオンが商品づくり・啓発活動・情報発信を通じてその解決に取り組んでいることを紹介しています。生活者の皆様との接点がある、健康、清潔・衛生、エコ（地球環境）に関する様々なイベントで配付しています。



視覚障がい者対応の取り組み

視覚障がい者の方にも各種の情報を提供してきました。

[> 詳細はこちら](#)

コーポレート・ガバナンス

2030年目標と進捗

目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2024年実績)
リスクの特定ならびに迅速かつ適切に対処する網羅的・総括的なリスクマネジメント体制を構築し、企業の持続的な成長を目指します。	<ul style="list-style-type: none">事業における重要なリスクのモニタリング状況及びその低減に向けた対応策の推進状況の開示 ⇒年1回以上	<ul style="list-style-type: none">1回開示
コンプライアンス意識定着に向けた実効性のある活動を強化し、社会から信頼される企業を目指します。	<ul style="list-style-type: none">コンプライアンスに関する教育・研修の受講 ⇒事業所・拠点における計画(100%)実施重大なコンプライアンス違反件数 ⇒ゼロ	<ul style="list-style-type: none">研修受講 ⇒計画に対して100%実施重大なコンプライアンス違反件数 ⇒ゼロ
健全、公正、かつ透明で実効性の高いガバナンス体制を構築し、持続的な企業価値向上を目指します。	<ul style="list-style-type: none">内部統制システムの整備・運用状況の開示 ⇒年1回以上外部評価機関の評価向上 ⇒2020年起点での継続向上	<ul style="list-style-type: none">1回開示2023年と同等以上、評価向上に向けて活動継続

＜ サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2024年実績・施策  (1.01MB)

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実を推進しています。



役員報酬

役員の報酬体系、業績連動報酬に係る指標等について掲載しています。



内部統制

継続的に内部統制システムの改善を図り、適正かつ効率的な体制の構築を徹底しています。



リスクマネジメント

グループ全体のリスクを網羅的・総括的に管理しています。



コンプライアンス

コンプライアンスの徹底、強化を図っています。



情報管理

各種方針や規程を定め、情報セキュリティ対策を推進しています。



知的財産

無形資産としての知的財産の創造、適正な保護、積極的な活用に努めています。



方針・宣言

コーポレート・ガバナンス基本方針等の各種方針を掲載しています。



海外グループでの取り組み

考え方

ライオングループは、商品やサービスの提供だけでなく、啓発活動や情報提供等を通じて「健康で快適な生活習慣づくり」に取り組むことは、社会的な責任であり、当社グループのパーパス(存在意義)「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」を実践することでもあると考えています。当社グループでは、事業展開しているアジアにおいても「オーラルヘルスケア習慣」「清潔・衛生習慣」の普及定着活動を実施し、また、海外グループ会社の事業所所在地や各地域で「環境保全活動」「寄付活動」にも取り組んでいます。実施にあたっては、生活者に寄り添い、現地の行政、流通、学校、歯科専門家や各コミュニティ等とともにパートナーシップを組みながら、活動を推進しています。

海外グループ会社で行っているサステナビリティ活動



Lion Corporation (Korea)	>	獅王日用化工(青島)有限公司	>	獅王(香港)有限公司	>
獅王家品股份有限公司	>	Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd	>	Lion Corporation (Thailand) Ltd.	>
Lion Kallol Limited	>	Southern Lion Sdn. Bhd.	>	PT. Lion Wings	>

Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd

▼ オーラルヘルスケア ▼ 清潔衛生習慣 ▼ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① National Dental Centre Singaporeと連携した2024年World Oral Health Day Public Forumに出展

2024年3月16日、Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd (以下、「シンガポールライオン」という。)は、National Trade Union Congress (NTUC) Business CentreでNational Dental Centre Singapore (NDCS) と連携し、世界口腔保健デーを支援するための公開フォーラムに出展しました。このフォーラムは、公衆口腔衛生教育プログラムの一環として開催され、むし歯や歯周病、欠損歯を人工物で補うといった一般的な歯科の課題が教育テーマとして扱われました。オーラルケアをポジティブな習慣としていただけるように、シンガポールの人々に正しい歯磨きの方法やフロスの使い方、バランスのとれた食事を摂ることの大切さをお伝えしました。シンガポールライオンはオーラルケア商品を紹介するブースで来場者に簡単な啓発活動を実施して、400人の参加者全員に、シンガポールライオンが販売する『Systema』と『KODOMO』ブランドのオーラルケア商品をお渡ししました。



シンガポールライオンの商品を展示し、オーラルケア習慣を促進するブース(左)およびイベントのポスター(右)

② Smileworks Dental Clinicに商品を協賛

シンガポールライオンは、Smileworks Dental Clinicと連携して、患者さんが治療後も自宅でオーラルケアができるように、オーラルケア習慣の促進をしてきました。この活動は2024年も継続し、1月19日から2月2日に来院した大人の患者さん以外にも、就学前3-5才の子ども子どもの患者、そして協業者の100名に、『Systema』と『KODOMO』のオーラルケアセットを提供しました。



『Systema』と『KODOMO』のオーラルケアセット

③ 歯科医院を通じたオーラルヘルスケアの普及活動

シンガポールライオンは、シンガポールの歯科医院のグループである「Thomson Dental Centre」と連携して、来院した患者さんに正しいオーラルヘルスケア習慣を啓発しています。初めて「Thomson Dental Centre」に来院される方に、『KODOMO』と『Systema』（シンガポールライオンが販売している商品）のオーラルケアセットを提供しています。「子ども用オーラルケアセット」「ガムケアセット」のいずれかのセットを、患者さんの年齢やお口の悩みに合わせて、歯科医師からお渡しします。お渡ししたキットを用いて、よいオーラルヘルスケア習慣や歯の磨き方の指導を行います。各セットには、ハブラシ、ハミガキ、洗口液およびオーラルケアリーフレットが含まれています。2024年は「Thomson Dental Centre」の患者さん10,100名にオーラルケアセットを提供しました。



Thomas Dental Centreのプレゼント BOX に『Systema』と『KODOMO』のロゴ掲載

④ 高齢者のための地域歯科健診 National Dental Centre Singapore (NDCS) との共同

NDCSは、高齢者のお口の健康の重要性に対する意識を高めることを目的に歯科健診コミュニティを設立しました。この健診では、義歯の適切なお手入れについて指導し、痛みを和らげたり、お口の機能を維持・回復するためのプログラムを提供しています。このプログラムは、新型コロナウイルス感染の拡大の影響により一時中断され、その後2020年末に再開されました。シンガポールライオンは、2024年1月から12月にかけて、この地域歯科健診に参加した408名の高齢者の参加者に『Systema』ハミガキを配布しました。

⑤ National Dental Centre of Singaporeと連携したシンガポールヘルス会議2024年への参加

シンガポール口腔健康会議は、口腔医療の最新の進歩と発展に関する知識を共有するために、歯科医、歯科従事者、専門家、研究者などの分野に方が集まる隔年開催のイベントです。2024年8月17日にNDCSで開催され、「口腔健康のトレンドと革新」をテーマに、国際的に著名な講演者が学術的・臨床的な知識交換を行う絶好の機会となりました。LCSは261名の参加者全員に『Systema』ブランドのオーラルケア製品を提供しました。



『Systema』ロゴを掲載したプログラム冊子

⑥ 高齢者向けオーラルヘルスケア啓発活動

毎年10月1日は、国際高齢者デーとして1991年から国際連合加盟国が定める国際デーとなっています。高齢者の権利や高齢者差別、高齢者虐待撤廃などの意識向上を目的としています。

2024年10月5日、シンガポールライオンはSingHealthが主催する「国際高齢者デー」イベントで、NDCSが設置したブースをサポートし、健康的な高齢化における口腔健康の重要性を啓発しました。ブースでは、口腔フレイルのスクリーニングと質疑応答を行い、参加者は口腔の健康について理解を深めました。セッション終了後、参加者全員に『Systema』商品セットが配布されました。



『Systema』ロゴが入ったポスター



ブースでスクリーニング質問を受ける高齢者

⑦ National Dental Centre of Singapore (NDCS)と共同でSembawang Groupのヘルスフェスタ2024に参画

2024年10月13日、シンガポールライオンはBukitCanberraが主催する「ヘルス・フィエスタ2024」イベントのNDCSのブースに出展し、Sembawangに暮らす住民に口腔衛生の重要性を啓発しました。このイベントは家族連れを対象としており、Eゲームや子供向けの歯磨き体験などが行われました。参加者には『Systema』、『NONIO』、『KODOMO』オーラルケア製品が入った福袋が贈られました。



ロゴ入りアクティビティ・カード



イベント・ポスター

⑧ 幼児からシニア対象のオーラルケア啓発活動をT32 Dental Groupと協働して展開

シンガポールライオンは、2023年3月、4月、8月にT32 Dental Groupと協力し、若年層から高齢者までを対象として一連の活動を通じて、国民のオーラルケア意識の向上を図りました。

この活動では、3つのプログラムを展開しました。

- 就学前児童向けには、歯科医に行ったり、幼稚園の敷地で歯みがき教育を実施
- 社会人向けには、口腔の健康についての講演と歯科検診を実施
- 高齢者向けには、健康に関する説明会を実施

シンガポールライオンは、この活動のスポンサーとして、各ターゲット層に合ったブランドの『KODOMO』、『Systema』、『NONIO』のオーラルケア商品を提供しました。1,076名のあらゆる年代の方々が、オーラルケアの重要性を学びました。



Systema システムマ
The Gum Care Expert

牙龈护理专家

健康牙龈，给你更健康的你！

牙龈护理对整体健康至关重要。细菌会导致牙龈问题，它可能会增加患上其他疾病的几率，如心脏病和中风等¹。

什么是牙周病？
牙周病是一种出现在牙周袋的细菌感染。其主要病因是牙菌斑，它是由上亿细菌组成的软黏膜所形成。牙菌斑的毒素将会损害牙龈组织。
牙龈炎是牙周病的早期阶段，若不接受治疗，它将恶化成牙周病。

牙菌斑如何导致牙周病？
牙菌斑会于进食之后在牙齿周围形成，会造成牙龈肿胀、发炎以及刷牙时出血。

1. 资料来源: Periodontology 2000, Vol. 44, 2007, David, W. P, Nadine, B & Timothy C.N., 113-126; Bryan S.M & Robert D., 53-115; Binet L.M & Corral J.G., 197-193.
2. 每天正确使用Systema超纤细柔软刷毛牙刷两次，就能在7天内帮助改善牙龈健康，效果因人而异。
3. 基于独立实验室的测试，Systema Gum Care Toothpaste (Natural Breezy Mint/ Natural Joy Cool Mint/ Natural Sakura Mint) is proven in helping to kill 99.9% gum problem causing bacteria. Gum problem causing bacteria refers to bacteria inhabiting in the Biofilm Porphyromonas gingivalis, Fusobacterium nucleatum, Veillonella parvula, Actinomyces viscosus

若不接受治疗，它将演变成牙周病。牙周病不仅将导致牙齿脱落，更与糖尿病及心脏疾病等其他健康问题息息相关¹。

Systema牙龈护理产品系列
采用日本狮王的先进的护齿科技，Systema牙龈护理专家，帮助提供卓越的牙龈护理。

Systema超纤细柔软刷毛牙刷能在7天内帮助改善牙龈健康²；而Systema牙龈护理牙膏则能帮助消灭99.9%的细菌³。



企業の社員向け歯科検診とオーラルケアを促進する『Systema』の記事

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2024



2024年8月、世界手洗いの日に向けて、シンガポールライオンとSembWasteが実施した、手指衛生とリサイクルの習慣を学ぶ楽しいセッションに、就学前の子どもたち949名が参加しました。

イベントの内容：

この活動では、手洗いの大切さとリサイクルの習慣について、楽しいクイズや、子どもたちがハンドソープのボトルのステッカーをデザインしてコンテストに参加するためお絵かきをしました。この活動を通して、子どもたちは手洗いとリサイクルの大切さを学ぶと同時に、ボトルのステッカーには創造性を表現しました。



『Kirei Kirei』Handwashing Day 2024の様子

寄付活動

シンガポールライオンは、企業の社会的責任として、自社で販売する衛生用品の現物寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

新型コロナウイルス感染症における寄付活動

医療従事者を支援するために歯科専門グループとの共同

活動日時	2022年11月
社外協力者	Mount Elizabeth Medical Centre
寄付内容	『NONIO』洗口液が入ったオーラルケア商品 750セット
活動の詳細	シンガポールライオンと歯科専門グループは共同して、Mount Elizabeth Medical Centreに勤める750名の医療従事者へ感謝の気持ち込めて、オーラルケアセットを贈りました。



医療従事者に提供したオーラルケアキット

Lion Corporation (Thailand) Ltd.

▼ オーラルヘルスケア ▼ 清潔衛生習慣 ▼ 環境保全活動 ▼ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① 『KODOMO』ブランドを活用したオーラルケア普及啓発活動「Oral Care School Road Show」の実施

Lion Corporation (Thailand) Ltd. (以下、「タイライオン」という。)では、1999年から子どもたちに口腔衛生に関する情報と正しい歯磨き方法を伝える教育プログラム「KODOMO School Road Show」を行ってきました。長年の活動により、『KODOMO』ブランドのイメージを構築し、売上を拡大してきました。

2024年11月13日から2025年2月14日にかけて、首都バンコクと主要な地方都市の5-12歳の子どもたち60,000名を対象に、Chan Activation Co.,Ltd.と共同で口腔衛生に関する教育をステージで行い、『KODOMO』ブランドのキャラクター動物たちと一緒に楽しいイベントとして実施しました。イベントの最後には『KODOMO』ハミガキのサンプリングを行い、子どもたちの歯磨き習慣づくりに貢献しています。



『KODOMO』ブランドの動物キャラクターによる講演



正しい歯磨き方法を模型で実演する様子



『KODOMO』ハミガキ サンプルをプレゼントされる子どもたち

② 創立55周年記念「Lion Smile Express」移動歯科バスを活動したオーラルケア活動

タイライオンは、2024年に創業55周年を迎えました。長い歴史を持つオーラルケアのリーディングカンパニーとして、タイの人々のオーラルケアに対する意識と習慣を向上させるために、これまで公衆口腔衛生活動を牽引してきました。

2024年6月24日から12月31日までタイライオン創立55周年を記念して、バンコクおよび近郊の31カ所で、タイライオンのマーケティング部門とバンコクスマイルクリニックが協力して、予防や治療に基づいた歯科治療を受けることができない人々や子供たちを支援するため、全身の健康と幸福への入り口として、オーラルケア習慣を促進しました。レントゲン検査、診察椅子、歯科治療システムなど最新の歯科技術と設備を完備した「Lion Smile Express」と名付けた移動歯科バスに歯科医師が常駐し、歯科検診と歯科治療を無料で提供しました。この活動には、子どもから大人、高齢者、障がい者、孤児も含め2,687名が参加しました。

タイライオンはこれからも、タイの人々の健康と幸福のために「より良い習慣づくり」を通じて貢献していきます。



Lion Smile Express の出陣式



移動歯科バスの中で歯科診療を受ける様子



イベントの主催者と参加者たち

③ 行政と連携した子どものむし歯予防活動

タイライオンのサステナビリティチームは、タイライオンが販売する『KODOMO』ブランドの商品を使用して、就学前の園児や小学生903名の子どもたちに正しい歯みがき指導を行っています。2024年は以下のスケジュールで実施しました。

- Laem Chabang 2校(8月22日)、1校(9月10日)
- Wat Phrapratanporn 1校(11月19日)
- Wat Sukreebunyaram 1校(11月29日)

ライオンちゃんも登場して、子どもたちは喜んで学んでくれました。



啓発活動の様子

④ 地方の保健所と連携した高齢者のお口の機能改善に向けた取り組み

タイ北部のプレー県は、高齢化が進んでいる地方のひとつです。タイライオンは2018年からプレー県の保健所と連携して、高齢者の喉のつかえ(むせ)を減らし、噛む力を高め、ドライマウスを改善することで、QOL(生活の質)を高める活動に取り組んでいます。この活動は、2016年の「ライオン・オーラル・ヘルスアワード」で歯科専門家により紹介されました。保健所の歯科医師は定期的に高齢者が集まる地域のコミュニティで、オーラルケアに関する講演を行います。また、お口の機能が低下するのを防ぎ、「お口の元気度」を保持、増進することを目的に、ライオンにより設立された(公財)ライオン歯科衛生研究所(LDH)が開発した「健口美」体操(お口の体操)を取り入れています。体操を始めてから6ヵ月もすると、多くの参加者に効果が現れ、喉のつかえやドライマウスが改善されました。タイライオンは多くの高齢者が実践できるように、「健口美」体操のパンフレットと掲示板を提供しています。

2024年7月5日にYannawa Elderly School、8月6日にSocial Welfare Development Center for Older Persons, Pathumthani Province、9月4日にRai Nueng Elderly Schoolでタイライオンは「健康美」体操を、高齢者の方に向けて実施しました。198名の高齢者が参加しました。

タイライオンでは、行政と連携しながらタイの人々のオーラルケアの改善に継続して貢献していきます。



「健口美」体操を体験した参加者の様子

⑤ 政府の病院・保健センターや販売店と連携した取り組み

乳歯はゆくゆく生え変わることから、大人の歯より軽視されがちです。しかし、お口の健康は将来の全身健康に影響をおよぼすといわれており、小さいころからオーラルケアを実践することが大切です。

タイライオンは正しいオーラルケアの普及と「予防歯科*」の浸透・定着に向け、政府の病院・保健センターと連携し、歯科健診・むし歯処置・歯みがき指導等のオーラルヘルス活動を実施しています。地方の学校で歯科健診を行い、児童にむし歯が見つかった場合「スマート・テクニーク」とよばれる処置を歯科医師が行います。

2018年からは、活動を実施する地域にある販売店と共同で、2歳から5歳の子どもたちを対象に、『KODOMO』ブランドを活用した劇により、正しい歯みがきの仕方を伝えています。タイライオンは連携した販売店でしか利用できないクーポンを配布し、クーポンをもらった子どもたちは、その販売店にクーポンを持参すると、タイライオンの商品が通常より安く購入できます。これにより自宅でもしっかり歯みがきを継続してできるようになります。

この活動は、2024年2月27日にシラチャ工場エリアにあるThammamongkolで行われLaemchabang地区の小学校に勤務する教師20名が参加しました。タイライオンでは、他の地方にも活動を広げ、タイの人々にお口の健康を啓発していきます。



教員たちへの講習会の様子

* ライオンが海外グループ会社で推進している「予防歯科」の考え方は、歯科専門家、流通、ライオンの3者が連携した取り組みです。歯科専門家と一緒にライオンは、歯みがきの実践的な指導やオーラルケア情報の発信により、生活者のオーラルケアに対する理解や関心を高めてもらうよう努めています。加えて、ライオングループでは店頭やその他市場を通じて、一人ひとりに合った商品の提供によるオーラルケア習慣の実践を推進しています。

⑥ 政府と連携したオーラルヘルスケア普及活動

タイ政府は、タイ国民の健康意識を高めるため、2012年より毎年「ヘルスフェア」を実施しています。2018年は、チョンブリー県シーラーチャー郡レムチャバン地区のAo Udomコミュニティセンターで実施されました。「ヘルスフェア」では、地域のコミュニティセンターで、医療機関、健康グッズ販売業者等がブースを出展し、ボランティアの医師や看護師が参加者に健康診断を行い、薬を処方します。タイライオンもブースを出展し、訪れる方々の年代に合った商品やオーラルケアの方法をお伝えし、タイライオンが販売するオーラルケアブランド『SYSTEMA』や『GoodAge』などの商品をお渡ししました。2024年5月15日から17日は、約250名が「ヘルスフェア」に参加しました。



The Health Fair 2024に出展したブースの様子

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2024



10月15日は「世界手洗いの日」に制定されています。2024年タイライオンのマーケティング部門では、タイの子どもたちの幸せを願い、『Kirei Kirei』ボトルを1本販売するごとに、1パーツをRamathibodi財団が運営する在宅小児呼吸ケアプロジェクトに寄付する活動を行いました。これまでに合計0.3MB(128万円相当)が財団に寄付されました。寄付金は財団の医療機器の購入に充てられます。タイライオンでは、『KireiKirei』ブランドを通じて、タイの人たちの健康で清潔な習慣づくりを応援していきます。



タイライオンのマーケティング部門による贈呈式

2023年10月15日、タイライオンはSuan Luang RAMA IX (ラーマ9世公園)にてGlobal Hand Washing Day Runを開催し、1,000名のランナーが参加しました。このイベントは、世界手洗いの日に賛同し、「手洗いは命を救う」をテーマに、タイの人々の手洗い習慣の普及と定着を目的に行いました。



ランニングイベントでの様子

またイベントとは別に、8月1日～9月30日まで「お絵描きマイボトルコンテスト」を実施しました。タイライオンのE-commerceサイトから『KireiKirei』ボトルを購入して頂いた方は、Facebookのファンページからマイボトルのお絵かき用ステッカーをダウンロードができる仕組みです。Facebookにお絵描きをしたステッカーをアップロードして頂き、10月にコンテストの結果がFacebookのサイトとGlobal Hand Washing Day Runで発表されます。このコンテストの評価基準を以下のように設定しました。

- 手描き、コラージュ、またはコンピュータプログラミングのデコレーション
- お絵描きの内容が、夢や希望、情緒性などが豊かに表現されていること
- 技術レベルは問いません

このお絵描きコンテストに、約600名の子どもたちが参加し、手洗いの重要性を楽しく学んでくれました。

① 小学校で「健康で清潔な生活習慣づくり」を指導

2024年11月27日、タイライオンはBangkok Christian Collegeの1年生を対象に課外授業で、歯磨きと手洗い方法をレクチャーしました。500名の児童がこのイベントに参加しました。



子ども達がライオンちゃんと一緒に楽しく歯みがき、手洗いを学ぶ様子

② 小学校で「Happy Life Happy Home」プログラムを実施

タイライオンは、小学校で身体を健康で清潔に保つ方法と家を清潔で快適に保つ方法を啓発するプログラム「Happy Life Happy Home」を実施しています。このプログラムは Happy Life (歯みがき、手洗い、洗顔、シャワー浴) と Happy Home (お洗濯、食器洗い、床掃除) で構成され、タイライオン製品の使用を通じて「健康、快適、清潔・衛生」に対する意識を高めることを目的としています。2024年5月30日バンコクの Wat Dokmai School、11月11日シーラーチャーの Thai Kasikorn Songkro School で小学校4～5年生を対象に、歯磨き・手洗だけでなく、大切な衣類を手洗いする洗濯方法など指導しました。子どもたちは、とても興味津々で参加し、自宅でも習ったことを実践してくれています。



指導風景



参加した児童たち



洗濯をして白さを実感する児童たち

環境保全活動

タイライオンコミュニティ周辺地域に向けた環境啓発

2022年11月25日、タイライオンの近隣に暮らす42名のYannawa区域の高齢者向けに再利用・リサイクル可能な物品の分別方法を啓発しました。タイライオンでは、従業員が再利用可能なごみを持参し、正しい方法で捨てた場合、ポイントを付与する制度を設け、エコの習慣化を促進しています。



ごみの分別に関してレクチャーする様子

寄付活動

タイライオンは、企業の社会的責任と衛生用品製造会社として、自社で販売する衛生用品の現物寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

活動1 チャンマイの病院で歯科棟の建設支援

活動時期	2024年5月20日
活動場所	チェンマイにあるサムーン病院
寄付内容	病院の歯科棟建設のための寄付
活動の詳細	チェンマイのサムーン病院で新しい歯科棟の建設を支援するために、100万パーツ(約430万円)を寄付しました。



タイライオンの幹部による贈呈式

活動2 病院修復の支援

活動時期	2024年10月
活動場所	King Chulalongkorn Memorial Hospital
活動の詳細	サハグループが2022年に建設したTiam-Saipin Chokuwattana buildingの修理費用をタイライオンがタイ赤十字を通じて支援



支援金を贈呈するタイライオンの幹部たち

活動3 インフルエンザ予防のための手洗い洗面台を寄付

活動時期	2023年3月2日
活動場所	バンコク: Wat Dokmai School, Wat Pariwat School, Wat Chonglom School, Wat Chong Nonsi School, Wat Khlong Phum School, Wat Klongmai School シーラーチャー: Wat Chukkacher school, Laem Chabang School District 1, Thunsuklapittaya School, Wat Phrapratanporn
寄付内容	洗面台ボウルと『KireiKirei』ハンドソープの提供
活動の詳細	新型コロナウイルス感染症は収束しつつありますが、依然としてインフルエンザなどの感染症は存在します。清潔衛生習慣の意識を高めるため、タイライオンのバンコクオフィスとシーラーチャー工場の近隣にある小学校に、児童が手洗いをする洗面台ボウルと『KireiKirei』ハンドソープを提供しました。





寄付活動の様子

Southern Lion Sdn. Bhd.

▼ オーラルヘルスケア ▼ 清潔衛生習慣 ▼ 環境保全活動 ▼ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① マレーシア保健省(MOH)や歯科学会と連携したKlang Valley市内の歯科医院にオーラルケアブランド『Systema』『KODOMO』の推奨

Southern Lion Sdn. Bhd. (以下、「サザンライオン」という。)はマレーシア保健省(MOH)や歯科学会と連携して、Klang Valley市内の歯科医院でサザンライオンが販売するオーラルケアブランドを推奨してもらっています。歯科医院を訪れる大人の方には『Systema』を子ども向けには『KODOMO』のサンプルと教育用パンフレットをお渡しし、ブランド認知の獲得と患者さんへのブランド推奨をいただいています。2024年は年間57,494名の方々にサンプルをお渡しし、ご家庭でも歯磨きをしっかり行うことの重要性をご理解いただき、使用後の販売促進にもつなげていきました。



イベントで楽しく歯みがき習慣を学ぶ子どもたち

② マレーシアの幼稚園・小学校にて「ライオン衛生プログラム」を実施

「ライオン衛生プログラム」は1998年に開始された、サザンライオンが実施しているよいオーラルケア習慣の普及定着プログラムで、年間を通してマレーシア全土の幼稚園と小学校で行われています。このプログラムの目的は、健康なお口の状態が全身の健康につながることを生活者に啓発することと、子どもたちのオーラルケア意識を向上することです。このプログラムは、4歳から12歳の子どもたちを対象としています。なぜならライオンはよい歯みがき習慣は、幼少期に身につくものと信じているからです。

コンテンツは、ライオンにより設立された(公財)ライオン歯科衛生研究所(LDH) [LDH](#) が作成し、何年もかけて、サザンライオンのチームがこのプログラムを、現地に即したものにつくり上げてきました。また、長年にわたって、マレーシア各地の政府の歯科医院やマレーシア歯科医師会(MDTA)と連携したため、このプログラムはマレーシアの人々に正しい歯みがき方法を伝える最適なコンテンツになったと確信しています。2021年からは、手洗い啓発もプログラムに加え、「ライオン衛生プログラム」と名称変更しました。

プログラムは子どもたちが、お互いに楽しめるように工夫しています。プログラム内容は、紙芝居、スライド、歯みがき実践指導、よい歯みがき習慣のコツ、基本的な手洗いステップ、などです。また、衛生全般について関心を持てるよう、このプログラムに参加した子どもたち全員にハブラシ、ハミガキが入った『KODOMO』セットをプレゼントしています。

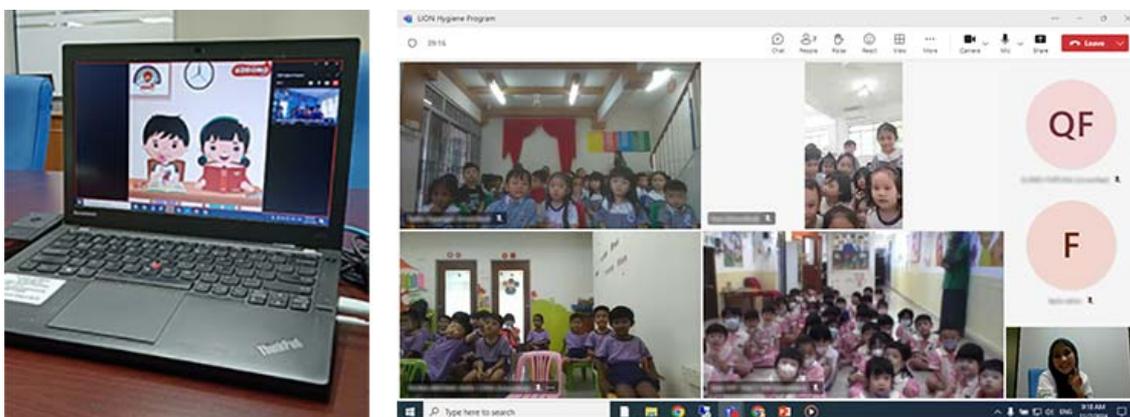
この活動は、2024年1月から10月にかけて実施され、97,223名が参加しました。1998年にプログラムを開始して以来、マレーシア全土で累計約132万名を超える子どもたちがこのプログラムに参加しています。



歯みがき指導の様子

③ オンラインによる「ライオン衛生プログラム」

昨今のコロナ禍における感染予防対策として、オンラインによる歯磨きと手洗い啓発プログラムを開発しました。4～6歳の幼稚園児8,768名を対象として遠隔で幼稚園とつながり、園児たちと対話と通じて歯磨きのブラッシング指導や正しい手洗い方法を楽しく伝えました。2024年は1月から10月にかけてコンテンツ内容をパワーアップして、オンラインでも子どもたちにわかりやすい内容に改良しました。



オンラインによる啓発風景

④ 高齢者へのオーラルケア習慣の普及啓発活動

2024年10月13日、サバ州コタキナバルのイマーゴ・ショッピングモールで、60歳以上のシニアの歯の健康と福祉全般の向上を目指し、オーラルケアに関する様々な活動、サービス、情報提供を行いました。サザンライオンだけでなく、歯科クリニックや地域のデイケアセンター、コタキナバル郡保健所にも協力いただき、歯の健康に関する展示とインタラクティブ・ゲーム、高齢者向けブラッシング・デモンストレーション、コスチューム・コンペティション、サザンライオンのFacebookの「いいね!」&「シェア」をいただいた方に商品のサンプリングをしました。300名の高齢者が会場に足を運び、オーラルケア習慣について楽しく学んでいただきました。



サザンライオンのブースで、説明を受けるシニアの方々

⑤ サザンライオン「オーラルヘルスデー」

「予防歯科*」を推進する取り組みの一環として、サザンライオンは2018年から年に1回、口腔衛生と歯周病の予防とその重要性について、従業員の意識を高める目的で、「オーラルヘルスデー」を開催しています。2024年に、サザンライオンのジョホール・バル本社にて、KP Kota Tinggiのもと、「オーラルヘルスデー」は実施され、歯科医師による無料の歯科健診が行われました。歯科健診には148名の従業員が参加しました。

サザンライオンは、この活動を今後も継続し、全従業員のオーラルヘルスケア習慣に対する意識を高めていく予定です。また、従業員の健康促進に寄与していきます。

* ライオンが海外グループ会社で推進している「予防歯科」の考え方は、歯科専門家、流通、ライオンの3者が連携した取り組みです。歯科専門家と一緒にライオンは、歯みがきの実践的な指導やオーラルケア情報の発信により、生活者のオーラルケアに対する理解や関心を高めてもらうよう努めています。加えて、ライオングループでは店頭やその他市場を通じて、一人ひとりに合った商品の提供によるオーラルケア習慣の実践を推進しています。



歯科検診受付の様子



歯科検診

⑥ 『KODOMO』ブランドチームによるオーラルケア啓発

サザンライオンのマーケティング部門『KODOMO』ブランドチームは、2024年5月から6月の間、国立のプレスクールで『KODOMO』ブランドのオーラルケアグッズを3-6才の園児に対して配布し、子どもたちに小さいころから歯みがきを習慣化することの大切さを伝えました。この活動は、先生に対してもオンラインでワークショップを実施します。ワークショップを受講した先生は、学校でサザンライオンが提供する「KODOMOワークブック」、「ティーチャーズガイド」、ポスター、子どもたちに渡すフォルダー、サンプル、資料を活用して5日間歯みがき指導プログラムを実施します。プログラム終了後には報告書を提出していただきます。30,055名の子ども達がプログラムに参加し、先生からオーラルケアを学びました。



『KODOMO』ブランドのグッズを手にした子どもたちの集合写真

⑦ 小児歯科の専門家との連携により『KODOMO』ブランドの認知拡大

2023年3月9日から11日にかけて、Berjaya Times Square Hotelでサザンライオンは小児歯科の専門家と歯科医療関係者に向けて、サザンライオンが販売する子供向けオーラルケアブランド『KODOMO』を紹介し、強固な関係を構築しました。



『KODOMO』ブランド展示と当日の広告

⑧ Malaysia Society of Periodontology (MSP) と連携した『Systema』 Gum Health Day campaignを展開

2023年5月12日、クアラルンプールの Aloft Sentral にてサザンライオンは Malaysia Society of Periodontology (MSP) と連携して、歯茎のケアの重要性を伝えるオーラルケアキャンペーンを実施しました。25才から45才までの現役世代を中心に100名の方々がPRイベントに参加して頂きました。主要モールで3回ロードショーを行い、50,000人にアプローチしました。

⑨ 『Fresh & White Raya』Roving campaignを実施

2023年のラマダン断食期間(5月)にペラ州セランゴールで、オーラルケア意識を高めるプログラムを企画しました。マレーシアの低から中所得層のご家庭を対象とし、人々が集まるスポーツ広場やフードコートにてサンプリングを実施し、1,000人が参加しました。

⑩ 歯科医療教育機関との活動を通じたブランド推奨の促進

サザンライオンは、2023年年間を通じて、Universiti Sains Islam Malaysia (USIM)、マラヤ大学、マレーシア歯科医師会 (MDA)、Nicotine Addiction Research, Collaboration Center (NARCC) などの歯科学会や協会と協力して、様々な啓発活動を実施しました。これらの活動には合計2,420人が参加し、啓発パンフレットや製品サンプルが配布されました。



『Systema』, 『ZACT』ブランド展示の様子

⑪ マレーシア歯科学会 (MDA) 主催「第30回 MDA SCATE Malaysian Dental Association Scientific Convention and Trade Exhibition」に参加

2023年2月17日から19日にかけて、マレーシア歯科学会が主催する展示会「第30回MDA SCATE Malaysian Dental Association Scientific Convention and Trade Exhibition」が開催され、サザンライオンも参加しました。

マレーシアの人々にオーラルケア意識を高めてもらい、オーラルケア習慣を浸透・定着させることは大変大事なことです。1,592名の参加者と歯科専門家が展示会を訪れました。これらの展示会に参加することは、サザンライオンにとって素晴らしい機会です。今後もサザンライオンは歯科専門家との連携を強化し、「予防歯科」活動を促進していきます。

⑫ 中産階級に向けた歯ぐきチェック

サザンライオンは2023年10月から11月にかけて、セランゴールおよびペナン州で35才から49才までの中産階級の家族を対象に、歯ぐきチェックと、『Systema』のサンプルと啓発リーフレットを配布しました。200名の家族が参加しました。

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2023



2023年8月から9月にかけて、小学1年生から4年生までを対象に18校の小学校で『キレイキレイグローバルお絵描きマイボトルコンテスト』を行いました。このコンテストの案内は、学校の先生や、『KireiKirei』のwebサイト、Facebookで行われました。

エントリーした小学校宛てに『KireiKirei』のお絵描き用ステッカーが配布されると、児童は担任の先生に自分のステッカーに描いた作品を提出します。各クラスで5名が表彰にエントリーされます。各学校で5つの作品が最終審査に提出され、サザンライオンは優秀賞3名を表彰します。

コンテストの審査基準は、以下のようになっています。

- 手洗いのテーマと関連性があるか(30%)
- 作品から、創造性が感じられるか(30%)
- 作品はきちんとしているか(30%)
- 作品全体としてのインパクトがあるか(10%)

このコンテストは、9,800名のエントリーの中から、1,041作品の提出を頂き盛況のうちに終了しました。

① ジョホール州保健省と協働した乳幼児向けプログラム

2024年10月6日、ジョホールバルにあるMajlis Bandar Raya Iskandar Puteriで開催された、2～4才の子どもを持つ若い親子を対象としたプログラムに協力しました。サザンライオンは、音楽とダンスを交えた歯磨き活動と手洗いの実演を行いました。この活動には、500名の乳幼児とその両親が参加しました。



イベントの様子

② 清潔な習慣づくりの認知拡大を政府が運営する歯科医院や教育機関と協働実施

2024年4月21日、サザンライオンは、衛生意識を高める目的でKota Tinggi Dental Clinic、Bandar Mas Dental Clinic、MARA Professional Collegeと連携し、コタティンギのKempas Menang コミュニティホールにて啓発活動を実施しました。対象年齢は4才から40才までと幅広い世代としました。歯科に関わるクイズをしてから歯磨きを実践し、手洗い講習のあとに手洗いの実演、シャンプーを体験、爪切りのケアなどを行い、衛生的に暮らすための基本的な習慣づくりを実施しました。50名の方が楽しみながら参加し、基本的な衛生習慣について学びました。



歯科検診を受けている様子

③ 先住民の子どもたちに向けたライオン衛生習慣普及啓発活動

2024年4月21日と22日に、サザンライオンは本社のあるジョホールバルに近いメルシング地域の行政機関や政府が運営する歯科医院と連携して、展示会、歯科検診と治療、衛生・健康管理活動、スポーツ、塗り絵、料理・作曲などの競技会、村の幼稚園でのリトミック・歯磨き指導などを実施しました。子どもたちは手洗いだけでなく、洗髪や爪切りなどの基本的な衛生習慣を楽しみながら学ぶことが出来ました。会場となったティンギ島とオラン・アスリの村ラボンでは、4歳から40歳までの様々な年齢層の方350名が参加してくれました。



手洗い啓発の様子



幼稚園での啓発活動の様子



環境保全活動

サステナブルなリサイクルキャンペーン

2022年6月15日-22日の間、サザンライオンのカフェテリアで、従業員のリサイクル意識を醸成し、廃棄物ゼロを目指すため、自宅で使用しなくなった物をもちより、必要とする人にプレゼントするキャンペーンを実施しました。期間中200名の従業員が訪れ、環境意識も高まりました。



出品された品物



カフェテリアで品物を手に取る
参加者たち



活動の報告を受ける幹部たち



活動を牽引するサザンライオンのスタッフ



寄付活動

サザンライオンは、企業の社会的責任と衛生用品製造会社として、自社で販売する衛生用品の商品寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

活動1 恵まれない家族と洪水被害にあった方への寄付

活動時期	2024年9月1日
社外協力者	マレーシア赤新月社
寄付内容	食料品/お楽しみ袋 1,500セット
活動の詳細	<p>祝祭シーズン中にB40*世帯に配布するための食料品/お楽しみ袋の提供。</p> <p>2024年第3四半期から2025年初頭にかけて予想された洪水に備え、洪水被害者に配布するための衛生キット作成と提供</p> <p>* B40 カテゴリはマレーシアの世帯収入の下位 40% を表し、世帯当たりの収入がRM4850未満。</p>



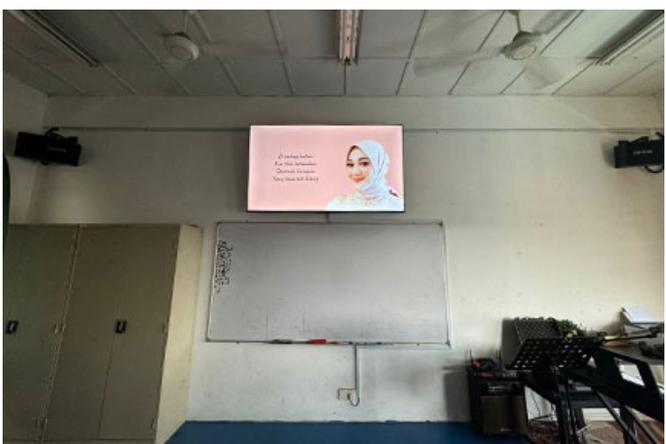
サザンライオンから赤新月社へ寄付の贈呈



洪水被災者へ支援物資を進呈

活動2 地域社会に、衛生教育環境設備を提供

活動時期	2023年11月1日
社外協力者	SK Kangka Tebrau
寄付内容	6才から12才までの小学生向けにsmartTVを提供
活動の詳細	<p>サザンライオンは、2023年11月1日、SK Kangka Tebrauで6才から12才までの小学生向けに、学校運営者とともに、ゆとり教育が受けられる環境づくりを行いました。Smart TVを設置して、地域社会の小学生、教員、保護者が衛生教育のコンテンツを視聴できるほか、スポーツ番組や楽しい活動ができるようにしました。この活動にはサザンライオンの従業員も参加し、市民700名と交流しています。</p>



smart TVを設置する様子

活動3 恵まれない学生と家族への断食明け祝祭準備の寄付活動

活動時期	2023年4月11日
社外協力者	SK Kangka Tebrau
寄付内容	日用必需品や断食明け祝祭用の物品 150セット
活動の詳細	SK Kangka Tebrauにて、B40*レベル階層市民の中でもB1カテゴリの4才から12才までの子どもがいる家庭向けに日用必需品や断食明け祝祭用の物品を150セット寄付しました。 * B40 カテゴリはマレーシアの世帯収入の下位 40% を表し、収入が RM5,250 未満の 316 万世帯で構成されます。(2023年12月末)



支援対象者との集合写真



支援物資のセット

活動4 洪水にあった教育機関の清掃活動

活動時期	2023年10月24日
社外協力者	Sek Keb Kangka Tebrau
寄付内容	洪水にあった学校の清掃活動を、サザンライオンの商品を活用して実施
活動の詳細	洪水にみまわれた小学校の周辺を児童と先生と一緒にサザンライオンの社員が清掃活動を実施。清掃活動にはサザンライオンの商品を活用。小学生と先生、サザンライオンの従業員の合計770名が参加。



清掃活動の様子と活用したサザンライオンの商品

PT. Lion Wings

✓ オーラルヘルスケア ✓ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① オーラルケア教育イベント

PT. Lion Wings (以下、「ライオンウイングス」という。)は、子どものころからのオーラルケア習慣の普及を目指し、歯科医師と連携したオーラルイベントを2008年よりインドネシアの幼稚園や小学校などの教育機関と連携して開催しています。

イベントは、4歳から5歳の幼稚園児と6歳から10歳の小学生を対象としており、『KODOMO』ブランド(ライオンウイングスの子ども用オーラルケア商品)の動画や歯科医師による歯みがき指導などを通じて、歯をみがくことの大切さを伝えています。また、家でも実践してもらえるよう、イベントの最後には、児童と保護者を含む参加者全員で正しい歯みがき方法で歯をみがいてもらっています。

さらに、オーラルケア習慣が確実に定着するように、ライオンウイングスは毎年、同じ学校及び幼稚園を訪問しています。2024年は、1月から12月にかけて、107校でイベントを開催し約10,700名の子どもたちが参加しました。



イベントの様子

② 大人のためのオーラルケア習慣の普及啓発活動

2024年7月と12月に、インドネシア西ジャワ州 Grebek pasar でライオンウイングスが販売するハミガキ『Ciptadent (チブタデント)』のブースを出展し、サンプリング、無料の歯科検診を実施、この活動には約300人の住民の方々が参加し、オーラルケアを習慣にすることの大切さを学ぶ機会となりました。



Ciptadentのブースを訪れる人たち

③ World Oral Health Dayに学校でオーラルケア啓発活動実施

ライオンウイングスは、2024年に学生への歯みがき習慣定着を目的として教育機関でオーラルケア啓発活動を行いました。ライオンウイングスが販売する『Systema』ブランドのハミガキとハブラシを使用して歯磨きを一緒に行い、オーラルケアに関するクイズや楽しい活動を展開しました。生徒や教員を中心に300名参加してくれました。



イベントの様子

④ 歩行者天国で、オーラルケアイベント実施

インドネシアの首都ジャカルタは、世界的にみて交通量が多く渋滞で有名な都市として知られています。そこでインドネシア政府は、毎週日曜日の午前中は、「カーフリーデー」としてジャカルタの中心部の道路(約6キロ)を規制し、歩行者天国にして、一般市民が楽しめるように開放しています。

2023年、ライオンウイングスは生活者との接点拡大やブランド認知促進を目的に、歩行者天国でオーラルケアイベントを実施しました。イベントブースには、1,000名の市民が訪れ、歯みがきのサンプリングを受け取り、歯みがき体験をしました。

2024年はインドネシア西ジャワ州の首都で3番目に大きな都市バンドン市の3カ所で9月1日にイベントを実施し、約3,000名の市民が参加しました。



歩行者天国でのイベント開催の様子

⑤ 母の日に親子でオーラルケア習慣の普及啓発活動実施

日本で母の日といえば5月の第2日曜日となっていますが、インドネシアでは12月22日に祝われます。2024年12月21日にバンドン市で親子でオーラルケアに関する知識を高めるため、イベントにブースを出展し、歯磨き体験や、歯科医師による歯科検診を実施し、ライオンウイングスが販売する商品のサンプリングを行いました。このイベントには、1,000名の親子が参加しました。



歯科医師による歯科検診



イベント会場で親子で歯磨き体験をする様子

寄付活動

ライオンウイングスは、企業の社会的責任と生活者の身近な製品を製造・販売する企業として、製品寄付等の社会貢献活動を積極的に行いました。

活動1 レバラン*時期に地域貢献活動

活動時期	2024年3月26日
寄付内容	生活用品の寄付
活動の詳細	レバラン時期に地域貢献活動として生活者に寄付

* レバランは、イスラム教の断食月(ラマダン)の断食明けの大祭

活動2 孤児院に寄付

活動時期	2024年4月および12月
寄付内容	ライオンウイングスが販売する商品
活動の詳細	孤児院にいる子ども500名に商品が無償寄付



活動3 地域環境保護の活動として寄付

活動時期	2024年11月19日
寄付内容	木を寄付
活動の詳細	環境保護活動として地域の環境保護に貢献するために木を200本寄付



Lion Corporation (Korea)

- ▼ オーラルヘルスケア
- ▼ 清潔衛生習慣
- ▼ 環境保全活動
- ▼ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① 保健所・大学と共同した幼稚園・小学校・福祉施設でのオーラルケア指導

Lion Corporation (Korea) (以下、「ライオン코리아」という。)は、西大門(ソデムン)区保健所と延世(ヨンセ)大学歯学部予防歯科学の協力のもと、ソウル特別市内の西大門区管内の教育機関に歯みがき施設(歯科健診やオーラルケア指導を行う施設)を設置し、そこで歯みがき教育を2014年より実施しています。参加してくれた小学1年生から6年生に対し、歯みがき施設では、歯科医師・歯科衛生士による継続的なモニタリングを行っています。年に2回歯科健診を行い、4年間経過観察し(対象は小学1年生から6年生)、さらに、正しいオーラルケア習慣を身につけてもらうよう、毎月1回、歯科衛生士が幼稚園、小学校、福祉施設を訪問し、昼食後の歯みがき習慣や正しい「予防歯科」習慣を児童に伝えています。2024年は、公共産後調理院含む小学校12校、合計9,686名にオーラルケアの指導をしました。2014年から累計で80,695名の児童に歯みがき教育を行っています。



指導風景

② 「小学生歯みがき大会」の実施

ライオングループは、生涯にわたって人々の健康保持をサポートするため、子どもたちからの歯とお口の健康意識を育むことに重点を置いています。日本では、小学生に対して正しい歯みがき指導やオーラルケアを指導することを目的に「全国小学生歯みがき大会」を1932年から実施しています。現在では、活動の場をアジア中心に広げ、小学校で毎年開催しています。

ライオン코리아では、2009年より「小学生歯みがき大会」を開催しています。

2024年は5月の大会に、ソウル特別市内と釜山広域市内にある、ソウル日本人学校4年生、プサン日本人学校4～6年生の児童の合計80名が参加しました。2009年から累計で8,368名の小学生が参加しています。



「小学生歯みがき大会」(2019年)の様子



歯みがき大会に参加した子どもたち
(2019年)



歯みがき大会を開催する
ライオン코리아の従業員(2019年)

③ ベビーフード企業と連携したオーラルケアのプロモーションを展開

ライオン코리아では、2022年から2023年にかけて、0-2歳の子供をもつ、離乳食を初めて買った人を対象に『KODOMO』安心ゼリー歯ブラシ2本入り製品を2つ贈呈し、リピート割引クーポンが使用できるキャンペーンを行いました。離乳食を始めるご家庭にとっては、子どもたちが自分で行う歯みがき習慣や保護者による仕上げ磨きをすることはとても大事な習慣です。幼少期からの歯みがき習慣の定着に向けて、この活動に2023年は、月3,500名、総勢42,000名が参加しました。



プロモーション広告内容

④ 「Playtime Kids Cafe (プレイタイムキッズカフェ)」に遊びにきた子どもたちへオーラルケア啓発

2023年の1年間、ライオン코리아は、国内最大級のキッズカフェである「Playtime Kids Café」と共同し、歯みがきへの抵抗を減らし、オーラルケアの重要性を啓発することを目的に、訪問者である3~7歳の子ども9,200名に『KODOMOハブラシ』を提供しました。館内では、『KODOMOハブラシ』のコマーシャルが流れ、ブランド認知の拡大も図りました。



プロモーション告知の状況

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2024



ライオン코리아は、2024年8月1日から31日にかけて、世界手洗いの日に賛同した活動を「My Bottle Challenge」で行いました。ライオン코리아モールとNAVER.comで『Ai! Kekute(アイケクテ)*』を購入した方にマイボトルステッカーを送付し、ライオン코리아のInstagramにイベントに参加した子どもたちが作成したマイボトルステッカーの絵をアップロードしてもらいます。絵を提供してくれた家族をNAVERのライブコマースイベント「My bottle challenge」に招待して、コンテストを実施しました。『Ai! Kekute』ブランドとの親和性や手洗いをしたくなるか、描かれたステッカーの絵に芸術性があるかなどの基準で優れた作品を選定しました。211名の子どもたちが手洗い啓発に対し楽しく学ぶことが出来ました。

* 『Ai! Kekute(アイケクテ)』は、ライオン코리아が販売するハンドソープのブランド名です(ライオンが販売する『キレイキレイ』)。韓国語で「あら!キレイ」という意味です。



My Bottle ChallengeのWeb告知



My Bottle Challengeのお客様の声

① 地域社会の清潔衛生習慣づくりによるマタニティ支援施策「ヨチヨチキャンペーン」

ライオン코리아では、2013年から継続してきた社会貢献活動「ヨチヨチキャンペーン」のリニューアル開催を通じ、全国56の地方自治体と基本合意書を結び、全国の出産世帯に『Ai!Kekute出産ギフトセット』を無償で提供し支援しています。2024年からは、免疫力が弱くなり、正しい衛生管理が特に大事な妊婦を対象に、『Ai!Kekute』および『Systema』ハミガキ・ハブラシが同封された衛生用品セットを提供していきます。商品のパッケージデザインは低所得高齢者の雇用創出に貢献する社会的企業の「Arip&Werip」と協業して制作し、付加価値をつけています。

2024年から活動を開始し、ソウル市保健所25か所で、登録した妊婦40,000人に『ヨチヨチ衛生用品セット』を提供しました。2025年もこの活動を通じ年間40,000人の妊産婦の清潔衛生習慣づくりに貢献していきます。



ソウル市、社会福祉共同募金会、ライオン코리아3者の協定式の様子



「お花よりも大事なうちの孫娘、お母さんになったね、おめでとう」
「不器用でもいいよ、おばあちゃんが応援するよ」
不安な気持ちに寄り添った祖父母目線のメッセージが入った衛生用品セット

② 衛生教育キャンペーン「出動!スーパー健康ヒーロー」

2024年7月に開催、衛生教育キャンペーン「出動!スーパー健康ヒーロー」は乳歯から永久歯に生え変わる時期の小学校1年生から2年生対象オンラインプログラムです。ライオン코리아、Good neighbors仁川本部、Seed Co-op(若者教育社会的協同組合)が協働し、オンライン教育動画コンテンツおよび30日チャレンジミッションを開催しています。キャンペーンのホームページおよび全ての教育動画は、韓国語、英語、日本語、中国語、ベトナム語、ロシア語の6か国語で提供しています。

このキャンペーンは、仁川教育部の公式支援事業として承認を得ています。毎年、この活動により仁川市の小学校1年から2年生約900人が正しい歯みがき・手洗い衛生習慣を身に付けました。



イベント会場の様子



6ヶ国語で提供されたオンライン教育ビデオコンテンツの内容

③ 『Ai! Kekute(アイケクテ)』とCGVとのコラボ広告宣伝企画

ライオン코리아は韓国で最大級の映画館「CGV」で、『Ai! Kekuteプレミアムモイスチャー』の大々的な広告宣伝を実施しました。全土にあるCGVのロビーに、ポスターや動画を通じて広告宣伝するとともに、館内のトイレにはポスターだけでなく、商品と啓発ステッカーを設置して商品の良さと正しい手洗いの方法をPRしています。2024年には、5,600万名の来館がありました。



館内のトイレに貼ってある『Ai! Kekute(アイケクテ)プレミアムモイスチャー』の手洗い説明ステッカー

④ 社会的弱者への健康支援活動

韓国では、お年寄り等、社会的弱者の劣悪な生活環境による健康被害(シックハウス症候群・ハウスダスト症候群等)が社会課題となっています。韓国政府(環境部 韓国環境産業技術院)は企業・病院・自治体等と連携して、生活環境の改善に向けた支援事業に取り組んでいます。

ライオン코리아もこの事業に参画しており、2015年より社会的弱者の方がいる世帯を対象に、台所用洗剤、洗濯用洗剤、オーラルケア製品等の日用品を提供し、健康的な毎日を支援しています。2024年は1,500世帯を対象に実施し、今後も継続的に取り組みます。



政府との事業協約



日用品の支援

⑤ 障がい者との協創による『Ai! Kekute』限定企画品 Season4 企画

ライオン코리아は毎年『Ai! Kekute』限定企画品を発売しています。この限定企画品は、製品設計からパッケージのデザイン、生産、販売、寄付などのプロセスにおいて、ミラル福祉財団やグッドウィル*を通じて障がい者と共同しており、収益金を還元することで、障がい者の雇用と収入アップに貢献することを目的としています。

<企画趣旨>

- 障がい者との協創による社会的・経済的価値を創出(CSV)
- 潜在意識にある障害に対する偏見を乗り越え、一人ひとりの多様性を尊重する
- 『Ai! Kekute』ならではのキャンペーンとして位置づけ、最終的にはブランドに対するポジティブなイメージを醸成する。

2023年は4月に限定企画品(Season4)が発売され、障がい者30人の雇用創出に貢献しました。

* グッドウィル (the Good Will) は、障がい者やホームレスなど働き口を求める上で社会的に不利な立場に置かれている人たちのために職業訓練を提供したり、雇用サービスなどを行うことを目的としている非営利団体。



障がいを持つアーティストがデザインをする様子



『Ai! Kekute』Season 4の限定企画品



店頭で推奨販売

⑥ 疾病管理庁の国民向け「正しい手洗いキャンペーン」に協力

ライオン코리아は、韓国国民の健康のために設立された保健福祉部所属機関「疾病管理庁*」との関係を築いています。10月15日の「世界手洗いの日」を契機に、疾病管理庁の国民向け「手洗いキャンペーン」と協力し、ライオン코리아のマーケティング室は、2022年11月から2023年3月にかけて、約150,000本の「Ai!Kekute」ロングセラー5品にキャンペーンステッカーを付着し、全流通チャネルで販売しました。

* 新型コロナ禍で政府の防疫スキル強化の必要性が台頭し、2020年に「疾病管理本部」から「疾病管理庁」へと昇格しています。



疾病管理庁提供の手洗いリーフレット



キャンペーンステッカーが貼られた『Ai! Kekute (アイケケテ)』5品

⑦ 「幸福アライアンス(Happy Alliance)」*と共同で行う児童衛生教育プログラム等の推進

ライオン코리아は、2017年8月に社会貢献活動や持続的な社会貢献事業モデルを促進するため、幸福アライアンスとパートナー協定を締結しました。2023年3月は、食事がとれないことが懸念される児童および衛生環境が厳しい階層の児童1,400名に幸せBOXを提供しました。この幸せBOXには、ライオン코리아が韓国で販売している『Kids safeハブラシおよびハミガキ』、むし歯予防学習リーフレットが入っているので、自宅に帰ってからも正しい歯みがきができるようになっています。これからもライオン코리아は、子どもたちのQOL(生活の質)向上に貢献するため、幸福アライアンスとの協力を継続していきます。

* 幸福アライアンス(Happy Alliance)は、分かち合いと協力により社会に変化をもたらすため、社会問題の解決に取り組む最前線で活躍する企業、機関、個人のネットワークです。



幸福アライアンス協定式



社会的弱者の人達に届けるライオン코리아の日用品が入った箱を持つボランティア従業員

環境保全活動

① 『Ai! Kekute』ブランドを活用したLINE FRIENDSと連携したつめかえ習慣の普及促進

ライオン코리아が販売するハンドソープブランドの『Ai! Kekute』は、容器にリサイクルプラスチック50%配合し、環境問題の課題解決に貢献しています。

2024年からオンラインチャネルNAVERが主催する韓国最大級の環境配慮型プロモーションイベント Green Shopping Weekに商品を出展し購入いただいた方に、Global Warming Potential (地球温暖化ポテンシャル) 対策として、エコバッグを提供しています。『Ai! Kekute 4.5L』つめかえ品をオンラインカタログに掲載し、多くの生活者の方に気候危機などの環境問題に関心を持ち、環境配慮型商品に対して積極的なニーズを持っていただくことで、プラスチック使用量の削減をしていくことを狙いとしています。ライオン코리아では、環境配慮型商品を通じて、生活者の方の意識と行動を変えて、地球温暖化対策に貢献していきます。



LINE FRIENDS, Naver.com 『Ai! Kekute 4.5L』告知とつめかえ習慣の促進

② 仁川広域市協カスングギチョン環境浄化活動

2024年4月、ライオン코리아は仁川広域市協カスングギチョン環境浄化活動に参加しました。仁川スング川の水質改善および水域生態系の復元のために周辺のゴミ拾い、外来植物除去などを実施し、市民の生活の質を向上させることに貢献しました。この活動は、仁川広域市、法務部仁川保護観察所、海軍仁川海域防衛司令部、仁川交通公社、仁川環境公団、CJ第一製糖、仁川広域市河川復活活性化準備団と協働して実施し、ライオン코리아の従業員10名が参加しました。ライオン코리아は「1社1河川、1社1道路づくり運動および街づくり」をテーマとして掲げており、今後も西海沿岸浄化活動に定期的に参画していきます。



清掃活動の様子

寄付活動

ライオン코리아は、企業の社会的責任と衛生用品製造会社として、自社で販売する衛生用品の現物寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

活動1 身体障害者を対象に『温感セラピー』寄付

活動時期	2024年11月 身体障がい者の日
社外協力者	財団法人 GIVING Plus
寄付内容	『温感セラピー』3アイテムを222世帯に寄付
活動の詳細	GIVING Plus(企業からの寄付物品を販売し、収益金全額を社会的弱者の雇用・支援に活用)の店舗に来店した軽度の身体障がい者にライオン코리아が販売する『温感セラピー』を提供し、移動が不自由な重度の身体障がい者には日用品キットを作って製品を提供し、222世帯の社会的弱者の暖かな冬の暮らしを支援。



ライオン코리아が提供した『温感セラピー』

活動2 ライオン코리아創立20周年記念、仁川の社会的弱者層の児童・青少年を対象に日用品を寄付

活動時期	2024年12月
社外協力者	Good Neighbors 仁川地域本部
寄付内容	ハンドソープ『Ai! Kekute』・衣料用洗剤『BEAT』・『温感セラピー3種』
活動の詳細	創立20周年を迎え、自社工場が位置している仁川地域内で分かち合いの文化を拡散するため、地域福祉館を利用する社会的弱者層の児童・青少年約700名を対象に、Good Neighbors仁川地域本部へ2,000万ウォン相当の正しい衛生習慣づくりを支え、暖かな冬の暮らしをサポートするための日用品で地域社会に貢献した。



事業を通じた社会貢献はライオン코리아の使命でありDNAという想いを持った寄付の贈呈

活動3 11月の「点字の日」記念活動

活動時期	2022年から継続中
社外協力者	生活家庭用品事業者定例協議体(ライオン코리아、LG生活健康、AK、韓国P&G、Henkel Korea)、韓国消費者院、韓国視覚障害者連合会、社会福祉共同募金会(愛の実)
寄付内容	商品識別のための点字タグを製作し、LCKが販売する点字ラベルのついた家庭用品(『BEAT』洗濯用洗剤と『チャムグリーン』台所用洗剤)を支援しました。
活動の詳細	生活家庭用品事業者定例協議体では、製品識別用点字タグを制作し、ライオン코리아も普及に参加。 一部の 카테고리では容器形状が全く同じ、又は似ているため、視覚障害者は識別しにくい状況にある。様々な製品にかけて使える点字タグを制作し普及させて、視覚障害者の生活安全に寄与。



韓国消費者院と伝達式の様子

獅王日用化工(青島)有限公司

▼ オーラルヘルスケア ▼ 清潔衛生習慣 ▼ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① 歯科医院や教育機関と連携した子ども向けオーラルケア啓発活動

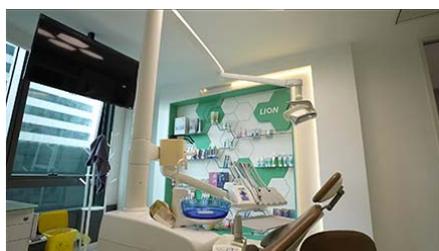
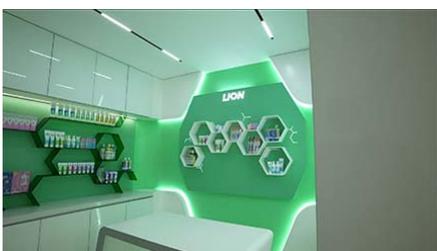
獅王日用化工(青島)有限公司(以下、「青島ライオン」という。)は、上海、北京、広州、杭州にて、213もの歯科医院や教育機関と連携し口腔衛生の教育を目的に、オーラルケア啓発活動を展開しました。この啓発活動は、0才から12才の子どもたちを対象に、歯みがきの重要性を理解してもらうためのもので、青島ライオンが販売する『KODOMO』ブランドの歯みがきセットを提供しました。約200,000名の子どもたちが歯みがきの重要性を学んでくれました。



歯科医院と展開される商品群の一例

② IBQ歯科クリニックと協働でオーラルケア教育活動

青島ライオンは、2024年1月から12月にかけて、上海にあるIBQ歯科クリニックと共同で、オーラルケア教育活動を実施しました。青島ライオンが販売するオーラルケア商品の紹介をして商品に関心を持っていただき購入につなげるのが目的です。自分に合ったオーラルケア商品を見つけ出せるように、展示を工夫しました。歯の健康のために、自宅で行うオーラルケアは大事です。楽しい体験を通じて、100,000名のオンライン視聴の方々にオーラルケアの大切さを感じてもらいました。



IBQクリニックの様子

③ 昼歯磨き習慣の促進

青島ライオンは2023年から継続して、オフィスで働く人達に向けて「昼歯磨き習慣」の普及啓発活動を行っています。

2024年は青島ライオンが販売するオーラルケア製品（『システム』ハブラシ、『クリニカ』ハミガキ、『NONIO』マウスウォッシュ）を上海、北京、杭州のCBDオフィス17ヶ所で配布し、商品の使用、ゲームでの交流、資料の展示を通じて、オフィスワーカーに昼食後に歯を磨く習慣を身につけることの重要性を認識してもらうことを目指して実施しました。

昼食後に歯を磨くことは、お口の健康だけにとどまらず、気分をリフレッシュしたり、人とのコミュニケーションを促進する相乗効果も期待されます。

青島ライオンでは、中国に暮らす多くの人たちに、これからもより良い習慣づくりを促進していきます。



お昼休憩時に青島ライオンのイベントブースに集まるオフィスで働く人たち

清潔衛生習慣

① 幼児教育施設で子どもたちへ手洗い習慣普及活動実施

青島ライオンは、上海市内を始め杭州・寧波・蘇州・深圳・広州・北京・済南・青島・武漢の様々な幼児教育施設で、3歳以上の子どもたちを対象に、手洗い習慣普及活動を行っています。各施設の洗面台に『Kirei Kirei(キレイキレイ)ハンドソープ』を設置するとともに、子どもたちに楽しく手を洗ってもらいたいという想いから、「ハッピー手洗い」のスローガンとともに、正しい手洗いステップを洗面台の側に掲示しています。2024年は、216カ所の幼児教育施設でこの活動を行い、約216,000家族が正しい手洗いについて学びました。



各施設のハンドソープ設置やPRの状況

② 幼稚園での手洗い習慣普及活動実施

上海市の幼稚園では、感染症予防のために、園内に入る前に、手を洗うことを推奨しています。青島ライオンは、その支援策として、2016年より上海市の各幼稚園に通う3歳から6歳の幼稚園児を対象とした手洗い習慣普及活動を行っています。

青島ライオンは、園児たちが手洗い用の洗面台で使えるよう、現地で販売している『Kirei Kirei(キレイキレイ)ハンドソープ』を幼稚園に寄贈しています。また、手洗い習慣が身につくための手洗い教室の開催や、きちんと手洗いを実施した幼稚園児全員に手洗いのステップや正しい手洗いのタイミングなどを記載した『Kirei Kirei』健康手帳を配布しています。

2023年は、60園、約76,000名の園児たちに配布しました。



幼稚園でのハンドソープ設置状況

寄付活動

青島ライオンは、企業の社会的責任と衛生用品製造会社として、自社で販売する衛生用品の現物寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

生活困難な子どもたちへの慈善寄付活動

活動時期	2024年9月20日 全国愛歯デー
社外協力者	Yuan Meng Foundation JD Public Welfare JD Maternal and Child JD Finance
寄付内容	青島ライオンが販売する『KODOMO』ブランド商品100万人民元分を、子どもたちの健康的な口腔ケア習慣づくりのために Yuan Meng Foundationへ寄付
活動の詳細	青島ライオンの『KODOMO』ブランドチームは、中国のNational Teeth Dayに開催された公衆衛生イベント“Love Smile, Spread Love”で、四川、成都、雲南省の約20,000人の子どもたちが健康的な口腔ケア習慣を身につけられるように商品を提供し支援しました。



AI YOU 財団へとの共同イベント



四川・凉山喜徳での活動の様子



四川・珙县での活動の様子



成都・邻里月台での活動の様子

獅王(香港)有限公司

✓ オーラルヘルスケア ✓ 清潔衛生習慣

オーラルヘルスケア

① 香港に暮らす人々に向けたオーラルケア習慣の普及啓発活動

獅王(香港)有限公司(以下、「香港ライオン」という。)は、香港に暮らす様々な人々をターゲットにオーラルケア習慣を促進する活動を行っています。2024年は3度にわたり、香港ライオンが販売するオーラルケア商品を活用してオーラルケア習慣の普及啓発活動を実施しました。

一人親家庭の親子には、中華基督教滙仔堂で、1月20日14組の親子(33名)と香港家庭福利会で、6月2日18組の親子(39名)に『システム極上プレミアムハブラシ』『クリニカプロハミガキ』『NONIO洗口液』を各日50セットを活用したワークショップと、香港大学の歯科チームによる歯科検診を実施しました。

高齢者の方には、基督教宣道會大澳堂で3月18日と19日の二日間にわたり『システム極上プレミアムハブラシ』『クリニカプロハミガキ』『システム歯間ブラシ』を活用したワークショップと、香港大学歯科チームによる無料で本格的な歯科検診を30名の方に受けていただきました。これらの活動には、教会のボランティアにも協力をいただきました。



配布した商品をもってイベントに参加した親子たち



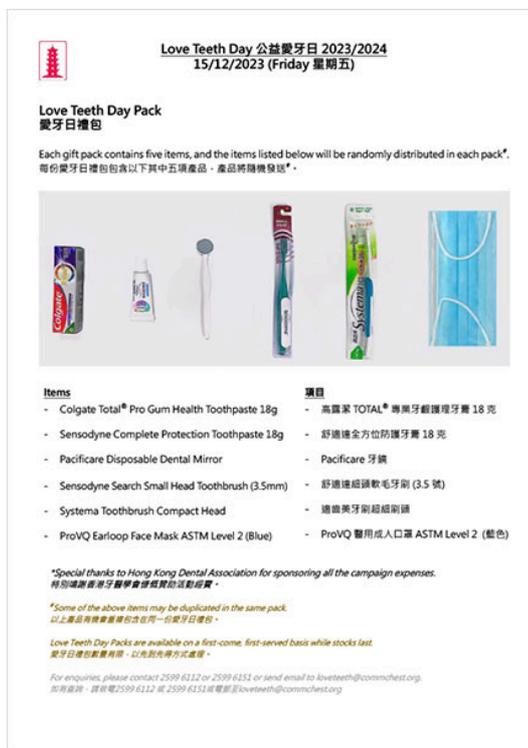
香港大学の歯科チームによるレクチャーや歯科検診を受ける高齢者の方々

② 「Love Teeth Day」イベント協賛

「Love Teeth Day」は、人々の口腔意識向上を目指して、香港の共同基金・歯科協会・衛生省が連携し2008年より毎年開催しているオーラルケアに関するチャリティー募金イベントで、香港ライオンは2009年から14年連続で参加しています。2023年は12月15日に開催され、貧困地域の方々が口腔保健サービスを受けられるように、募金運動が行われました。35香港ドル（約700円）以上を寄付したすべての参加者に返礼品として、オーラルケア商品のギフトセット「Love Teeth Day Pack」がプレゼントされました。この中には、ご自宅でもオーラルケアを促進する商品が含まれています。2023年、香港ライオンは、40,000本の『Systema ハブラシ』を寄付しました。



Love Teeth Day 2023 ポスター



Love Teeth Day Pack

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2024



香港ライオンは、2024年8月1日から14日にかけて世界手洗いの日に賛同し、『KireiKirei』My Bottle Sticker Drawing Contest を実施しました。幼稚園の園児たちに『KireiKirei』のボトルとステッカーを配布し、園児たちがステッカーにお絵描きをます。香港ライオンのKIREI's and Classmate facebookにステッカーお絵描きの作品を投稿してもらい、コンテストを行いました。ステッカーお絵描き作品の選定には、健康的、独創性且つ独自性が問われます。3,172人もの応募の中から、23名の受賞者が選ばれました。

子どもたちは、よい菌（常在菌）を保って、健康でいることの大切さを楽しく学びました。



コンテストで優秀賞を受賞した3作品

オーラルヘルスケア

「歯みがき教室」の実施

ライオングループは、生涯にわたって人々の健康保持をサポートするため、子どものころからの歯とお口の健康意識を育むことに重点を置いています。日本では、小学生に対して正しい歯みがき指導やオーラルケアを指導することを目的に「全国小学生歯みがき大会」を1932年から実施しています。現在では、活動の場をアジアを中心に広げ、小学校で毎年開催しています。

獅王家品股份有限公司（以下、「台湾ライオン」という。）は、「全国小学生歯みがき大会」の一環として、（公財）ライオン歯科衛生研究所（LDH）[LDH](#)と共同で、2019年6月に台湾の日本人学校2校と、台湾の現地小学校3校で、歯みがき教室を開催しました。

日本人学校76名（高雄日本人学校33名、台中日本人学校43名）、現地小学校820名（烏日國民小學（台中市）120名、五權國民小學（高雄市）100名、集美國民小學（新北市）600名）、合計896名の子どもたちに向けて、小学校低学年（1年生から3年生）および高学年（4年生から6年生）それぞれに合わせたプログラムを実施しました。2018年から現地校にも歯みがき教室を開催し、2019年は新たな現地校で実施しました。

小学校低学年に向けては、30分の授業で「歯の働きや生え変わり」および「むし歯の原因（歯垢）」について説明し、実際に手鏡とハブラシを用い、歯並びに合わせた歯のみがき方を伝えました。

小学校高学年に向けては、歯肉炎の原因や歯肉の観察ポイントについて説明し、歯の模型を用いながら、歯肉炎を予防するための歯並びに合わせたみがき方を個別に指導しました。

参加した小学生は、内容をよく理解し、歯や歯みがきの大切さを学んでくれました。

小学校（日本人学校）の「歯みがき教室」の様子



歯科衛生士の問いかけに元気よく応える高雄日本人学校の子どもたち



歯科衛生士の説明を聞き実践する台中日本人学校の子どもたち

小学校(現地校)の「歯みがき教室」の様子



台湾現地校の子どもたちに歯のみがき方を指導
(左: 烏日國民小學、中央: 五權國民小學、右: 集美國民小學)



台湾現地校の子どもたちにも人気のライオンちゃんと記念撮影
(左: 烏日國民小學、中央: 五權國民小學、右: 集美國民小學)

清潔衛生習慣

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2024



台湾ライオンは、世界手洗いの日に賛同しています。台湾の子どもたちに正しい手洗いを広めるため、2024年の4月から8月にかけて、台湾の幼稚園を通じて「マイボトルお絵描きコンテスト」の募集をして、190名の園児が『キレイキレイ』マイボトルをデザインしてくれました。



コンテストに入賞した作品

① 幼稚園での「手洗い習慣」啓発活動の実施

新型コロナウイルスパンデミック以降、手洗いの大切さが改めて重要視されています。台湾ライオンは、手洗いの重要性和正しい手洗い方法の教育を目的に、2024年4月に台湾の3つの都市(基隆・彰化・台南)で各1園づつ手洗い習慣の啓発活動を実施しました。幼稚園児・先生・保護者約150人が参加しました。

- (1) 手洗い衛生知識に関する先生からの指導
- (2) 手洗い歌を歌う/踊るタイム
- (3) マイボトル絵描き
- (4) 手洗い
- (5) バクテリアチェック

併せて、『Kirei Kirei(キレイキレイ)』を寄贈し、園内の手洗い場に設置して実際に園児に手洗いを体験してもらいました。

手洗い衛生知識に関する先生からの指導では、ばい菌・ウイルスの話、「手洗いによって自分の大切な人を守れること」、「正しい手洗いの方法」や『Kirei Kirei泡ハンドソープ』の特長やブラックライトを使用した細菌実験の様子等も分かりやすく伝えました。また、園児たちが自分で作成したステッカーを貼ったオリジナルマイボトルを持ち帰って家族と一緒に使って頂くことで、『Kirei Kirei泡ハンドソープ』を継続して使用してくれることが期待できます。

更に、このイベントのPR策として新聞社と連携することで、記事を掲載し、イベントの露出が高まり、より多くの方に「手洗いの大切さ」を認知していただきました。



基隆市の幼稚園での手洗い啓発活動



彰化市の幼稚園での手洗い啓発活動



台南市の幼稚園での手洗い啓発活動

寄付活動

台湾ライオンは、企業の社会的責任として、自社で販売する衛生用品の現物寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

「花蓮地震」の被災者向け支援

活動時期	2024年4月
寄付内容	「財団法人賑災基金会」に100,000台湾ドル(約44万円)寄付。
活動の詳細	2024年4月3日に発生した「花蓮地震」で被災された方々への復興支援を目的に、台湾FDAの管轄下にある「財団法人賑災基金会」に寄付。災害援助、医療、復興などに活用されています。

清潔衛生習慣

Bangladesh 小学校での衛生習慣啓発

Bangladesh は高温多湿な気候条件に加え、衛生環境が十分に整っていない地域もあり、衛生習慣を根付かせていくことは重要な社会課題です。そこで、JICA(独立行政法人国際協力機構)と Bangladesh 食品安全庁が展開する「査察・規制・調整機能強化プロジェクト食の安全PJT」の「一般消費者への啓発活動」へ参画し、 Bangladesh の小学生に手洗いと食の安全に関する衛生習慣の啓発活動を実施しています。

2024年は、ダッカ管区ガジプール県とロンプール管区ラルモニルハット県の2県の小学校教員100名に対し、トレーナーとなるための研修を行いました。研修を受けた先生から2県の他の先生に同じように研修をしていただくことで、両県の全ての小学校1,440校で食品衛生の啓発活動を実施し、食品衛生・安全や手洗いの正しい知識を子ども達に広める活動をしています。

活動には、大型の紙芝居やカードゲームを用いており、子どもたちは正しい衛生行動を、楽しく学ぶことができます。

紙芝居に用いられるイラスト等は、ダッカ大学の監修を受け作成しており、「良い習慣と悪い習慣の例を挙げて示してくれているので、非常に役に立つと思う。」「生徒が自分の生活に関連づけやすいので良い」など、先生方もわかりやすいと評判です。また、改善点についてもご提案をいただいています。

2025年も Bangladesh の先生たちとも連携しながら、より多くの Bangladesh の人々に衛生習慣を広める活動を継続していきます。



教員への教材の使い方指導をする様子



小学校での啓発活動に参加する子どもたち

編集方針・各種ガイドライン対照表

編集方針

- 2011年から社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿ってサステナビリティへの取り組みの体系化を進めており、レポートはガイドラインを参考にしています。
 - [ライオン統合レポート2025](#)  は、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様に、ライオンのパーパス(存在意義)「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」の実践を通じた中長期の企業価値向上に向けた取り組みをお伝えし、当社グループをより深くご理解いただくことを目指しています。
 - サステナビリティWebサイトは、ESG情報およびSDGsへの取り組み等、当社のサステナビリティへの取り組みを知っていただくため、各活動の内容を詳細に報告しています。
-

参考にしたガイドライン

統合レポート

- IFRS財団「Integrated Reporting Framework」
- 経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」

サステナビリティWebサイト

- 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
 - Global Reporting Initiative「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
 - 日本規格協会「ISO26000:2010社会的責任に関する手引」
-

対象組織

ライオン株式会社およびすべての連結子会社を基本としています。

- * 掲載する活動やデータについて対象範囲が異なる場合は、個々にその旨を明記しています。
 - * [サステナビリティ重要課題と2030年目標](#)は、海外連結子会社も含まれます。
-

対象期間

- ライオン 統合レポート2025
2024年1月～2024年12月
- サステナビリティWebサイト
2024年1月～最新情報

- * 対象期間外に実施した活動も一部紹介しています。
-

各種ガイドライン対照表

- > [ISO26000対照表](#)
- > [GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード対照表](#)
- > [国連グローバル・コンパクト対照表](#)
- > [環境報告ガイドライン\(2018年版\)対照表](#)

ISO26000 対照表

ライオングループは、2011年から社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿って、サステナビリティへの取り組みの体系化を進めています。

当社グループ全体で取り組むべきサステナビリティ重要課題と目標は、このISO26000に示された社会からの要請や、SDGs等の社会全体の課題を理解した上で、経営課題とすり合わせて特定・設定し、毎年進捗を報告しています。

この対照表では、ISO26000の7つの中核主題と37の課題に該当する取り組みをお示ししています。

- ▼ 組織統治
- ▼ 人権
- ▼ 労働慣行
- ▼ 環境
- ▼ 公正な事業慣行
- ▼ 消費者課題
- ▼ コミュニティへの参画および発展

中核主題と課題		取り組み事項	統合レポート2025における掲載(該当)箇所
6.2	組織統治	＞ マネジメントメッセージ	P10-14, p40-61
		＞ 考え方と推進体制	
		＞ コーポレート・ガバナンスの考え方と体制	
		＞ 内部統制	
		＞ リスクマネジメント	
		＞ コンプライアンス	
		＞ 役員紹介	
		＞ 国連グローバル・コンパクトへの参加	
		＞ ステークホルダー・エンゲージメント	
		＞ 投資家情報	
6.3	人権		
6.3.3	デュー・ディリジェンス	＞ ライオン人権方針の制定 ＞ 人権デューディリジェンスの推進	p31-35, p52-59, p67-68
6.3.4	人権に関する危機的状況	＞ 人権デューディリジェンスの推進	
6.3.5	加担の回避	＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	
		＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	
6.3.6	苦情解決	＞ 持続可能な原材料調達に向けて	
		＞ コンプライアンス ＞ お客様の声にお応えする取り組み	
6.3.7	差別及び社会的弱者	＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	
6.3.8	市民的及び政治的権利	＞ 労使関係	
6.3.9	経済的、社会的及び文化的権利	＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	
6.3.10	労働における基本的原則及び権利	＞ ライオン人権方針の制定	
		＞ 労使関係	
		＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	
		＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	

中核主題と課題		取り組み事項	統合レポート2025における掲載(該当)箇所	
6.4	労働慣行			
6.4.3	雇用及び雇用関係	<ul style="list-style-type: none"> > 労使関係 > ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 > ワークライフエンリッチメントの推進 	P31-35, p52-59, p67-68	
6.4.4	労働条件及び社会的保障	<ul style="list-style-type: none"> > 労使関係 > ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 > 労働安全管理体制の充実 		
6.4.5	社会対話	<ul style="list-style-type: none"> > 労使関係 > ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 > ステークホルダー・エンゲージメント 		
6.4.6	労働における安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> > 労働安全管理体制の充実 > 内部統制 > リスクマネジメント > 従業員の健康増進 		
6.4.7	職場における人材育成及び訓練	<ul style="list-style-type: none"> > 人材開発 > 労働安全管理体制の充実 		
6.5	環境			
6.5.3	汚染の予防	<ul style="list-style-type: none"> > 環境方針／マネジメント > 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」 > 脱炭素社会の実現 > 資源循環型社会の実現 > 化学物質管理 		p40-41, p44-48, p67-68
6.5.4	持続可能な資源の使用	<ul style="list-style-type: none"> > 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」 > 自然との共生(生物多様性) > 持続可能な原材料調達に向けて > 資源循環 > 水使用量削減 		
6.5.5	気候変動の緩和及び気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> > 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」 > TCFD提言に基づく情報開示 > TNFD提言に基づく情報開示 > 事業所活動におけるCO2排出量削減 > ライフサイクルにおけるCO2排出量削減 		
6.5.6	環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	<ul style="list-style-type: none"> > ライオン山梨の森 > 生物多様性保全活動 		
6.6	公正な事業慣行			
6.6.3	汚職防止	<ul style="list-style-type: none"> > 内部統制 > リスクマネジメント > コンプライアンス > 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 > 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 	p38, p52-59, p67-68	
6.6.4	責任ある政治的関与	<ul style="list-style-type: none"> > 内部統制 > リスクマネジメント > コンプライアンス 		

中核主題と課題		取り組み事項	統合レポート2025における掲載(該当)箇所
6.6.5	公正な競争	> 内部統制	p38, p52-59, p67-68
		> リスクマネジメント	
		> コンプライアンス	
6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	> 内部統制	
		> リスクマネジメント	
		> コンプライアンス	
		> 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	
6.6.7	財産権の尊重	> 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	
		> 知的財産	
6.7	消費者課題		
6.7.3	公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行	> 品質保証、安心・安全への取り組み	P4-6, p19-21, p42-47, p67-68
		> お客様の声にお応えする取り組み	
		> お客様への情報提供の強化	
6.7.4	消費者の安全衛生の保護	> 品質保証、安心・安全への取り組み	
		> お客様の声にお応えする取り組み	
6.7.5	持続可能な消費	> お客様への情報提供の強化	
		> ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
		> イベント/ホームページ、地域・各種団体との交流	
		> 資源循環型社会の実現に向けた施策 ~容器・包装材料の削減のための3RとRenewable~	
6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	> お客様の声にお応えする取り組み	
		> 品質保証、安心・安全への取り組み	
		> ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
		> イベント/ホームページ、地域・各種団体との交流	
6.7.7	消費者データ保護及びプライバシー	> 環境コミュニケーションの推進	
		> お客様への情報提供の強化	
6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	> お客様の声にお応えする取り組み	
		> ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
		> 製品取扱店舗検索	
6.7.9	教育及び意識向上	> お客様の声にお応えする取り組み	
		> 環境コミュニケーションの推進	
		> ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
		> イベント/ホームページ、地域・各種団体との交流	
		> 品質保証、安心・安全への取り組み	

中核主題と課題		取り組み事項	統合レポート2025における掲載(該当)箇所
6.8	コミュニティへの参画及びコミュニティへの発展		
6.8.3	コミュニティへの参画	> 健康な生活習慣づくり	P4-6, p19-21, p37, p42-47, p67-69
		> オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み	
		☑ インクルーシブ・オーラルケア	
		> 清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み	
		> 社会貢献活動	
		> 環境コミュニケーションの推進	
		> 生物多様性保全活動	
		> ステークホルダー・エンゲージメント	
6.8.4	教育及び文化	> 健康な生活習慣づくり	
		> オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み	
		☑ インクルーシブ・オーラルケア	
		> 清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み	
		> 社会貢献活動	
		> 生物多様性保全活動	
		> 環境コミュニケーションの推進	
		> ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
> イベント/ホームページ、地域・各種団体との交流			
6.8.5	雇用創出及び技能開発	☑ インクルーシブ・オーラルケア	
6.8.6	技術の開発及び技術へのアクセス	> 学術支援を通じた環境コミュニケーション	
		> 初期ムシ歯の診断技術開発	
6.8.7	富及び所得の創出	☑ インクルーシブ・オーラルケア	
6.8.8	健康	> オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み	
		☑ インクルーシブ・オーラルケア	
		> 清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み	
		> 社会貢献活動	
6.8.9	社会的投資	> 社会貢献活動	

GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード対照表

[利用に関する声明]

ライオングループは、「GRI (Global Reporting Initiative) サステナビリティ・レポート・スタンダード」を参照し、当該期間〔2024年1月1日～12月31日、一部最新情報を含む〕について、本対照表で記載した情報を報告いたします。

[利用したGRI1]

GRI 1:基礎2021

* 表中の「-」は、サステナビリティWebサイトで開示していない項目です。

GRI スタンダード		Web掲載箇所
GRI 2:一般開示事項2021		
1. 組織と報告実務		
2-1	組織の詳細	> 会社概要 > グループ・関連会社一覧 > 海外拠点一覧
2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	> 編集方針・各種ガイドライン対照表
2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	> 編集方針・各種ガイドライン対照表
2-4	情報の修正・訂正記述	> ESGデータ (環境、社会)
2-5	外部保証	> ESGデータ・第三書検証(環境)
2. 活動と労働者		
2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	> 有価証券報告書【事業の内容】
2-7	従業員	> 有価証券報告書【従業員の状況】 > ESGデータ 人事関連データ
2-8	従業員以外の労働者	> ESGデータ 人事関連データ
3. ガバナンス		
2-9	ガバナンス構造と構成	> コーポレート・ガバナンスの考え方と体制
2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	> コーポレート・ガバナンス基本方針  > コーポレート・ガバナンスに関する報告書 
2-11	最高ガバナンス機関の議長	> コーポレート・ガバナンスに関する報告書 
2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	> コーポレート・ガバナンスの考え方と体制 > コーポレート・ガバナンス基本方針  > コーポレート・ガバナンスに関する報告書 
2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	> コーポレート・ガバナンスの考え方と体制 > サステナビリティマネジメント(推進体制)
2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	> サステナビリティマネジメント(推進体制) > マネジメントメッセージ
2-15	利益相反	> 有価証券報告書
2-16	重大な懸念事項の伝達	> コンプライアンス > 内部統制 > リスクマネジメント
2-17	最高ガバナンス機関の集会的知見	> コーポレート・ガバナンス基本方針 
2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	> コーポレート・ガバナンス基本方針  > コーポレート・ガバナンスに関する報告書 
2-19	報酬方針	> 有価証券報告書 > コーポレート・ガバナンス基本方針 

GRIスタンダード		Web掲載箇所
		> 役員報酬
2-20	報酬の決定プロセス	> 有価証券報告書 > 役員報酬
2-21	年間報酬総額の比率	> 役員報酬
4. 戦略、方針、実務慣行		
2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	> マネジメントメッセージ > 経営戦略・中期経営計画
2-23	方針声明	> 方針・宣言 > 人権の尊重
2-24	方針声明の実践	> 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 > 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進
2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	> コーポレート・ガバナンス基本方針  > 人権デューディリジェンスの推進 > リスクマネジメント
2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	> コーポレート・ガバナンス基本方針  > コンプライアンス
2-27	法規制遵守	> コンプライアンス
2-28	会員資格を持つ団体	> イニシアチブ・外部評価 > 環境に関する外部イニシアチブへの参画 > エコ・ファーストの約束 > 薬品安全性に関する外部イニシアチブへの参画 > 地域・各種団体との交流 > サプライチェーンに関する外部イニシアチブへの参画
5. ステークホルダー・エンゲージメント		
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	> ステークホルダー・エンゲージメント
2-30	労働協約	> 労使関係
GRI 3: マテリアルな項目 2021		
3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	> 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス
3-2	マテリアルな項目のリスト	> サステナビリティ重要課題と2030年目標
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> サステナビリティマネジメント(推進体制)
200: 経済		
GRI 201: 経済パフォーマンス 2016		
201-1	創出、分配した直接的経済価値	> 決算短信・決算説明資料
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	> TCFD提言に基づく情報開示
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	> 有価証券報告書
201-4	政府から受けた資金援助	—
GRI 202: 地域経済でのプレゼンス 2016		
202-1	地域最低賃金に対する標準的新入社員給与の比率(男女別)	—
202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	—
GRI 203: 間接的な経済的インパクト 2016		
203-1	インフラ投資および支援サービス	—
203-2	著しい間接的な経済的インパクト	—
GRI 204: 調達慣行 2016		
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	—
GRI 205: 腐敗防止 2016		
205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	—

GRIスタンダード		Web掲載箇所
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	＞ コンプライアンス
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	—
GRI 206: 反競争的行為 2016		
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	—
GRI 207: 税金 2019		
207-1	税務へのアプローチ	＞ 税務方針
207-2	税務ガバナンス、管理およびリスクマネジメント	＞ コンプライアンス ＞ リスクマネジメント
207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念への対処	＞ ステークホルダー・エンゲージメント
207-4	国別の報告	＞ 税務方針 ＞ コンプライアンス
GRI 301: 原材料 2016		
301-1	使用原材料の重量または体積	＞ ESGデータ 原材料使用量の推移及び容器・包装材料使用量の推移
301-2	使用したリサイクル材料	＞ 資源循環
301-3	再生利用された製品と梱包材	＞ 資源循環
GRI 302: エネルギー 2016		
302-1	組織内のエネルギー消費量	＞ ESGデータ 事業活動におけるエネルギー総使用量の推移
302-2	組織外のエネルギー消費量	＞ ESGデータ サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量割合の推移
302-3	エネルギー原単位	—
302-4	エネルギー消費量の削減	＞ 事業所活動におけるCO2排出量削減
302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	＞ ライフサイクルにおけるCO2排出量削減
GRI 303: 水と廃水 2018		
303-1	共有資源としての水との相互作用	＞ 資源循環型社会の実現 ＞ 水使用量削減
303-2	排水に関するインパクトのマネジメント	＞ 事業活動での水使用量と排水量の推移(国内・海外)
303-3	取水	＞ ESGデータ 事業活動での水使用量(取水量)の推移 ＞ 水使用量削減
303-4	排水	＞ ESGデータ 事業活動での排水量の推移 ＞ 水使用量削減
303-5	水消費	＞ ESGデータ 事業活動による環境負荷の全体像
GRI 304: 生物多様性 2016		
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業拠点	＞ 各事業所の活動
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	＞ 当社の生物多様性保全に配慮した事業活動の全体像 ＞ TNFD提言に基づく情報開示
304-3	生息地の保護・復元	＞ 各事業所の活動
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	—
GRI 305: 大気への排出 2016		
305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(Scope1)	＞ 国内事業所のScope1, 2別の温室効果ガス排出量(千トン) ＞ 海外事業所のScope1, 2別の温室効果ガス排出量(千トン)
305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(Scope2)	＞ 国内事業所のScope1, 2別の温室効果ガス排出量(千トン)

GRIスタンダード		Web掲載箇所
		＞ 海外事業所のスコープ1、2別の温室効果ガス排出量 (千トン)
305-3	その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (Scope3)	＞ サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量
305-4	温室効果ガス (GHG) 排出原単位	—
305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	＞ 事業所活動におけるCO ₂ 排出量削減 ＞ ライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量削減
305-6	オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	—
305-7	窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、およびその他の重大な大気排出物	＞ ESGデータ 化学物質管理 ＞ 化学物質管理 大気に配慮した生産活動
GRI 306: 廃棄物 2020		
306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	＞ 資源循環型社会の実現
306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	＞ 資源循環
306-3	発生した廃棄物	＞ ESGデータ 廃棄物
306-4	処分されなかった廃棄物	＞ ESGデータ 廃棄物
306-5	処分された廃棄物	＞ ESGデータ 廃棄物
GRI 308: サプライヤーの環境面のアセスメント 2016		
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	＞ 持続可能な原材料調達に向けて
GRI 401: 雇用 2016		
401-1	従業員の新規雇用と離職	＞ ESGデータ 人事関連データ
401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	—
401-3	育児休暇	＞ ワークライフエンリッチメントの推進
GRI 402: 労使関係 2016		
402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	—
GRI 403: 労働安全衛生 2018		
403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	＞ 労働安全管理体制の充実
403-2	危険性 (ハザード) の特定、リスク評価、事故調査	＞ 労働安全管理体制の充実
403-3	労働衛生サービス	—
403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	＞ 労働安全管理体制の充実
403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	＞ 労働安全管理体制の充実
403-6	労働者の健康増進	＞ 従業員の健康増進
403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と軽減	＞ 労働安全管理体制の充実 取り組み (設備安全 / 労働安全)
403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	＞ 労働安全管理体制の充実
403-9	労働関連の傷害	＞ 従業員の健康増進 ＞ 労働安全管理体制の充実 取り組み (設備安全 / 労働安全)
403-10	労働関連の疾病・体調不良	＞ 従業員の健康増進 ＞ 生産性と働きがいに関する指標

GRIスタンダード		Web掲載箇所
GRI 404:研修と教育 2016		
404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	> ESGデータ 人事関連データ
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	> キャリア自律を支援する人材開発
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	—
GRI 405:ダイバーシティと機会均等 2016		
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	> ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進
405-2	基本給と報酬総額の男女比	> ESGデータ 人事関連データ
GRI 406:非差別 2016		
406-1	差別事例と実施した是正措置	—
GRI 407:結社の自由と団体交渉 2016		
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	> 人権デューデリジェンスの推進
GRI 408:児童労働 2016		
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 人権デューデリジェンスの推進
GRI 409:強制労働 2016		
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 人権デューデリジェンスの推進
GRI 410:保安慣行 2016		
410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	—
GRI 411:先住民族の権利 2016		
411-1	先住民族の権利を侵害した事例	—
GRI 413:地域コミュニティ 2016		
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	> 社会貢献活動
413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的しているもの、潜在的なもの)を及ぼす事業所	—
GRI 414:サプライヤーの社会面のアセスメント 2016		
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	> 新規サプライヤーの選定
414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	> 持続可能な原材料調達に向けて
GRI 415:公共政策 2016		
415-1	政治献金	> 政治献金
GRI 416:顧客の安全衛生 2016		
416-1	製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	> 品質保証、安心・安全への取り組み > 商品使用時の安全性
416-2	製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	—
GRI 417:マーケティングとラベリング 2016		
417-1	製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	> 責任ある表示・広告の取り組み
417-2	製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	> 消費者庁からの広告表示に関する勧告について
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	—
GRI 418:顧客プライバシー 2016		
418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	—

国連グローバル・コンパクト COP対照表

ライオンは、2009年に国連グローバル・コンパクト(UNGC)への支持を表明し、この取り組みに参加しています。当社は、UNGC署名企業として、UN Global Compact 4分野・10原則(人権・労働・環境・腐敗防止)の実践状況と成果に関する報告書を毎年提出しています。

	国連グローバル・コンパクト原則	Web掲載箇所
人権	原則1:人権保護の支持と尊重	<ul style="list-style-type: none"> > 行動憲章・行動指針 > ライオン人権方針 > 人権の尊重 > 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 > 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 > 持続可能な原材料調達に向けて > ステークホルダー・エンゲージメント > ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 > 品質保証、安心・安全への取り組み > 従業員の健康増進 > 労働安全管理体制の充実
	原則2:人権侵害への非加担	<ul style="list-style-type: none"> > 行動憲章・行動指針 > ライオン人権方針 > 人権の尊重 > 人権デューディリジェンスの推進
労働	原則3:結社の自由と団体交渉権の承認	<ul style="list-style-type: none"> > 行動憲章・行動指針 > ライオン人権方針 > 人権の尊重 > 人的資本・労働安全 > 労使関係
	原則4:強制労働の排除	<ul style="list-style-type: none"> > 行動憲章・行動指針 > ライオン人権方針 > 人権の尊重 > 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 > 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 > 持続可能な原材料調達に向けて
	原則5:児童労働の実効的な廃止	<ul style="list-style-type: none"> > 行動憲章・行動指針 > ライオン人権方針 > 人権の尊重 > 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 > 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 > 持続可能な原材料調達に向けて
	原則6:雇用と職業の差別撤廃	<ul style="list-style-type: none"> > 行動憲章・行動指針 > ライオン人権方針

	国連グローバル・コンパクト原則	Web掲載箇所
		<ul style="list-style-type: none"> ＞ 人権の尊重 ＞ 人的資本・労働安全 ＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 ＞ ワークライフエンリッチメントの推進 ＞ 労働安全管理体制の充実
環境	原則7:環境問題の予防的アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ＞ 行動憲章・行動指針 ＞ 環境方針 ＞ サステナブルな地球環境への取組み推進 環境方針／マネジメント ＞ 化学物質管理 ＞ ステークホルダー・エンゲージメント
	原則8:環境に対する責任のイニシアチブ	<ul style="list-style-type: none"> ＞ 行動憲章・行動指針 ＞ マネジメントメッセージ ＞ 考え方と推進体制 ＞ 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス ＞ 環境に関する外部イニシアチブへの参画 ＞ 脱炭素社会の実現 ＞ 資源循環型社会の実現 ＞ イニシアチブ・外部評価 ＞ ステークホルダー・エンゲージメント
	原則9:環境にやさしい技術の開発と普及	<ul style="list-style-type: none"> ＞ 行動憲章・行動指針 ＞ 環境に関する外部イニシアチブへの参画 ＞ 資源循環 ＞ ライオンのエコ製品(環境配慮型製品) ＞ 環境コミュニケーションの推進
腐敗防止	原則10:強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ＞ 行動憲章・行動指針 ＞ コーポレート・ガバナンスの考え方と体制 ＞ コンプライアンス ＞ ライオン贈収賄防止指針

環境報告ガイドライン(2018年版)対照表

第1章 環境報告の基礎情報

項目	該当項目
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 報告対象組織	＞ 会社概要
(2) 報告対象期間	＞ 対象期間
(3) 基準・ガイドライン等	＞ 各種ガイドライン対照表
(4) 環境報告の全体像	＞ 編集方針 ＞ サステナブルな地球環境への取組み推進
2. 主な実績評価指標の推移	
(1) 主な実績評価指標の推移	＞ サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標、2024年実績、施策  (1.01MB) ＞ ライオン 統合レポート2025 p.66-69

第2章 環境報告の記載事項

項目	該当項目
1. 経営責任者のコミットメント	
(1) 重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	＞ マネジメントメッセージ
2. ガバナンス	
(1) 事業者のガバナンス体制	＞ コーポレート・ガバナンス体制
(2) 重要な環境課題の管理責任者	＞ サステナビリティマネジメント(推進体制) ＞ 環境管理体制
(3) 重要な環境課題の管理における取締役会及び経営業務執行組織の役割	＞ サステナビリティマネジメント(推進体制) ＞ 環境管理体制
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	
(1) ステークホルダーへの対応方針	＞ ステークホルダー・エンゲージメント ＞ 各種団体への協力
(2) 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	＞ ステークホルダー・エンゲージメント ＞ ライオンのSDGs(持続可能な開発目標)への取り組み ＞ 環境に関する外部イニシアチブへの参画 ＞ 環境コミュニケーションの推進 ＞ 社会貢献活動

項目	該当項目
4. リスクマネジメント	
(1) リスクの特定、評価及び対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ＞ リスクマネジメント ＞ サステナブルな地球環境への取組み推進 環境方針／マネジメント
(2) 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ＞ リスクマネジメント
5. ビジネスモデル	
(1) 事業者のビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> ＞ 経営戦略・中期経営計画
6. バリューチェーンマネジメント	
(1) バリューチェーンの概要	<ul style="list-style-type: none"> ＞ バリューチェーンにおけるサステナビリティ重要課題のリスクと機会 ＞ 脱炭素社会の実現 ＞ 資源循環型社会の実現 ＞ 自然との共生(生物多様性) ＞ 化学物質管理
(2) グリーン調達の方針、目標・実績	<ul style="list-style-type: none"> ＞ 環境方針 ＞ 調達基本方針 ＞ 持続可能な原材料調達方針 ＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 ＞ グリーン購入
(3) 環境配慮製品・サービスの状況	<ul style="list-style-type: none"> ＞ ライオンのエコ製品(環境配慮型製品) ＞ 「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧 ＞ 化学品事業の環境配慮技術 ＞ 自然との共生(生物多様性) ＞ 節水に役立つ製品/海外における節水製品

項目	該当項目
7. 長期ビジョン	
(1) 長期ビジョン	＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(2) 長期ビジョンの設定期間	＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(3) その期間を選択した理由	＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
8. 戦略	
(1) 持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	＞ 経営戦略・中期経営計画 ＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」 ＞ TCFD提言に基づく情報開示 ＞ TNFD提言に基づく情報開示
9. 重要な環境課題の特定方法	
(1) 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	＞ 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス
(2) 特定した重要な環境課題のリスト	＞ 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス ＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(3) 特定した環境課題を重要であると判断した理由	＞ 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス ＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(4) 重要な環境課題のパウンダリー	＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
10. 事業者の重要な環境課題	
(1) 取組方針・行動計画	＞ 環境方針 ＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(2) 実績評価指標による取組目標と取組実績	＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」 ＞ サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標、2024年実績、施策  (1.01MB)
(3) 実績評価指標の算定方法	＞ ESGデータ 環境
(4) 実績評価指標の集計範囲	＞ ESGデータ 環境
(5) リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	＞ TCFD提言に基づく情報開示 ＞ TNFD提言に基づく情報開示
(6) 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書	＞ 第三者検証の実施(環境)

参考資料 主な環境課題とその実績評価指標

項目	該当項目
1. 気候変動	
温室効果ガス排出	
(1) スコープ1 排出量	＞ ESGデータ 環境
(2) スコープ2 排出量	＞ ESGデータ 環境
(3) スコープ3 排出量	＞ ESGデータ 環境
項目	該当項目
原単位	
(1) 温室効果ガス排出原単位	＞ 事業所活動におけるCO ₂ 排出量削減
エネルギー使用	
(1) エネルギー使用量の内訳及び総エネルギー使用量	＞ 事業活動による環境負荷の全体像 ＞ 事業活動におけるエネルギー総使用量の推移
(2) 総エネルギー使用量に占める再生可能エネルギー使用量の割合	＞ 事業所活動における再生可能・非再生可能エネルギー総使用量の推移
2. 水資源	
(1) 水資源投入量	＞ ESGデータ 環境
(2) 水資源投入量の原単位	＞ ESGデータ 環境
(3) 排水量	＞ ESGデータ 環境
(4) 事業所やサプライチェーンが水ストレスの高い地域に存在する場合は、その水ストレスの状況	＞ 水ストレス地域の特定と評価
3. 生物多様性	
(1) 事業活動が生物多様性に及ぼす影響	＞ 生物多様性保全活動 ＞ ライオンと生物多様性
(2) 事業活動が生物多様性に依存する状況と程度	＞ 生物多様性保全活動 ＞ ライオンと生物多様性
(3) 生物多様性の保全に資する事業活動	＞ 生物多様性保全活動 ＞ 生物多様性保全への取り組み
(4) 外部ステークホルダーとの協働の状況	＞ 環境コミュニケーションの推進 ＞ イベント、地域・各種団体との交流 ＞ 活動を通じた環境コミュニケーション ＞ 学術支援を通じた環境コミュニケーション ＞ ライオンのエコ製品（環境配慮型製品）
4. 資源循環	
資源の投入	
(1) 再生不能資源投入量	該当なし
(2) 再生可能資源投入量	該当なし
(3) 循環利用材の量	該当なし
(4) 循環利用率（＝循環利用材の量／資源投入量）	該当なし
資源の廃棄	
(1) 廃棄物等の総排出量	＞ ESGデータ 環境
(2) 廃棄物等の最終処分量	＞ ESGデータ 環境

項目	該当項目
5. 化学物質	
(1) 化学物質の貯蔵量	該当なし
(2) 化学物質の排出量	<ul style="list-style-type: none"> > 事業活動による環境負荷の全体像 > 化学物質管理 > ESGデータ 環境
(3) 化学物質の移動量	> 事業活動による環境負荷の全体像
(4) 化学物質の取扱量(使用量)	> 事業活動による環境負荷の全体像
6. 汚染予防	
全般	
(1) 法令遵守の状況	> 法規制の遵守
大気保全	
(1) 大気汚染規制項目の排出濃度、大気汚染物質排出量	> 化学物質管理
水質汚濁	
(1) 排水規制項目の排出濃度、水質汚濁負荷量	> 化学物質管理
土壌汚染	
(1) 土壌汚染の状況	> 法規制の遵守

ESGデータ・第三者検証

ESGデータ

環境

- 事業活動による環境負荷の全体像
- CO₂、エネルギー
- 原材料、容器・包装材料
- 水
- 廃棄物
- 化学物質管理
- 環境会計
- 環境効率
- 生産系事業所環境データ



社会

- 人事関連データ
- 生産性と働きがいに関する指標
- 持続可能な原材料調達



ガバナンス

- コンプライアンス受講率
- 「AL心のホットライン」社内認知率、相談・通報内容
- 社告を伴う消費者・流通からの製品回収
(リコール状況)



第三者検証

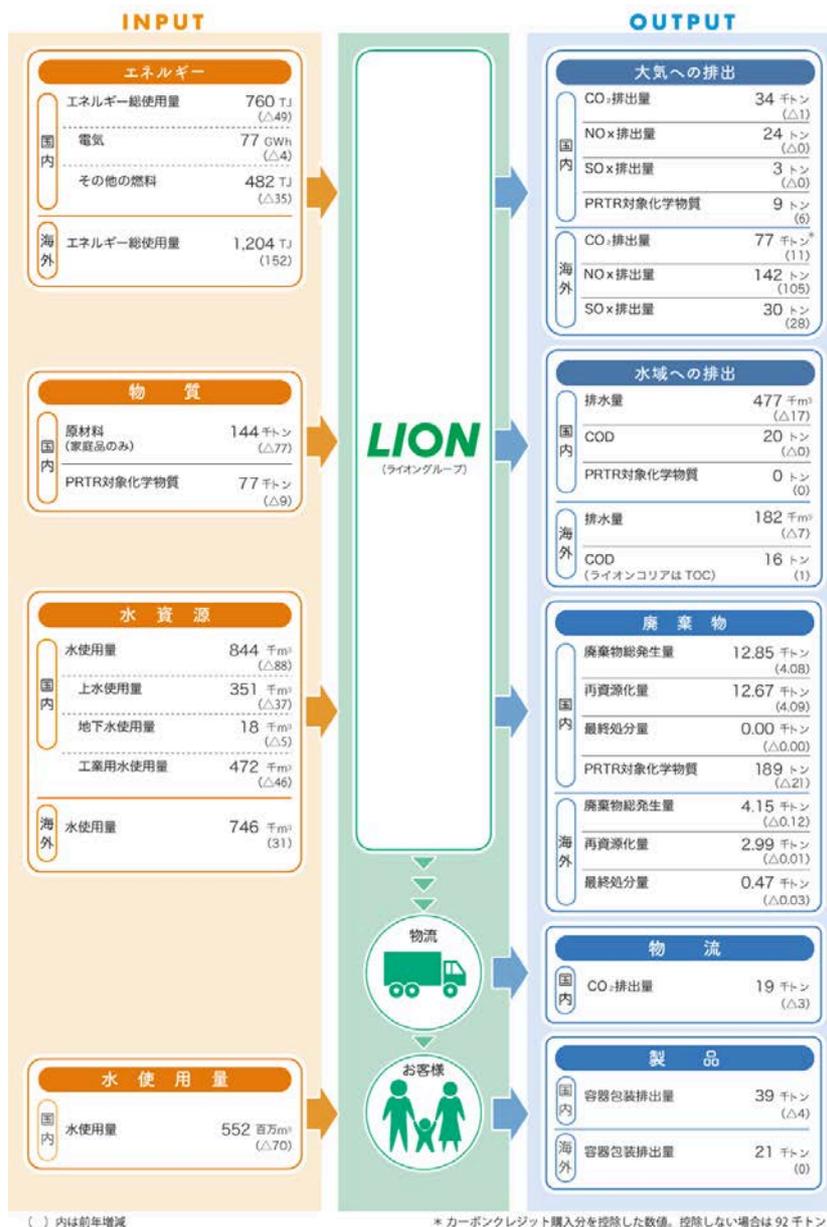
- 環境

ESGデータ・第三者検証



環境

事業活動による環境負荷の全体像



<データの対象範囲> ライオンおよび国内外連結子会社

<データの対象期間> 2024年1月～2024年12月；ただし、PRTR対象化学物質については2024年4月～2025年3月

算定方法の見直し等により、数値を修正しました。

事業所活動におけるCO₂排出量の推移

国内	単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
絶対量	千t-CO ₂	77	74	73	35	34
2017年比削減率	%	—	5	5	54	56

海外	単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
絶対量	千t-CO ₂	89	78	70*1	66*1	77*1
2017年比削減率	%	—	12	21	26	14

*1 カーボンプレジット購入分を控除した数値。控除しない場合は2022年：85千トン、2023年：82千トン、2024年：92千トン

合計	単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
絶対量	千t-CO ₂	166	151	143*2	101*2	111*2
2017年比削減率	%	—	9	14	39	33

*2 カーボンプレジット購入分を控除した数値。控除しない場合は2022年：159千トン、4%削減、2023年：117千トン、29%削減、2024年：126千トン、24%削減

> 取り組み内容はこちら

事業活動におけるエネルギー総使用量の推移

	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
国内	TJ	841	839	810	760
海外		1,275	1,143	1,053	1,204
合計	TJ	2,116	1,982	1,862	1,965

> 取り組み内容はこちら

事業所活動における再生可能・非再生可能エネルギー総使用量の推移

	単位	2021年	2022年	2023年	2024年	2024年 目標値
非再生可能エネルギー総消費量	国内	233	232	145	134	—
	海外	313	316	291	332	—
	合計	GWh	546	549	436	466
再生可能エネルギー総消費量	国内	0.18	0.45	80	77	—
	海外	42	1	1	3	—
	合計	GWh	42	1.8	81	79
再生可能エネルギー総消費量 ／総エネルギー消費量	%	7.12	0.33	15.7	14.6	—

サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量割合の推移

		単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
スコープ1		%	1.5	1.6	1.4	1.3	1.5
スコープ2		%	2.1	1.5	1.4	1.1	1.1
スコープ3	購入した製品サービス	%	21.8	23.6	24.8	25.9	28.7
	資本財	%	0.8	1.1	1.2	1.4	0.8
	スコープ1、2以外のエネルギー等	%	0.4	0.6	0.6	0.6	0.7
	輸送・配送(上流)	%	3.4	3.8	4.2	2.6	2.8
	事業から出る廃棄物	%	0.1	0.4	0.1	0.1	0.2
	出張	%	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	雇用者通勤	%	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
	輸送配送(下流)	%	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2
	販売した製品の加工	%	5.3	2.0	2.1	2.3	2.1
	製品の使用	%	54.3	54.6	53.2	51.2	49.0
	商品の廃棄	%	9.6	9.9	10.3	12.8	12.4
	投資	%	0.4	0.6	0.5	0.5	0.4
合計		万t-CO ₂	461	491	527	489	486

＜ 取り組み内容はこちら

事業所のスコープ1、2別の温室効果ガス排出量

国内	単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
スコープ1	千t-CO ₂	22	21	21	20	19
スコープ2(ロケーション基準)		55	52	52	50	49
スコープ1+2(ロケーション基準)合計	千t-CO ₂	77	73	73	70	68
スコープ2(マーケット基準)	千t-CO ₂	55	52	52	15	15
スコープ1+2(マーケット基準)合計	千t-CO ₂	77	74	73	35	34
カーボンプレジット購入量	千t-CO ₂	0	0	0	0	0

海外	単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
スコープ1	千t-CO ₂	45	56	49	43	54
スコープ2(ロケーション基準)		43	41	38	41	42
スコープ1+2(ロケーション基準)合計	千t-CO ₂	89	97	87	84	96
スコープ2(マーケット基準)	千t-CO ₂	43	22	36	38	38
スコープ1+2(マーケット基準)合計	千t-CO ₂	89	78	85	82	92
カーボンプレジット購入量	千t-CO ₂	0	0	16	16	16

* 算定方法を見直し、数値を修正しました。

国内と海外の合計	単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年	2024年 目標値
スコープ1	千t-CO ₂	67	77	70	63	73	63
スコープ2(ロケーション基準)		98	93	90	90	91	90
スコープ1+2(ロケーション基準)合計	千t-CO ₂	166	170	160	153	164	—
スコープ2(マーケット基準)	千t-CO ₂	98	74	89	54	54	53
スコープ1+2(マーケット基準)合計	千t-CO ₂	166	151	159	117	126	—
カーボンプレジット購入量	千t-CO ₂	0	0	16	16	16	—

* 算定方法を見直し、数値を修正しました。

原材料使用量の推移(国内、家庭品のみ)

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
原材料使用量	千トン	250	252	233	219	144

* 算定方法を見直し、数値を修正しました。

> [取り組み内容はこちら](#)

容器・包装材料使用量の推移(国内、家庭品のみ)

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
プラスチック	千トン	20	19	18	18	16
段ボール		27	27	27	27	24
板紙		5	5	5	5	4
ガラス		5	6	6	6	3
金属		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
合計		千トン	58	57	56	55

* 算定方法を見直し、数値を修正しました。

> [取り組み内容はこちら](#)

容器・包装材料使用量の推移(国内と海外の合計、家庭品のみ)

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
プラスチック	千トン	42	43	36	36	35
段ボール		59	58	56	57	56
板紙		13	13	7	7	7
ガラス		5	6	6	6	3
金属		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
合計		千トン	119	120	105	106

* 算定方法を見直し、数値を修正しました。

水

事業活動での水使用量(取水量)の推移

	単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
国内	千m ³	917	920	940	932	844
海外		670	704	683	716	746
合計	千m ³	1,586	1,624	1,623	1,647	1,590

> 取り組み内容はこちら

水源別水使用量(取水量)の推移

		単位	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
上水	国内	千m ³	339	387	365	388	351
	海外		645	689	655	482	413
	合計	千m ³	983	1,076	1,020	870	764
工水	国内	千m ³	538	507	529	518	472
	海外		25	15	28	233	333
	合計	千m ³	563	522	557	752	805
地下水	国内	千m ³	38	25	44	24	18
	海外		0	0	0	0	0
	合計	千m ³	38	25	44	24	18
雨水	国内	千m ³	1	2	2	2	2
	海外		0	0	0	0	0
	合計	千m ³	1	2	2	2	2

事業活動での排水量の推移

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
国内	千m ³	428	474	512	493	477
海外		183	211	180	189	182
合計	千m ³	611	684	692	682	659

放流先別排水量

		単位	2021年	2022年	2023年	2024年
下水道	国内	千m ³	302	322	302	276
	海外		64	74	85	85
	合計	千m ³	366	396	387	361
海	国内	千m ³	118	130	135	154
	海外		0	0	0	0
	合計	千m ³	118	130	135	154
河川	国内	千m ³	53	60	56	46
	海外		44	5	6	8
	合計	千m ³	97	65	62	54
その他(工業団地処理施設)	国内	千m ³	0	0	0	0
	海外		103	101	99	89
	合計	千m ³	103	101	99	89

商品のライフサイクルにおける水使用量割合の推移

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
原材料調達	%	19.3	19.4	19.8	21.0	20.1
生産	%	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
輸送	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活者による使用	%	76.2	76.2	75.8	74.0	74.9
生活者による廃棄	%	4.4	4.3	4.3	4.9	4.9

＜ 取り組み内容はこちら

商品のライフサイクルにおける水使用量の推移

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
水使用量	百万m ³	2,273	2,291	2,303	2,228	2,057
売上高原単位	千m ³ /百万円	—	6.26	5.91	5.53	4.98
売上高原単位 2017年比削減率	%	—	2	7	13	22

廃棄物

廃棄物総発生量・廃棄物最終処分量・有価物総量の推移

国内	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
廃棄物総発生量	千トン	10.43	9.08	11.22	8.77	12.85
廃棄物最終処分量		0.01	0.01	0.00	0.00	0.00
有価物総量		3.13	3.73	3.22	3.02	3.01

海外	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
廃棄物総発生量	千トン	3.96	3.89	4.19	4.26	4.15
廃棄物最終処分量		0.74	0.54	0.38	0.50	0.47
有価物総量		3.13	3.22	3.15	3.11	3.13

国内と海外の合計	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
廃棄物総発生量	千トン	14.39	12.97	15.41	13.03	17.00
廃棄物最終処分量		0.75	0.54	0.38	0.50	0.47
有価物総量		6.26	6.95	6.37	6.13	6.13

* 過去のデータに誤りがあり、修正しました。

＜ 取り組み内容はこちら

各種廃棄物関連量の推移(国内海外合計)

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
リサイクルまたは再利用された量	千トン	16.38	15.15	17.56	13.86	17.65
埋立量		0.81	0.65	0.38	0.50	0.47
焼却処理量 (エネルギー回収有)		3.22	3.49	3.20	3.86	4.14
焼却処理量 (エネルギー回収無)		0.13	0.46	0.44	0.76	0.69
廃棄方法不明量		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

* 過去のデータに誤りがあり、修正しました。

産業廃棄物処理施設の維持管理の状況に関する情報

千葉工場

> [2024年度維持管理状況\(2024/06/20更新\)](#)  (PDF:84KB)

> [2023年度維持管理状況\(2024/05/08更新\)](#)  (PDF:86KB)

> [2022年度維持管理状況\(2023/05/19更新\)](#)  (PDF:88KB)

化学物質管理

PRTR対象物質総排出量の推移(国内)

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
PRTR対象物質総排出量	トン	2	3	2	3	9

PRTR対象物質の排出量

> [「2024年度PRTR対象物質の排出量\(国内グループ\)」](#)  (360KB)

窒素酸化物(NO_x)・硫黄酸化物(SO_x)・ばいじん排出量の推移

国内	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
窒素酸化物(NO _x)排出量	トン	29	27	26	25	24
硫黄酸化物(SO _x)排出量		4	3	3	4	3
ばいじん		1	1	1	0	0

海外	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
窒素酸化物(NO _x)排出量	トン	71	33	3	38	142
硫黄酸化物(SO _x)排出量		2	1	3	1	30
ばいじん		8	58	26	26	58

国内と海外の合計	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
窒素酸化物(NO _x)排出量	トン	100	60	56	62	167
硫黄酸化物(SO _x)排出量		6	5	6	5	33
ばいじん		9	59	28	26	58

VOC総排出量(国内)

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
揮発性有機化合物(VOC)総排出量	トン	68	69	57	53	54

事業活動でのCODの推移

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
国内	トン	20	22	28	21	20
海外		76	77	18	15	16
国内と海外の合計	トン	96	100	47	36	36

* ライオンコリアについてはTOCの値

* 過去のデータに誤りがあり、修正しました。

> [取り組み内容はこちら](#)

環境会計

環境省のガイドラインに基づき、当社国内グループ全体の環境保全コストと環境保全対策にともなう経済効果(実質効果)について毎年集計し、その内容を開示しています。(集計期間:2024年1月~12月)

2024年の環境保全コストは、設備投資が約17.6億円増加し、費用額が約2.8億円減少しました。

環境保全コスト

(百万円)

分類	主な取り組み	2024年1月~12月	
		投資額	費用額
事業エリア内コスト	公害防止	128	202
	地球環境保全	879	3,547
	資源循環	36	406
	環境配慮製品	3,037	3,062
上・下流コスト	容器・包装リサイクル	—	757
管理活動コスト	ISO14001登録、環境教育	0	629
研究開発コスト	環境配慮製品の研究開発等	75	920
社会活動コスト	環境改善対策、団体寄付	0	20
環境損傷コスト	汚染負荷量賦課金等	0	1
国内グループ計		4,156	9,546
	前年増減	1,763	-284

環境保全対策にともなう経済効果(実質的効果)

(百万円)

効果の内容	前年比削減額
省エネルギーによる費用削減額	277.1
省資源による費用削減額	183.0
上下水使用料削減額	-26.6
廃棄物処理削減額*	44.9

* 有価売却費を含む

環境効率

企業活動が環境負荷の側面からどれだけ効率的に行われているかを評価するために、毎年、下記の計算式により環境効率を算出し、その向上に努めています。

$$\text{環境効率} = \frac{\text{事業活動の成果（売上高）}}{\text{環境影響*（LIMEにより算出した環境負荷金額）}}$$

* 環境影響はLIME (Life-cycle Impact assessment Method based on Endpoint modeling: 日本版被害算定型環境影響評価手法) を用いて、環境への影響(被害)を環境負荷金額として算出。

環境効率と環境負荷金額(2005年比)の推移

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
環境負荷金額(2005年比)	%	84	84	90	78	87
環境効率		340	344	326	373	330

生産系事業所環境データ

> [ライオンおよび国内連結子会社](#)  (PDF:120KB)

> [海外連結子会社](#)  (PDF:92KB)

ESGデータ・第三者検証

環境

社会

ガバナンス

第三者検証

社会

- ▼ 人事関連データ
- ▼ 従業員の健康増進
- ▼ 生産性と働きがいに関する指標
- ▼ 持続可能な原材料調達

人事関連データ

対象範囲:ライオン株式会社所属の従業員(以下、単体)と、ライオン株式会社に在籍のまま関係会社・関係団体等に勤務する従業員(以下、出向者)

* 委任契約ではない執行役員は含む

* 臨時従業員、パートタイマー、派遣社員は含まない

ライオングループ全体:単体+出向者に加えて、国内外関係会社[※]所属の従業員

※ 算出対象とした国内外関係会社(16社)

ライオンケミカル(株)、ライオンエキスパートビジネス(株)、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)、ライオンハイジーン(株)、ライオンペット(株)、ライオンエンジニアリング(株)、(株)イシュー、ライオンともに(株)、ライオン歯科材(株)、獅王日用化工(青島)有限公司、獅王家品股份有限公司、Lion Corporation (Korea)、Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd、獅王(香港)有限公司、Lion Corporation (Thailand) Ltd.、Southern Lion Sdn. Bhd.

ご参考:連結子会社23社

各年12月31日現在

ダイバーシティ&インクルージョン

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
		社員数				
単体+出向者	男性	2,355名	2,347名	2,317名	2,253名	2,197名
	女性	1,205名	1,238名	1,270名	1,292名	1,290名
ライオングループ全体	男性	—	4,454名	4,425名	4,306名	4,256名
	女性	—	2,944名	2,979名	2,976名	2,949名
		女性比率				
単体+出向者		33.8%	34.5%	35.4%	36.6%	37.0%
ライオングループ全体		—	39.8%	40.2%	40.9%	41.4%
		年代別従業員比率				
単体+出向者	30歳未満	16.0%	16.0%	16.0%	14.9%	13.8%
	30-50歳	47.0%	46.0%	46.0%	46.2%	45.9%
	50歳超	37.0%	38.0%	38.0%	38.9%	40.2%
ライオングループ全体	30歳未満	21.0%	20.0%	19.0%	18.0%	17.1%
	30-50歳	52.0%	53.0%	53.0%	52.7%	52.6%
	50歳超	27.0%	27.0%	28.0%	29.2%	30.2%
		新入社員数(新卒)				
単体+出向者	男性	42名	54名	46名	35名	37名
	女性	34名	33名	38名	30名	37名
		新入社員数(中途)				
単体+出向者	男性	6名	20名	7名	17名	31名
	女性	12名	13名	14名	8名	22名
単体+出向者	管理職	—	—	5名	5名	7名
	非管理職	—	—	14名	20名	46名

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
		労働組合、労使協議会等、従業員と経営が協議する仕組みがある法人割合				
ライオングループ全体	率	86.4%	86.4%	86.4%	86.4%	86.4%
		上記加入従業員比率				
単体+出向者	率	66.2%	77.9%	65.9%	62.6%	60.6%
ライオングループ全体	率	73.4%	75.1%	72.9%	71.3%	70.5%
		定年退職者再雇用				
単体+出向者	人数	243名	293名	343名	462名	475名
	率	6.8%	8.2%	9.6%	12.8%	13.6%
		臨時雇用者				
単体+出向者	人数	196名	130名	104名	78名	60名
		障がい者雇用				
単体+出向者	人数	75名	77名	79名	85名	79名
	率	2.7%	2.7%*1	2.8%*1	2.9%*1	2.8%*1
ライオングループ全体	人数	94名	127名	131名	135名	94名
	率	1.3%	1.7%	1.8%	1.9%	1.3%
		平均勤続年数(再雇用者除く)				
単体+出向者	男性	19.7年	19.5年	19.6年	18.3年	16.9年
	女性	14.0年	14.1年	14.2年	13.1年	13.1年
		合計退職率*2				
単体+出向者		2.4%	2.8%	3.3%	3.1%	3.8%
		自己都合退職率				
単体+出向者		1.2%	2.3%	1.6%	2.0%	2.2%
ライオングループ全体		3.0%	4.9%	5.5%	5.8%	4.4%
		入社3年後までの退職				
単体+出向者	人数	10名	4名	6名	11名	12名
	率	4.0%	1.6%	2.4%	4.4%	3.5%
		管理職に占める女性労働者の割合*3				
単体+出向者	人数	83名	93名	98名	127名	133名
	率	9.1%	10.3%	11.1%	14.2%	14.5%
ライオングループ全体	人数	—	289名	267名	334名	359名
	率	—	20.4%	19.6%	23.5%	24.4%
		管理職に占める女性労働者の割合(上級管理職)				
単体+出向者	人数	—	2名	2名	3名	1名
	率	—	12.5%	9.1%	12.5%	4.5%
ライオングループ全体	人数	—	47名	44名	44名	42名
	率	—	40.2%	38.9%	39.3%	38.2%
		管理職に占める女性労働者の割合(中級・初級管理職)				
単体+出向者	人数	—	91名	96名	124名	132名
	率	—	10.3%	11.2%	14.2%	14.5%
ライオングループ全体	人数	—	242名	223名	290名	315名
	率	—	18.6%	17.8%	22.1%	23.2%
		準管理職に占める女性労働者の割合*4				
単体+出向者	人数	—	163名	180名	160名	154名
	率	—	27.8%	31.4%	32.0%	33.3%
ライオングループ全体	人数	—	232名	231名	233名	227名
	率	—	28.1%	30.2%	26.3%	31.7%
		管理職に占める女性労働者の割合(収益部門)				
単体+出向者	人数	—	36名	37名	42名	37名
	率	—	9.9%	10.5%	12.8%	12.3%
ライオングループ全体	人数	—	154名	147名	155名	155名
	率	—	—	—	—	—

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
		管理職に占める女性労働者の割合 (STEM部門)				
単体+出向者	人数	—	19名	19名	32名	22名
	率	—	11.8%	12.3%	14.7%	13.4%
ライオングループ全体	人数	—	39名	40名	58名	45名
	率	—	16.8%	16.3%	18.8%	18.3%
		男性に対する女性平均報酬比率				
単体+出向者	取締役男性	100%	100%	100%	100%	100%
	取締役女性	—	—	—	—	—
	取締役(社外)男性	100%	100%	100%	100%	100%
	取締役(社外)女性	100%	100%	100%	100%	100%
	管理職男性	100%	100%	100%	100%	100%
	管理職女性	89%	89%	93%*5	92%*5	89%
	非管理職男性	100%	100%	100%	100%	100%
	非管理職女性	76%	79%	79%*5	81%*5	82%
ライオングループ全体	管理職男性	100%	100%	100%	100%	100%
	管理職女性	88%	93%	97%	91%	91%
	非管理職男性	100%	100%	100%	100%	100%
	非管理職女性	90%	91%	89%	92%	91%
		地域限定社員				
	登用者数	2名	0名	8名	9名	0名

*1 国内雇用率算出基準を利用

*2 自己都合退職率と自己都合以外(定年退職、期間満了、死亡)の退職率の合計

*3 上級管理職(CEOや取締役を除く本部長・副本部長相当)、中級・初級管理職(部長、課長相当)の合計

*4 係長相当など管理職の補佐的役割を担うもの

*5 第三者保証を受けています

> [取り組み内容はこちら](#)

ワークライフエンリッチメント

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
		育児休業取得者				
単体+出向者	男性	32名	54名	55名	57名	55名
	女性	78名	84名	77名	89名	84名
		育児短時間勤務				
単体+出向者	男性	0名	0名	0名	0名	1名
	女性	77名	78名	65名	74名	87名
		月平均所定外労働時間				
単体+出向者		9.2時間	12.5時間	13.8時間	12.4時間	12.3時間
		年次有給休暇取得率				
単体+出向者		68.0%	65.9%	69.2%	74.8%	78.8%
		ボランティア休暇取得者数				
単体+出向者	のべ取得者数	0名	0名	0名	0名	2名
	のべ取得日数	—	—	—	—	7日
		従業員意識行動調査 「誇りを持って働いている従業員率」*				
単体(出向者除く)	回答率全体	83.0%	84.3%	89.5%	93.5%	94.5%
	全体	97.3%	80.5%	77.1%	74.5%	76.9%
	男性	97.5%	84.3%	78.2%	76.4%	78.9%
	女性	96.8%	77.0%	78.1%	75.4%	78.4%
	10～20代	95.3%	74.9%	71.9%	75.2%	77.7%
	30代～	96.7%	78.9%	76.9%	70.6%	69.6%
	40代～	96.8%	79.0%	75.9%	72.8%	76.1%
	50代～	97.9%	84.6%	79.5%	76.7%	79.2%
	60代～	97.2%	85.4%	82.1%	78.4%	85.2%
	非管理職	96.6%	77.5%	74.9%	72.1%	77.1%
	管理職 (役員含む)	98.8%	89.6%	85.1%	82.1%	81.5%

* より厳しく現状を把握し、より良い状態を目指す目的で、2021年から選択肢を変更

> [取り組み内容はこちら](#)

人材開発

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
		FTEあたり平均研修時間				
単体＋出向者		14.6時間	52.8時間*1	58.1時間	50.2時間	38.1時間
ライオングループ全体		12.1時間	31.0時間*1	34.9時間	32.1時間	25.9時間
		FTEあたり平均研修時間詳細				
単体＋出向者	30歳未満	—	97.7時間	93.1時間	80.4時間	79.9時間
	30-50歳	—	49.3時間	55.2時間	56.7時間	39.0時間
	50歳超	—	54.5時間	46.3時間	31.0時間	22.3時間
	男性	—	49.2時間	66.9時間	54.4時間	39.2時間
	女性	—	59.8時間	41.9時間	43.0時間	36.4時間
	上級管理職	—	39.7時間	281.5時間	48.2時間	53.3時間
	中級/初級管理職	—	83.3時間	128.5時間	79.0時間	61.1時間
	準管理職	—	42.9時間	18.7時間	67.4時間	16.4時間
ライオングループ全体	30歳未満	—	44.2時間	44.1時間	43.7時間	41.2時間
	30-50歳	—	26.3時間	31.7時間	32.8時間	25.0時間
	50歳超	—	36.6時間	34.1時間	23.7時間	18.3時間
	男性	—	30.1時間	40.9時間	35.6時間	26.8時間
	女性	—	30.3時間	26.1時間	26.9時間	24.4時間
	上級管理職	—	21.1時間	63.8時間	29.3時間	29.3時間
	中級/初級管理職	—	60.4時間	95.0時間	58.2時間	46.2時間
	準管理職	—	33.4時間	16.8時間	47.8時間	16.8時間
		FTEあたり平均研修費用				
単体＋出向者		52,300円	67,100円	94,800円	74,793円	77,549円
ライオングループ全体		29,300円	36,700円	51,400円	43,992円	45,162円
		FTEあたり平均研修費用詳細				
単体＋出向者	30歳未満	—	67,100円	288,300円	107,671円	152,507円
	30-50歳	—	107,700円	82,900円	103,211円	98,209円
	50歳超	—	24,100円	27,700円	28,557円	21,262円
	男性	—	70,800円	98,300円	76,049円	76,269円
	女性	—	60,000円	87,500円	72,602円	79,730円
	上級管理職	—	65,000円	643,500円	562,378円	294,692円
	中級/初級管理職	—	105,000円	176,600円	119,545円	138,747円
	準管理職	—	44,000円	182,900円	62,361円	49,480円
ライオングループ全体	30歳未満	—	43,500円	120,000円	48,381円	62,896円
	30-50歳	—	46,700円	40,700円	52,257円	49,336円
	50歳超	—	16,900円	20,400円	22,207円	16,528円
	男性	—	41,300円	55,900円	45,954円	54,391円
	女性	—	29,200円	41,900円	38,129円	40,586円
	上級管理職	—	33,700円	108,200円	168,668円	103,555円
	中級/初級管理職	—	76,800円	127,600円	87,895円	98,518円
	準管理職	—	33,500円	139,200円	44,186円	39,448円

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
		業績評価手法				
単体におけるMBO*2導入状況	上級管理職	導入	導入	導入	導入	導入
	中級/初級管理職	導入	導入	導入	導入	導入
	準管理職	導入	導入	導入	導入	導入
	非管理職	導入	導入	導入	導入	導入
ライオングループ全体におけるMBO*2導入従業員比率	上級管理職	55.7%	57.3%	53.3%	59.8%	59.8%
	中級/初級管理職	95.4%	95.5%	94.8%	94.7%	94.7%
	準管理職	94.6%	94.9%	94.4%	97.6%	97.6%
	非管理職	62.1%	63.6%	66.2%	69.4%	69.4%
		空きポジションの内、社内候補で埋められた率(内部昇格率)*3				
単体+出向者		88.5%	69.0%	89.1%	95.1%	92.2%
ライオングループ全体		49.2%	55.7%	67.6%	82.5%	66.0%

*1 2021年より各部門研修時間を集計した結果時間増

*2 MBO: Management by Objectives

*3 内部昇格率: 内部昇格者数 / (中途採用数 + 内部昇格者数)

> 取り組み内容はこちら

従業員の健康増進

			2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
単体+出向者	健康状態	定期健康診断受診率	100.0%	100.0%	99.8%	99.9%	99.9%
		精密検査受診率	58.0%	59.6%	59.4%	55.7%	62.0%
		特定保健指導該当率(40歳以上)*1	17.8%	16.8%	15.8%	14.4%	15.0%
		特定保健指導実施率(40歳以上)*1	74.9%	83.6%	79.4%	85.1%	—
		メタボリックシンドローム該当者率(40歳以上)	13.6%	14.3%	13.6%	12.9%	14.0%
		メタボリックシンドローム予備群該当者率(40歳以上)	14.7%	14.4%	12.1%	13.4%	13.8%
		適正体重維持者率	69.4%	66.9%	67.5%	67.7%	66.2%
	生活習慣	非喫煙者率	81.7%	82.6%	83.1%	83.6%	83.9%
		運動習慣者比率	23.7%	24.8%	26.1%	26.1%	26.9%
		睡眠で十分な休養がとれている人の割合	66.0%	67.4%	68.0%	66.9%	68.0%
		朝食習慣者比率	80.7%	75.8%	75.3%	74.4%	74.9%
		適正飲酒習慣者率	83.0%	84.5%	83.0%	89.2%	87.7%
	メンタルヘルス	ストレスチェック実施率	98.2%	94.7%	97.5%	98.3%	98.5%
		高ストレス者率	7.9%	9.2%	8.7%	9.5%	8.6%
	ヘルスリテラシー	健診結果のそれぞれの項目が、何を意味しているかわかりますか「大体わかる」「よくわかる」と回答した割合	89.8%	89.8%	91.2%	90.8%	90.8%
		健診結果から、健康改善のためにどう行動するべきか判断することができますか「判断できる」「大体できる」と回答した割合	86.3%	87.2%	88.6%	88.6%	88.9%

*1 健康保険組合算出の数値(グループ全体の被保険者)

生産性と働きがいに関する指標

			2021年	2022年	2023年	2024年	2030年目標
単体+出向者	生産性	パフォーマンス発揮度(プレゼンティーズム)*1	86.7%	84.7%	85.9%	85.0%	85.0%以上
		病気や体調不良による休業率(アブセンティーズム)*2	0.7%	0.8%	0.9%	1.0%	0.7%未満
	働きがい*3	ワークエンゲージメント	2.6	2.6	2.4	2.4	3.0以上
		「仕事に満足だ」に「満足」「まあ満足」と回答した割合	71.8%	75.4%	69.4%	68.9%	—
		「働きがいのある仕事だ」に「そうだ」「まあそうだ」と回答した割合	74.8%	71.2%	73.2%	71.5%	—

*1 プレゼンティーズム:何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し業務遂行能力や労働生産性が低下している状態。

SPQ(東大1項目版)を用いて測定、2024年 回答者数:3,461名、回答率:97.2%

*2 アブセンティーズム:病欠、病気休業している状態。

休業率=休業日数/総労働日数(勤務情報より算出)

*3 働きがい:ストレスチェックを用いて測定(ワークエンゲージメント:4段階の設問2問の平均点)

2024年 回答者数:3,348名、回答率:98.5%

持続可能な原材料調達

主要原料におけるRSPO認証品への切替比率(国内)

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
93%	93%	99%	99%	99%

> 取り組み内容はこちら

主要商品における国内原紙メーカーからの第三者認証紙の調達比率

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
98%	98%	99%	98%	99%

> 取り組み内容はこちら

セルフチェックを依頼した一次サプライヤー数と回答率

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
サプライヤー数	574社	502社	474社	436社	392社
回答率	100%	100%	96%	96%	97%

> 取り組み内容はこちら

重要なサプライヤーの状況

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
重要なサプライヤー数	90社	90社	90社	90社	90社
重要なサプライヤーの割合 (全一次サプライヤーのうち占める割合)	15.7%	17.9%	17.9%	19.3%	25.6%
重要サプライヤーの購買金額比 (全一次サプライヤーのうち占める割合)	89%	89%	89%	89%	92%

> 取り組み内容はこちら

ESGデータ・第三者検証

環境

社会

ガバナンス

第三者検証

ガバナンス

- ✓ コンプライアンス受講率
- ✓ 「AL心のホットライン」社内認知率
- ✓ 「AL心のホットライン」への相談・通報内容
- ✓ 社告を伴う消費者・流通からの製品回収(リコール状況)

対象範囲:ライオン単体+国内グループ会社

コンプライアンス受講率

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
99.5%	99.2%	98.1%	96.2%	97.3%

> 取り組み内容はこちら

「AL心のホットライン」社内認知率

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
99.5%	99.0%	99.4%	99.5%	98.6%

「AL心のホットライン」への相談・通報内容

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ハラスメント的行為	8件	12件	13件	17件	20件
人事・労務管理上の問題	7件	5件	9件	7件	5件
その他	58件	2件	3件	13件	9件

> 取り組み内容はこちら

社告を伴う消費者・流通からの製品回収(リコール状況)

対象範囲:ライオン単体

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
0件	0件	0件	0件	0件

ESGデータ・第三者検証

環境

社会

ガバナンス

第三者検証

第三者検証

第三者検証の実施（環境）

ライオングループは、環境データにおける温室効果ガス排出量（スコープ1、スコープ2、スコープ3一部カテゴリ）、並びに、水使用量及び排水量について、透明性と正確性を確保するため、SGSジャパン株式会社による第三者検証を受審しています。2024年の環境データについても、第三者検証を受審しました。

今後も、第三者検証を有効に活用し、継続的に精度向上に取り組んでいきます。

検証意見書

2025年5月28日
意見書番号：SGS25/049

ライオン株式会社
東京都台東区蔵前1-3-28
代表取締役社長執行役員
竹森 征之樹



検証目的

SGSジャパン株式会社（以下、当社）は、ライオン株式会社（以下、組織）からの依頼に基づき、組織が作成した検証対象（以下、GHG等に関するステートメント）について、検証基準（ISO14064-3:2019及び当社の検証手順）に基づいて検証を実施した。本検証業務の目的は、組織の検証範囲にかかるGHG等に関するステートメントについて、判断基準に照らし適正に算定・報告されているかを独立の立場から確認し、第三者としての意見を表明することである。GHG等に関するステートメントの作成及び公正な報告の責任は組織にある。

検証範囲

検証対象は、Scope1及び2、Scope3、水使用量（取水量）、排水量及びCOD排出量である。
対象期間とは2024年1月1日～2024年12月31日である。
詳細な検証対象範囲は別紙参照。

検証手順

本検証業務は、検証基準に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。
・算定体制の検証：検証対象の測定・集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
・定量的データの検証：大取工場及び千葉工場の現地検証及び証拠適合、本社でのその他検証対象範囲に対する分析的手続き及び質問
判断基準は、温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver.5.0）、IEA Emissions Factors 2024、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（以下、フロン排出抑制法）、及び組織が定めた手順を用いた。

結論

前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のGHG等に関するステートメントが、判断基準に照らし、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。
なお、当社は、組織から独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触はない。

SGSジャパン株式会社
神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸1-3-4
株式会社ビジネスパートナーズスクエア1
1Fビジネスソリューションズ
認定・認定販売責任者

竹内 裕二

1/2

本書面は、SGSジャパン株式会社によってwww.sgs.com/terms-and-conditions.htmで参照することができる「認証サービスの一般条件」に従って発行されたものであり、「認証サービスの一般条件」に規定されている責任の制限と補償に関する条項及び補償に関する条項に準じて発行されています。この書面に記載された内容は検証を行った時点におけるまた適用される場合は組織の検証範囲内における検証内容を示しています。組織およびこの書面に署名するSGSジャパン株式会社は、検証対象となるすべての組織及び事業の進行から、免責されるものではありません。本書面の内容または本検証について、許可なく複製、改変または改ざんすることは違法であり違反した場合に当該行為に基づいて法的責任を負わせる可能性があります。



別紙

2025年5月28日
意見書番号：SGS25/049

検証対象範囲の詳細

検証対象	検証範囲	GHG等に関するステートメント
1 Scope 1, Scope 2	組織の国内工場4拠点、国内研究所2拠点、国内オフィス6拠点、国内物流1拠点、グループ国内工場4拠点、グループ海外工場5拠点、グループ海外研究所1拠点、グループ海外オフィス9拠点（計32拠点） ^{*1}	・エネルギー起源CO ₂ 排出量 Scope 1 : 61,967 t-CO ₂ Scope 2 : 53,621 t-CO ₂ ・エネルギー起源CO ₂ 以外のGHG排出量 : 10,896 t-CO ₂
^{*1} ：フロン排出抑制法に関するフロン類については、国内工場4拠点、研究所2拠点、オフィス3拠点、グループ国内工場4拠点、グループ海外工場1拠点（計14拠点）に限定		
2 Scope 3 カテゴリ-1	組織単体及びLion Corporation (Korea) が販売した製品に起因する原材料、包装並びに組織単体における間接調達	545,017 t-CO ₂
3 Scope 3 カテゴリ-11	組織単体及びLion Corporation (Korea) が販売した製品	933,273 t-CO ₂
^{*2} ：組織の商品設計の使用方法を前提として算定されている。なお、ハンドソープ、食器用洗剤、お風呂用洗剤は本での使用を前提として算定されている。		
4 Scope 3 カテゴリ-12	組織単体及びLion Corporation (Korea) が販売した製品	218,124 t-CO ₂
5 水使用量（水取別取水量（上水、工業用水、地下水、雨水含む）） 排水量（放流先別（下水、公共水域、その他含む））	組織の国内工場4拠点、グループ国内工場4拠点、グループ海外工場4拠点（計12拠点）	・水使用量（取水量） : 1,452 t m ³ ・排水量 : 582 t m ³
6 COD排出量	組織の国内工場4拠点、グループ国内工場4拠点、グループ海外工場3拠点（計11拠点）	34 t

2/2

本書面は、SGSジャパン株式会社によってwww.sgs.com/terms-and-conditions.htmで参照することができる「認証サービスの一般条件」に従って発行されたものであり、「認証サービスの一般条件」に規定されている責任の制限と補償に関する条項及び補償に関する条項に準じて発行されています。この書面に記載された内容は検証を行った時点におけるまた適用される場合は組織の検証範囲内における検証内容を示しています。組織およびこの書面に署名するSGSジャパン株式会社は、検証対象となるすべての組織及び事業の進行から、免責されるものではありません。本書面の内容または本検証について、許可なく複製、改変または改ざんすることは違法であり違反した場合に当該行為に基づいて法的責任を負わせる可能性があります。

検証意見書

イニシアチブ・外部評価

▼ イニシアチブへの参画 ▼ SRIインデックス組み入れ状況 ▼ 評価・認定

イニシアチブへの参画

国連グローバル・コンパクトへの参加

国連グローバル・コンパクト(UNGC)  は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって社会のよき一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な取り組みです。参加する企業・団体は「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」そして「腐敗の防止」の4つの領域に関わる10原則の支持と実践が求められています。



国連グローバル・コンパクトの10原則

人権	原則1: 人権擁護の支持と尊重
	原則2: 人権侵害への非加担
労働	原則3: 結社の自由と団体交渉権の承認
	原則4: 強制労働の排除
	原則5: 児童労働の実効的な廃止
	原則6: 雇用と職業の差別撤廃
環境	原則7: 環境問題の予防的アプローチ
	原則8: 環境に対する責任のイニシアティブ
	原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10: 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み

ライオンは2009年にUNGCへの支持を表明し、この取り組みに参加しています。また、当社はUNGCのローカルネットワークであるグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)  にも加入しています。GCNJには、参加企業のCSR活動推進を目的としたテーマごとの分科会があり、当社も「サプライチェーン分科会」「環境経営分科会」「HRDD分科会」「SRI/ESG分科会」等に参加しています。各分科会では、有識者の講演会によるCSR関連の最新動向や各社の事例を共有すると同時に、参加企業各社の幅広い業界における経験をもとに、様々な企業のCSR推進を支援する各種アウトプットの制作に取り組んでいます。

当社が制作に関わったアウトプット

◎ サプライチェーン分科会

 CSR調達入門書 - サプライチェーンへのCSR浸透 -

 CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット

その他

- ＞ 環境に関する外部イニシアチブへの参画
- ＞ 医薬品安全性に関する外部イニシアチブへの参画
- ＞ サプライチェーンに関する外部イニシアチブへの参画
- ＞ 人権に関する外部イニシアチブへの参画

SRIインデックス組み入れ状況

ライオングループは、財務面だけではなく、環境・社会・ガバナンス面での課題にも取り組んでおり、国内外において代表的なSRI(社会的責任投資)インデックスに組み入れられています。

これらのインデックスへの組み入れは、世界的に認識されている企業倫理や企業の社会的責任基準を満たしていると評価された、信頼性の高い企業であることを示すものです。

2025年8月現在

MSCI Selection Indexes^{※1}



[🔗 MSCI Selection Indexes](#)

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数^{※1}



[🔗 MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数](#)

MSCI日本株女性活躍指数(WIN)^{※1}



[🔗 MSCI日本株女性活躍指数\(WIN\)](#)

＞ ニュースリリース

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数^{※1}



[🔗 MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数](#)

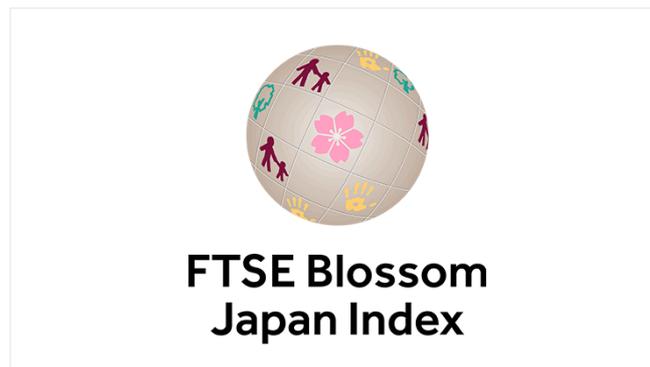
＞ ニュースリリース

FTSE4Good Index Series



[FTSE4Good インデックス・シリーズ](#)
> ニュースリリース

FTSE Blossom Japan Index



[FTSE Blossom Japan インデックス・シリーズ](#)
> ニュースリリース

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index



[FTSE Blossom Japan インデックス・シリーズ](#)
> ニュースリリース

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数



[S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数](#)
> ニュースリリース

Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index (GenDi J) ※2



[Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index](#)
> ニュースリリース

SOMPOサステナビリティ・インデックス



[SOMPOサステナビリティ・インデックス](#)

免責事項等

※1 THE INCLUSION OF LION CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF LION CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

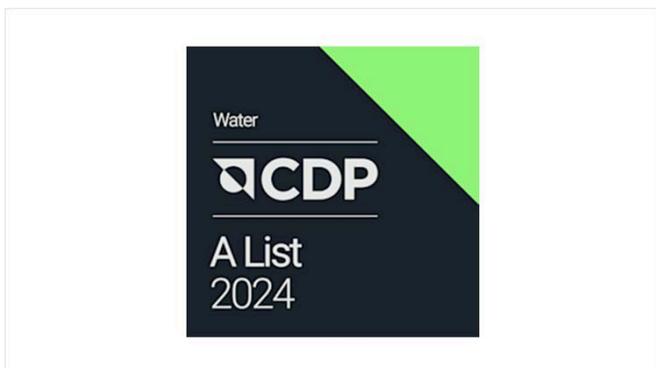
※2 Morningstar, Inc., and/or one of its affiliated companies (individually and collectively, “Morningstar”) has authorized Lion Corporation to use of the Morningstar® Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Logo (“Logo”) to reflect the fact that, for the designated ranking year, Lion Corporation ranks within the top group of companies comprising the Morningstar® Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt IndexSM (“Index”) on the issue of gender diversity in the workplace. Morningstar is making the Logo available for use by Lion Corporation solely for informational purposes. Lion Corporation’s use of the Logo should not be construed as an endorsement by Morningstar of Lion Corporation or as a recommendation, offer or solicitation to purchase, sell or underwrite any security associated with Lion Corporation . The Index is designed to reflect gender diversity in the workplace in Japan, but Morningstar does not guarantee the accuracy, completeness or timeliness of the Index or any data included in it. Morningstar makes no express or implied warranties regarding the Index or the Logo, and expressly disclaims all warranties of merchantability or fitness for a particular purpose or use with respect to the Index, any data included in it or the Logo. Without limiting any of the foregoing, in no event shall Morningstar or any of its third party content providers have any liability for any damages (whether direct or indirect), arising from any party’s use or reliance on the Index or the Logo, even if Morningstar is notified of the possibility of such damages. The Morningstar name, Index name and the Logo are the trademarks or services marks of Morningstar, Inc. Past performance is no guarantee of future results.

評価・認定

ライオングループの環境や物流、人材に関する取り組みは、行政・外部機関から高い評価をいただいています。

2025年8月現在

CDPウォーター



[CDP Water Security](#)
> ニュースリリース

サプライヤーエンゲージメント評価



[サプライヤーエンゲージメント評価](#)
> ニュースリリース

Sustainability Year book



[Sustainability Year book](#)
> ニュースリリース

SBTイニシアチブ



[SBTイニシアチブ](#)
> ニュースリリース

日経サステナブル総合調査SDGs経営編



[「日経SDGs経営」調査ウェブサイト](#)

日経サステナビリティ総合調査 スマートワーク経営編



[日経スマートワーク公式サイト](#)

ESG Finance Awards Japan



[ESG Finance Awards Japan](#)

DX認定



[DX認定](#)

健康経営優良法人～ホワイト500～



[健康経営優良法人](#)
> ニュースリリース

くるみん認定・プラチナくるみん認定



[くるみん認定・プラチナくるみん認定](#)

スポーツ庁「スポーツエールカンパニー」



[☑ スポーツエールカンパニー](#)
[> ニュースリリース](#)

東京都スポーツ推進企業



[☑ 東京都スポーツ推進企業](#)
[> ニュースリリース](#)

エコレールマーク



[☑ エコレールマーク](#)

ステークホルダー・エンゲージメント

- ▼ 考え方
- ▼ ライオンの主なステークホルダー
- ▼ ステークホルダー・エンゲージメント
- ▼ ステークホルダー・ダイアログの実施

考え方

ライオングループは、事業活動で関わるステークホルダー（利害関係者）の皆さまからの期待や要望に応えることが重要と認識しています。そのため、ステークホルダーの皆さまとの相互理解が持続可能な成長を続けていくうえで不可欠であり、様々なコミュニケーションの機会を通じて積極的に対話・協働するよう努めています。

皆さまからいただいた貴重なご意見やご提案を真摯に受け止め、社内で分析・検討したうえで今後の企業活動の中に落とし込み、より良いサステナビリティへの取り組みに活かしてまいります。

ライオンの主なステークホルダー

ライオンでは、株主・投資家、お客様（生活者）、ビジネスパートナー、行政・自治体、非営利団体、地域社会、従業員を主なステークホルダーと位置付けています。



ステークホルダー・エンゲージメント

当社は、社会に貢献する企業であり続けるために、ステークホルダーの皆さまの声に耳を傾け、以下のようなコミュニケーションの機会を通じて、ステークホルダー・エンゲージメント*を推進しています。頂いたご意見は経営層や該当部所に報告し、当社の事業活動に生かしています。

* 企業が社会的責任を果たしていく過程において、相互に受け入れ可能な成果を達成するために、対話などを通じてステークホルダーと積極的に関わり合うプロセス(経団連の「企業行動憲章 実行の手引き」(第7版)より参照)

主なステークホルダーとコミュニケーション方法

パーパス(存在意義)「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」の実践

ステークホルダー	果たすべき主な責任	主なエンゲージメントの機会
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> 事業成長(売上・利益) 株主への利益還元 健全で透明な経営 説明責任、建設的な対話 実効性のあるコーポレートガバナンス 	<ul style="list-style-type: none"> 株主総会、冊子「定時株主総会招集ご通知」 決算説明会 個人投資家・機関投資家向け説明会 IRツアー:海外機関投資家・アナリストとの個別取材
	<ul style="list-style-type: none"> 開示情報の充実 経営関連情報の適時開示 	Webサイト「株主投資家情報」「ニュースリリース」等
	積極的な財務・非財務情報の開示	統合レポート
お客様(生活者)	よい良い習慣づくり	普及活動や展示会イベント
	安心安全なモノづくり	工場見学
	生活者視点を重視した商品開発	生活者研究:グループインタビュー、モニター調査
	日々の暮らしに役立つ優良な製品・サービスの提供	CM、店頭、通販ECサイト
	日々の暮らしに役立つ生活情報の発信	ホームページ、SNS等のソーシャルメディア
	お客様への適切・誠実な対応・サポート	お客様相談窓口
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>サプライヤー(原材料メーカー、生産委託先)</u> 人権や環境等に配慮したサプライチェーンマネジメントの構築 責任ある原材料調達 	<ul style="list-style-type: none"> 「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に基づくセルフチェック/フィードバック コンプライアンス相談・通報窓口(AL心のホットライン)
	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>小売店、卸店</u> 公平で公正な取引を通じた信頼関係の構築 商品の安定供給 生活者ニーズをとらえた付加価値商品やサービスの提案 各カテゴリー市場活性化への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 新製品説明会、商品勉強会 ライオン会、卸店会 売場戦略提案会、MD(マーチャンダイジング)会議 協働イベント・フェア 環境に関する協働取り組み
行政・自治体	監督官庁への適切な対話	協議会・委員会・意見交換会、人事交流
	地域の社会課題解決に向けた連携	協定締結、協働イベントや取り組み
	対等で健全な関係構築・保持	報告会、情報交換
非営利団体	社会や環境の課題解決に向けた協働・協力支援	<ul style="list-style-type: none"> 協定締結、協働イベントや取り組み 意見交換会 金銭・現品寄付による支援

ステークホルダー	果たすべき主な責任	主なエンゲージメントの機会
地域社会	社会的・経済的な課題解決	社会貢献活動、地域コミュニティへの参画
	地域活性化発展への貢献と地域共生	イベントを通じた地域住民との触れ合い
	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進・清潔衛生に関する次世代教育 教育カリキュラムの提案 環境教育 	<ul style="list-style-type: none"> 健康セミナー 災害支援 科学教室支援 森林整備活動
	自然環境への配慮	環境美化活動
	生物多様性の保全	地域住民との保全活動
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 従業員が働きやすい環境の提供 働きがい支援 	<ul style="list-style-type: none"> イントラネットなどによる情報発信(社内広報活動) 従業員意識行動調査アンケート コンプライアンス意識調査アンケート
	<ul style="list-style-type: none"> 良好な関係づくり イノベーションに挑戦する組織風土の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 経営層と意見交換する社長懇談会 新価値創造プログラムを通じた新規事業の創出
	<ul style="list-style-type: none"> 公正な評価や処遇 福利厚生制度の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 労使協議会 個別面談
	人材の活用と育成	<ul style="list-style-type: none"> スキル習得と能力開発に対応した多彩な教育プログラム研修 階層別研修
	労働安全衛生の推進	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害防止プログラム e-ラーニング研修
	健康増進・管理	健康診断、歯科健診
	人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス相談・通報窓口(AL心のホットライン) e-ラーニング研修
	多様性(ダイバーシティ)の尊重	

ステークホルダー・ダイアログの実施

当社は、ステークホルダーとの対話を「当社の目指す方向と社会の要請を照らし合わせ、よき企業市民としてのバランス感覚を確認できる貴重な機会」として重視しています。

最近では、これまでにない社会からの要請に応える必要性が増したことを背景に、ステークホルダー・ダイアログ*の一環として経営層を対象とした勉強会を開催しています。経営に直結するサステナビリティに関するテーマを取り上げ、外部有識者と当社の経営層の間で意見交換を実施しています。いただいた示唆やご意見は、経営に反映させるだけでなく、サステナビリティ活動の促進につなげています。

2022年5月、近年大きな社会問題として注目を集めている「人権尊重」をテーマとして、人権を専門とする外部有識者を講師に迎え、会長、社長、取締役、監査役、執行役員とのダイアログを実施しました。

今後も世の中のニーズをとらえ、社会の要請に応える企業を目指し、様々な形でステークホルダー・ダイアログを続けていきます。

実施年	参加ステークホルダー	テーマ
2022年	外部有識者	「人権尊重（「国連ビジネスと人権に関する指導原則」）～今、なぜ人権尊重の取り組み強化が必要か」
2021年	NPO法人	「おうちからだプロジェクト」
	外部有識者、従業員	「サステナビリティ浸透」
2020年	外部有識者	「ESG経営」
2019年	外部有識者	「サステナビリティ経営の推進に向けて」

* 企業が自社の社会・環境的活動に対するステークホルダーの意見を反映することを目的とし、様々なステークホルダーを集め開催する双方向の対話のこと

社会貢献活動

- ▼ 考え方
- ▼ 自治体との取り組み
- ▼ 従業員参画
- ▼ スポーツ振興活動
- ▼ ジェンダー平等に向けた活動
- ▼ 地域共生活動
- ▼ 寄付活動(フィランソロピー活動)

考え方

ライオンは、創業以来、人々の健康な毎日を目指して、商品・サービスの提供とともに、生活者への普及啓発活動や情報提供を推進し、「健康な生活習慣づくり」を提案しています。「**ライオン企業行動憲章**」においては、「私たちは、社会の一員として、積極的に社会貢献活動を行う」と定めています。これに則り、アジアにおいて、健康、快適、清潔・衛生分野を通じてサステナブルな社会の発展および地球環境に貢献する活動に取り組んでいます。

また、当社の事業を継続するためには、事業所の所在地やゆかりのある地域との共生が必要だと考えています。地域住民の方々や行政、市民団体などの皆様と共にパートナーシップの強化を図りながら、地域社会の課題解決や活性化に取り組んでいます。さらに、事業に関連した啓発活動に従業員一人ひとりが参画する機会を増やすことで、高い社会・環境意識をベースにパーパス「より良い生活習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」を実践し、新しい価値を生み出す人材の育成にもつなげます。

自治体との取り組み

宮城県石巻市

石巻市は、創業者である小林富次郎のゆかりの地であることから、2011年の東日本大震災以降、市内で独自に復興支援活動を継続しています。

2019年1月には、当社が培ってきた健康づくりに関するリソースを活用して、市民の皆様の健康増進と地域の活性化を図るために、石巻市と包括連携協定(「東北に元気を love.石巻」)を締結しました。コロナによる活動の休止時期を挟みながらも、2024年1月からは第2期包括連携協定を締結し、石巻市との連携を継続しています。

今後も従業員参加のもと、様々な活動に取り組んで参ります。



石巻南浜津波復興記念公園での植樹活動集合写真



東日本大震災におけるライオンの取り組み

山梨県山梨市

水源である森林の整備体験を通して、従業員の環境意識を醸成することを目的に2006年10月から山梨県の「企業の森推進事業」の第1号として、山梨市と協定を結んで市有林で活動しています(「ライオン山梨の森」)。将来、環境教育のフィールドになるような森林の整備を進めるとともに、隣接する造成地を里山に再生することにも挑戦しています。また、森林整備を通して、地域の方々との交流も行っています。



森林整備活動の様子



香川県坂出市

「キレイキレイのまち 坂出」プロジェクトは、2014年に坂出市、ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所、当社が連携協定を締結した、手洗いやオーラルヘルスケアなどの健康習慣の啓発を通じて、坂出市民のみなさんの健康増進を目指す活動です。



「ふるさとの親子まつり」での手洗い啓発活動の様子

キレイキレイのまち坂出 プロジェクト

キレイキレイのまち坂出プロジェクト

東京都墨田区

これまで当社の本社所在地であった墨田区と、2020年に、プラスチックの資源循環を目的に、使用済みハブラシの回収、リサイクルを行うことで合意し、ハブラシリサイクルに関する協定を締結しました。

2020年4月～2021年3月に回収した使用済みハブラシは、定規に再生し、回収に協力してくれた小学校など(回収協力拠点の多くが学校など教育機関)にお戻しました。



回収に協力してくれた小学校を訪問



定規を手にして喜ぶ小学生



完成した「15cm定規」



ハブラシリサイクル



東京都台東区

本社の台東区移転を機に、2023年3月、当社は台東区と包括連携協定を締結しました。協定の目的は、台東区民の皆さまの健康増進と、地域共生及び持続可能な社会の実現に向けた地域づくりに貢献するためです。

以下7つの分野で、双方協力しながら活動を推進しています。

また、活動の進捗確認や相互の親交を深めるために、年1回の活動報告会を開催しています。

包括連携協定活動内容

- (1) 健康づくり・歯科保健対策
- (2) 環境対策・製品再資源化
- (3) 男女共同参画社会の推進
- (4) 子供・若者の健全な育成
- (5) 防災対策の推進
- (6) 観光の振興
- (7) スポーツの振興
- (8) その他



包括連携協定締結式の様子

従業員参画

サステナビリティ研修

当社は、従業員のサステナビリティ重要課題に対する理解促進、意識向上とともに、サステナビリティ重要課題の事業との一体推進を目指し、2つの最重要課題「サステナブルな地球環境への取組み推進」「健康な生活習慣づくり」に関わるテーマのサステナビリティ研修を行っています。

また、このような活動に参画し社会課題に直接触れることで、課題解決力や社員のチームワーク力、共感力が高まるとともに、社会貢献意識の向上にもつながるため、人材育成に資する活動として積極的に取り組んでいます。

サステナビリティ体験型研修「環境／オーラルヘルスケア啓発活動」

当社は、より一層のサステナビリティの社業への貢献度向上を図るべく、2024年よりサステナビリティ体験型研修を実施しています。座学に加えて、森林整備による水資源保全活動や、こども食堂における小学生向けオーラルヘルスケア啓発活動の現場活動を組み込んだ研修を実施しています。研修を通じてサステナビリティ重要課題に対する理解度や業務を通じた実践度の向上が見られています。



サステナビリティ体験型研修
ライオン山梨の森
(森林整備/水資源保全活動)



サステナビリティ体験型研修
おうちからだプロジェクト
(オーラルヘルスケア啓発活動)

サステナビリティ体験型研修	2024年 参加者数(人)
「環境」	148
「オーラルヘルスケア啓発活動」	93

サステナビリティ体験型研修「手洗い啓発活動」

当社では、従業員研修の一環として、若手社員が2014年から幼稚園や保育所などで、園児に手洗い習慣の大切さを歌と踊りのセットで楽しく教える活動を行っています。従業員は当社商品の提供だけでなく、自ら清潔・衛生習慣を伝える役割も担っています。



幼稚園や保育所での活動の様子

科学教育支援活動

リカジョ育成イベントへの参画

2019年から内閣府男女共同参画局、文部科学省総合教育政策局、一般社団法人日本経済団体連合会が推進する「理工チャレンジ(リコチャレ)～女子中高生・女子学生の理工系分野への選択～」の取り組みに賛同し、イベントを実施しています。

科学教育支援活動

リカジョ育成イベントへの参画

2019年から内閣府男女共同参画局、文部科学省総合教育政策局、一般社団法人日本経済団体連合会が推進する「理工チャレンジ(リコチャレ)～女子中高生・女子学生の理工系分野への選択～」の取り組みに賛同し、イベントを実施しています。



理系学生向け教育支援活動

理系学生向け教育支援の一例としては、毎年、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校*の高校生に向けて、知識の深堀ができるような実験教室を実施し、研究の拠点である平井研究所での見学会では技術進歩の歴史や開発者の想い、商品に込められた技術を紹介することで身近な科学への関心を高め、研究者から直接話を聞くことにより、職業観の醸成につながる活動を行っています。

* 文部科学省では、将来の国際的な科学技術人材を育成することを目指し、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を平成14年度から実施しています。先進的な理数系教育を実施している高等学校などを「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に指定し支援しています。

ボランティア研究員による科学教室の実施

当社平井研究所がある江戸川区では50年以上の歴史を持つ科学教育センター事業を推進しており、区、学校、区民の3者が協力し、身近で起こっている科学現象やその面白さを子どもたちに教えています。当社の商品の基盤となっている「界面科学」をよく知っていただき、くらしの中の科学に親しんでいただけるよう、小学生への科学教室を15年以上継続して実施しています。

[> 研究所の活動はこちら](#)

スポーツ振興活動

ライオンラグビー部「ライオンファンクス」による活動

当社ラグビー部は2022年で創部50周年を迎えました。これもひとえに、日ごろ応援やご支援などで支えて頂いている皆様のお陰でございます。心から感謝申し上げます。

当社ラグビー部のスポーツ振興活動としては、活動拠点である当社千葉工場のグラウンドにおいて、毎年春に「ライオンラグビーフェスティバル」を開催しております。地元のラグビースクールのこどもたちを中心に毎年約700名規模の地域の皆様にご参加いただいております。このフェスティバル内で行われるラグビー教室では現役選手たちが幼稚園児から小学校高学年生のラグーキッズたちにラグビースキルをわかりやすく教えています。

また、2012年からは東日本大震災復興支援「東北に元気を love.石巻」プロジェクトの一環として、石巻市でもラグビー教室を開催しており、毎年約100名の皆様にご参加いただいております。さらに2024年からは台東区教育委員会主催の「台東ラグビーフェスタ」に共催し、約200名の方々にご参加いただきました。

今後もラグビーを通じた様々な地域・社会貢献活動に取り組んで参りたいと考えております。



ライオンファンクスホームページはこちら



千葉工場にて



石巻にて



台東区にて

その他、ライオンが応援するスポーツイベント



RCCひろしま女子駅伝競走大会



RKK女子駅伝競走大会



全国道場少年剣道大会



ウォーキングイベント



ジェンダー平等に向けた活動

Kaji×Kaji ハッピーシェア

全国の自治体や企業とタッグを組んで、家庭内の“家事ギャップ”の解消を目指しKaji×Kaji ハッピーシェアに取り組んでいます。その地域でくらす家庭の円満を応援することで、女性の社会進出や少子化など様々な社会課題の解決のサポートをしています。夫婦だけでなく多くの方々にも、情報をお届けできるよう自治体の皆さんと当プロジェクトを推進しています。



明石市における家事セミナーの様子



Kaji×Kaji ハッピーシェア



地域共生活動

工場見学

工場見学は生活者と当社を結ぶ大切な接点のひとつと考えています。

当社製品に親しみをもっといただき、安全・環境保全を第一とする操業状況をご覧いただくため、毎年多くの方に工場見学に来ていただいています。ただし2020年2月以降は、新型コロナウイルス感染防止のため休止していましたが、2023年より順次再開を進めています。



千葉工場(2024年)



小田原工場(2019年)



小田原工場(2019年)



明石工場(2019年)

2024年工場見学の内訳

工場	千葉工場	小田原工場	大阪工場	明石工場	合計
見学者数	2,154名	186名	37名	62名	2,439名

- ＞ 千葉工場
- ＞ 小田原工場
- ＞ 大阪工場
- ＞ 明石工場

環境美化活動

工場・オフィス周辺の清掃活動

当社グループの各工場・オフィスでは、地域社会とのコミュニケーションを大切にし、敷地内だけでなく周辺の清掃活動にも積極的に取り組んでいます。



明石工場周辺の清掃活動



小田原工場周辺の清掃活動



千葉工場周辺の清掃活動

百道浜海岸の清掃に参加(福岡オフィス)

1992年5月に福岡市で開催された「ローマ・クラブ福岡会議 イン九州」を契機に、この会議のテーマである「地球環境と地域行動」の実践活動として、市民・企業・行政が協力し、スタートした地域環境美化活動『ラブアース・クリーンアップ』で福岡オフィスに隣接する百道浜海岸の清掃活動に社員とその家族が参加しています。



福岡オフィス近隣のシーサイドもち海浜公園での清掃活動

関口川の清掃に参加(小田原事業所)

小田原市国府津地区自治会連合会では、国府津海岸清掃活動を毎年実施し、小田原地区の従業員が2003年から参加してきました。2008年からは近隣を流れる関口川に清掃場所が変更されましたが、活動は継続して行っています。



清掃活動の様子

神栖市海岸の清掃活動(ライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所)

神栖市の海岸(日川浜・波崎)をライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所が2009年より地域貢献活動の一環として、地域の方々と一緒に毎年6月に清掃活動を行っています。



おそろいの緑色のTシャツを着て参加



清掃活動の様子

各事業所での生物多様性保全活動

当社は、自然の恵みをいただきながら毎日の暮らしを支える様々な商品をお届けしています。そこで、資源の持続可能な利用に努めるとともに、当社の生物多様性方針に則った生物多様性の保全に取り組んでいます。



生物多様性保全への取り組み



その他、ライオンが応援するイベント



ライオン 美ら action



寄付活動(フィランソロピー活動)

当社は、国内グループ会社を含め、毎年社会貢献活動の実績調査を行い、寄付金等を集計・管理しています。2024年度の寄付金は、合計約413.8百万円となりました。

* 寄付金(金銭)には、(公財)ライオン歯科衛生研究所(LDH)への寄付金が含まれています

サステナビリティ発行物ダウンロード

- ✓ 統合レポート2025
- ✓ 統合レポート バックナンバー
- ✓ サステナビリティWebサイト2025 <PDF版>
- ✓ LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み
- ✓ サステナビリティ コミュニケーションブック
- ✓ エコ・パンフレット
- ✓ 災害時のための清潔&健康ケアBOOK

統合レポート2025



[全ページダウンロード PDF \(17.2MB\)](#)

[> 「ライオン統合レポート2025」の一部訂正について PDF \(88.0KB\)](#)

[アンケートにご協力をお願いします](#)

目次

ライオンの目指す未来

- 企業理念
- 事業概要
- 習慣づくりによる事業成長の歴史
- オーラルヘルスケア習慣づくりによる社会価値と経済価値の創出
- サステナビリティ最重要課題への取組みで創出する価値
- 価値創造プロセス
- 経営資本

中長期戦略

- 社長メッセージ
- Vision2030 1st STAGE (2022-2024) の振り返り
- Vision2030実現に向けた2nd STAGE (2025-2027) の位置づけ
- 中期経営計画Vision2030 2nd STAGE (2025-2027)
- 事業ポートフォリオマネジメントの強化
 - ①オーラルヘルスケアの成長加速
 - ②海外成長施策の強化
 - ～東南・南アジア～
 - ～北東アジア～
 - ③一般消費財事業の収益構造改革
- 財務担当役員メッセージ
- 財務戦略

実行に向けた取組み

- 人的資本
- Positive Habits創出への取組み
- 研究開発・知財戦略
- DX戦略
- サステナビリティ担当役員メッセージ
- サステナビリティ重要課題への取組み強化
健康な生活習慣づくり～オーラルヘルス習慣
健康な生活習慣づくり～清潔・衛生習慣～
サステナブルな地球環境への取組み推進
水を大切に作る習慣づくり
プラスチックを無駄にしない習慣づくり
社会貢献活動／ガバナンス
- TCFD提言に基づく情報開示

コーポレート・ガバナンス

- 取締役会議長メッセージ
- コーポレート・ガバナンス
取締役および監査役のスキルマトリックス、諮問委員会の委員
取締役会
監査役会／サクセッションプラン
役員報酬
- リスクマネジメント
- 役員一覧

パフォーマンス／データ

- 一般用消費財事業(国内)
- 海外事業
- 産業用品事業
- 主要財務データ
- 主要非財務データ
- 会社情報／株式情報

統合レポート バックナンバー

- ＞ 統合レポート2024  (18.4MB)
- ＞ 統合レポート2023  (11.9MB)
- ＞ 統合レポート2022  (11.9MB)
- ＞ 統合レポート2021  (12.6MB)
- ＞ 統合レポート2020 サステナビリティ詳細版  (6.54MB)

サステナビリティWebサイト2025<PDF版>

> [全ページダウンロード](#)  (60.8MB)



サステナビリティWebサイト バックナンバー<PDF版>

> [サステナビリティWebサイト2024<PDF版>](#)  (PDF:36.0MB)

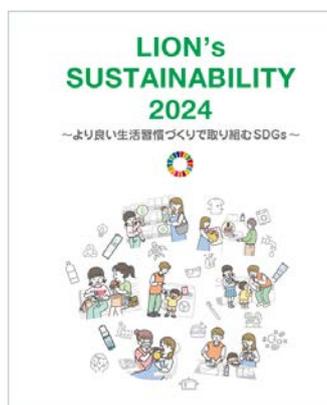
> [サステナビリティWebサイト2023<PDF版>](#)  (PDF:66.5MB)

> [サステナビリティWebサイト2022<PDF版>](#)  (PDF:45.4MB)

LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み

SDGsの観点から、当社の活動を紹介するものとなっています。

2024年度版



> [A3版 LION's SUSTAINABILITY 2024 ~より良い生活習慣づくりで取り組むSDGs~ \(閲覧用\)](#)  (PDF:11.7MB)

> [A4版 LION's SUSTAINABILITY 2024 ~より良い生活習慣づくりで取り組むSDGs~ \(印刷用\)](#)  (PDF:11.8MB)

※PDF内に記載されたURLをクリックすると、関連動画・Webページにジャンプします。

LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み バックナンバー

> [LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み 2023](#)  (PDF:10.8MB)

> [LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み 2022](#)  (PDF:11.0MB)

> [LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み 2021](#)  (PDF:6.8MB)

サステナビリティ コミュニケーションブック

「数字で見る 暮らしのたいせつ」



＞ サステナビリティ コミュニケーションブック
「数字で見る 暮らしのたいせつ」  (PDF:13.3MB)

エコ・パンフレット

ライオンの環境活動を、図やイラストを活用して紹介しています。



＞ エコ・パンフレット  (PDF:5.25MB)

災害時のための清潔&健康ケアBOOK 印刷用PDFファイル

災害時のための清潔&健康ケアについてご案内しているPDFです。

災害時の「手や指の清潔ケア」と「お口のケア」の重要性とともに、普段からの備えや食事の注意点など、いざというときに役立つ情報を掲載しています。

また、高齢者や体が不自由な方、小さな子どもがいるご家庭の準備と災害時のケアの情報も掲載しています。



＞ 6枚版  :印刷して中央で折りたたんでお使いください。

関連リンク



ハブラシリサイクル

使用済みハブラシを回収・リサイクルし、サステナブルな資源循環を推進する活動です。



インクルーシブ・オーラルケア

誰一人取り残さない。オーラルケアを通じて、人と社会の課題に取り組む活動です。



東日本大震災におけるライオンの取り組み

創業者である初代小林富次郎のゆかりの地である宮城県石巻市で、ライオンのリソースを活用した様々な活動を行っています。



ライオン山梨の森

水源である森林の整備を通し、森を育て守るだけでなく、人も育てる活動です。



キレイキレイのまち坂出プロジェクト

キレイキレイハンドソープの工場がある香川県坂出市とライオンは、市民の健康増進への貢献を目指した活動を行っています。



kaji x kaji ハッピーシェア

身近なジェンダー平等への取り組み。「家事ギャップ」を解消し、みんながハッピーになるための活動です。





生物多様性保全への取り組み

自然と共生する社会の実現に向け、各地の事業所で取り組む生物多様性保全のための活動です。



ライオン美らaction

沖縄の豊かな生態系を育み、自然との共生を目指す「沖縄の未来を育む子供たちのエコ活動」を応援するプロジェクトです。



災害時の清潔・健康ケア情報

いざというときのお口や手の清潔ケアや、普段からの備えなど、災害時の清潔・健康ケアに関する情報を提供しています。



ライオンのSDGsへの取り組み

SDGsの達成には向けて、様々な方々とのパートナーシップにより、課題解決に取り組んでいます。

